計画策定年度	令和７年度
計画見直し年度	

竹富町長期営農計画


肉用牛


パインアップル


水田


さとうきび


植付


刈取り


製糖

令和７年９月

沖縄県八重山郡竹富町

目　次

第１章 はじめに……1

第２章 地域農業の概況……3
１．立地……3
２．気象……17
３．交通……19
４．地質・土壌……23
５．営農の特色……24

第３章 農業構造・生産の概況……25
１．八重山圏域における本町の農業生産の位置……25
２．本町を構成する集落……27
３．人口・世帯……29
４．産業別就業者数……33
５．耕地の状況……35
5.1 土地・耕地面積……35
5.2 土地利用状況……36
（1）竹富島……37
（2）小浜島……38
（3）黒島……39
（4）新城島……40
（5）西表島東部……41
（6）西表島西部……44
（7）鳩間島……46
（8）波照間島……47
６．農業構造……48
6.1 農家戸数……48
6.2 農家人口……50
6.3 経営規模別農家数……51
6.4 農地流動化の現状……53
6.5 認定農業者数の推移……55
6.6 農業生産の概要……57
（1）農業産出額……57
（2）耕地利用……59
（3）戸当たり耕地面積……61

（4）農業機械の所有状況 ……63
（5）出荷施設の状況 ……69
（6）生産基盤の整備状況 ……71
6.7 製糖工場の実績推移 ……76
6.8 農作物 ……78
（1）さとうきび ……78
（2）水稲 ……84
（3）野菜 ……87
（4）果樹 ……89
（5）パインアップル ……91
（6）花き ……93
（7）かんしょ ……94
（8）畜産 ……96

第４章 将来ビジョンと基本方針の設定 …… 106
１．検討体制 ……106
２．本町の営農の課題 ……108
2.1 小浜島 ……108
2.2 波照間島 ……118
2.3 西表島西部 ……129
2.4 西表島東部 ……141
2.5 黒島 ……154
2.6 竹富島 ……163
３．将来ビジョンと基本施策 ……172

第５章 行動計画 …… 181
１．行動計画の策定と行動計画を推進するための体制 ……181
２．行動計画の進捗管理 ……181
３．今後の予定 ……182

参考資料1 戦略品目一覧 …… 183
参考資料2 経営計画 …… 185

第１章　はじめに

竹富町は、日本の最南端に位置し、亜熱帯海洋性気候の下、沖縄本島から南西に450㎞の八重山諸島、石垣島の南西(東西42㎞、南北40㎞の広範囲)に位置する。広大な海域に大小16の島々によって構成される、県下一の広大な面積(33,438ha)を有する島嶼の町である。

各島で異なった自然特性を有し、固有の地域社会が形成されており、人口の増減傾向や農業及び観光等の産業構造も異なるが、本町の主要な産業は、農業と観光業である。

本町の農業は、さとうきびをはじめ、パインアップル、マンゴー、水稲、野菜(かぼちゃ他)、畜産に加え、熱帯果樹生産も行っている。

本町は、台風の高頻度襲来地域であり、西表島西部では土石流や崩壊の危険が存在している一方で、低地の島が多く、地震による津波が発生した際の甚大な被害が想定される。

水源が限られており、生活用水は西表島を水源地として、黒島、小浜島、新城島、鳩間島に、竹富島は石垣から海底送水されている。また、波照間島だけは海水淡水化施設で共有されており、異常渇水や干ばつ時には、島民だけでなく、農産物への被害も大きい。

近年は、長年にわたり基幹産業であった農業の従事者が激減し、代わりに観光業を主体とする第三次産業の就業人口がほとんどを占めている。農産物価格の低迷、資材や燃料の高騰など、農業を取り巻く社会環境も厳しいものとなっている。

このような状況を踏まえて、関係機関が連携した取り組みを推進するとともに、農業を本業とする農家の経営樹立を支援するなど、本町の農業、農村のさらなる振興発展に努める。そのため、20年先を見据えた竹富町長期営農計画を策定し国・県・町・農家が一体となって施策を展開することで、島々の持続的な発展を目指すものである。

【位置付け】

□長期営農計画は、本町の地域農業の振興方向や土地利用に関する基本計画となるもので、竹富町総合計画の農業部門に関連する計画として位置付けられる。

□竹富町総合計画を上位計画に据え、農業振興地域整備計画および地域計画と連携することが求められる。

□また、本町の各種計画と連携するとともに、沖縄県の農業に関する計画や国の方向性を踏まえた計画とする必要がある。

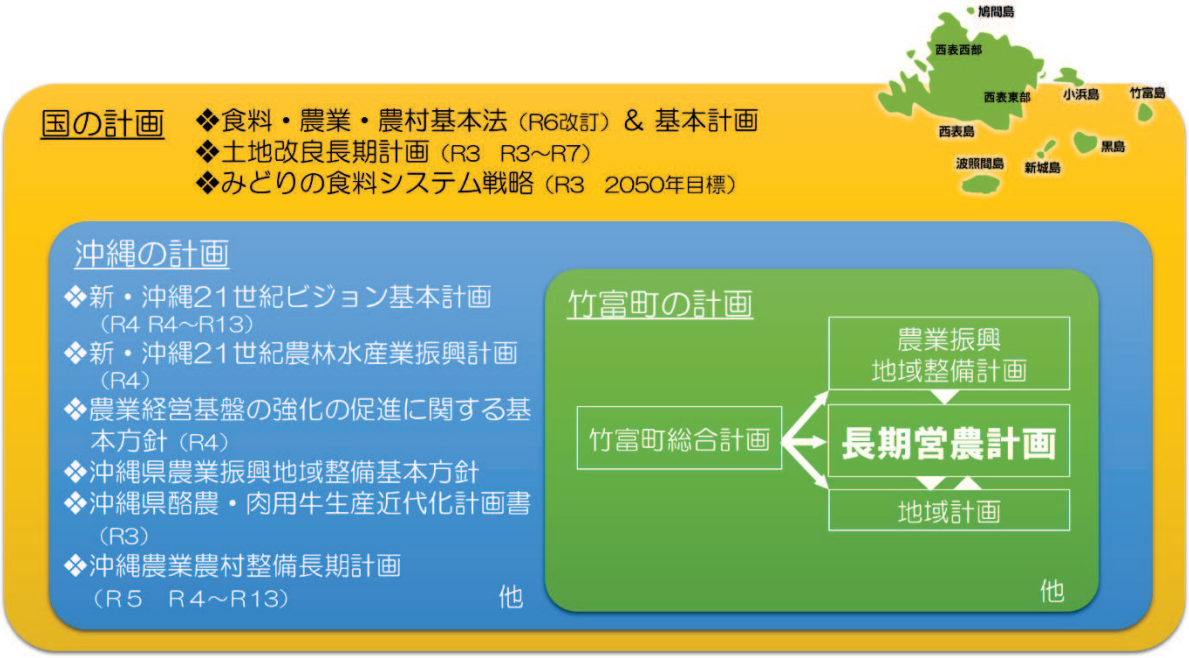


図　竹富町長期営農計画の位置づけ

【長期営農計画の目標年次】

□長期営農計画は、令和７(2025)年度を策定年とし、概ね20年後を目標年次とした取り組みを示すものである。

□対象期間：令和７(2025)年度～令和26(2044)年度

第２章　地域農業の概況

１．立　地

□本町は、日本最南端に位置し、沖縄本島から南西に450km、石垣島の南西に点在する大小16の島々(有人島９つ、無人島７つ)から構成されている島しょの町である。

□総面積33,438ha、東西約４km、南北40kmの広範囲に及び、町役場を八重山経済の中心地(石垣市)に置く、特異な行政形態となっている。亜熱帯という気候条件と、海洋に囲まれた島々は、多種多様な動植物が生息する豊かな自然環境を有している。

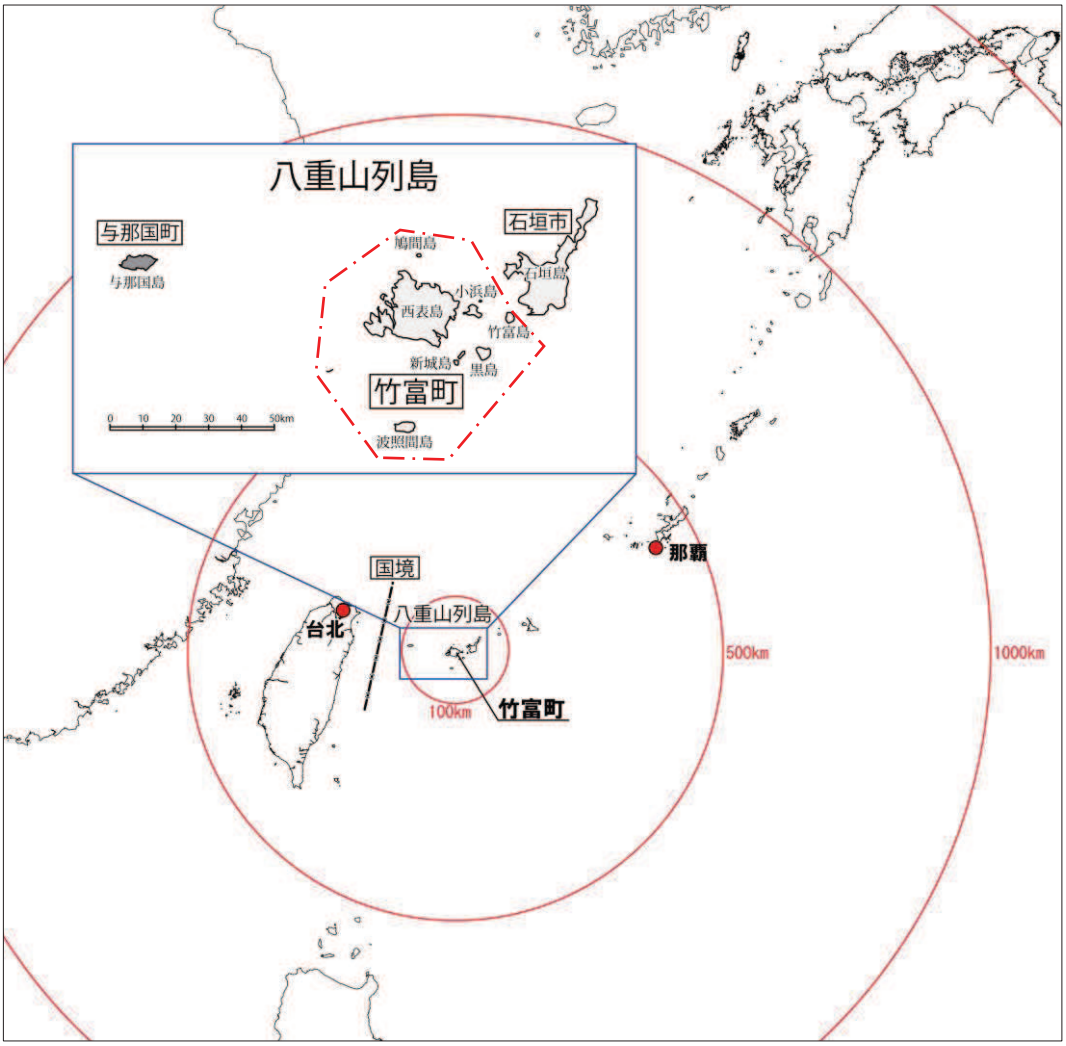


図　竹富町の位置

【竹富島】



■昔は畑として利用されていた

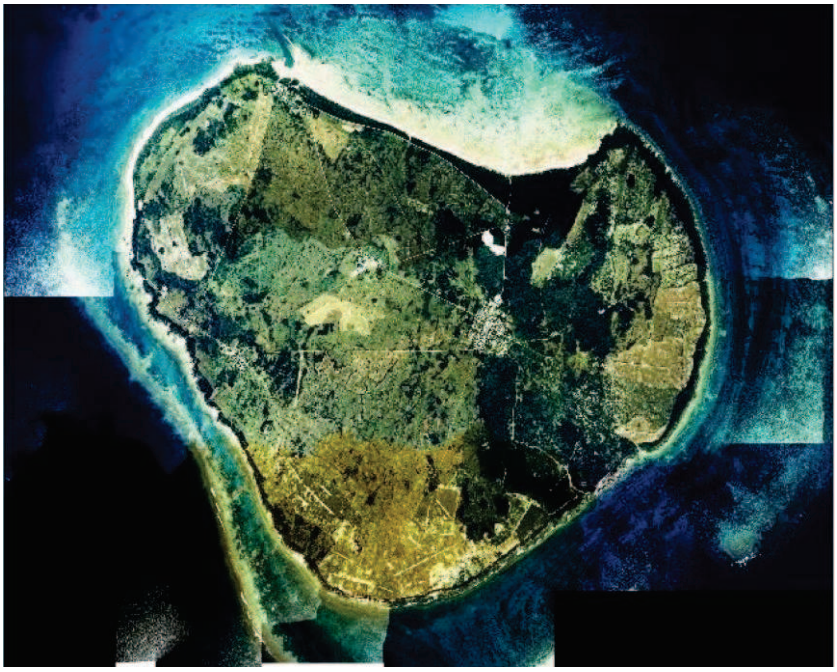
竹富島_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕



■一部で農地が整備された
■漁港が拡張された
■エビ養殖所やリゾート地が整備された

竹富島_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕

【黒島】



■未整備地が多い

黒島_国土地理院空中写真〔昭和49(1974)～53(1978)年〕

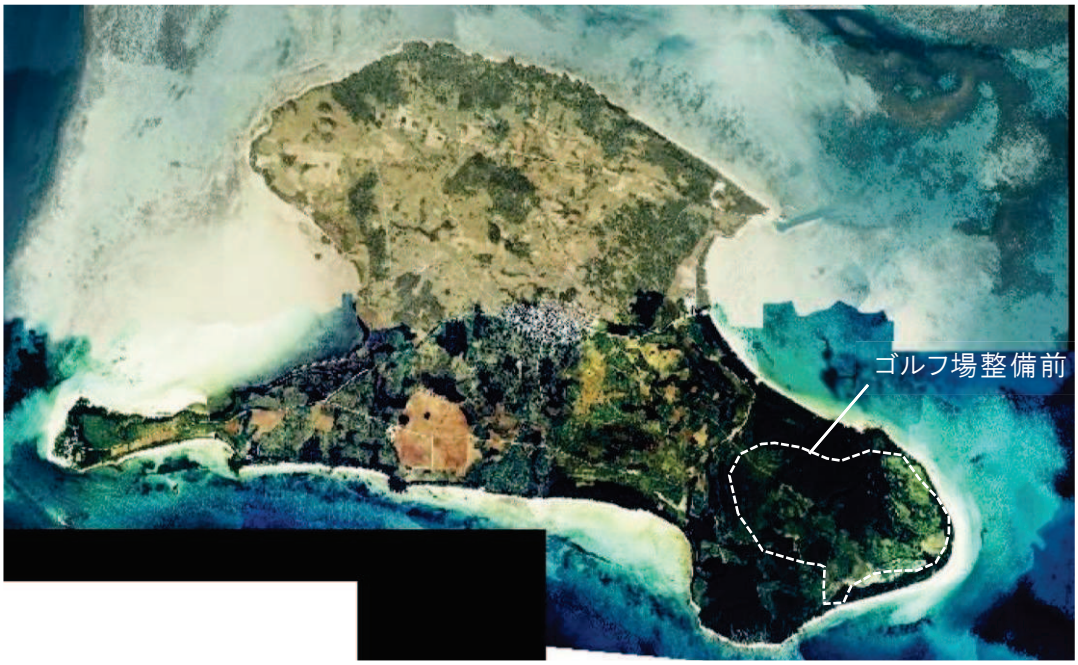


■島の大部分で採草放牧地が整備された

黒島_国土地理院空中写真〔撮影年：平成21(2009)年〕

【小浜島】

■未整備農地が多い



小浜島_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕

■島全域で農地が整備された

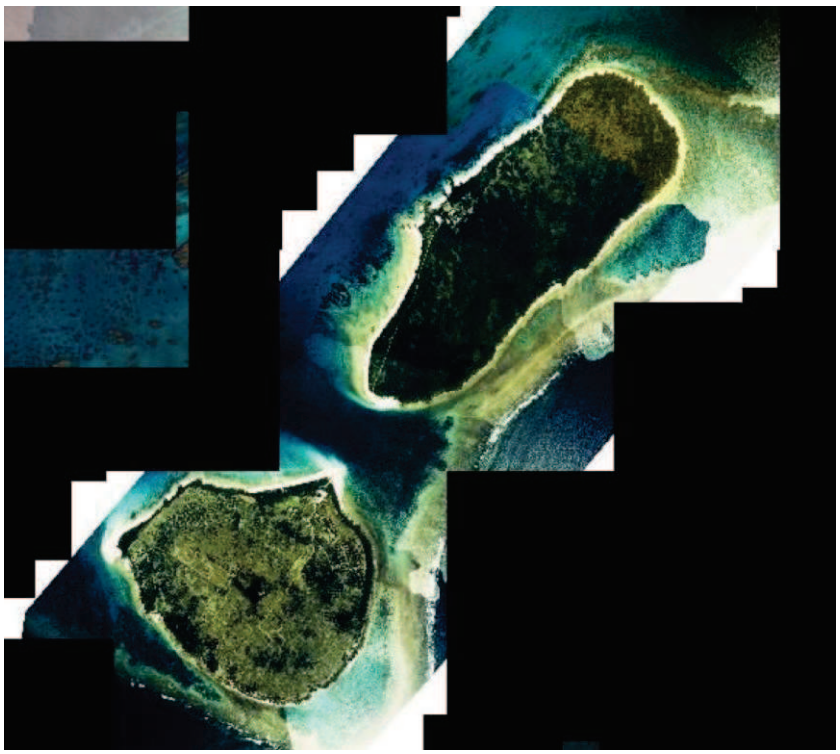
■ゴルフ場が建設された

■漁港が拡張された



小浜島_esri衛星写真〔撮影年：令和４(2022)年〕

【新城島】



■漁港が未整備
■島の大半が森林に覆われている

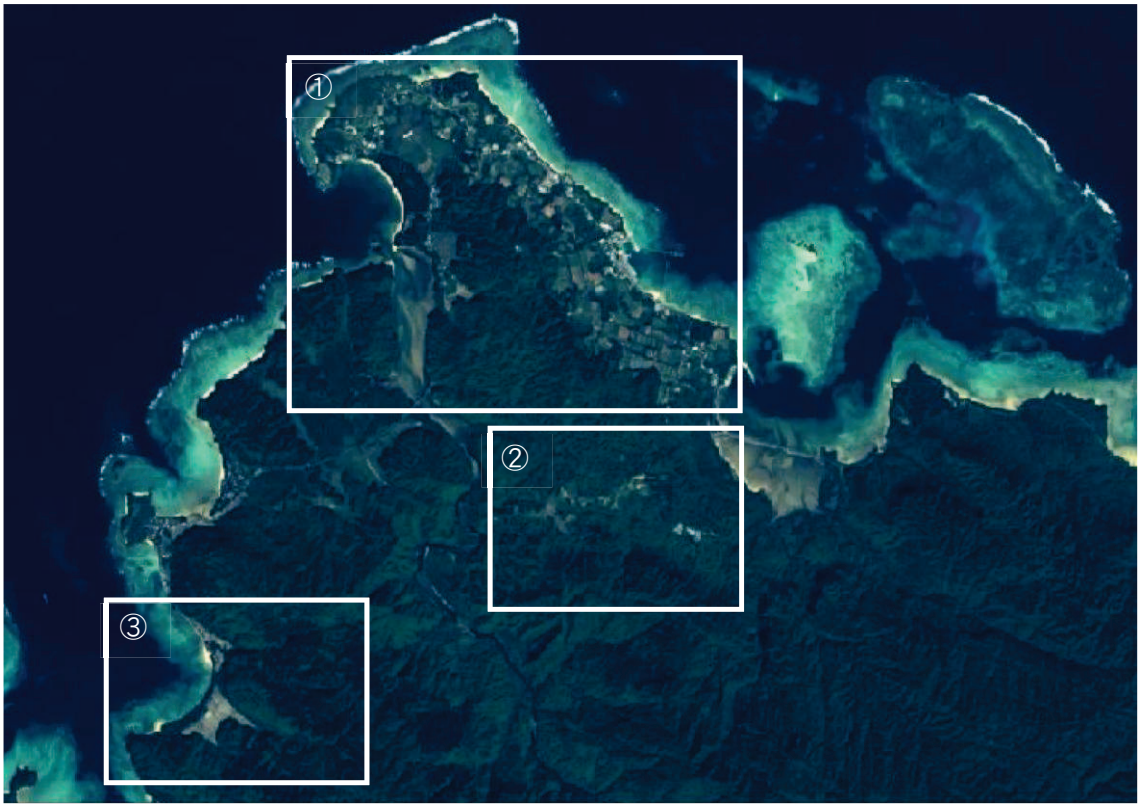
新城島_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕



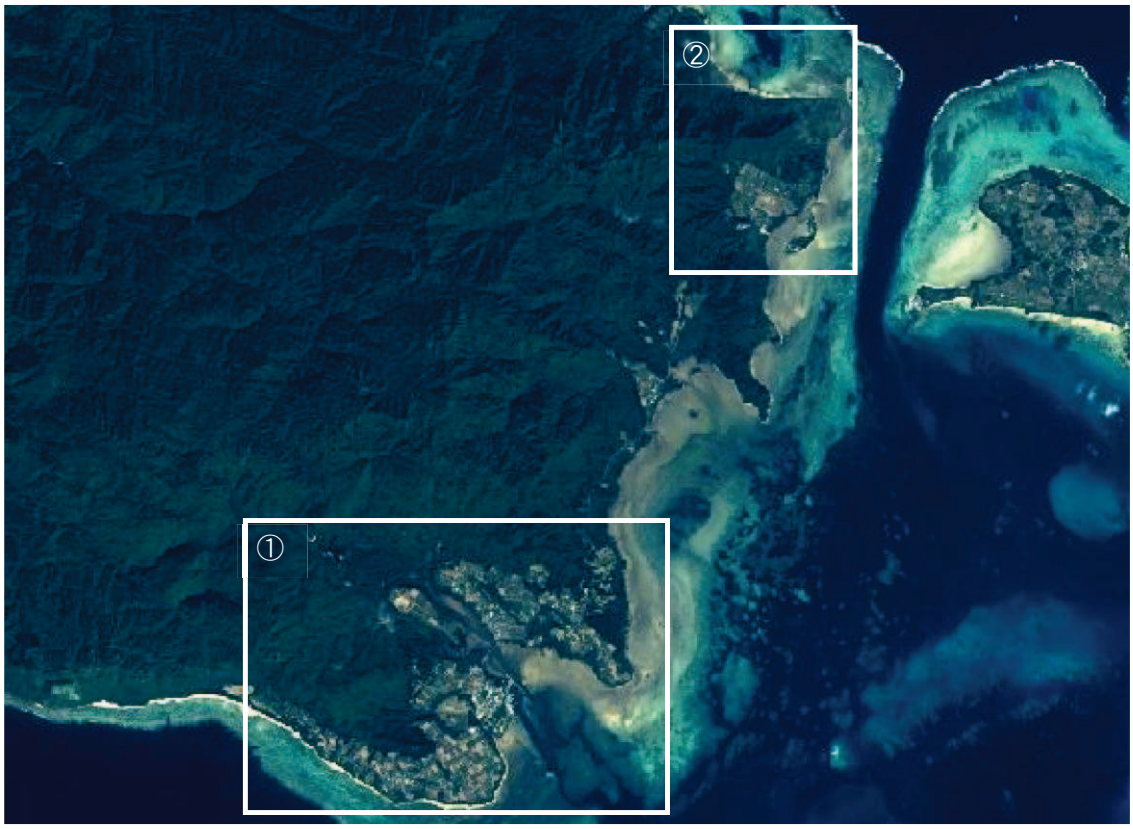
■漁港が拡張された
■採草放牧地が整備された

新城島_国土地理院空中写真〔撮影年：平成21(2009)年〕

【西表島】



西表島西部_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕



西表島東部_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕

【西表島西部①】

■未整備地が多い



西表島西部①_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕

■漁港や農地が整備された

■リゾート地が整備された



西表島西部①_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕

【西表島西部②】

■未整備農地が多い



西表島西部②_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕

■農地が整備された

■開墾され琉球大学の熱帯生物圏研究センターの施設が建設された

■ハウスが整備された



西表島西部②_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕

【西表島西部③】

■未整備農地が多い



西表島西部③_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕

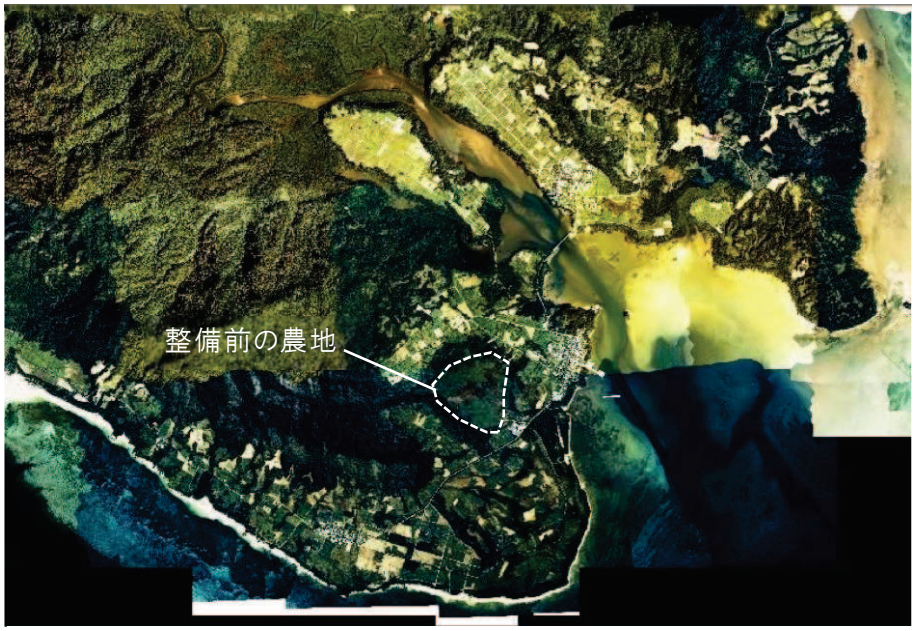
■農地が整備された



西表島西部③_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕

【西表島東部①】

■未整備農地が多い



西表島東部①_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕

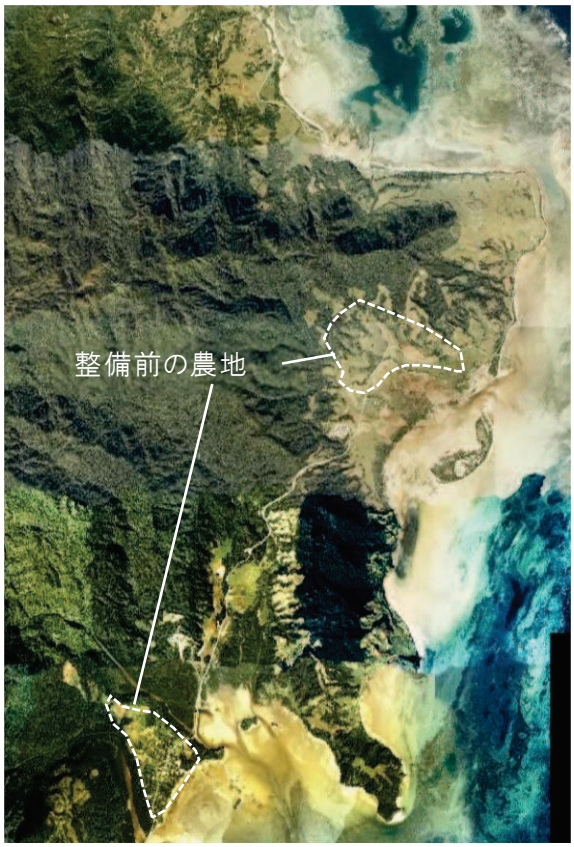
■農地が整備された

■漁港が拡張された



西表島東部①_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕

【西表島東部②】



■未整備農地が多い

西表島東部②_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕



■農地が整備された

西表島東部②_国土地理院空中写真〔撮影年：平成24(2012)年〕

【由布島】



■未整備地が多い

由布島_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕



■水牛車やレストランなど観光施設が整備された

由布島_国土地理院空中写真〔撮影年：平成21(2009)年〕

【鳩間島】



■未整備地が多い

鳩間島_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕

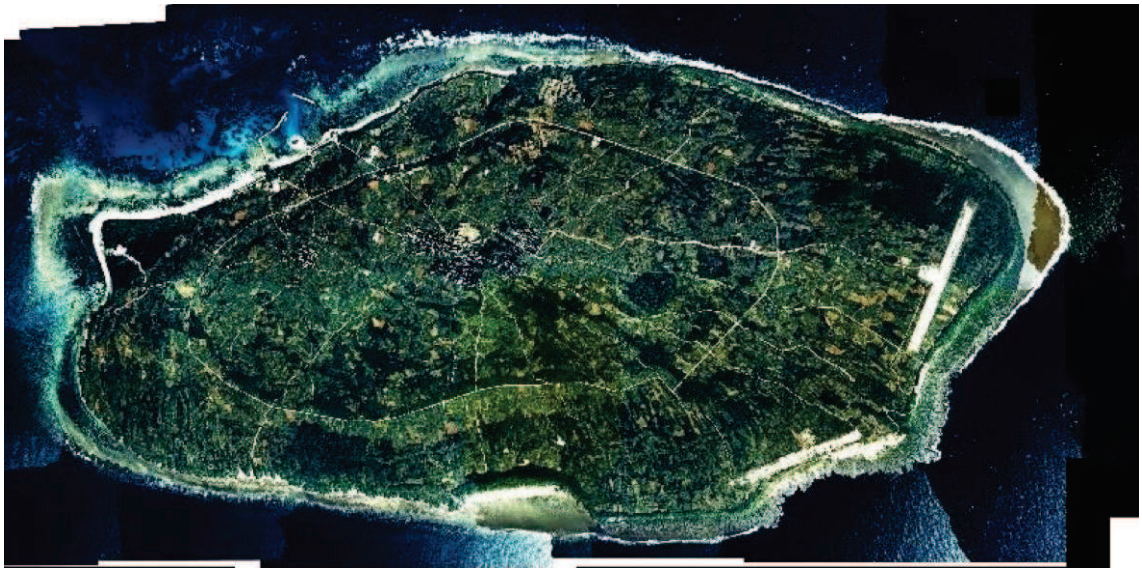


■集落が拡大した
■漁港が拡張された

鳩間島_国土地理院空中写真〔撮影年：平成21(2009)年〕

【波照間島】

■島全域で未整備農地が多い



波照間島_国土地理院空中写真〔撮影年：昭和49(1974)～53(1978)年〕

■島全域で農地が整備された



波照間島_国土地理院空中写真〔撮影年：平成21(2009)年〕

２．気 象

□本町には気象観測点が３地点(上原[観測所名は西表島]、大原、波照間)ある。３地点における気温・湿度の平成27(2015)年～令和６(2024)年の10年平均は概ね気温24℃前後、湿度80％前後であり、高温多湿な亜熱帯気候に属している。

□３地点における年間降水量の10年平均値は、上原が2,345.6mm、大原が1,934.6mm、波照間が1,717.8mmで、上原の降水量が最も多く、波照間島が最も少ない。

上原 年ごとの値 主な要素

年	気圧(hPa)		降水量(mm)				気温(℃)					湿度(%)		風向・風速(m/s)					日照
	現地	海面	合計	最大			平均			最高	最低			平均	最大風速		最大瞬間風速		時間
	平均	平均		日	1時間	10分間	日平均	日最高	日最低			平均	最小	風速	風速	風向	風速	風向	(h)
2015	1,012.5	1,013.8	2,534.5	247.0	66.0	18.0	24.4	27.1	22.4	34.9	11.0	79	37	4.2	32.2	北東	54.1	東北東	1,754.9
2016	1,012.2	1,013.5	2,448.0	153.0	56.5	19.5	24.8	27.5	22.5	34.9	8.1	81	37	4.0	24.5	東北東	37.2	南南東	1,743.5
2017	1,012.6	1,013.9	2,215.5	111.0	74.5	25.5	24.4	27.1	22.2	34.5	13.0	80	36	4.0	21.2	西	30.3	西	1,783.5
2018	1,011.8	1,013.1	2,404.0	235.5	69.0	23.5	24.1	26.8	21.8	34.1	10.7	82	40	3.8	30.1	西南西	42.4	西南西	1,894.7
2019	1,011.6	1,012.9	2,547.0	269.5]	55.0	19.0	24.6	27.3	22.5	33.4	14.1	83	40	3.9	20.5	南南東	34.7	南南東	1,632.1
2020	1,012.7	1,014.0	2,012.0	207.5	61.5	20.0	24.5	27.3	22.3	33.7	10.8	82	38	3.9	18.1	南南西	28.8	南南西	1,733.2
2021	1,011.9	1,013.3	1,762.0	122.5	47.5	17.0	24.5	27.4	22.2	34.4	10.3	83	41	3.6	18.1	南	29.9	南	2,002.6
2022	1,011.7	1,013.0	3,642.0	245.5]	56.0]	18.0	24.4	27.1	22.3	34.8	12.0	86	48	3.8	28.9	西	40.4	西北西	1,592.4
2023	1,011.0	1,012.4	1,240.5	162.0	49.0	15.5	24.6	27.6	22.2	35.2	9.3	85	40	3.3	18.0	西	29.2	西	1,470.3
2024	1,012.2	1,013.6	2,650.0	183.5	74.0	23.0	24.9	27.8	22.6	35.9	12.4	82	40	3.3	16.2	南南東	27.1	南東	1,777.7
10年平均	1,012.0	1,013.4	2,345.6	177.8	61.4	19.9	24.5	27.3	22.3	34.6	11.2	82.3	39.7	3.8	22.8	-	35.4	-	1,738.5
平年値	1,012.1	1,013.4	2,240.0	-	-	-	23.9	26.6	21.7	-	-	-	-	4.3	-	-	-	-	1,721.9

※平年値は、H3(1991)～R2(2020)年
資料：気象庁(西表島観測所)

大原 年ごとの値 主な要素

年	気圧(hPa)		降水量(mm)				気温(℃)					湿度(%)		風向・風速(m/s)					日照
	現地	海面	合計	最大			平均			最高	最低			平均	最大風速		最大瞬間風速		時間
	平均	平均		日	1時間	10分間	日平均	日最高	日最低			平均	最小	風速	風速	風向	風速	風向	(h)
2015			1,876.0	141.5	48.0	22.0	24.2	27.0	21.9	34.3	9.9	///	///	4.6	38.8	東	58.9	東	1,798.2
2016			1,727.0	77.5	41.5	17.5	24.5	27.5	22.1	35.0	7.3	///	///	4.6	28.5	東南東	41.2	東	1,774.0
2017			1,648.0	89.5	39.0	14.5	24.1	27.0	21.8	34.1	11.7	///	///	4.4	23.3	南	32.9	南	1,858.9
2018			1,801.5	175.5	40.5	19.0	23.7	26.7	21.3	34.6	8.1	///	///	4.3	22.3	南南西	40.2	北西	1,903.3
2019			2,522.0	234.5	74.0	24.5	24.4	27.2	22.1	33.0	13.0	///	///	4.6	29.1	南東	42.7	南東	1,738.0
2020			1,922.5	236.0	97.5	24.5	24.3	27.2	22.1	33.8	9.9	///	///	4.5	23.2	南南西	37.9	南南西	1,842.1
2021			1,564.0	62.5	55.0	16.5	24.5	27.5	22.0	33.4	8.5	///	///	4.2	20.1	南	37.4	北北西	1803.3]
2022			3,055.0	236.5	45.0	13.5	24.4	27.1	22.1	34.6	11.7	82]	42]	4.3	21.2	北北東	35.3	北北東	1,681.5
2023			1,342.0	99.5	40.0	15.0	24.0	27.2	21.6	34.5	8.7	80	36	4.2	16.2	北西	30.1	北	1,807.0
2024			1,888.0	137.5	44.5	15.5	24.7	27.9	22.3	35.3	11.2	81	39	4.1	22.5	南東	34.9	南東	1,915.7
10年平均			1,934.6	149.1	52.5	18.3	24.3	27.2	21.9	34.3	10.0	80.5	37.5	4.4	24.5	-	39.2	-	1,813.2
平年値			2,024.8	-	-	-	23.9	27.0	21.4	-	-	-	-	4.3	-	-	-	-	1,777.1

※平年値は、H3(1991)～R2(2020)年
資料：気象庁(大原観測所)

波照間 年ごとの値 主な要素

年	気圧(hPa)		降水量(mm)				気温(℃)					湿度(%)		風向・風速(m/s)					日照
	現地	海面	合計	最大			平均			最高	最低			平均	最大風速		最大瞬間風速		時間
	平均	平均		日	1時間	10分間	日平均	日最高	日最低			平均	最小	風速	風速	風向	風速	風向	(h)
2015			1,648.5	93.0]	47.5	16.5	24.6	27.4	22.6	34.5	12.5	///	///	5.0	40.4	東	57.5	東	1,957.6
2016			2,191.5	140.5	48.5	18.0	25.0	27.9	22.8	35.3	8.0	///	///	4.8	32.2	東南東	48.7	東南東	1,940.4
2017			1,491.0	117.0	44.5	23.0	24.7	27.8	22.4	35.0	12.7	///	///	4.5	16.9]	南東	27.0]	南東	1,960.1
2018			1,482.0	109.5	43.0	18.0	24.3	27.4	22.0	34.7	10.5	///	///	4.3	21.0	西南西	33.9	西南西	2,094.6
2019			2,104.0	254.5	83.0	25.5	24.9	27.9	22.8	34.3	14.3	///	///	4.4	26.3	南南東	39.2	南南東	1,866.6
2020			1,516.0	169.5	54.0	20.0	24.8	27.8	22.7	35.4	10.5	///	///	4.7	24.0	南西	34.4	南西	2,042.5
2021			1,242.0	72.5	32.5	13.5]	24.8	28.0	22.6	34.0	10.3	///	///	4.7	19.8	南	31.8	南	1985.7]
2022			2,806.5	276.5	71.5	21.0	24.8	27.7	22.7	35.0	12.2	80]	40]	5.1	24.5	北北東	37.1	北	1,855.6
2023			914.5	38.0	23.0	11.5	24.6	27.5	22.4	34.7	9.4	79	40]	4.8	16.0	北北東	26.1	北北東	2,003.6
2024			1,781.5	108.5	51.0	13.5	25.2	28.3	23.1	35.3	12.4	80	39	4.6	24.1	東南東	34.3	東南東	2,132.1
10年平均			1,717.8	142.9	49.9	18.6	24.8	27.8	22.6	34.8	11.3	79.5	39.0	4.7	25.4	-	38.1	-	1,983.7
平年値			1,744.5	-	-	-	24.3	27.1	22.3	-	-	-	-	4.9	-	-	-	-	1,965.8

※平年値は、H3(1991)～R2(2020)年
資料：気象庁(波照間観測所)

□台風は７月から10月にかけて発生しており、沖縄・奄美地方に接近した台風は年平均8.2回(平成27(2015)年～令和６(2024)年の10年平均)で、非常に強い風雨をもたらす。

沖縄･奄美への台風接近回数

単位：回

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2015					1		2	2	1				6
2016							1	1	4	1			7
2017							3	1	1	2			7
2018						2	4	4	2	1	1		14
2019							1	1	3	2	1		8
2020								4	2	1			7
2021				1		1	1	3	1				7
2022							3	2	4				9
2023					1	2	1	1	2	1			8
2024					1		1	2	3	1	1		9

資料：気象庁

H27(2015)～R6(2024)年の10年平均：8.2回

3．交 通

□本町の各島への交通手段は海上交通のみで、離島への基点となる石垣島の離島ターミナルから出ている定期運航便(高速船、貨客船等)を利用する。海上交通は「八重山観光フェリー株式会社」と「有限会社 安栄観光」の２社が運航している。高速船について、季節により本数が異なるが、夏季(７月～９月)は、竹富島へは１日18往復、小浜島へは１日10往復、西表島には、大原港で１日９往復、上原港で１日８往復、黒島へは１日６往復、鳩間島へは１日４往復、波照間島へは１日３往復している。また、貨客船等は、曜日指定等により運航している。島間航路として、大原港から竹富島に１便、上原港と鳩間島は１日１往復ある。



図 離島航路図

資料：八重山観光フェリー(株)HP を一部加工

3.1 高速船

□高速船は、島民や観光客の移動に主に利用されている。

□八重山観光フェリーの平成27(2015)年から令和５(2023)年における高速船の欠航率は、竹富島、小浜島、黒島、大原(西表島)で台風の多い７月から９月を除き、ほぼ０％である。一方、上原(西表島)と鳩間島は、観光シーズンの６月から８月は欠航率がほぼ０％であるが、10月から３月の秋期から冬期は風が強くなり、欠航率が50％以上となる。

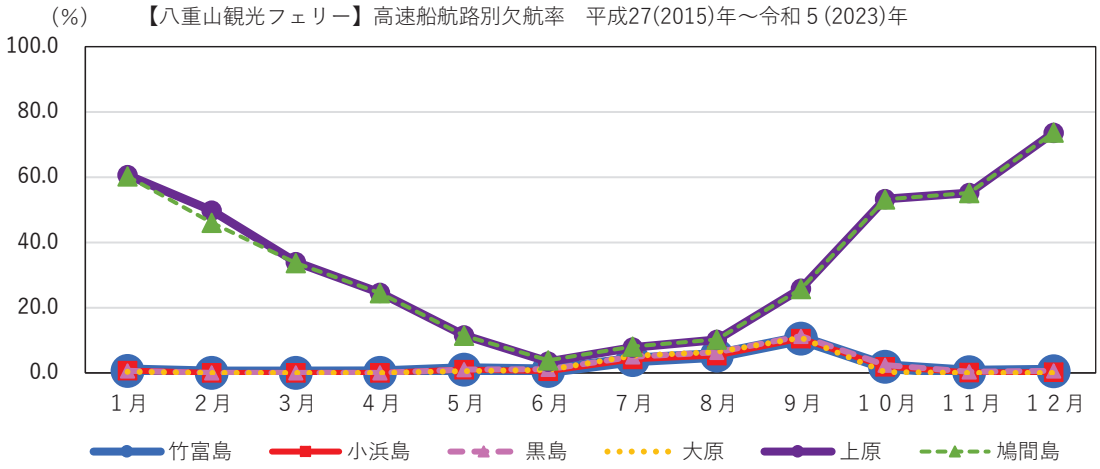


図 八重山観光フェリーにおける高速船の欠航率(平成 27(2015)年～令和５(2023)年)

資料：八重山観光フェリー(株)提供資料

□安栄観光における平成27(2015)年から令和５(2023)年における高速船の欠航率は、竹富島、小浜島、黒島、大原(西表島)で台風の多い７月から10月を除き、ほぼ0%である。一方、上原・鳩間島間は、観光シーズンの６月から８月は10%以下の欠航率であるが、特に10月から３月の秋期から冬期は風が強くなり、欠航率は50%以上となる。また、波照間島についても風の影響を受けやすく、年間を通して10%以上の欠航率である。

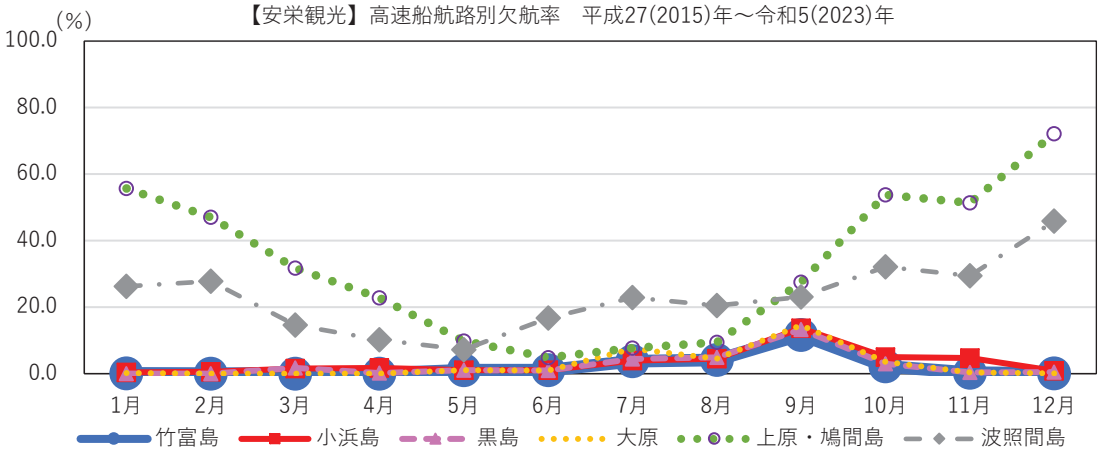


図　安栄観光における高速船の欠航率(平成 27(2015)年～令和５(2023)年)

資料：(有)安栄観光提供資料

※小浜、黒島、竹富は H28.3 以降のデータ、全体は R5.8 のデータまで

3.2 貨客船

□貨客船は、島民の生活必需品などの輸送に重要な役割を果たしている。

□八重山観光フェリーの平成27(2015)年から令和５(2023)年における貨客船の欠航率は、上原(西表島)と鳩間島、黒島を除き、ほぼ０%である。上原(西表島)と鳩間島は、10月から３月の欠航率が20%以上となる。また、黒島は４月から９月にかけて欠航率が10%以上となる。

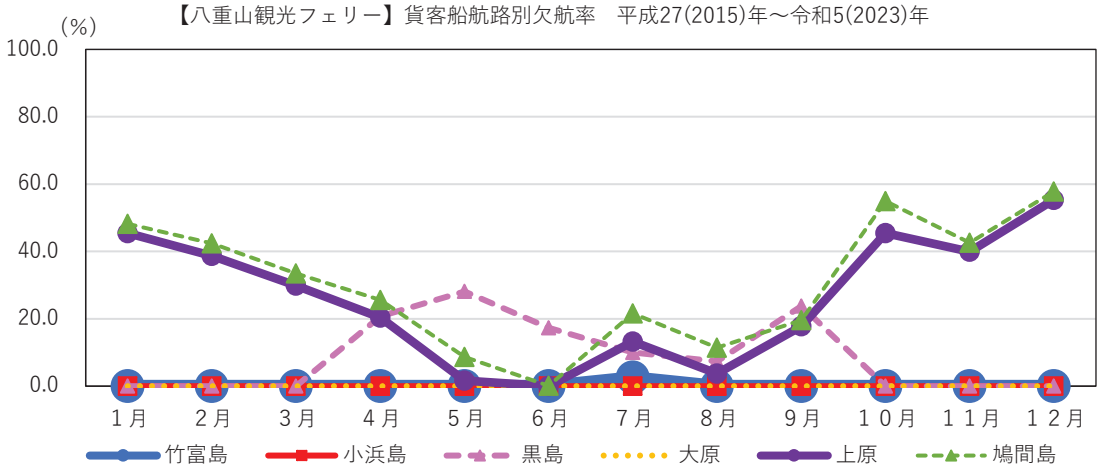


図　八重山観光フェリーにおける貨客船の欠航率(平成 27(2015)年～令和５(2023)年)

資料：八重山観光フェリー(株)提供資料

□安栄観光における平成27(2015)年から令和５(2023)年における貨客船の欠航率は、上原(西表島)～鳩間島間、上原(西表島)、鳩間島、小浜島、黒島を除き、20%以下である。一方、上原(西表島)～鳩間島間、上原(西表島)、鳩間島は、10月から３月の欠航率が50%以上となり、小浜島と黒島は４月から９月に欠航率が20%以上となる。

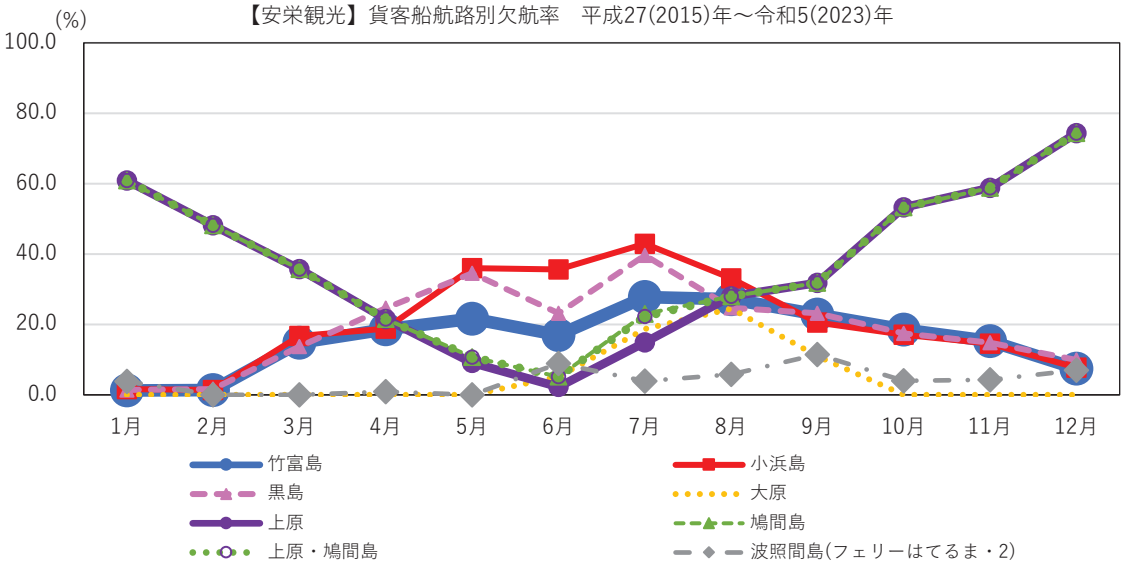


図　安栄観光における貨客船の欠航率(平成 27(2015)年～令和５(2023)年)

資料：(有)安栄観光提供資料

※波照間島は、R1.6 までフェリーはてるま、R1.7 以降はフェリーはてるま２に移行



写真　ちゅらさん２(高速船)

出典：八重山観光フェリー(株)HP



写真　かりゆし(貨客船)

出典：八重山観光フェリー(株)HP



写真　第88あんえい号(高速船)

出典：(有)安栄観光HP



写真　フェリーはてるま２(貨客船)

出典：(有)安栄観光HP

3.3 その他の交通手段等

(1) 貨物船

□その他の交通手段等として、石垣港から本町の各島への物資などの運搬貨物は、JA所有の「汽船農協やえやま」によって行われている。

□「汽船農協やえやま」は、砂利・砂、自動車、セメントなどの建設資材、動植物性製造飼肥料が多く、大きい貨物と農業の飼肥料を主体に輸送している。また、各島から石垣港への輸送は、米、かぼちゃ、その他畜産品、輸送用車両や産業機械、砂糖(製糖工場での生産品)である。

□輸送総量は、石垣港から竹富町各島及び竹富町各島から石垣港への全貨物量の約15.0～17.4%(直近３か年)を占める。

□また、貨物船の定期航路がない新城島及び西表島の船浮地区の貨物運搬も有用な役割を担っている。

□しかし、令和７(2025)年度をもって運航から撤退することが決まっているため、本町ではこの「汽船農協やえやま」に代わる竹富町有輸送船を建造し、令和７(2025)年11月に就航予定である。



写真 汽船農協やえやま

出典：竹富町における多機能型貨物輸送船基本計画(案)　令和４(2022)年９月竹富町

(2) 空路

□本町には、波照間島に空港がある。しばらく運休していたが、令和６(2024)年１月から運行が再開となり、石垣空港との間を約30分、月曜日・水曜日・土曜日の週３回、１往復/日している。

□第一航空株式会社による運航であり、離島住民割引運賃大人3,000円、普通運賃14,000円(令和７(2025)年３月現在)である。



写真 波照間空港

４．地質・土壌

□竹富島の地質は、標高の高い所は中生代の富崎層という固い岩盤だが、島の大部分は琉球石灰岩で覆われている。

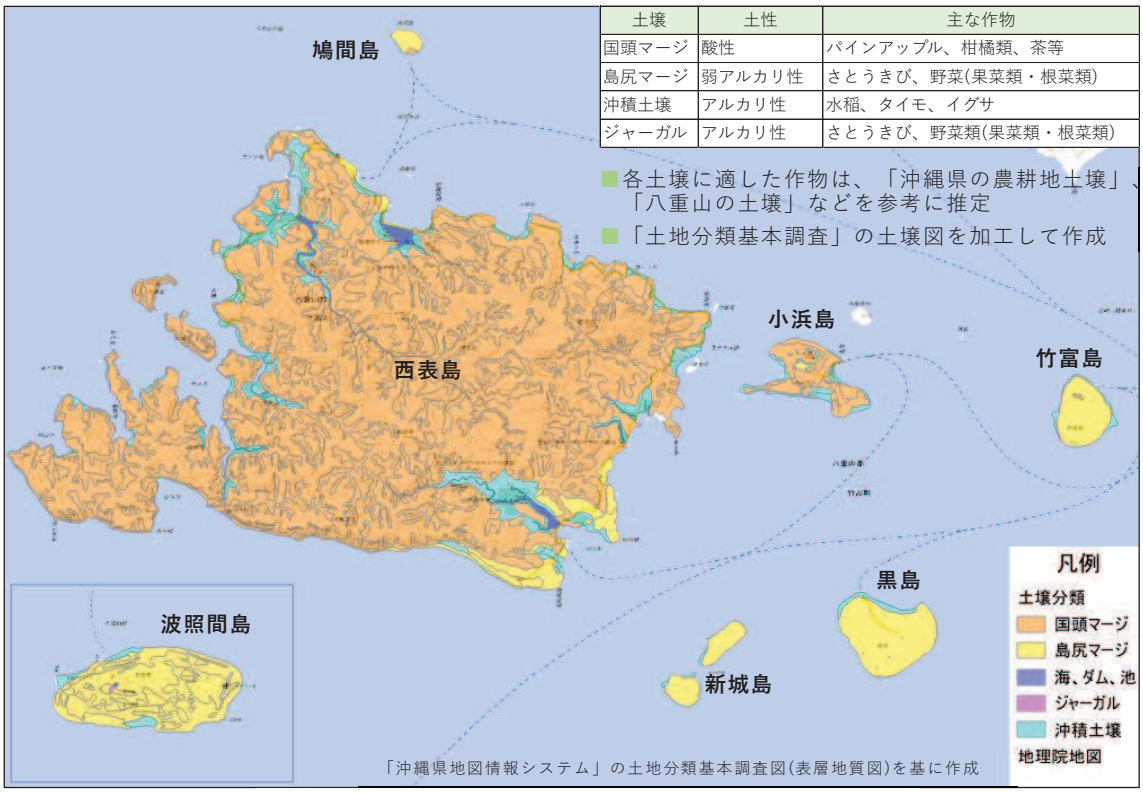
□黒島・新城島・鳩間島・波照間島の地質は、大部分が琉球石灰岩で構成されている。

□西表島の地質は、新生代４紀の砂岩や礫岩、泥岩ででき、水平に近い地層となっている。

□小浜島は、石垣島と西表島を凝縮した地質を持ち、変成岩体と琉球層群石灰岩により島北部が構成され、八重山層群と宮良層群により島南部が構成されている。

□土壌は、西表島で粘板岩安山岩花崗岩等が風化してできた国頭マージが大部分を占めており、西表島以外の島は、珊瑚石灰岩が風化してできた島尻マージが大部分を占めている。また、海岸地帯では沖積層に見られる砂質土の沖積土壌も分布している。

□沖縄県では、国頭マージの土壌では「パインアップル・柑橘類・茶」が主に栽培されており、島尻マージの土壌は排水性が良好であり「さとうきび・野菜(果菜類・根菜類)」が主に栽培されている。沖積土壌では主に水稲が栽培されている。



土壌	土性	主な作物
国頭マージ	酸性	パインアップル、柑橘類、茶等
島尻マージ	弱アルカリ性	さとうきび、野菜(果菜類・根菜類)
沖積土壌	アルカリ性	水稲、タイモ、イグサ
ジャーガル	アルカリ性	さとうきび、野菜類(果菜類・根菜類)

■各土壌に適した作物は、「沖縄県の農耕地土壌」、「八重山の土壌」などを参考に推定

■「土地分類基本調査」の土壌図を加工して作成

図　土壌分布図と各土壌に適した主な作物

５．営農の特色

□本町の農業は各島々によって異なり、さとうきび、水稲、野菜、パインアップル、マンゴー等の熱帯果樹、肉用牛等が主体となっている。また、波照間島ではもちきびが全国有数の産地として注目されており、各島の特徴を生かした農業が行われている。

□土地改良事業等の農業基盤整備の進展で規模拡大と機械化体系ができる環境が整ったことにより、若者のＵターンが見られるようになってはいるものの、高齢化の進行や後継者不足が深刻な問題となってきていることに加え、かんがい施設等の不足により、干ばつの被害を受けやすく農業用水の確保が問題となっている。今後は生産性の高い農業の確立や、機械の導入により省力化を進める必要がある。

□また、各島の輸送ルートのほとんどが航路のみであり、現在は、JAおきなわが所有する貨物船「汽船農協やえやま」が中心となり、輸送を行っているが、令和７(2025)年の撤退を決定している。そのため、安定的な輸送に向け、本町では、「汽船農協やえやま」に代わる竹富町有輸送船を建造し、令和７(2025)年11月に就航予定である。


肉用牛


さとうきび


パインアップル


水田

第３章　農業構造･生産の概況

１．八重山圏域における本町の農業生産の位置

□主業農家率は、沖縄県では33％であるが八重山圏域では40％と高い主業農家率になっている。本町の主業農家率は57％であり、石垣市の40％、与那国町の17％と比較して高い割合となっている。本町は沖縄県及び八重山圏域の中では主業農家率は非常に高い割合の地域といえる。

□１戸あたり耕地面積は、沖縄県では1.8haであるが八重山圏域では4.0haであり、八重山地域は県内でも１戸あたりの耕地面積の大きい地域となっている。本町の１戸あたり耕地面積は4.7haであり、石垣市の4.0ha、与那国町の3.2haと比較して１戸あたり耕地面積は八重山圏域の中では大きい地域といえる。

□畑地率は、沖縄県では93％であり八重山圏域の畑地率は92％と若干県の平均よりは低い畑地率となっている。本町の畑地率は90％であり、石垣市の92％、与那国町の95％と比較すると、八重山圏域の中では畑地率の低い地域といえる。

□一方、本町の水田率は５％であり、沖縄県の２％と比べ高い割合となっている。八重山圏域の水田率は７％であり、石垣市が７％、与那国町が５％となっており、八重山圏域内の市町では大きな差はなく、本町を含む八重山圏域は県内でも水稲生産が盛んな地域といえる。

□農業産出額のうち畜産が占める割合は、沖縄県では44％であるが八重山圏域では67％と高い割合になっている。本町の農業産出額のうち畜産が占める割合は76％であり、石垣市(68％)・与那国町(40％)と比較しても非常に高い割合となっている。畜産が盛んな八重山圏域の中でも、本町は畜産が主産業となっていることがわかる。

農家数・耕地面積・農業産出額(2020年農林業センサス)

区分	竹富町	石垣市	与那国町	八重山圏域計	沖縄県
総農家(戸)	164	620	115	899	14,747
販売農家	148	593	97	838	10,674
自給的農家	16	27	18	61	4,073
農業経営体数(経営体)	145	586	103	834	10,875
主業農家	83	232	17	332	3,621
準主業農家	8	64	28	100	1,347
副業的農家	54	290	58	402	5,907
主業農家率	57%	40%	17%	40%	33%
農業就業人口(人)	221	1,003	150	1,374	18,207
基幹的農業就業者(人)	173	737	84	994	13,288
耕地面積(ha)	675	2,366	330	3,369	19,475
田面積	33	172	15	221	379
畑面積	610	2,171	313	3,095	18,185
樹園地	30	23	1	54	911
水田率(%)	5%	7%	5%	7%	2%
畑地率(%)	90%	92%	95%	92%	93%
１戸あたり耕地面積(ha)	4.7	4.0	3.2	4.0	1.8
農業算出額(億円)	16.2	87.6	6.5	110.3	910
うち耕種	3.9	28.1	3.9	35.9	512
うち畜産	12.3	59.4	2.6	74.3	397
生産農業所得(億円)					318
生産農業所得率(%)					35%

出典：2020年農林業センサス、農業関係統計(R4.3)

２．本町を構成する集落

□本町において農林業センサスで区分けされた集落数は19集落である。

□波照間集落が販売農家数(28戸で全体の19%)、基幹的農業従事者数(39人で全体の23%)とも最も多い。次いで販売農家数・基幹的農業従事者数が多いのは大富集落である。経営耕地面積が大きいのは大富集落で全体の18%を占めており、次いで多いのは波照間集落となっている。波照間集落と大富集落が本町の農業の中心地域となっている。

集落別農家数(2020年農林業センサス)

集落名	販売農家数	主業	準主業	副業的	基幹的農業従事者	総農家	経営耕地	
							農家数	面積(a)
竹富	3	x	x	x	x	5	x	x
黒島	17	13	-	4	19	17	17	10,505
小浜	21	9	1	10	20	23	21	8,950
新城	-	-	-	-	-	-	-	-
豊原	13	6	-	7	15	14	13	6,290
大原	11	8	-	3	14	11	11	5,439
大富	20	10	2	8	26	21	21	11,688
古見	5	3	-	2	5	5	5	2,350
美原	5	4	-	1	6	5	5	1,940
上原	3	1	-	2	4	3	3	745
祖納	7	3	-	4	7	7	8	1,590
白浜	2	x	x	x	x	2	x	x
舟浮	-	-	-	-	-	-	-	-
鳩間	-	-	-	-	-	-	-	-
波照間	28	16	3	9	39	32	28	11,430
船浦	-	-	-	-	-	1	-	-
中野	8	3	2	2	6	8	8	2,226
住吉	5	3	-	1	6	9	5	2,200
干立	-	-	-	-	-	1	-	-

出典：2020年農林業センサス

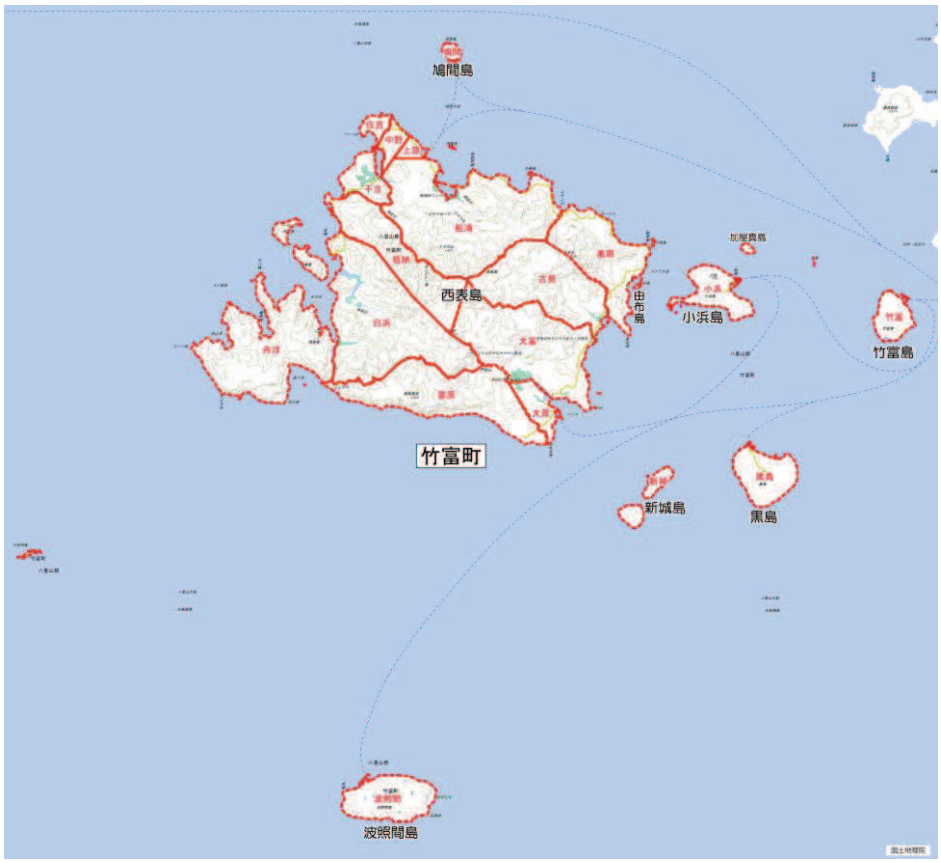


図　竹富町全体と集落の分布状況

資料：国土地理院、農林水産省集落界データ

３．人口・世帯

□沖縄県及び八重山圏域の人口は平成７年以降現在まで増加傾向にあり、平成７(1995)年から令和２(2020)年で見ると沖縄県では15％増、八重山圏域では13％増となっている。この期間の石垣市は14％増、本町は12％増となっている一方で、与那国町では７％減と人口減少しており、八重山圏域内においても人口増加率に大きな差がある。

□本町の人口は平成17(2005)年までは増加傾向にあったが、平成22(2010)年には減少に転じた。以降は増減をくり返しながら推移している。５か年(平成27(2005)年～令和２(2020)年)で見ると、沖縄県では2.4％増、八重山圏域では0.3％減、本町は1.4％減、石垣市は0.2％増、与那国町は9.1％減、となっており、近年においては沖縄県全体では人口が増加傾向にある中で、本町は人口減少している地域になっているといえる。

□世帯員数は、沖縄県及び八重山圏域共に減少傾向が続いており、令和２(2020)年で見ると沖縄県では2.4人、八重山圏域では2.1人となっている。本町は1.9人、石垣市は2.2人、与那国町は2.2人であり、沖縄県の中でも八重山圏域の市町村は１世帯当たりの人数が少ない地域であり、本町は八重山圏域の中では世帯員数が少ない町となっている。

世帯と人口の変遷

竹富町

	世帯数（世帯）	人口（人）	H7からの人口増加率（%）	前回調査からの人口増加率（%）	世帯員数（人/世帯）
H7	1,526	3,508	-	-	2.3
H12	1,694	3,551	1%	1%	2.1
H17	2,137	4,192	20%	18%	2.0
H22	2,000	3,859	10%	-8%	1.9
H27	2,122	3,998	14%	4%	1.9
R2	2,093	3,942	12%	-1.4%	1.9

八重山圏域計

	世帯数（世帯）	人口（人）	H7からの人口増加率（%）	前回調査からの人口増加率（%）	世帯員数（人/世帯）
H7	16,407	47,086	-	-	2.9
H12	18,260	48,705	3%	3%	2.7
H17	20,736	51,171	9%	5%	2.5
H22	21,925	52,438	11%	3%	2.4
H27	23,716	53,405	13%	2%	2.3
R2	24,886	53,255	13%	-0.3%	2.1

石垣市

	世帯数（世帯）	人口（人）	H7からの人口増加率（%）	前回調査からの人口増加率（%）	世帯員数（人/世帯）
H7	14,207	41,777	-	-	2.9
H12	15,848	43,302	4%	4%	2.7
H17	17,797	45,183	8%	4%	2.5
H22	19,212	46,922	12%	4%	2.4
H27	20,514	47,564	14%	1%	2.3
R2	22,033	47,637	14%	0.2%	2.2

沖縄県

	世帯数（世帯）	人口（人）	H7からの人口増加率（%）	前回調査からの人口増加率（%）	世帯員数（人/世帯）
H7	404,253	1,273,440	-	-	3.2
H12	446,286	1,318,220	4%	4%	3.0
H17	488,368	1,361,594	7%	3%	2.8
H22	520,191	1,392,818	9%	2%	2.7
H27	560,424	1,433,566	13%	3%	2.6
R2	614,708	1,467,480	15%	2.4%	2.4

与那国町

	世帯数（世帯）	人口（人）	H7からの人口増加率（%）	前回調査からの人口増加率（%）	世帯員数（人/世帯）
H7	674	1,801	-	-	2.7
H12	718	1,852	3%	3%	2.6
H17	802	1,796	-0%	-3%	2.2
H22	713	1,657	-8%	-8%	2.3
H27	1,080	1,843	2%	11%	1.7
R2	760	1,676	-7%	-9.1%	2.2

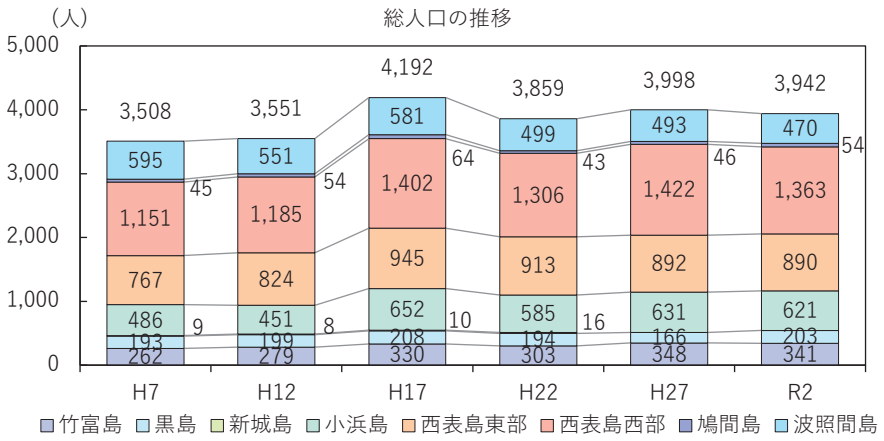
出典：離島関係資料(H11.1、H21.1、R2.3、R4.3)
農業関係統計(R4.3)

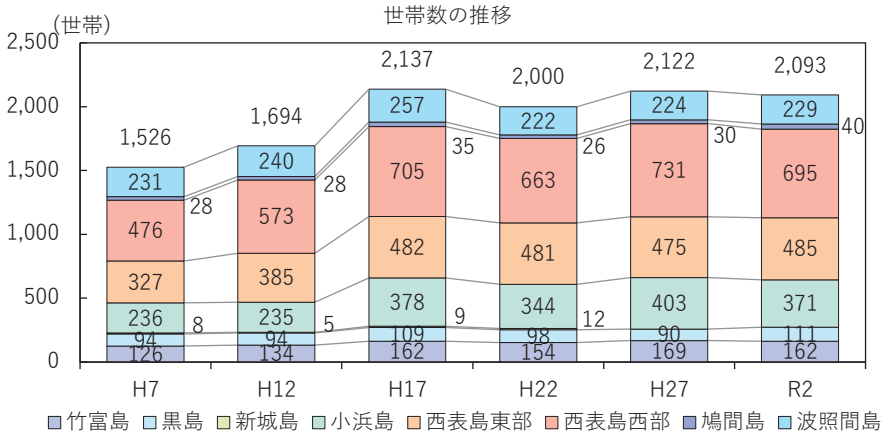
【各島の状況】

□本町の中では西表島東部の人口・世帯数が最も多く、新城島と鳩間島は数十人、数十世帯となっている。

□平成７(1995)年から令和２(2020)年にかけて、人口・世帯数ともの増減はあるものの、平成17(2005)年をピークに横ばいとなっている。

島別の世帯と人口の変遷





島別の世帯と人口の変遷

島名	人口（人）						世帯数（世帯）					
	H７	H12	H17	H22	H27	R２	H７	H12	H17	H22	H27	R２
竹富島	262	279	330	303	348	341	126	134	162	154	169	162
黒島	193	199	208	194	166	203	94	94	109	98	90	111
新城島	9	8	10	16			8	5	9	12		
小浜島	486	451	652	585	631	621	236	235	378	344	403	371
西表島東部	767	824	945	913	892	890	327	385	482	481	475	485
西表島西部	1,151	1,185	1,402	1,306	1,422	1,363	476	573	705	663	731	695
鳩間島	45	54	64	43	46	54	28	28	35	26	30	40
波照間島	595	551	581	499	493	470	231	240	257	222	224	229
計	3,508	3,551	4,192	3,859	3,998	3,942	1,526	1,694	2,137	2,000	2,122	2,093

出典：国勢調査

注　：「西表島東部」は、字南風見、字南風見仲、字古見、字高那の合計値、「西表島西部」は、字上原、字西表、字崎山の合計値である。

注　：「新城島」はH27年統計より「黒島」に合算されて公表されている。

【各島の今後の人口推移の予測】

□令和７(2025)年以降の本町と各島の人口の推移を推計した結果、小浜島を除き、全ての島で人口が減少するという結果であった。本町全体では、約15％の減少である。

□特に、波照間島は人口が半減すると推計されており、今後の島内の人口維持が喫緊の課題である。

□小浜島では、約４％の増加を見込んでいる。

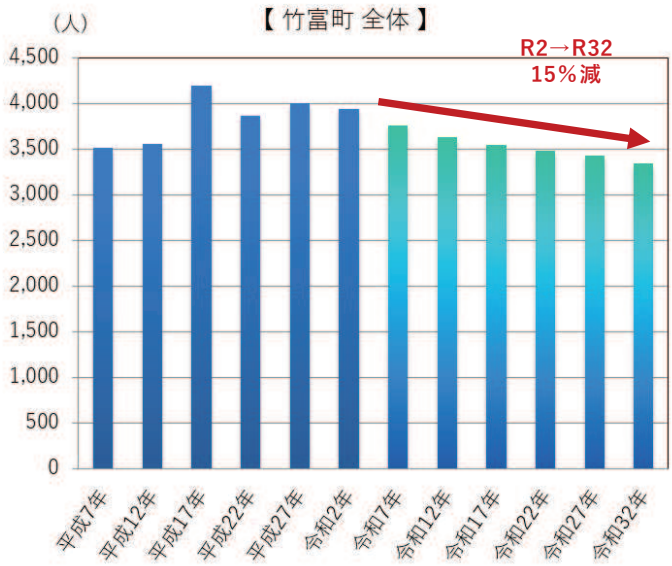


図　平成７(1995)年から令和32(2050)年までの竹富町全体の人口推移の予測

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部



図　平成７(1995)年から令和 32(2050)年までの各島の人口推移の予測

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部

４．産業別就業者数

□平成22(2010)年以降の産業別就業者数を見ると、第３次産業の占める割合が最も多く、沖縄県及び八重山圏域では第３次産業が70％程度で増加を続けており、本町においても平成22(2010)年：69％→令和２(2020)年：75％と第３次産業の割合が年々大きくなっている。また、第２次産業の割合は、沖縄県及び八重山圏域は12～14％で推移しているが、本町は令和２(2020)年では６％となっており、本町は沖縄県の中でも第２次産業の占める割合が低い地域といえる。

□農業就業者の割合は、令和２(2020)年の沖縄県では４％、八重山圏域では８％(竹富町16％、石垣市７％、与那国町６％)であり、沖縄県の中では八重山圏域は農業者比率の比較的高い地域であり、その中でも本町は農業者比率の高い地域といえる。

□農業者数の経年変化をみると、沖縄県では平成22(2010)年以降は農業者数が減少する中で、本町では平成27(2015)年まで減少を続けていた農業者数が令和２(2020)年には増加に転じた。石垣市では平成22(2010)年から平成27(2015)年は増加していたが、令和２(2020)年には大きく減少しており、与那国町では平成22(2010)年から令和２(2020)年にかけて農業者は大きく減少している。

産業別就業者数(15歳以上)

産業分類		竹富町			石垣市			与那国町			八重山圏域			沖縄県		
		H22	H27	R2	H22	H27	R2	H22	H27	R2	H22	H27	R2	H22	H27	R2
総数		2,268	2,338	2,259	22,275	22,711	19,447	980	1,317	1,055	25,523	26,366	22,761	578,638	589,634	577,419
第一次産業		407	349	396	1,957	2,075	1,511	153	142	107	2,517	2,566	2,014	28,713	26,593	23,267
	農業	369	316	363	1,655	1,787	1,304	126	104	67	2,150	2,207	1,734	25,777	23,772	20,781
	林業	3	5	4	14	14	10	0	0	0	17	19	14	204	205	168
	漁業	35	28	29	288	274	197	27	38	40	350	340	266	2,732	2,616	2,318
第二次産業		150	112	134	3,190	3,114	2,447	207	544	178	3,547	3,770	2,759	81,142	81,508	79,353
	鉱業	-	-	-	22	10	11	-	1	5	22	11	16	246	254	289
	建設業	75	56	55	2,071	1,893	1,559	90	441	104	2,236	2,390	1,718	53,090	52,335	52,022
	製造業	75	56	79	1,097	1,211	877	117	102	69	1,289	1,369	1,025	27,806	28,919	27,042
第三次産業		1,574	1,651	1,696	14,890	16,341	14,599	619	630	770	17,083	18,622	17,065	418,321	433,334	451,426
	電気・水道・ガス	9	9	9	105	112	100	6	7	6	120	128	115	3,099	3,223	3,096
	通信・運輸	202	148	131	1,465	1,339	1,110	58	52	46	1,725	1,539	1,287	39,638	38,340	39,969
	卸売・小売	140	114	132	2,985	3,093	2,484	83	70	88	3,208	3,277	2,704	86,419	81,924	81,655
	金融・保険	-	1	2	215	236	163	2	1	3	217	238	168	11,215	11,034	11,040
	不動産	32	32	38	334	442	433	8	12	6	374	486	477	10,843	12,219	13,445
	サービス	887	995	985	4,873	5,382	4,616	241	229	208	6,001	6,606	5,809	119,715	122,275	123,413
	教育・福祉	285	337	371	3,731	4,240	4,150	132	149	152	4,148	4,726	4,673	116,022	130,714	143,008
	公務	19	15	28	1,182	1,497	1,543	89	110	261	1,290	1,622	1,832	31,370	33,605	35,800
分類不能		137	226	33	2,238	1,181	890	1	1		2,376	1,408	923	50,462	48,199	23,373
農業の割合		16%	14%	16%	7%	8%	7%	13%	8%	6%	8%	8%	8%	4%	4%	4%
第3次産業の割合		69%	71%	75%	67%	72%	75%	63%	48%	73%	67%	71%	75%	72%	73%	78%

出典：国勢調査(H22年、H27年、R2年)

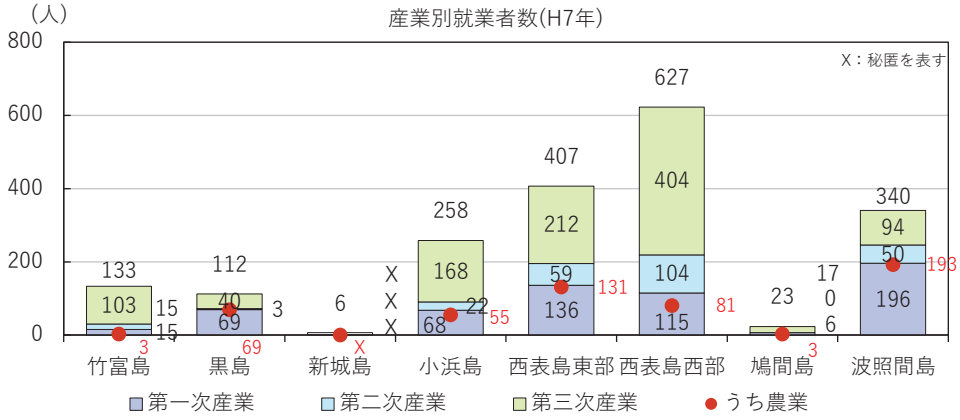
【各島の状況】

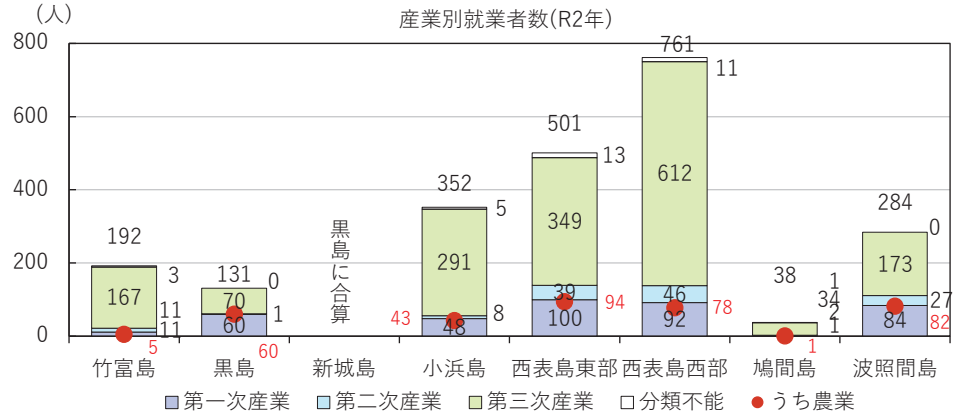
□産業別農業就業者数は、平成７(1995)年から第一次産業の人口が減少し、第三次産業の人口が増加している。

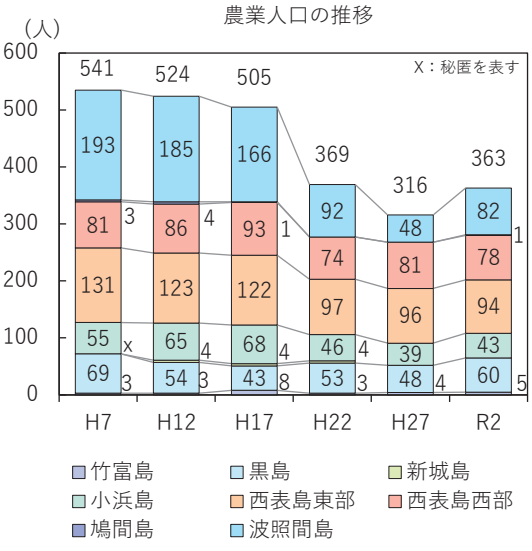
□第一次産業の就業者数のほとんどが農業人口である。

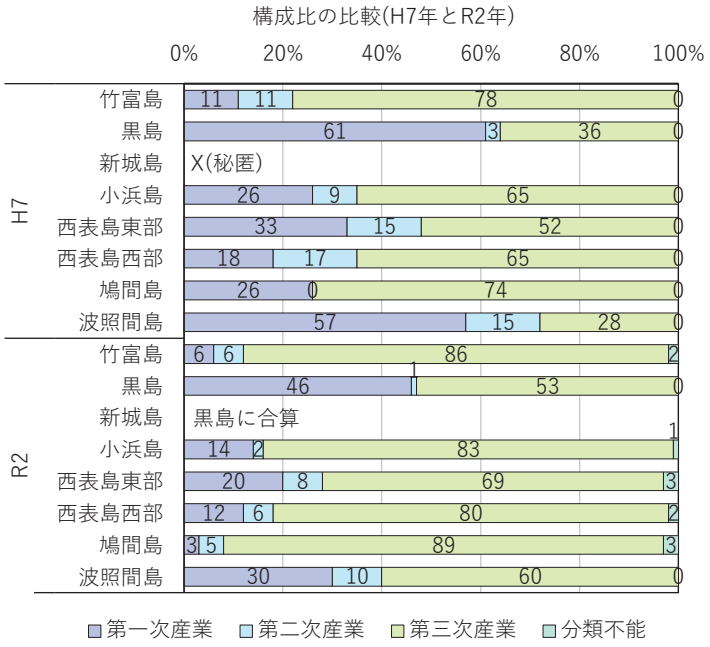
□第一次産業の就業者数割合が高い島は、黒島と波照間島であり、黒島では肉用牛、波照間島ではさとうきびが主体に生産されている。

産業別就業者数の推移









出典：国勢調査

５．耕地の状況

5.1 土地･耕地面積

□耕地面積は沖縄県では平成12(2000)年以降減少傾向にあり、平成12(2000)年から令和２(2020)年の減少率は沖縄県では11％減、八重山圏域では４％減、石垣市は２％減、与那国町は25％減となっている。本町の耕地面積は４％減(2,043ha→1,955ha)であり、沖縄県の中でも耕地面積減少率は小さい地域と言える。

□沖縄県の田の面積は平成12(2000)年から令和２(2020)年で10％減・畑は11％減であり、八重山圏域の田の面積は平成12(2000)年から令和２(2020)年で９％減・畑は４％減である。本町の田の面積は平成12(2000)年から令和２(2020)年で10％減(94ha→85ha)となっているが、畑は４％減(1,949ha→1,870ha)と田に比べて低い減少率である。

□本町の令和２(2020)年の耕地面積のうち田は４％を占めており、八重山圏域では６％、沖縄県は２％である。本町及び八重山圏域における耕地面積に占める田の割合は沖縄県内でも高い水準であり、八重山圏域は水稲栽培が盛んな地域であるといえる。

耕地面積の推移

単位：ha

年次	竹富町					
	合計	田	畑			
				普通畑	樹園地	牧草地
H12	2,043	94	1,949	788	31	1,130
H17	1,964	80	1,884	827	47	1,010
H22	1,954	84	1,870	-	-	-
H27	2,065	85	1,980	-	-	-
R2	1,955	85	1,870	-	-	-

単位：ha

年次	八重山圏域計					
	合計	田	畑			
				普通畑	樹園地	牧草地
H12	8,121	515	7,606	4,324	210	3,072
H17	8,097	518	7,579	4,543	293	2,743
H22	8,095	516	7,579	-	-	-
H27	7,994	493	7,501	-	-	-
R2	7,764	468	7,296	-	-	-

単位：ha

年次	石垣市					
	合計	田	畑			
				普通畑	樹園地	牧草地
H12	5,396	318	5,078	3,280	178	1,620
H17	5,465	331	5,134	3,370	244	1,520
H22	5,478	328	5,150	-	-	-
H27	5,393	323	5,070	-	-	-
R2	5,298	318	4,980	-	-	-

単位：ha

年次	沖縄県					
	合計	田	畑			
				普通畑	樹園地	牧草地
H12	41,442	912	40,530	33,000	2,000	5,530
H17	39,317	877	38,440	31,000	1,990	5,450
H22	39,138	878	38,260	30,200	2,030	6,030
H27	38,530	850	37,680	29,900	1,940	5,840
R2	36,937	817	36,120	28,300	1,880	5,940

単位：ha

年次	与那国町					
	合計	田	畑			
				普通畑	樹園地	牧草地
H12	682	103	579	256	1	322
H17	668	107	561	346	2	213
H22	663	104	559	-	-	-
H27	536	85	451	-	-	-
R2	511	65	446	-	-	-

注：平成19年から畑の種類別の地域・市町村別取りまとめは行っていない。

出典：作物統計調査

5.2 土地利用状況

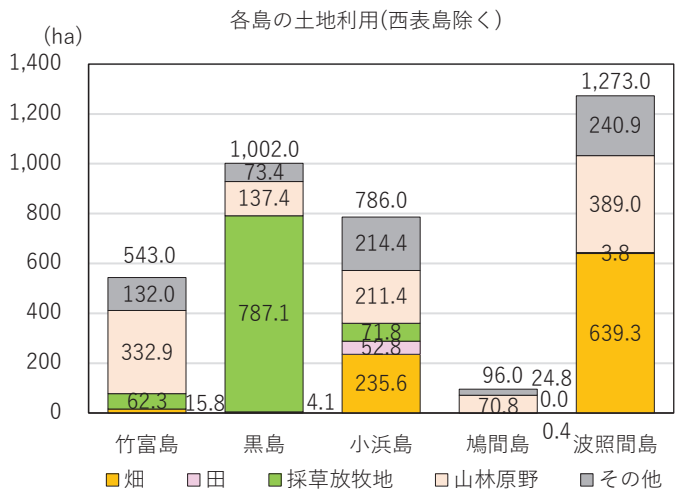
□本町の各島の土地利用状況を以下に示す。

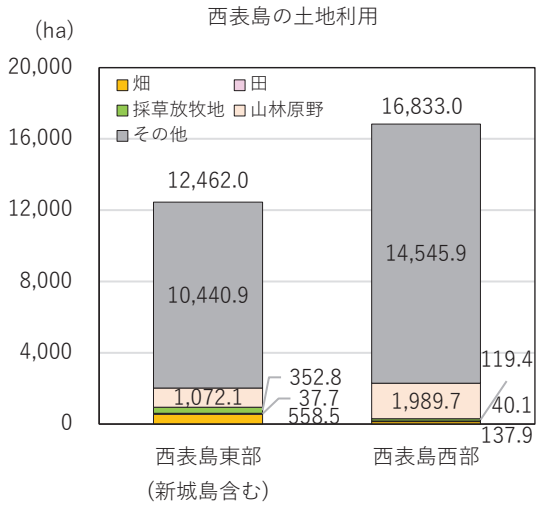
□島全体の面積が最も大きいのが西表島であり、そのほとんどが森林(その他に分類)である。

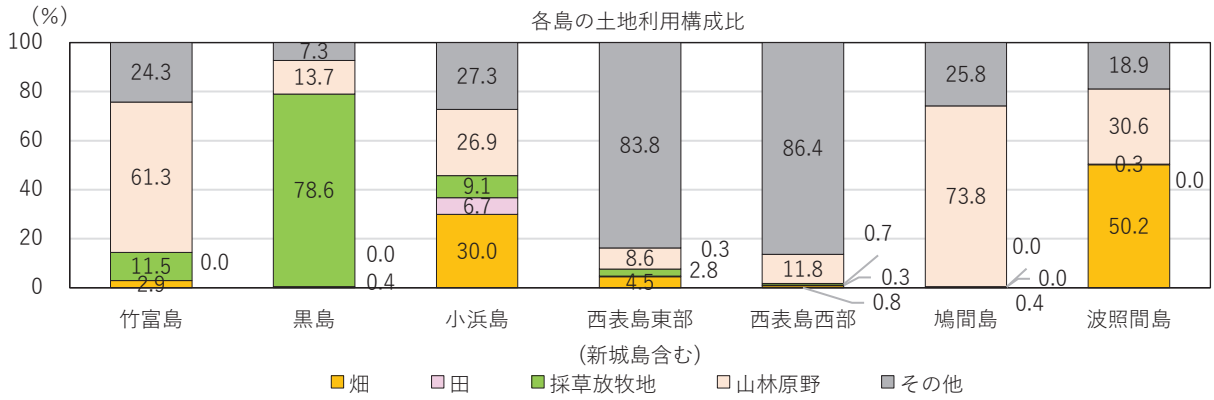
□島によって土地利用が異なり、黒島は島の８割が採草放牧地で、波照間島は島の５割が畑地である(その他含む値)。

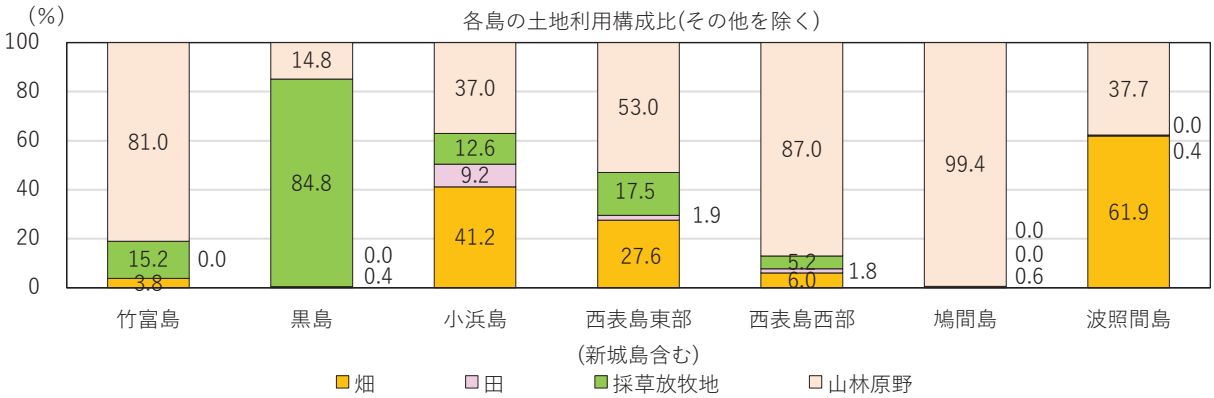
□また、山林原野の割合が半以上を占める島は竹富島、鳩間島である。

□その他を除く土地利用構成比を見ると、小浜島と西表島には水田が数％存在する。









出典：竹富町役場、国土地理院(全体面積)

(1) 竹富島

□竹富島は本町島しょ群の東側に位置し、面積は543haで、隆起珊瑚礁からなり周囲8.33km、一番高い場所の標高が21mの島である。

□約137haの採草放牧地がありそのうち33.21haが畜産基盤再編総合整備事業(ぱいぬしま地区)により整備が行われ、放牧が行われている。

□本地区は、珊瑚石灰岩からなり耕土深も浅く、原野も多い。

□昭和61(1986)年に「売らない」、「汚さない」、「乱さない」、「壊さない」、「生かす」を保全優先の基本理念として定める「竹富島憲章」を竹富公民館が独自に定めるなど、昔から伝統的な集落景観の保全を進めてきており、昭和62(1987)年に「伝統的建造物群保存地区」の選定を受け、その後も継続的に町並み保存に取り組んでいる。

□地域資源として、環境省のビジターセンター竹富島ゆがふ館、自然海浜であるコンドイ浜等があり、大型リゾートホテルもある。



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム(土地利用)

（2）小浜島

□小浜島は、石垣島の西方14kmの地点で本町島しょ群の中心地に位置し、面積は786haで、島のほぼ中央に海抜99mの大岳の地形をなしている。周囲に499haの農用地がある。

□土壌は国頭マージが大部分を占め、さとうきび栽培を中心に水稲と肉用牛の生産が行われ、とりわけ、本地区は含蜜糖生産地域で、含蜜糖工場が処理能力50t/日で操業している。島内には田も点在している。

□基盤整備も進み、団体営土地改良総合整備事業(テンナ(昭和51[1976]～55[1980]年)：42.8ha)、農村基盤総合整備事業(小浜(昭和53[1978]～62[1987]年)：34.4ha)、県営畑地帯総合土地改良事業(大岳(昭和56[1981]～平成元[1989]年)：96.2ha、テンナ(平成６[1994]～12[2000]年)：36ha)、基盤整備促進事業(ニシンダ(平成14[2002]～17[2005]年)：6.0ha)でほ場が整備されている。また畜産においては畜産基盤再編総合整備事業等により草地造成及び施設の整備が実施された。

□平成19(2007)年に国重要無形民俗文化財に指定された「小浜島の盆、結願祭、種子取祭の芸能」が有名で、大型リゾートホテルや八重山諸島で唯一のゴルフ場もある。



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム(土地利用)

（3）黒島

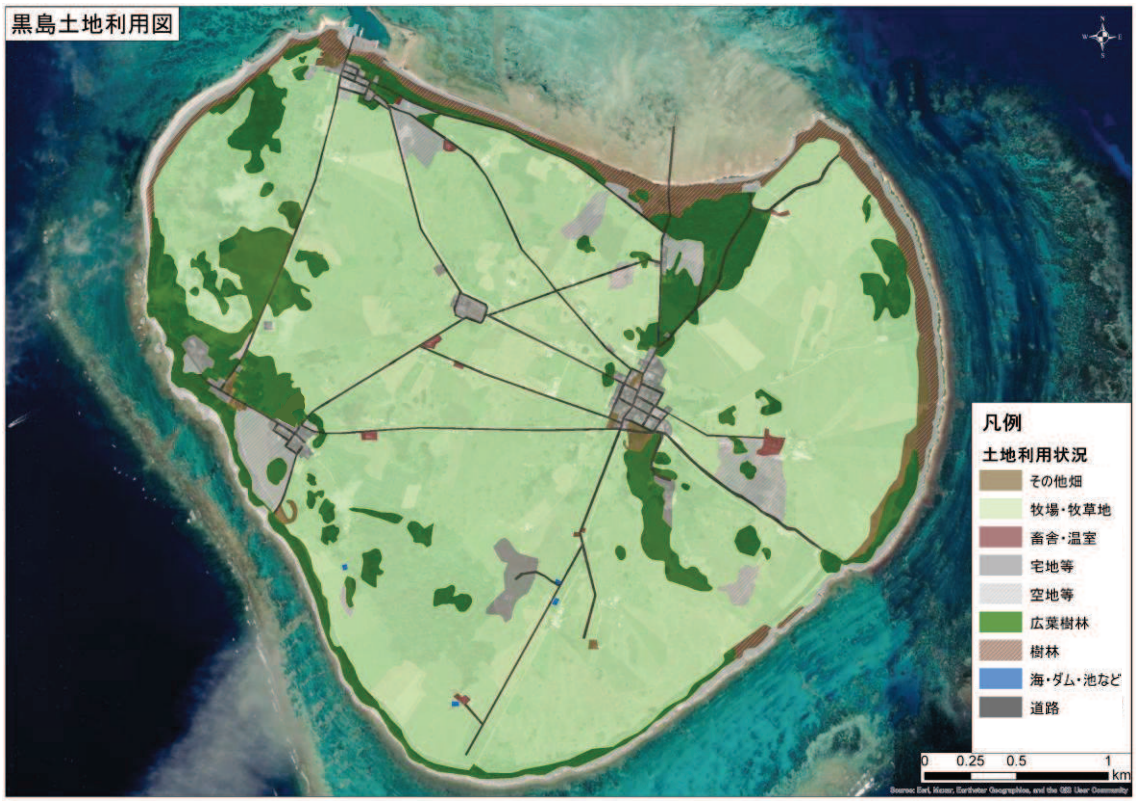
□黒島は石垣島の南西方約15kmの地点にあって、本町島しょ群の南側に位置し、面積は1,002haである。島全体が隆起珊瑚礁からなる周囲約13kmの平坦な島である。

□島の大部分が、牧場・牧草地である。

□本地区には、昭和59(1984)年頃から畜産基地建設事業のスタビライザー工法による草地造成面積493.9ha、畜産担い手育成総合整備事業(ぱいぬしま第二地区)の一環として黒島家畜セリ市場が整備された。

□主な産業は、肉用牛子牛生産に特化した畜産業であり、毎年開催される「黒島牛まつり」には多くの来島者が訪れる。

□国指定史跡のプズマリ(先島諸島火番盛のひとつ)や、地域資源として、環境省のビジターセンター黒島、自然海浜である仲本海岸等がある。



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム(土地利用)

（4）新城島

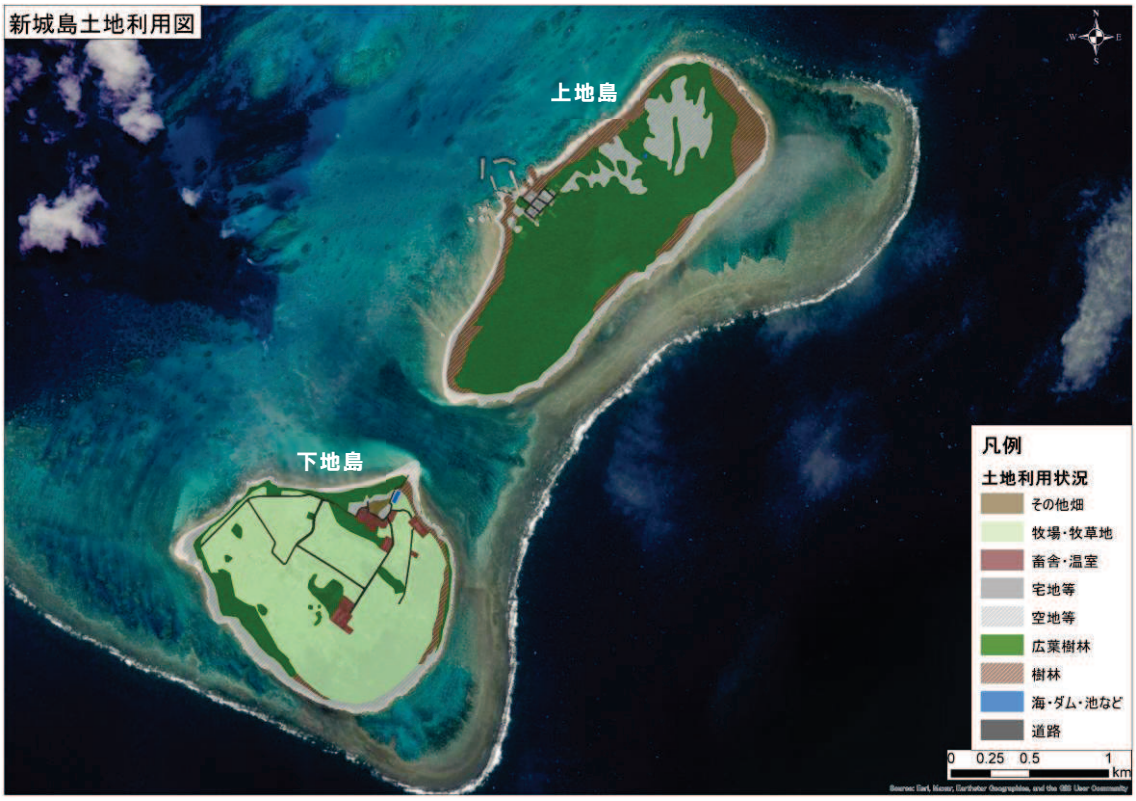
□新城島は、石垣島の南西方約20kmの地点にあって、上地島と約500m隔てた下地島の２つの島からなっている。

□本地区の上地島は周囲4.48km、下地島は4.20kmである。島全体が平坦な隆起珊瑚礁からなる島尻マージ土壌であり、面積は上地島と下地島合わせて271haである。

□上地島は広葉樹林に囲まれ、農業生産は極めて乏しく、下地島は島全体が畜産基地整備事業で整備されており、畜産業が主体となっている。

□令和５(2023)年３月現在、世帯数９戸(上地島７戸、下地島２戸)、人口10人(上地島８人、下地島２人)となり、過疎地区として今後地域対策が必要である。

□文化財は、国指定史跡のタカニクや先島諸島火番盛のひとつの中森(波照間ムリ)、町指定史跡としてクイヌパナがある。



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

(5) 西表島東部

□西表島は、面積28,977ha、海岸延長線129.99km で県内では沖縄本島に次ぐ面積を有する島で、最高標高469.7m(古見岳)をはじめ、標高400m前後の山地が島の大半を占めている。

□西表島東部は、豊原･大原地区、大富地区、古見地区、由布地区がある。

▸豊原･大原地区：西表東部に位置し、仲間港を中心に豊原、大原両集落に分布、集落周辺には農地が広がり基盤整備が施されており、また仲間川流域のヤッサ島を含め400haの農用地があり、比較的農業条件が整っている。土壌の大部分は国頭マージで占め、さとうきびを主に水稲、パインアップル、野菜(かぼちゃ、ばれいしょ)、肉用牛の生産が行われている。これまで土地改良事業を実施し、約157.9haの畑地が整備され、さとうきびが栽培されており、含蜜糖生産地域にある。また、水稲も作付されている。

▸大富地区：西表東部に位置し仲間川を起点に大富集落があり、仲間川北岸より古見集落側の前良川に至る地域で海岸より山手の方に平坦地が広がり集団化した農地となっている。団体営中山間地域総合整備事業、元気な地域づくり交付金事業が盛んに実施されて整備が進められてきた。また、畜産基盤再編総合整備事業導入により畜産も盛んである。

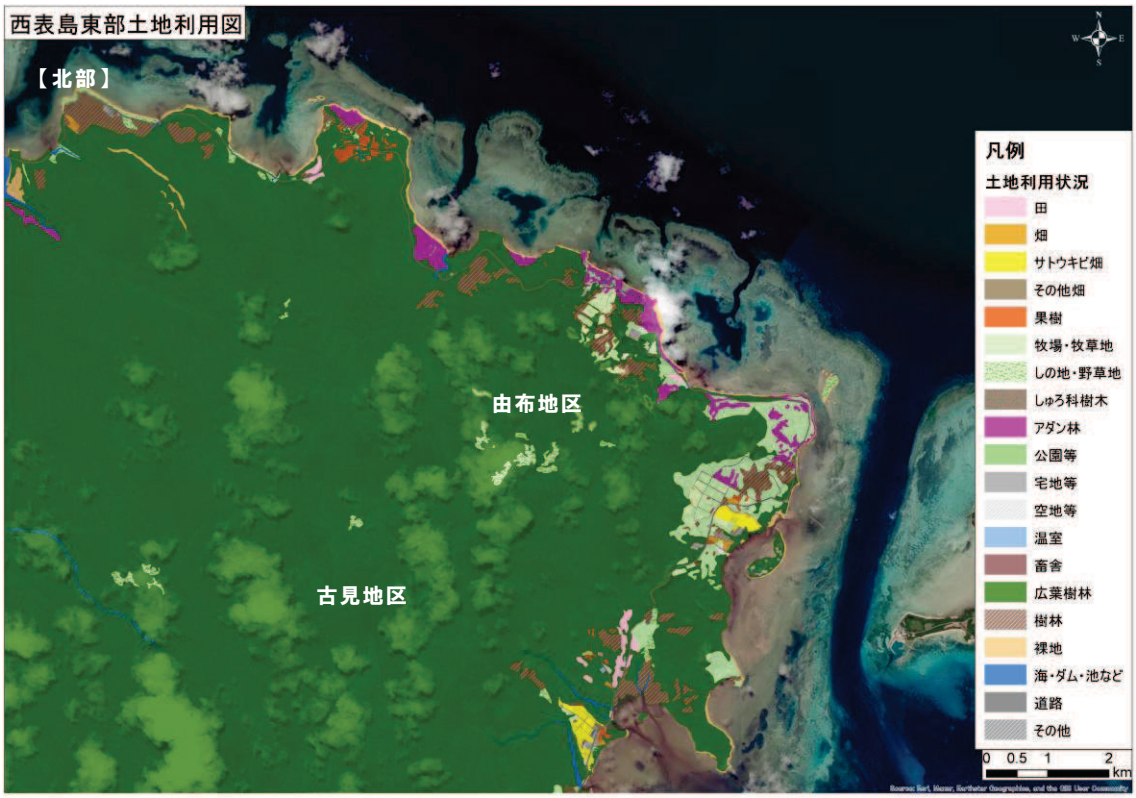
▸古見地区：西表東部に位置し、古見集落を中心に周辺は農用地に囲まれ、南端は前良川を境に北へ延びる197林班の境界線を範囲とし、古見岳の裾野に広がる農地が150haある。土壌は国頭マージと部分的に島尻マージが分布し、他地区に比べて土壌条件に恵まれ、さとうきびを中心に水稲の栽培が行われ、田、畑及び牧場として利用されている。地区内では16.6haが整備されている。

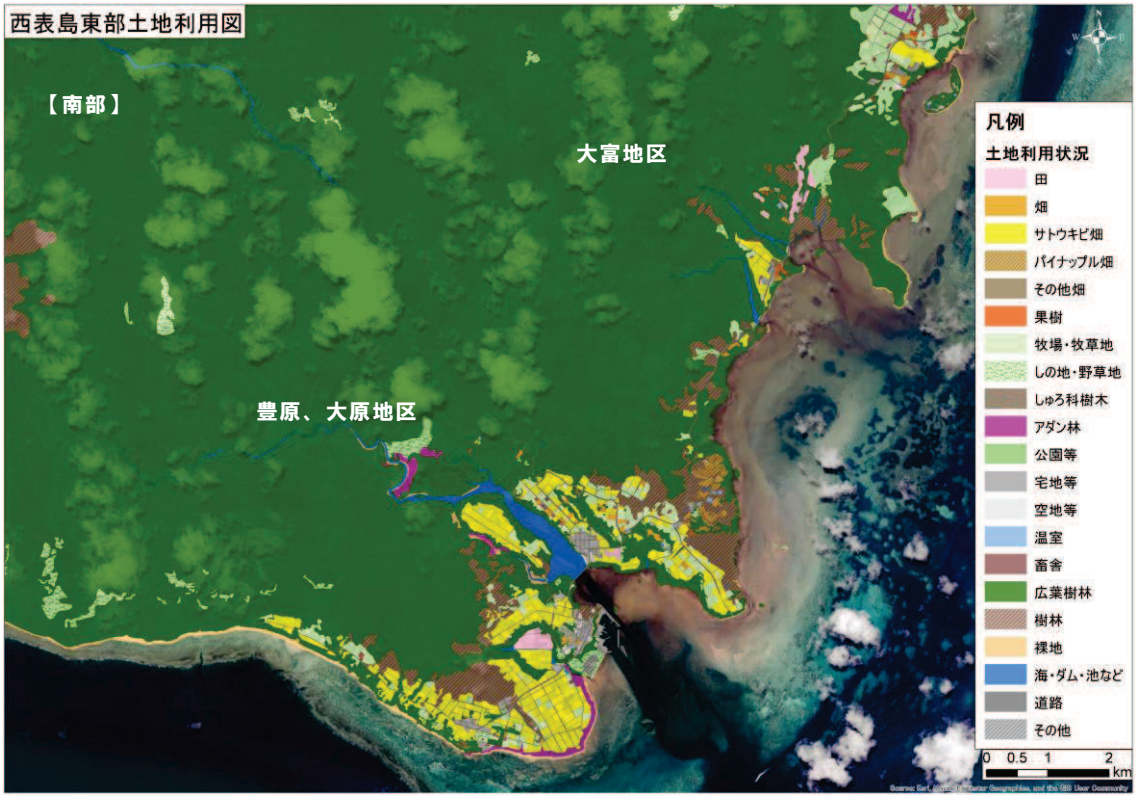
▸由布地区：西表の北東に位置し、美原集落を中心に北東より西へ伸びる北岸の伊武田崎より、浦内湾内のヤシ川までの区域で197林班と198林班の境界線より、北へ伸びる198林班内の範囲内に約300haの農地があり、畜産を中心に水稲、さとうきび、生食用パインアップル等が生産展開されている。本地区は一戸当たりの経営耕地面積が他地区と比較して大きい。

□含蜜糖生産地域にあり、含蜜糖工場が処理能力100t/日で操業している。

□島の東部には仲間川、サキシマスオウノキの群落、水牛車で渡る由布島等の観光資源がある。島のほとんどが西表石垣国立公園に指定されている森林地域となっており、東洋のガラパゴスとも呼ばれ、特別天然記念物の「イリオモテヤマネコ」が生息する島としても知られている。令和３(2021)年７月、

世界自然遺産に登録され、農業と豊かな自然環境を活用したエコ・ツーリズム等の観光業が急速に伸びている。





出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

【由布島】

□西表島に隣接する面積1.5 km²の水牛車観光で有名な島である。４万本近くのヤシ類を中心に亜熱帯の樹林や花々が多い茂っている。東海岸はビーチ、西側は西表島まで続く浅瀬にマングローブが茂る。

□海抜1.5mの小さな島で、島の土壌は砂質である。深さ1.5mを掘れば真水が湧き、それ以上掘ると海水が湧き出すため、農業を行うのは困難である。



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

(6) 西表島西部

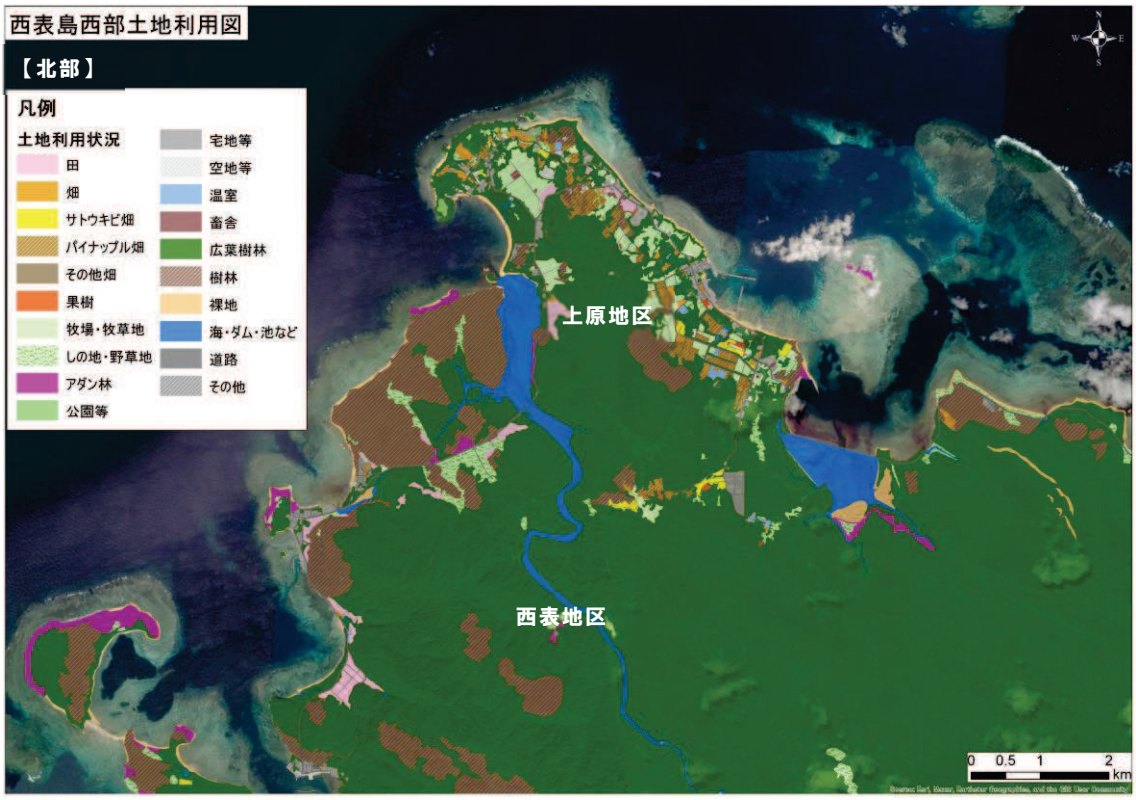
□西表島西部には、上原地区、西表地区、成屋地区がある。

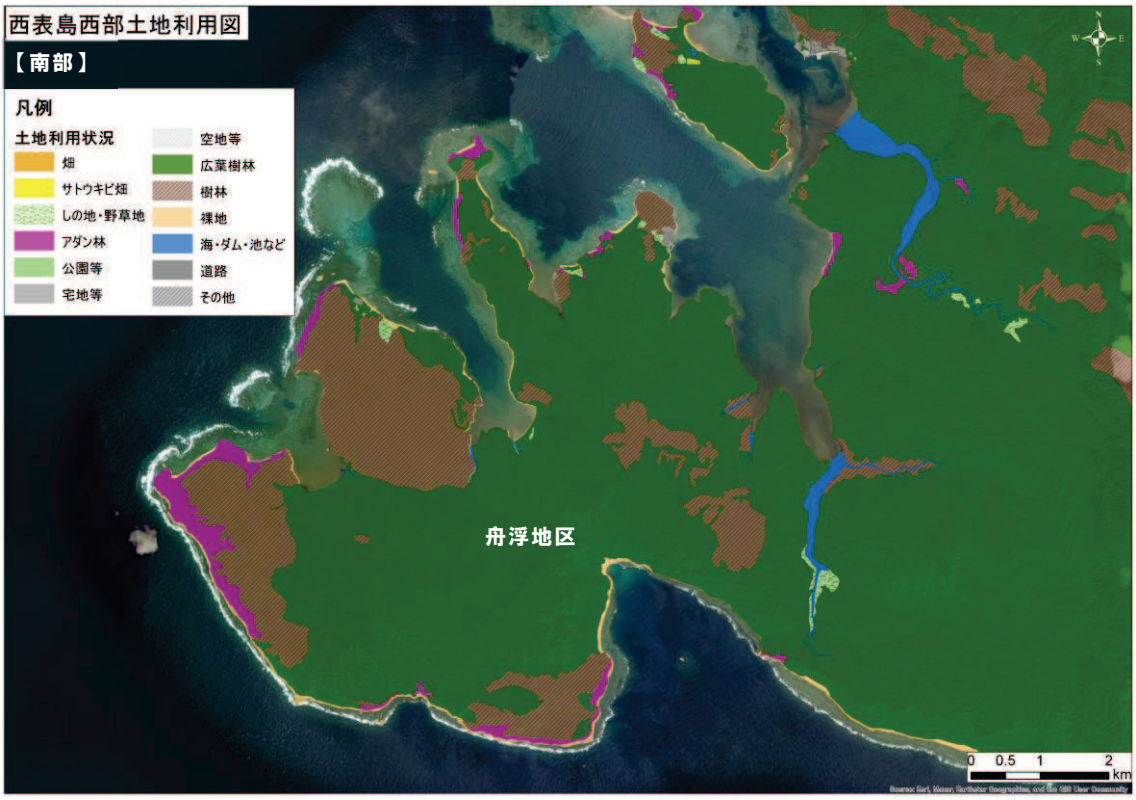
▸上原地区：西表島の北西端に位置し、上原港を拠点に船浦、上原、中野、住吉、浦内の各集落から構成され、浦内湾内のヤシ川を起点に北西に伸びる山岳地帯の裾野にあたる平地部分を含め浦内川までの範囲に、約373haの農用地がある。地形は、傾斜の部分が多く国頭マージの土壌を有し、現在は、生食用パインアップルを主体に熱帯果樹(マンゴー)肉用牛の生産が行われ、特に生食用パインアップルは、本町の主生産地である。

▸西表地区：西表島の西部にあたり、北は浦内川を起点に南に伸びる干立、祖納、白浜の各集落を含め、仲良川までの範囲に50haの農用地があり、大小様々な発達した河川水を利用した水田がほとんどである。またこれまで、団体営土地改良総合整備事業で総面積18.7haの水田が整備された。

▸成屋地区：船浮湾の両岸にある船浮部落、サバ崎半島、内離島、外離島の範囲にあり約180haの農用地がある。内離島、外離島は、かつて採草放牧地として農業的土地利用がなされていたが、現在では遊休化し、原野化している。

□島のほとんどが西表石垣国立公園に指定されている森林地域となっており、東洋のガラパゴスとも呼ばれ、特別天然記念物の「イリオモテヤマネコ」が生息する島としても知られている。令和３(2021)年７月、世界自然遺産に登録され、農業と豊かな自然環境を活用したエコ・ツーリズム等の観光業が急速に伸びている。島の西部には沖縄県最大の落差を誇るピナイサーラの滝、沖縄県最長の浦内川、その上流のマリユドゥ、カンピレーの滝がある。





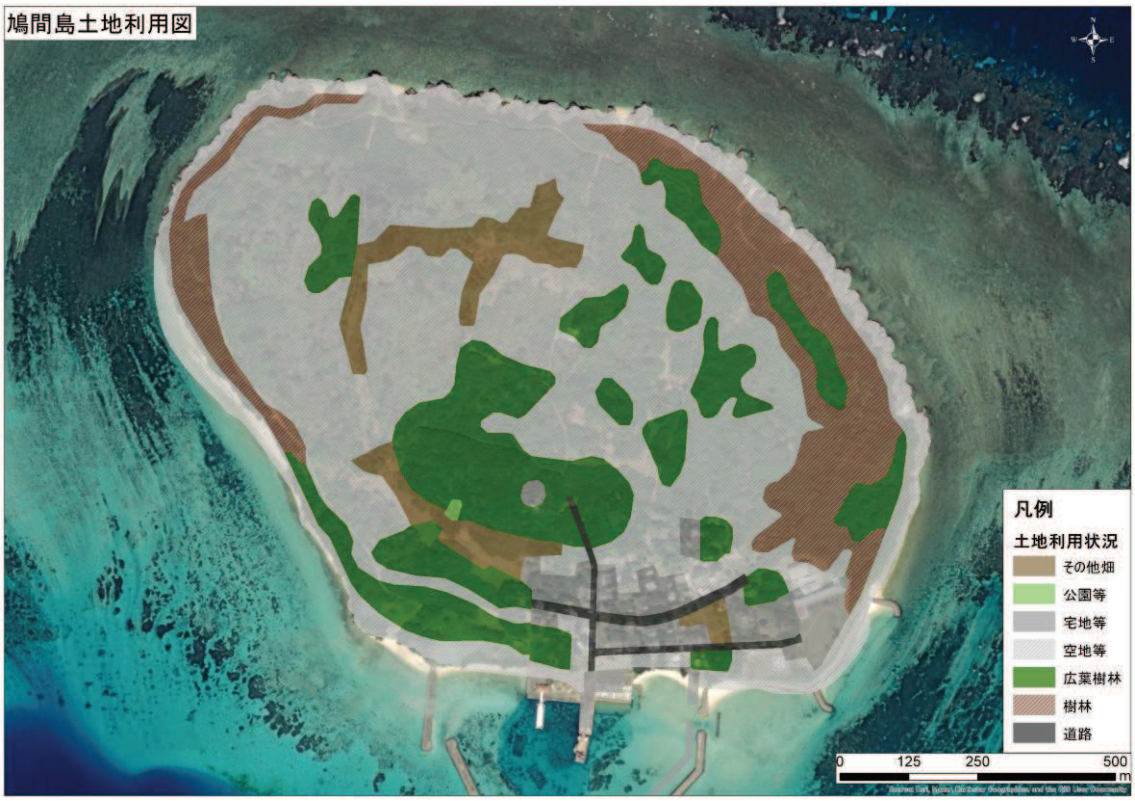
出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

（7）鳩間島

□鳩間島は、西表島の北方約４kmの地点に位置し、周囲4.26km、面積96haの小島で全島隆起珊瑚礁からなり、約２haの農地がある。

□本地区の農業は、狭小な農地と耕土深の浅い畑は、農業生産条件として不利であり、小規模ながら野菜と肉用牛の生産が行われ、その他の農地は遊休化している。

□文化財として、国指定史跡の鳩間中森(先島諸島火番盛のひとつ)があり、八重山を代表する「鳩間節」の発祥の地である。



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

（8）波照間島

□波照間島は、有人島としては日本最南端、石垣島の南西約42kmにあって本町の南端に位置し、面積1,273ha、海抜60m、周囲14.80kmで全体が平坦で、約712haの農用地がある。

□土壌は、隆起した珊瑚礁からなる島尻マージの土壌が多くを占め耕土が浅く、保水力に乏しいため干ばつの影響をもろに受けやすい。

□現在は、さとうきびを主体に肉用牛、もちきびの生産が行われ、基盤整備も積極的に進められ、団体営土地改良総合整備事業で総面積112.9ha、県営畑地帯総合土地改良事業で総面積438.9haが整備され、畜産においては畜産担い手育成総合整備事業が実施された。

□含蜜糖生産地域にあり、含蜜糖工場が処理能力120t/日で操業している。

□文化財として、国指定史跡の下田原城跡及びコート盛(先島諸島火番盛のひとつ)がある。

□地域資源として、波照間島には町内唯一の空港(令和６(2024)年より特定日に運航)や伝統的な集落景観、北浜(ニシハマ)等がある。



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

６．農業構造

6.1 農家戸数

□沖縄県及び八重山圏域の農家戸数は平成12(2000)年より減少傾向が続いている中で、本町の農家戸数も平成12(2000)年以降大きく減少しており、令和２(2020)年では145戸(平成12(2000)年より65％減)となっている。沖縄県及び八重山圏域の農家戸数は平成12年より減少が続いている(沖縄県46％減、八重山圏域57％減)ことと比較し、本町の農家戸数の減少率は高く、中でも準主業的農家の減少率が高いことが特徴的である。(本町の準業的農家数　平成12(2000)年：77戸→令和２(2020)年：８戸、90％減)

□沖縄県及び八重山圏域の農家率は、令和２(2020)年では沖縄県は２％、八重山圏域は３％(石垣市３％、与那国町14％)であるのに対して、本町の令和２(2020)年の農家率は７％であり、平成12(2000)年から減少傾向ではあるが沖縄県内では高い農家率であり、本町の農業は主産業の１つになっているといえる。

□主業農家率は、令和２(2020)年では沖縄県は33％、八重山圏域は40％(石垣市40％、与那国町17％)であるのに対して、本町の主業農家率は57％であり、沖縄県内でも主業農家率が高い地域であるといえる。

農家数の推移

単位：戸

	竹富町				
	H12	H17	H22	H27	R2
世帯数	1,694	2,137	2,000	2,122	2,093
農家数	420	342	292	214	145
主業農家	182	166	158	123	83
準主業農家	77	48	41	27	8
副業的農家	161	128	93	64	54
農家率	25%	16%	15%	10%	7%

単位：戸

	八重山圏域計				
	H12	H17	H22	H27	R2
世帯数	18,265	20,737	21,925	23,716	24,886
農家数	1,932	1,741	1,426	1,172	834
主業農家	859	667	558	471	332
準主業農家	474	399	334	226	100
副業的農家	599	675	534	475	402
農家率	11%	8%	7%	5%	3%

単位：戸

	石垣市				
	H12	H17	H22	H27	R2
世帯数	15,853	17,798	19,212	20,514	22,033
農家数	1,360	1,255	965	782	586
主業農家	645	472	361	303	232
準主業農家	342	282	219	135	64
副業的農家	373	501	385	344	290
農家率	9%	7%	5%	4%	3%

単位：戸

	沖縄県				
	H12	H17	H22	H27	R2
世帯数	446,286	488,368	520,191	560,424	612,749
農家数	20,088	17,153	15,123	14,241	10,875
主業農家	7,640	6,184	5,747	4,966	3,621
準主業農家	4,528	3,384	3,123	2,605	1,347
副業的農家	7,920	7,585	6,253	6,670	5,907
農家率	5%	4%	3%	3%	2%

農家数　　単位：戸

	与那国町				
	H12	H17	H22	H27	R2
世帯数	718	802	713	1,080	760
農家数	152	144	169	176	103
主業農家	32	29	39	45	17
準主業農家	55	69	74	64	28
副業的農家	65	46	56	67	58
農家率	21%	18%	24%	16%	14%

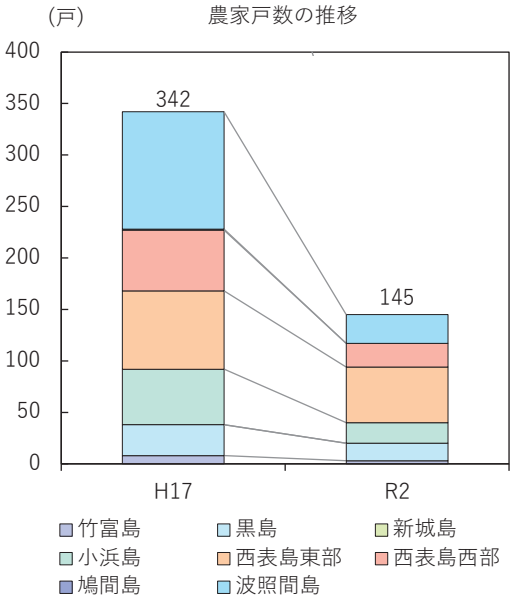
出典：離島関係資料(H11.1、H21.1、R2.3、R4.3)
　　農林業センサス

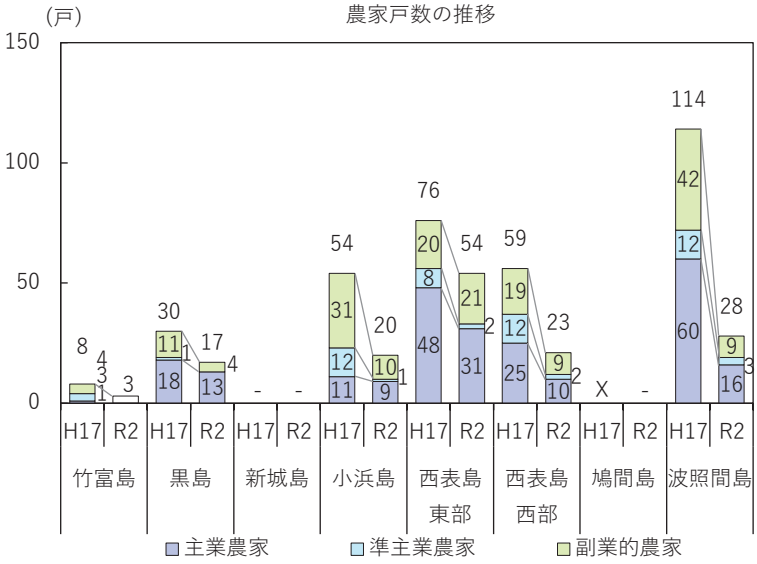
【各島の状況】

□平成17(2005)年から令和２(2020)年における農家数の推移は、黒島、小浜島、西表島西部は半減、波照間島は大幅に減少している。また、新城島、鳩間島に農家はいない。竹富島は個人情報保護の観点から秘匿となっている。

□黒島、西表島東部、波照間島は、副業的農家数より主業農家数が多い。

島別の農家数の推移





島別の農家数

島名	H17				R２			
	農家数（戸）				農家数（戸）			
		主業農家	準主業農家	副業的農家		主業農家	準主業農家	副業的農家
竹富島	8	1	3	4	3	x	x	x
黒島	30	18	1	11	17	13	-	4
新城島	-	-	-	-	-	-	-	-
小浜島	54	11	12	31	20	9	1	10
西表島東部	76	48	8	20	54	31	2	21
西表島西部	59	25	12	19	23	10	2	9
鳩間島	1	x	x	x	-	-	-	-
波照間島	114	60	12	42	28	16	3	9
計	342	166	48	128	145	83	8	54

出典：農林業センサス
注　：「西表島東部」は、字南風見、字南風見仲、字古見、字高那の合計値、「西表島西部」は、字上原、字西表、字崎山の合計値である。
注　：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。
注　：秘匿があるため各項目の合計と計が一致しないことがある。

6.2 農家人口

□沖縄県の令和２(2020)年の農家人口は26,129人で、平成12(2000)年との比較では44,173人(63%)減少している。八重山圏域では令和２(2020)年の農家人口は1,995人で、平成12(2000)年との比較では4,362人(69%)減少している。八重山圏域内の石垣市が69%減、与那国町が51%減であるのに対して本町は73%減であり、近年では沖縄県においては農家人口が急激に減少しており、中でも本町は農家人口の減少率が高い地域となっている。

□年齢別農家世帯員数を見ると、沖縄県及び八重山圏域では、与那国町を除いて全ての年齢層で平成12(2000)年から令和２(2020)年にかけて大きく減少している。本町の令和２(2020)年の年齢別農家世帯員数の割合は、14歳以下の少年人口が10%、15～64歳の生産年齢人口が52%、65歳以上の老齢人口が38%となっており、平成12(2000)年と比べると、15～29歳の人口減少が顕著である。

年齢別農家世帯員数の推移

単位：人

	竹富町				
	H12	H17	H22	H27	R2
総数	1,206	953	755	519	325
14歳以下	170	133	92	68	34
15～29	81	89	47	22	13
30～64	512	396	357	253	155
65歳以上	443	335	259	176	123

単位：人

	八重山圏域計				
	H12	H17	H22	H27	R2
総数	6,357	5,261	4,148	3,062	1,995
14歳以下	776	629	431	289	188
15～29	859	571	410	253	117
30～64	2,895	2,313	1,914	1,444	833
65歳以上	1,827	1,748	1,393	1,076	857

単位：人

	石垣市				
	H12	H17	H22	H27	R2
総数	4,606	3,846	2,898	2,082	1,405
14歳以下	475	391	246	154	105
15～29	717	444	330	198	90
30～64	2,132	1,691	1,292	940	556
65歳以上	1,282	1,320	1,030	790	654

単位：人

	沖縄県				
	H12	H17	H22	H27	R2
総数	70,302	54,927	45,104	37,642	26,129
14歳以下	7,764	5,085	3,698	2,306	1,597
15～29	10,426	6,862	4,775	3,337	1,681
30～64	30,696	23,306	19,778	17,443	10,687
65歳以上	21,416	19,674	16,853	14,556	12,164

単位：人

	与那国町				
	H12	H17	H22	H27	R2
総数	545	462	495	461	265
14歳以下	131	105	93	67	49
15～29	61	38	33	33	14
30～64	251	226	265	251	122
65歳以上	102	93	104	110	80

単位：人

	竹富町			石垣市			与那国町		
	H12	R2	増減率	H12	R2	増減率	H12	R2	増減率
総数	1,206	325	-73%	4,606	1,405	-69%	545	265	-51%
14歳以下	170	34	-80%	475	105	-78%	131	49	-63%
15～29	81	13	-84%	717	90	-87%	61	14	-77%
30～64	512	155	-70%	2,132	556	-74%	251	122	-51%
65歳以上	443	123	-72%	1,282	654	-49%	102	80	-22%

単位：人

	八重山圏域計			沖縄県		
	H12	R2	増減率	H12	R2	増減率
総数	6,357	1,995	-69%	70,302	26,129	-63%
14歳以下	776	188	-76%	7,764	1,597	-79%
15～29	859	117	-86%	10,426	1,681	-84%
30～64	2,895	833	-71%	30,696	10,687	-65%
65歳以上	1,827	857	-53%	21,416	12,164	-43%

出典：農業関係統計(R4.3)

6.3 経営規模別農家数

□令和２(2020)年の販売農家数に占める経営耕地面積規模別農家数の割合をみると、2.0ha以上の販売農家割合は、沖縄県は26%、八重山圏域は59%、本町は83%、石垣市は56%、与那国町は43%である。一方、0.3ha未満の販売農家数では沖縄県は10%、八重山圏域は３%、本町は１%、石垣市は３%、与那国町は11%であり、0.3～2.0haの販売農家数では沖縄県は65%、八重山圏域は38%、本町は17%、石垣市は42%、与那国町は46%となっている。

□県内でも八重山圏域は大規模農家の割合が多い地域である中で、本町は石垣市・与那国町と比較しても経営規模が大きい地域といえる。

経営耕地面積規模別農家数の推移

単位：戸

項目	竹富町				
	H12	H17	H22	H27	R2
販売農家数	420	341	293	220	151
0.3ha未満	1	6	2	6	1
0.3～0.5ha	24	10	9	3	1
0.5～1.0ha	39	40	18	12	11
1.0ha～1.5ha	41	30	28	16	4
1.5ha～2.0ha	33	22	18	16	9
2.0ha以上	282	233	218	167	125

単位：戸

項目	八重山圏域計				
	H12	H17	H22	H27	R2
販売農家数	1,932	1,746	1,439	1,238	886
0.3ha未満	9	30	30	29	24
0.3～0.5ha	127	109	97	76	42
0.5～1.0ha	273	288	196	178	115
1.0ha～1.5ha	251	224	180	135	98
1.5ha～2.0ha	215	180	138	115	84
2.0ha以上	1,057	915	798	705	523

単位：戸

項目	石垣市				
	H12	H17	H22	H27	R2
販売農家数	1,360	1,258	968	834	627
0.3ha未満	6	15	12	12	11
0.3～0.5ha	76	80	50	34	25
0.5～1.0ha	207	231	156	129	92
1.0ha～1.5ha	192	173	122	103	82
1.5ha～2.0ha	175	142	108	86	65
2.0ha以上	704	617	520	470	352

単位：戸

項目	沖縄県				
	H12	H17	H22	H27	R2
販売農家数	20,088	17,742	15,522	15,029	11,310
0.3ha未満	996	1,489	1,044	1,036	1,107
0.3～0.5ha	4,272	3,472	2,867	2,682	1,778
0.5～1.0ha	6,137	5,114	4,315	4,199	2,828
1.0ha～1.5ha	2,823	2,451	2,340	2,201	1,685
1.5ha～2.0ha	1,737	1,475	1,304	1,364	1,027
2.0ha以上	4,123	3,741	3,652	3,547	2,885

単位：戸

項目	与那国町				
	H12	H17	H22	H27	R2
販売農家数	152	147	178	184	108
0.3ha未満	2	9	16	11	12
0.3～0.5ha	27	19	38	39	16
0.5～1.0ha	27	17	22	37	12
1.0ha～1.5ha	18	21	30	16	12
1.5ha～2.0ha	7	16	12	13	10
2.0ha以上	71	65	60	68	46

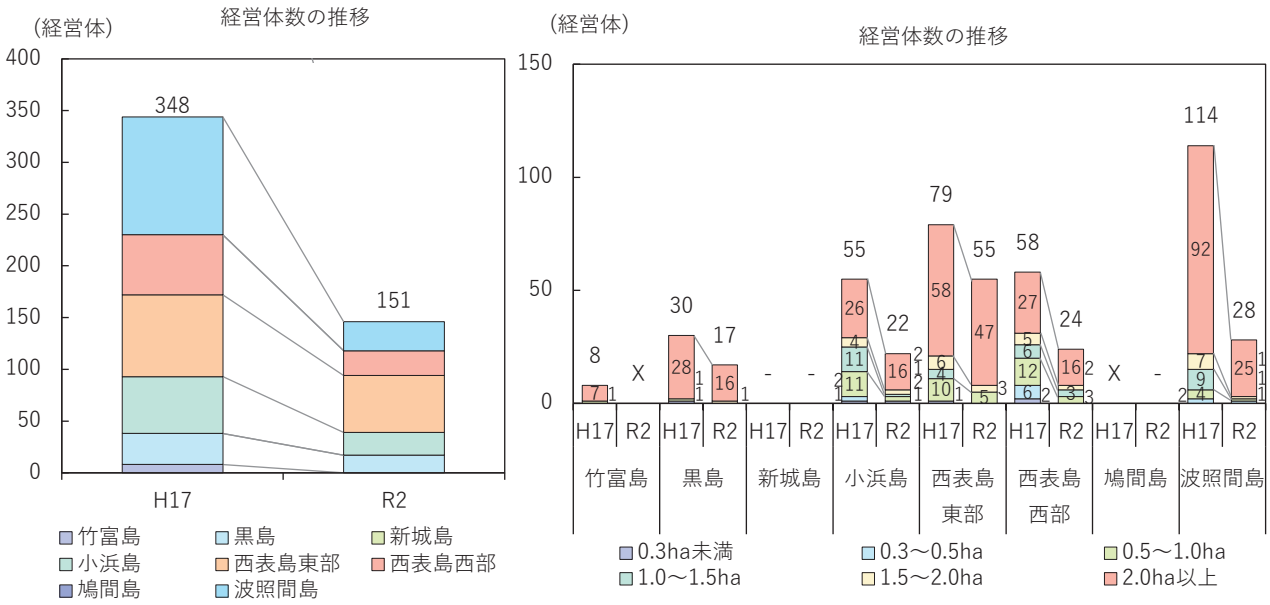
出典：農業関係統計(H15.9、H18.8、H23.3、H29.3、R4.3)

【各島の状況】

□経営規模別経営体数は、各島ともに2.0ha以上の経営体数が多い(新城島、鳩間島除く)。

□さとうきび生産が主体である小浜島、西表島東部、波照間島は、他の島と比べると0.5ha～2.0haの経営体数が多い。

島別の経営規模別経営体数の推移



島別の経営規模別経営体数

	H17（経営体）							R2（経営体）						
	計	0.3ha未満	0.3～0.5ha	0.5～1.0ha	1.0～1.5ha	1.5～2.0ha	2.0ha以上	計	0.3ha未満	0.3～0.5ha	0.5～1.0ha	1.0～1.5ha	1.5～2.0ha	2.0ha以上
竹富島	8	0	-	1	-	-	7	x	x	x	x	x	x	x
黒島	30	1	-	1	-	-	28	17	-	-	-	-	1	16
新城島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小浜島	55	1	2	11	11	4	26	22	1	-	2	1	2	16
西表島東部	79	1	-	10	4	6	58	55	-	-	5	-	3	47
西表島西部	58	2	6	12	6	5	27	24	-	-	3	3	2	16
鳩間島	x	x	x	x	x	x	x	-	-	-	-	-	-	-
波照間島	114	0	2	4	9	7	92	28	-	1	1	-	1	25
計	348	6	10	40	30	22	240	151	1	1	11	4	9	125

出典：農林業センサス

注　：「西表島東部」は、豊原、大原、大富、古見、美原の合計値、「西表島西部」は、上原、祖納、白浜、舟浮、船浦、中野、住吉、干立の合計値である。

注　：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。

注　：秘匿があるため各項目の合計と計が一致しないことがある。

6.4 農地流動化の現状

□令和２(2020)年における戸当たり借入農地面積は、沖縄県は129a、八重山圏域は266a、本町は267a、石垣市は263a、与那国町は276aである。八重山圏域は沖縄県内でも借入農地面積の大きい地域といえる。本町の借入農家数は平成12(2000)年以降減少傾向にある一方で、借入面積は平成27(2015)年までは増減を繰り返していたが、令和２(2020)年では大きく減少に転じている。

□令和２(2020)年における戸当たり貸付面積は、沖縄県は70a、八重山圏域は151a、本町は169a、石垣市は124a、与那国町は193aである。八重山圏域は沖縄県内でも貸付農地面積の大きい地域といえる。本町の貸付農家数及び貸付面積は、平成12(2000)年以降は令和２(2020)年まで減少傾向が続いている。

□以上から、令和２(2020)年では借入・貸付の面積は減少しているが、本町は比較的まとまった農地の貸借が行われている地域であるといえる。

借入・貸付耕地のある農家数及び面積の推移

単位：戸、a

項　目			H12	H17	H22	H27	R2
竹富町	借入地	農家数	266	243	206	140	93
		面積	61,651	59,752	63,482	50,929	24,800
		戸当たり面積	232	246	308	364	267
	貸付地	農家数	129	71	58	25	16
		面積	13,373	6,419	6,489	3,011	2,700
		戸当たり面積	104	90	112	120	169
石垣市	借入地	農家数	534	507	433	395	241
		面積	86,494	86,704	80,702	83,163	63,500
		戸当たり面積	162	171	186	211	263
	貸付地	農家数	229	275	162	112	55
		面積	26,848	30,634	17,721	13,717	6,800
		戸当たり面積	117	111	109	122	124
与那国町	借入地	農家数	94	102	121	131	66
		面積	26,014	35,640	36,900	36,868	18,200
		戸当たり面積	277	349	305	281	276
	貸付地	農家数	38	33	58	58	29
		面積	6,676	9,719	9,221	10,782	5,600
		戸当たり面積	176	295	159	186	193
八重山圏域計	借入地	農家数	894	852	760	666	400
		面積	174,159	182,096	181,084	170,960	106,500
		戸当たり面積	195	214	238	257	266
	貸付地	農家数	396	379	278	195	100
		面積	46,897	46,772	33,431	27,510	15,100
		戸当たり面積	118	123	120	141	151
沖縄県	借入地	農家数	10,715	8,766	7,908	7,351	5,061
		面積	817,305	856,580	856,346	837,004	650,800
		戸当たり面積	76	98	108	114	129
	貸付地	農家数	4,225	2,496	2,054	1,754	1,212
		面積	215,466	154,136	134,658	113,115	84,900
		戸当たり面積	51	62	66	64	70

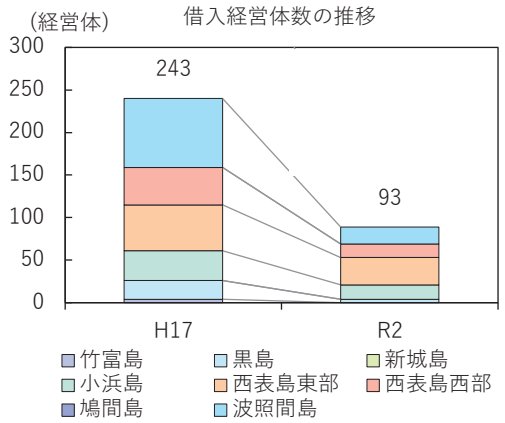
出典：第30次沖縄農林水産統計年報、
農林業センサス

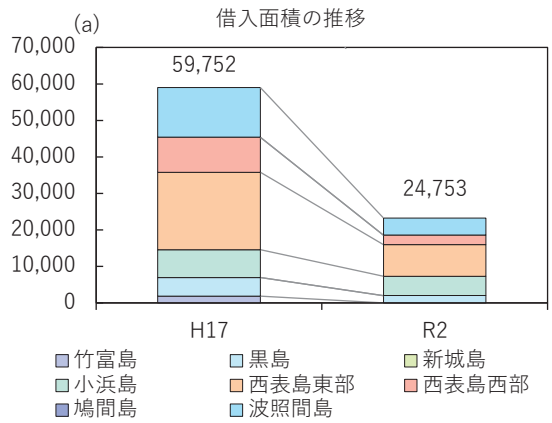
【各島の状況】

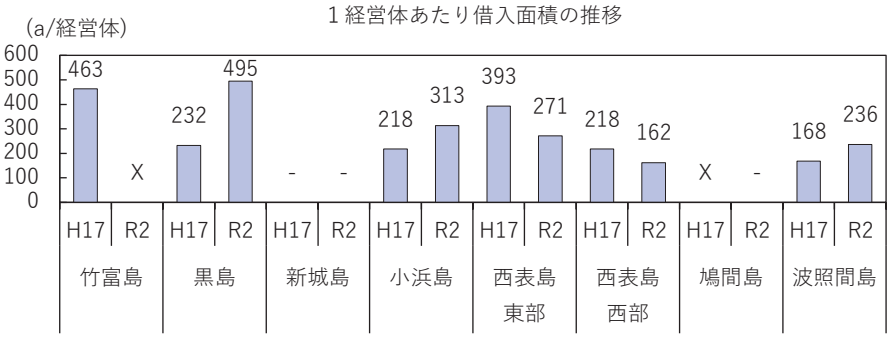
□平成17(2005)年から令和２(2020)年における１経営体当たりの借入面積は、黒島、小浜島、波照間島で増加している。

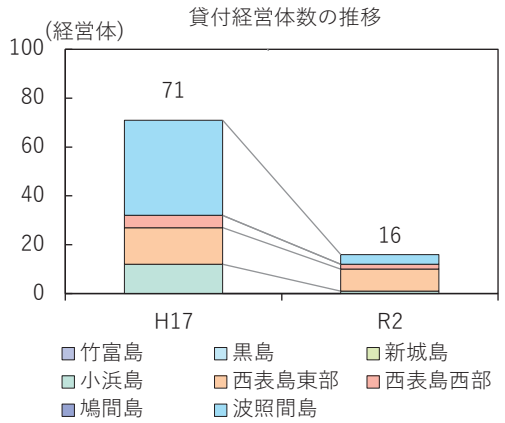
□同期間における１経営体当たりの貸付面積は、西表島東部、波照間島で増加しており、集約が進んでいる

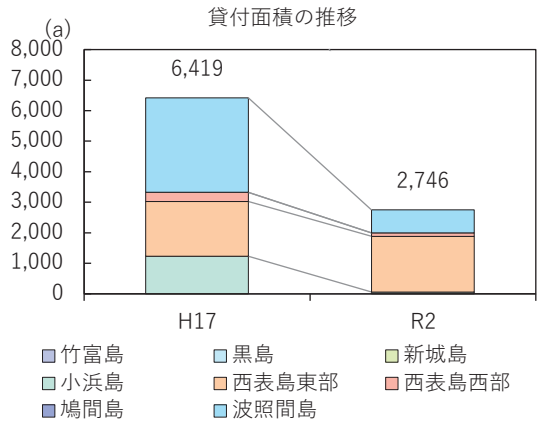
島別の借入・貸付耕地のある農家数及び面積の推移

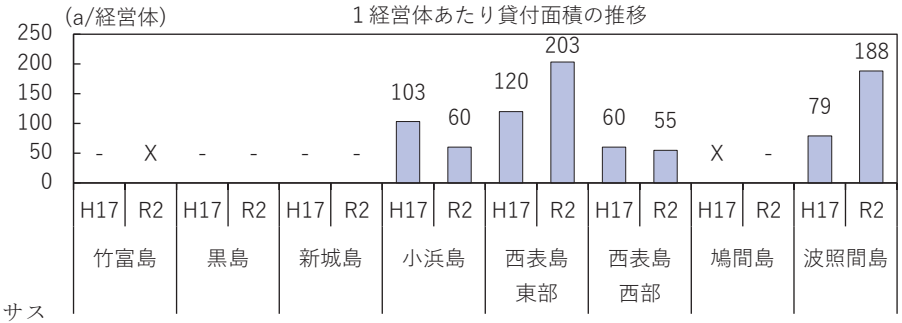












出典：農林業センサス

注　：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。

6.5 認定農業者数の推移

□令和２(2020)年の認定農業者数を平成28(2016)年と比較すると、沖縄県は13%減少、八重山圏域は22%減少、本町は39%減少、石垣市は10%減少、与那国町は67%減少しており、近年の八重山圏域の認定農業者数の減少率は沖縄県内でも高く、八重山圏域の中でも特に本町と与那国町の減少率は高い状況といえる。

□新規認定の農業者数も、沖縄県及び八重山圏域では平成28(2016)年以降は増加傾向がみられる。本町の新規認定農業者は令和元年に大幅に増加したが、令和２(2020)年では減少している。

認定農業者数の推移

	竹富町			石垣市			与那国町		
	実数	新規認定	延べ数	実数	新規認定	延べ数	実数	新規認定	延べ数
H28	132	5	157	218	8	547	9		31
H29	110	3	160	242	16	563	6	1	32
H30	71	4	164	220	15	578	5		32
R1	84	20	184	180	23	601	5	1	33
R2	80	6	190	197	19	620	3	1	34

	八重山圏域計			沖縄県		
	実数	新規認定	延べ数	実数	新規認定	延べ数
H28	359	13	735	1,465	95	3,721
H29	358	20	755	1,431	106	3,827
H30	296	19	774	1,319	114	3,941
R1	269	44	818	1,268	148	4,089
R2	280	26	844	1,278	108	4,197

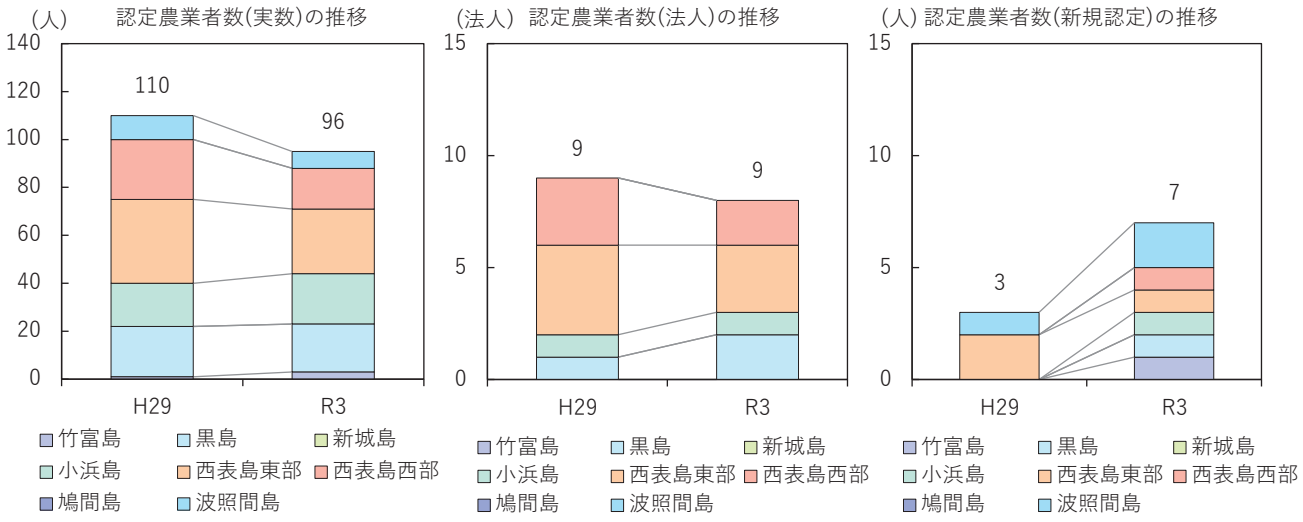
出典：沖縄県農林水産部農政経済課資料

【各島の状況】

□令和３(2021)年の認定農業者数は平成29(2017)年と比較すると、西表島東部、西表島西部ともに他の島に比べて大きく減少している。

□同期間における新規認定は、西表島東部は減少したが、他の島は増加している。

島別の認定農業者数の推移



島別の認定農業者数　　単位：人

	H29				R3			
	実数	法人	新規認定	延べ数	実数	法人	新規認定	延べ数
竹富島	1	-	-	2	3	-	1	3
黒島	21	1	-	37	20	2	1	44
新城島	-	-	-	-	-	-	-	-
小浜島	18	1	-	21	21	1	1	26
西表島東部	35	4	2	47	27	3	1	50
西表島西部	25	3	-	37	17	2	1	38
鳩間島	-	-	-	-	-	-	-	-
波照間島	10	-	1	16	7	-	2	20
計	110	9	3	160	96	9	7	182

出典：竹富町役場
注　：「西表島東部」は、字南風見、字南風見仲、字古見の合計値、「西表島西部」は、字上原、字西表の合計値である。
注　：「－」は事実のないものを表す。
注　：字名不明を除いているため各項目の合計と計が一致しないことがある。

6.6 農業生産の概要

(1) 農業産出額

□沖縄県及び八重山圏域の農業産出額は、平成30(2018)年以降は減少を続けており、令和４(2022)年の沖縄県の農業産出額は890.0億円で、肉用牛が22％・工芸作物(さとうきび)が21％を占め、八重山圏域の農業産出額は104.6億円で肉用牛が66％・工芸作物(さとうきび)が14％を占めている。

□八重山圏域では本町と石垣市は肉用牛が農業生産の中心となっており、与那国町は肉用牛と工芸作物(さとうきび)が農業生産の中心になっている。

□本町の農業産出額は、平成30(2018)年以降減少傾向にあり、令和４(2022)年の農業産出額は15.3億円となっており、主な生産物は肉用牛が76％と大部分を占め、続いて工芸作物(さとうきび)が11％となっている。

農業産出額の推移

単位：1,000万円

		農業産出額合計	耕種								
			小計	米	麦類・雑穀・豆類	いも類	野菜	果実	花き	工芸作物	その他作物
竹富町	H30	275	107	6	0	1	9	16	x	65	x
	R1	186	36	5	0	0	7	6	0	16	x
	R2	162	39	6	0	0	5	6	0	20	x
	R3	168	38	6	0	0	5	6	0	21	1
	R4	153	36	5	0	0	5	7	0	17	1
石垣市	H30	1,135	342	32	X	7	66	53	10	157	x
	R1	982	269	26	0	12	42	51	x	110	x
	R2	876	281	27	0	10	37	52	x	131	x
	R3	895	268	25	0	9	34	50	x	135	x
	R4	839	260	22	0	12	36	65	x	110	x
与那国町	H30	34	32	1	-	0	5	1	-	25	0
	R1	71	39	1	0	-	9	1	-	28	x
	R2	65	39	0	0	-	7	1	-	31	x
	R3	66	38	0	0	-	7	1	-	30	0
	R4	54	30	0	0	-	7	1	-	21	0
八重山圏域計	H30	1,444	481	39	0	8	80	70	10	247	0
	R1	1,239	344	32	0	12	58	58	0	154	x
	R2	1,103	359	33	0	10	49	59	0	182	x
	R3	1,129	344	31	0	9	46	57	0	186	1
	R4	1,046	326	27	0	12	48	73	0	148	1
沖縄県	H30	9,880	5,390	60	10	130	1,580	600	880	2,050	x
	R1	9,770	5,180	50	0	110	1,460	600	930	1,920	x
	R2	9,100	5,120	50	10	90	1,270	600	740	2,250	x
	R3	9,220	5,010	50	0	90	1,190	530	780	2,320	50
	R4	8,900	4,770	40	0	110	1,270	610	830	1,850	50

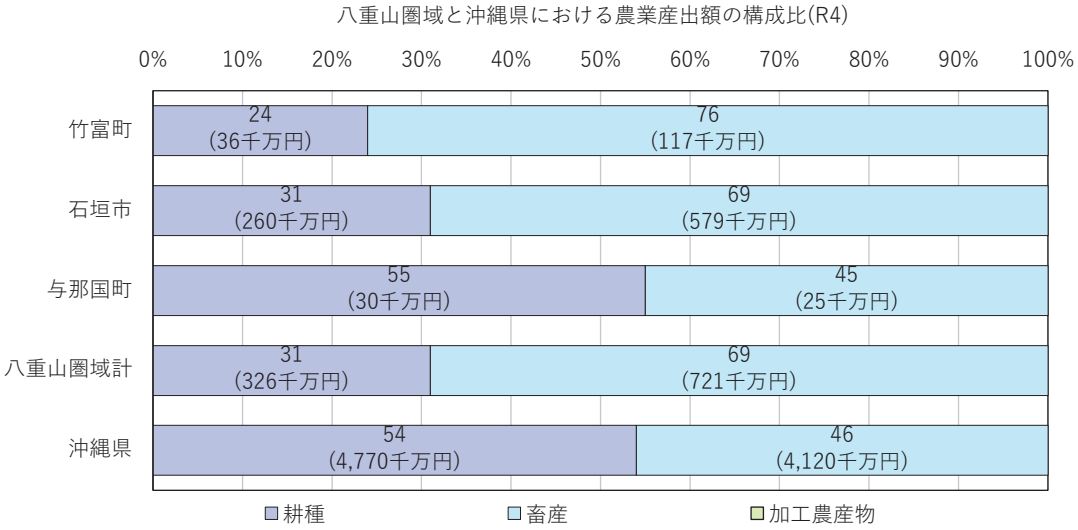
単位：1,000万円

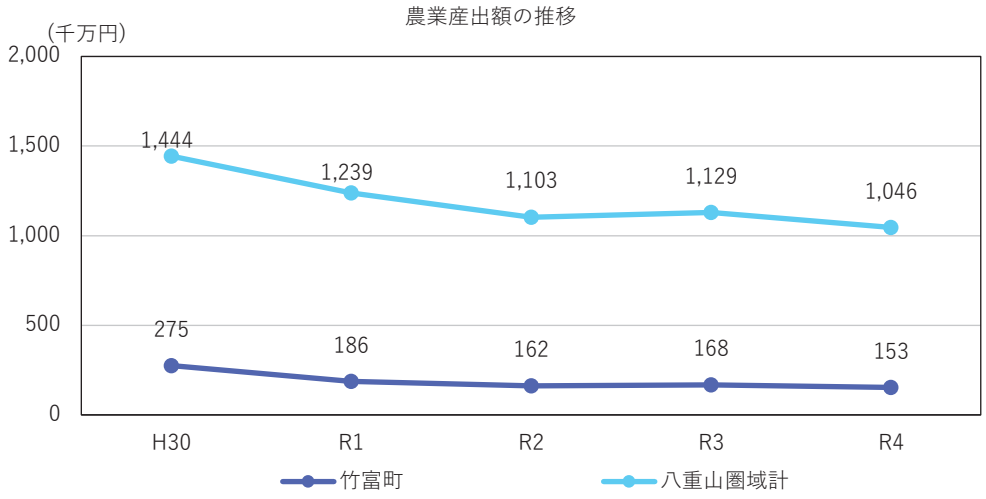
		畜産									加工農産物
		小計	肉用牛	乳用牛	生乳	豚	鶏	鶏卵	ブロイラー	その他畜産物	
竹富町	H30	167	159	8	8	-	0	x	-	0	0
	R1	149	149	-	-	-	-	-	-	-	0
	R2	123	123	-	-	-	-	-	-	-	0
	R3	130	130	-	-	-	-	-	-	-	0
	R4	117	117	-	-	-	-	-	-	-	0
石垣市	H30	792	708	52	50	20	11	11	-	1	0
	R1	713	677	12	12	24	0	0	-	0	0
	R2	594	561	12	12	21	0	0	-	0	0
	R3	626	592	12	12	21	0	0	-	0	0
	R4	579	545	12	12	22	0	0	-	0	0
与那国町	H30	2	1	-	-	x	0	x	-	x	1
	R1	31	31	-	-	0	0	0	-	0	0
	R2	26	26	-	-	0	0	0	-	0	0
	R3	27	27	-	-	0	0	0	-	0	0
	R4	25	24	-	-	0	0	0	-	0	0
八重山圏域計	H30	961	868	60	58	20	11	11	-	1	1
	R1	893	857	12	12	24	0	0	-	0	0
	R2	743	710	12	12	21	0	0	-	0	0
	R3	783	749	12	12	21	0	0	-	0	0
	R4	721	686	12	12	22	0	0	-	0	0
沖縄県	H30	4,490	2,230	360	350	1,320	550	410	140	30	0
	R1	4,590	2,390	350	340	1,320	500	360	140	30	0
	R2	3,970	1,980	360	350	1,150	460	320	140	30	0
	R3	4,200	2,090	360	360	1,140	580	440	140	30	10
	R4	4,120	1,920	340	340	1,200	630	480	150	20	10

資料：市町村別農業産出額、生産農業所得統計

注：「x」は秘匿、「－」は事実のないものを表す。

出典：市町村別農業産出額、生産農業所得統計





出典：市町村別農業産出額、生産農業所得統計

（2）耕地利用

□沖縄県及び八重山圏域では平成22(2010)年までは稲の作付面積が減少傾向を示していたが、平成27(2015)年は共に作付面積が増加に転じ、令和２(2020)年では再び減少となった。沖縄県及び八重山圏域の麦・雑穀・芋類及び工芸作物、野菜類の作付け面積は増減を繰り返している。花き類・花木の作付面積は、本町と石垣市の近年のデータが公表されていないため不明であるが、沖縄県全体では平成12(2000)年より減少を続けている。

□八重山圏域における主な耕地利用は工芸作物(さとうきび)と水稲であり、石垣市では約80％が工芸作物、与那国町では工芸作物が約70％となっているが、本町では約90％が工芸作物であり、耕地利用の多くを占めている。

□本町では平成17(2005)年に水稲の作付け面積が大きく減少しものの、平成22年には増加に転じている。工芸作物の作付け面積は平成17(2005)年に減少したものの、平成22(2010)年には大きく増加したが、平成27(2015)年には再び大きく減少に転じている。

作物の作付け状況の推移

単位：a

		稲	麦・雑穀・芋類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類・花木	その他作物
竹富町	H12	8,244	76	0	39,138	305	130	4,030
	H17	4,772	1,178	x	36,835	848	x	217
	H22	5,265	3,080	x	66,435	897	262	x
	H27	x	700	x	25,858	x	x	x
	R2	x	835	-	x	x	x	3,270
石垣市	H12	29,130	407	12	186,073	4,448	3,573	20,194
	H17	25,511	398	x	133,950	4,236	5,013	1,210
	H22	21,232	x	x	121,169	9,777	x	x
	H27	31,600	x	-	x	x	x	x
	R2	x	544	-	x	4,186	x	3,059
与那国町	H12	8,452	15	0	12,501	94	0	273
	H17	9,267	57	-	13,253	144	-	-
	H22	6,810	173	-	25,880	x	-	-
	H27	5,624	x	-	22,386	x	-	990
	R2	x	x	-	x	x	-	6,319
八重山圏域計	H12	45,826	498	12	237,712	4,847	3,703	24,497
	H17	39,550	1,633	x	184,038	5,227	5,013	1,427
	H22	33,307	3,253	x	213,484	10,674	262	x
	H27	37,224	700	x	48,244	x	x	990
	R2	x	1,379	-	x	4,186	x	12,648
沖縄県	H12	81,279	25,559	944	1,430,088	121,064	126,145	138,391
	H17	69,504	22,416	313	1,212,577	136,420	116,209	10,102
	H22	53,995	14,632	675	1,583,595	156,738	103,666	6,631
	H27	61,638	25,675	1,340	1,396,740	146,467	93,201	19,414
	R2	34,812	22,050	1,783	1,121,969	154,317	97,634	147,547

出典：離島関係資料(H14.1、H19.1、H24.1、H30.1)、
2020年農林業センサス

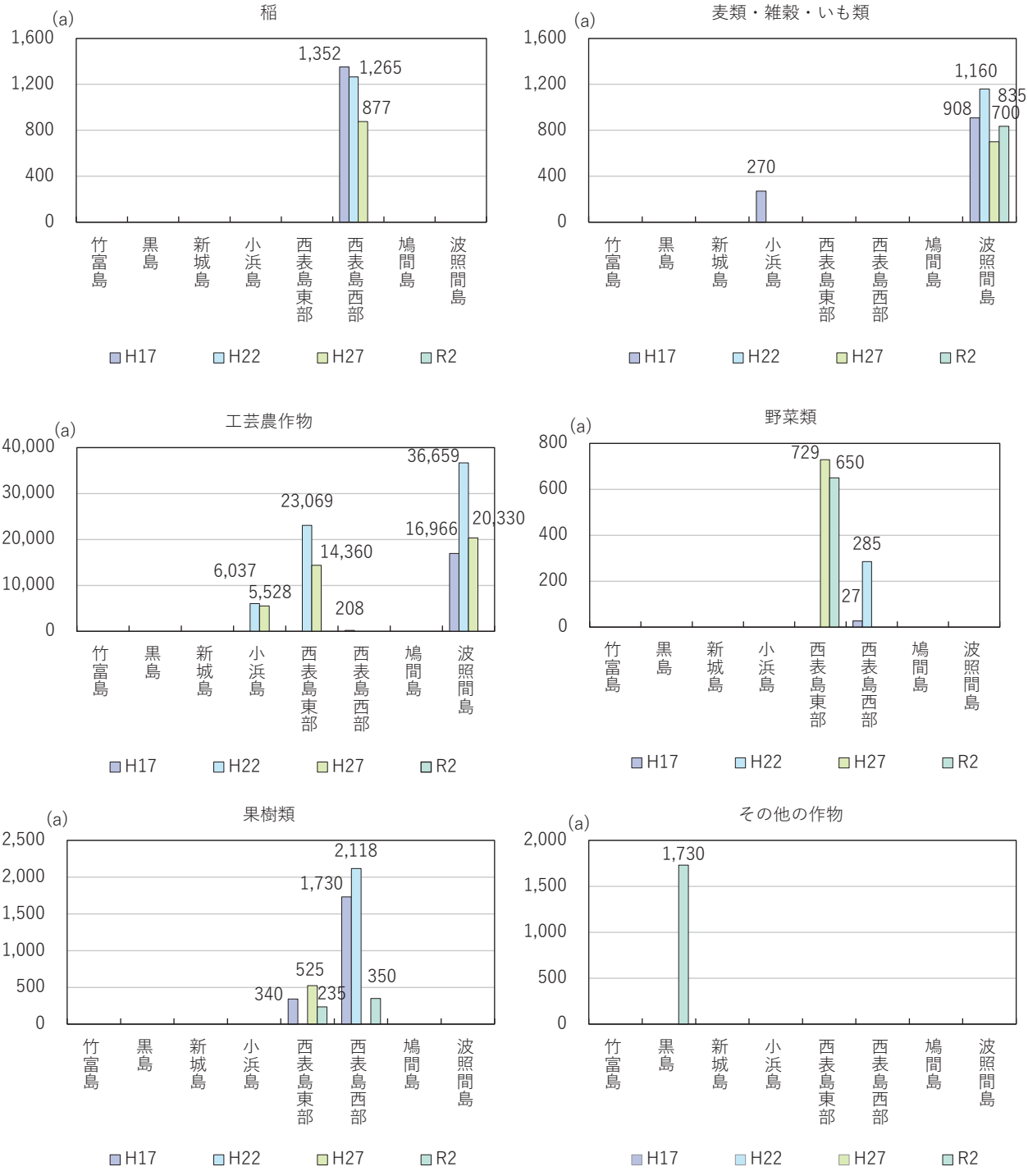
【各島の状況】

□工芸農作物(さとうきび)は西表島東部、波照間島に多いが、平成22(2010)年から平成27(2015)年で大きく減少している。

□波照間島では雑穀が作付されており、平成27(2015)年には減少したものの令和２(2020)年には増加に転じている。

□西表島は工芸農作物以外に、野菜類、果樹類、水稲など多種多様な作物が作付けされているが、作付面積は減少傾向にある。

島別の作付状況



出典：農林業センサス

（3）戸当たり耕地面積

□戸当たり耕地面積は、沖縄県では平成12(2000)年の1.1haから微増を続け、令和２(2020)年では1.3haとなっている。八重山圏域では3.0ha前後を推移しており、令和２(2020)年では3.2haとなっている。石垣市は2.5～2.8haを推移していたが、平成22(2010)年以降増加が続き、令和２(2020)年では3.2haとなっている。与那国町は平成17(2005)年では3.5haであったが以降は徐々に減少しており、令和２(2020)年では2.5haと平成17(2005)年から1.0ha程度減少している。一方、本町は平成12(2000)年以降から令和２(2020)年まで4.0ha前後で増減を繰り返している。

□令和２(2020)年における本町の戸当たり面積は、沖縄県の平均戸当たり面積を2.7ha上回っており、八重山圏域全体と比較しても0.8ha大きい。本町は沖縄県及び八重山圏域の中でみても１戸当たりの耕地面積規模が大きい地域といえる。

戸当たり耕地面積の推移

単位：戸、ha

項目		H12	H17	H22	H27	R2
竹富町	農家数(総農家)	449	385	331	241	164
	経営耕地面積	1,816	1,400	1,452	1,144	655
	戸当たり面積	4.0	3.6	4.4	4.7	4.0
石垣市	農家数(総農家)	1,436	1,328	1,038	823	620
	経営耕地面積	3,993	3,300	2,949	2,531	1,982
	戸当たり面積	2.8	2.5	2.8	3.1	3.2
与那国町	農家数(総農家)	164	157	180	185	115
	経営耕地面積	533	551	515	493	284
	戸当たり面積	3.3	3.5	2.9	2.7	2.5
八重山圏域計	農家数(総農家)	2,049	1,870	1,549	1,249	899
	経営耕地面積	6,342	5,251	4,916	4,168	2,921
	戸当たり面積	3.1	2.8	3.2	3.3	3.2
沖縄県	農家数(総農家)	27,088	24,014	21,547	20,056	14,747
	経営耕地面積	30,323	26,517	25,414	23,707	18,493
	戸当たり面積	1.1	1.1	1.2	1.2	1.3

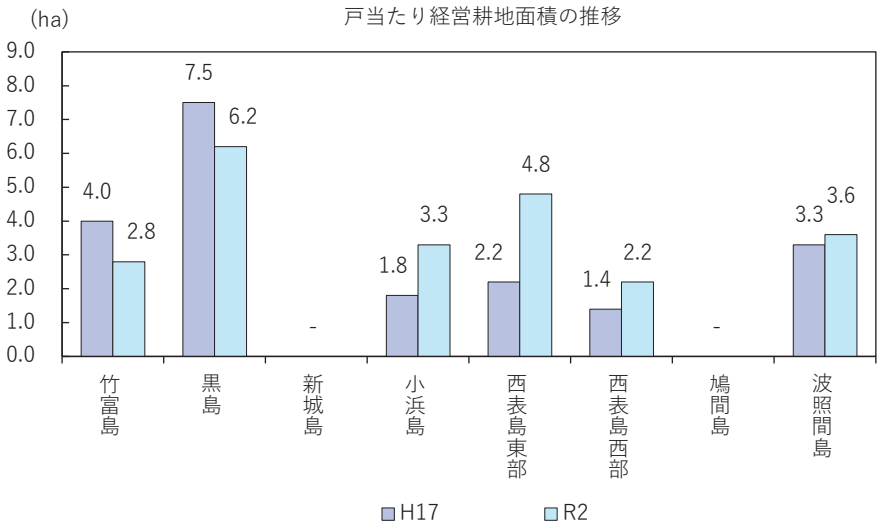
出典：農業関係統計(R4.3)、2020年農林業センサス

【各島の状況】

□１戸あたりの面積が最も大きいのは黒島である。黒島は畜産が主体であり、採草放牧地であり、他の島は、さとうきびの生産が主体で、３～５haであった。

□平成17(2005)年から令和２(2020)年における１戸当たりの経営耕地面積は、他の島と比較して西表島東部が拡大しており、竹富島や黒島は縮小している。

島別の戸当たり経営耕地面積の推移



島別の戸当たり経営耕地面積

島名	H17			R2		
	総農家数（戸）	経営耕地面積（ha）	戸当たり面積（ha/戸）	総農家数（戸）	経営耕地面積（ha）	戸当たり面積（ha/戸）
竹富島	12	48	4.0	5	14	2.8
黒島	30	224	7.5	17	105	6.2
新城島	-	-	-	-	-	-
小浜島	64	118	1.8	23	75	3.3
西表島東部	79	176	2.2	56	271	4.8
西表島西部	71	97	1.4	31	67	2.2
鳩間島	1	x	-	-	-	-
波照間島	128	418	3.3	32	115	3.6
計	385	1,400	3.6	164	655	4.0

出典：農林業センサス
注　：「西表島東部」は、字南風見、字南風見仲、字古見、字高那の合計値、「西表島西部」は、字上原、字西表、字崎山の合計値である。
注　：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。
注　：秘匿があるため各項目の合計と計が一致しないことがある。

（4）農業機械の所有状況

□沖縄県の農業用機械は、平成22(2010)年から平成27(2015)年では動力田植え機・トラクター・コンバインの全ての農業機械が減少となっている。近年は沖縄県全体では、農業者の減少に伴い農業機械の減少が進んでいるといえる。

□八重山圏域の農業用機械は、平成22(2010)年から平成27(2015)年では動力田植機が42%減少、トラクターが47%減少、コンバインが30%減少となっている。近年は八重山圏域全体でみると、農業者の減少に伴い農業機械の減少が進んでいるといえる。

□本町の農業用機械は、平成22(2010)年から平成27(2015)年ではトラクターが214台から184台と14%減となっている。近年は本町の農家人口減少が続く中で、農業機械の減少も進んでいるといえる。

農業機械の所有状況　　単位：経営体・台

		動力田植機		トラクター		コンバイン	
		経営体数	台数	経営体数	台数	経営体数	台数
竹富町	H22	13	14	146	214	21	21
	H27	12	13	117	184	18	18
石垣市	H22	53	53	495	713	43	47
	H27	23	23	163	225	23	26
与那国町	H22	7	7	70	89	8	9
	H27	6	7	114	131	8	10
八重山圏域計	H22	73	74	711	1,016	72	77
	H27	41	43	394	540	49	54
沖縄県	H22	475	518	6,576	8,345	332	351
	H27	233	259	6,267	8,136	249	272

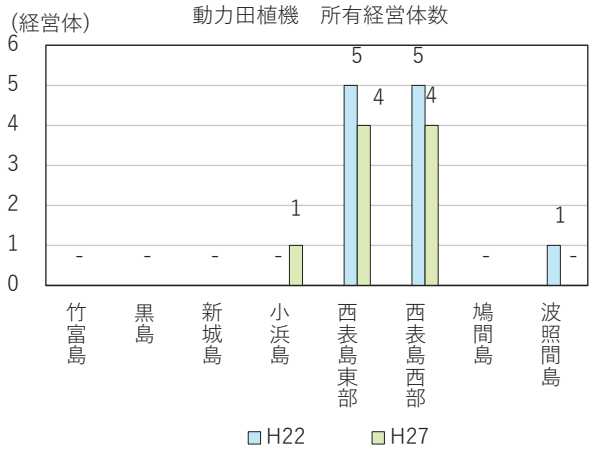
出典：農林業センサス

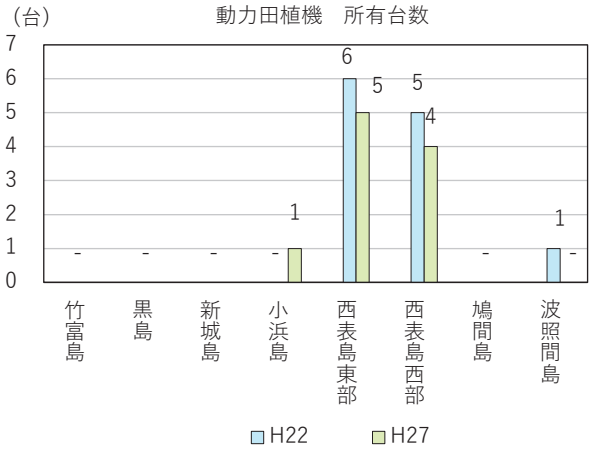
【各島の状況】

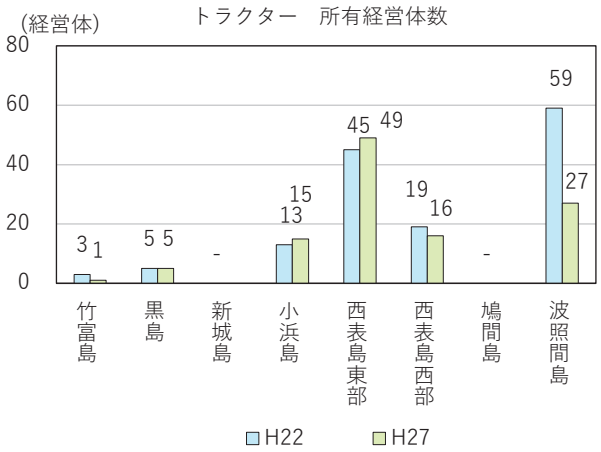
□波照間島ではトラクターの所有経営体数、所有台数が大きく減少している。

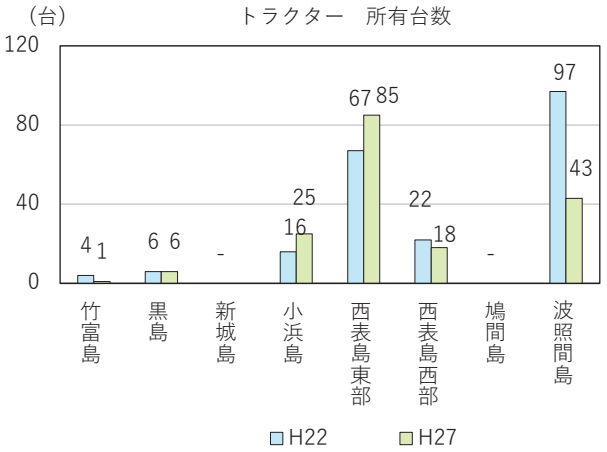
□西表島東部ではトラクターの所有経営体数、所有台数が増加に転じている。

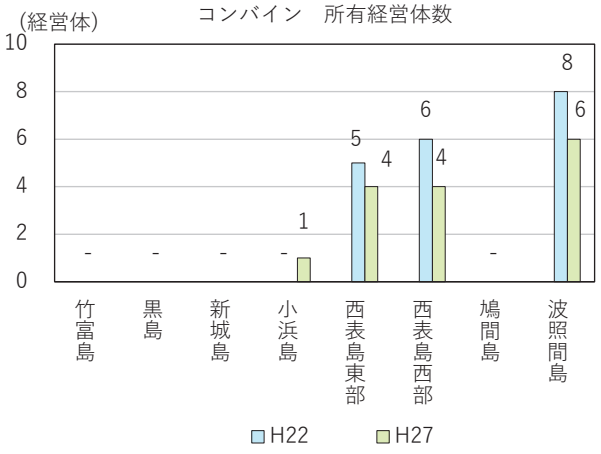
島別の農業機械の所有状況の推移

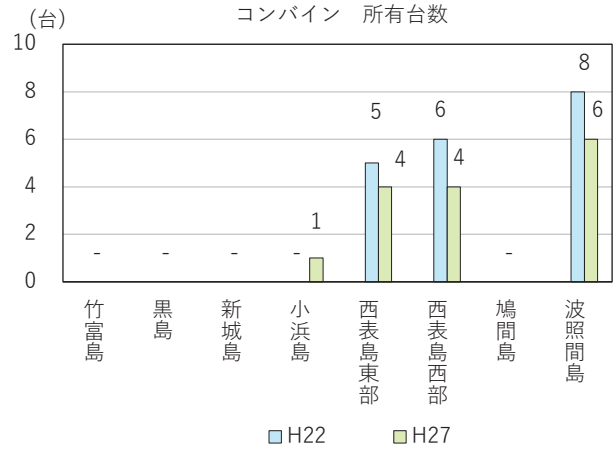












出典：農林業センサス

注　：「－」は事実のないものを表す。

【竹富町における建設機械の所有状況】

□本町の建設業者への建設機械の所有状況について、本町役場において聞き取り調査を実施した結果を以下に示す。

□建設業者７社への聞き取り調査の結果、バックホウやダンプの他、16種類の機械を所有していた。

□バックホウが最も所有台数が多く、次いでダンプであった。

□所有場所は黒島、西表島、石垣島の３島で、西表島(29台)が最も機械の所有台数が多く、次いで、石垣島(13台)、黒島(４台)であり、拠点が西表島、石垣島であることがわかる。

機械台数

単位：台

項目	黒島	西表島	石垣島	計
キャブオーバー(２t)			1	1
ダンプ(10t)		3	1	4
ダンプ(４t)		3	1	4
ダンプ(３t)			1	1
ダンプ(２t)		4	2	6
ダンプユニック(２t)	1			1
ユニック(４t)			1	1
ユニック(３t)			1	1
搭載型トラッククレーン		1		1
バックホウ	2	12	4	18
バックホウ(ミニ)		1		1
ユンボ			1	1
ホイールショベル		1		1
ホイールローダ	1	1		2
ローラー		2		2
スカイマスター		1		1
計	4	29	13	46

出典：竹富町農林水産課

□機械の導入時期は平成30(2018)年～令和３(2021)年が多く、計20台の機械が導入されている。また、平成25(2013)年～平成29(2017)年の機械導入台数は11台であった。

□今から10年以上前に導入された機械は４台であり、全体の8.6%である。

機械導入年数

単位：台

項目	H15～H19	H20～H24	H25～H29	H30～R3	R4～R5	導入時期不明	計
キャブオーバー(２t)				1			1
ダンプ(10t)				2	2		4
ダンプ(４t)			2	1		1	4
ダンプ(３t)	1						1
ダンプ(２t)			1	3		2	6
ダンプユニック(２t)				1			1
ユニック(４t)				1			1
ユニック(３t)				1			1
搭載型トラッククレーン				1			1
バックホウ		1	7	6	3	1	18
バックホウ(ミニ)					1		1
ユンボ					1		1
ホイールショベル				1			1
ホイールローダ			1	1			2
ローラー		2					2
スカイマスター				1			1
計	1	3	11	20	7	4	46

出典：竹富町農林水産課

機械別の導入年数

キャブオーバー

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

ダンプ（10t）

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	2
R4～R5	2
導入時期不明	0
計	4

ダンプ（4 t）

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	2
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	1
計	4

ダンプ（3 t）

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	1
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	0
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

ダンプ（2 t）

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	1
H30～R3	3
R4～R5	0
導入時期不明	2
計	6

ダンプユニック

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

ユニック(4 t)

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

ユニック(3 t)

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

掲載型トラッククレーン

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

バックホウ

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	1
H25～H29	7
H30～R3	6
R4～R5	3
導入時期不明	1
計	18

バックホウ(ミニ)

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	0
R4～R5	1
導入時期不明	0
計	1

ユンボ

導入時期	所有台数（単位：台）
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	0
R4～R5	1
導入時期不明	0
計	1

出典：竹富町農林水産課

ホイールショベル

導入時期	所有台数 (単位：台)
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

ホイールローダ

導入時期	所有台数 (単位：台)
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	1
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	2

ローラー

導入時期	所有台数 (単位：台)
H15～H19	0
H20～H24	2
H25～H29	0
H30～R3	0
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	2

スカイマスター

導入時期	所有台数 (単位：台)
H15～H19	0
H20～H24	0
H25～H29	0
H30～R3	1
R4～R5	0
導入時期不明	0
計	1

出典：竹富町農林水産課

(5) 出荷施設の状況

□さとうきびは小浜、西表、波照間の３つの製糖工場へ出荷されている。西表では集中脱葉施設が整備され、農作業の軽減化が図られている。加工・製品化された商品は汽船農協やえやまを利用して島外へ出荷されている。

□野菜・果物については県外出向けの生産が行われており、汽船農協やえやまを利用して島外へ出荷されている。

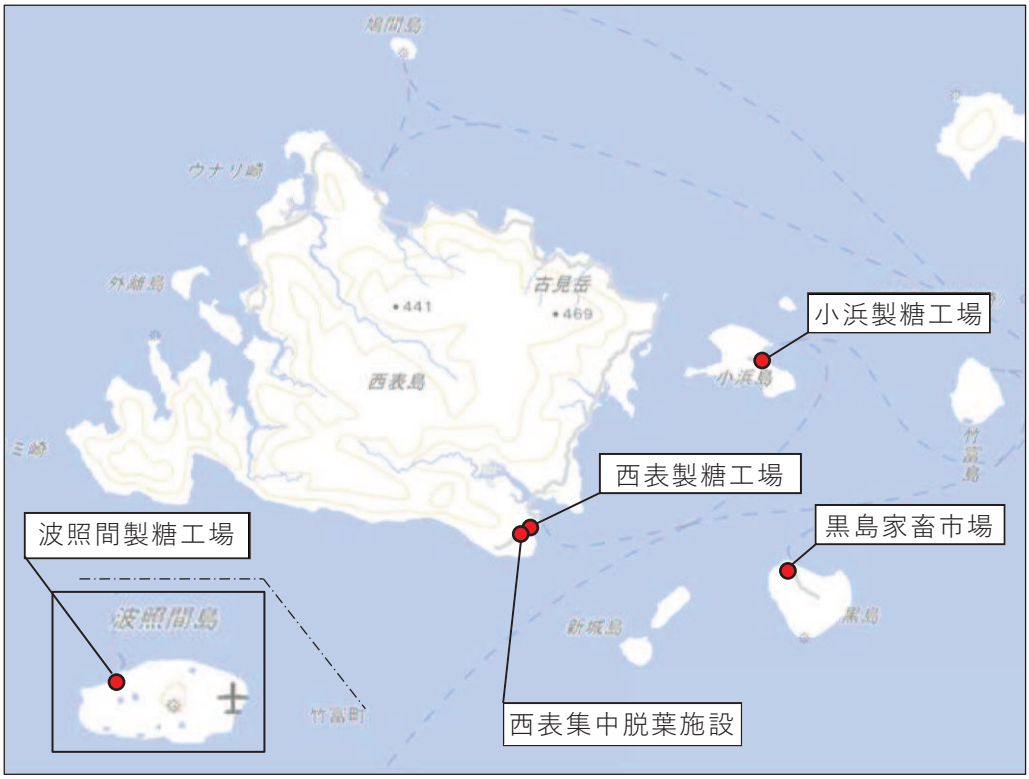
□肉用牛は、黒島家畜市場で子牛取引がなされている。肉用子牛生産安定等特別措置法第五条第三項の規定に基づく肉用子牛の主要な生産地域に所在する家畜市場であって農林水産大臣の指定するものに黒島家畜市場は指定されている。

農業関連施設の整備状況

施設名称	所在地	建設年度	延床面積(m²)
黒島家畜市場	竹富町字 黒島353番地19・48・35	平成18(2006)年	2,117.00
竹富町 小浜製糖工場	竹富町字 小浜3232番地	平成23(2011)年	2,080.42
西表製糖工場	竹富町字 南風見333番地41	平成26(2014)年	4,455.86
竹富町 波照間製糖工場	竹富町字 波照間418番地	平成25(2013)年	4,874.98
西表集中脱葉施設	竹富町字 南風見333番地80	平成30(2018)年	645.90

出典：竹富町農林水産課調べ

主な農業関連施設の位置



【小浜製糖工場】



【波照間製糖工場】



【西表製糖工場】



(6) 生産基盤の整備状況

本町では、地区の特徴に沿って農業生産基盤の整備が進められており、今後は、農業条件の有理性への転換を推進するため、未整備ほ場の整備をはじめ、かんがい施設の整備を促進し近代的農業を進め、土地利用の高度化を図り、計画的、一体的な整備を推進する。

□西表東部地区では、土地改良総合整備事業が進められており、さとうきびを主体とした水稲、肉用牛の複合経営が推進されている。土地の高度利用を可能とするための、畜産担い手育成総合整備事業や経営体育成基盤整備事業・基盤整備促進事業等が実施され、さとうきび・水稲生産団地が形成されている。

□西表西部地区では、県営農地開発事業等が実施され、農地造成、土壌改良・区画整理・農道等の整備完了しており、パインアップル・野菜生産団地の形成が推進されている。また、山林原野を活用し、自然環境保全に努めながら、自然防風林帯を配慮し、熱帯果樹(マンゴー)の産地が進められている。また、土地改良総合整備事業が実施され、水田が整備されている。

□波照間地区では、土地改良総合整備事業等が完了し、さとうきびの団地化が形成されたため、安定水源確保のためのかんがい排水事業や耕土流出防止型の水質保全型対策事業が実施された。

□小浜地区では、基盤整備事業等が進められ農地が整備され、畜産基盤再編総合整備事業等により、採草地・畜産施設等が整備された。

□黒島地区では、農用地はすべて牧場として利用され、草地造成及び付帯施設の整備が実施された。

□竹富地区の農用地はほとんど牧場であり、里山等利用増進事業や畜産基盤再編総合整備事業により草地造成・農業用施設・農業機械・機具等が整備された。

□鳩間地区は基盤整備が遅れており、農用地は狭小で、野菜の栽培や肉用牛がわずかながら飼われ、生産性の低い地域である。

□新城地区は、上地島と下地島からなり、下地島の農用地はすべて放牧地として利用され、草地開発事業、畜産基盤建設事業で草地造成、付帯施設も整備された。

今後予定されている農業農村整備関連事業

事業名	事業の概要	受益の範囲		事業主体	予定工期
		受益地区	受益面積		
農業基盤整備促進事業	排水路改修工事１式 L=2,220m	美田良 (西表)	15ha	町	R7～R10 ４ヵ年
県・(沖)農地整備事業	区画整理22ha	与那良原第３ (西表)	22ha	町	R11～R15 ５ヵ年
団・(沖)農業基盤整備促進事業	区画整理17ha	フカンタ (西表)	17ha	町	R11～R15 ５ヵ年
団・(沖)農業基盤整備促進事業	畑かん施設１式 FP１式	与那良原第４ (西表)	21ha	町	R12～R16 ５ヵ年
団・農業水路等長寿命化・防災減災事業のうち長寿命化対策	揚水機場(改修) 水管理システム(改修)	波照間島	340ha	町	R8～R11 ４ヵ年
基幹水利施設ストックマネジメント事業	管路の更新、改良等	美田良 (西表)	22ha	町	R10～R13 ４ヵ年
農山漁村振興交付金(情報通信対策)	スマート農業の実装	小浜島	240ha	町	R11～R13 ３ヵ年

資料：竹富町農林水産課調べ

□令和５(2023)年度末の沖縄県における農業生産基盤の整備状況は、水源・かんがい施設の要整備面積37,000haに対して、整備率は水源が65.5％、かんがい施設は53.8％である。また、ほ場は要整備面積31,000haに対して68.7％、集落排水施設は要整備量87,280人に対して75.6％、勾配修正等による赤土等流出防止施設は要整備面積11,500haに対して57.0％の整備率となっている。

□これに対して令和５(2023)年度末の八重山圏域における農業生産基盤の整備状況は、水源・かんがい施設の要整備面積7,771haに対して、整備率は水源が64.4％、かんがい施設が57.0％である。また、ほ場は要整備面積4,948haに対して72.5％、集落排水施設は要整備量8,543人に対して99.3％、赤土等流出防止施設は要整備面積3,237.8haに対して92.9％の整備率となっている。八重山圏域は県内他地域と比べ、水源を除き、農業農村整備施設の整備率が高く、農業振興に大きく貢献しているといえる。

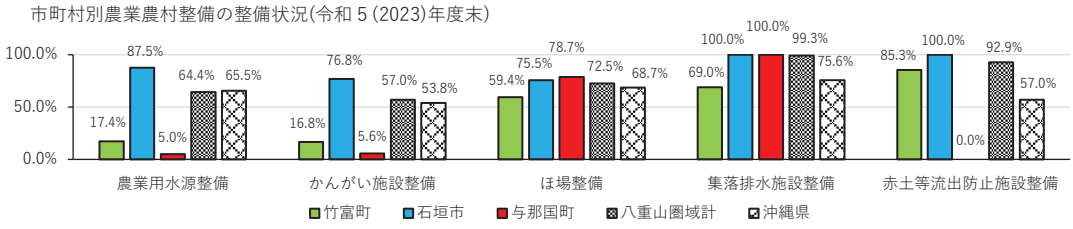
□令和５(2023)年度末の本町は水源・かんがい施設の要整備面積1,960haに対して、整備率は水源が17.4％、かんがい施設は16.8％となっている。また、ほ場は要整備面積1,015haに対して63.9％、集落排水施設は要整備量510人に対して69.0％、赤土等流出防止施設は要整備面積563haに対して85.3％の整備率となっている。本町は、ほ場整備や赤土流出防止対策は進んできたものの、水源整備やかんがい施設整備は進んでいない状況といえる。

令和５(2023)年度末の農業農村整備状況

	農業用水源整備(ha)			かんがい施設整備(ha)			ほ場整備(ha)		
	要整備量	整備済	整備率	要整備量	整備済	整備率	要整備量	整備済	整備率
竹富町	1,960.0	340.1	17.4％	1,960.0	329.1	16.8％	1,015.0	603.4	59.4％
石垣市	5,300.0	4,637.8	87.5％	5,300.0	4,069.6	76.8％	3,554.0	2,684.3	75.5％
与那国町	511.0	25.4	5.0％	511.0	28.8	5.6％	379.0	298.4	78.7％
八重山圏域計	7,771.0	5,003.3	64.4％	7,771.0	4,427.5	57.0％	4,948.0	3,586.1	72.5％
沖縄県	37,000.0	24,223.9	65.5％	37,000.0	19,901.7	53.8％	31,000.0	21,289.4	68.7％

	集落排水施設整備(人)			赤土等流出防止施設整備(ha)		
	要整備量	整備済	整備率	要整備量	整備済	整備率
竹富町	510.0	352.0	69.0％	563.0	480.3	85.3％
石垣市	7,060.0	7,144.0	100.0％	2,528.0	2,528.0	100.0％
与那国町	973.0	990.0	100.0％	146.0	0.0	0.0％
八重山圏域計	8,543.0	8,486.0	99.3％	3,237.8	3,009.1	92.9％
沖縄県	87,280.0	65,965.0	75.6％	11,500.0	6,554.0	57.0％

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」



出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

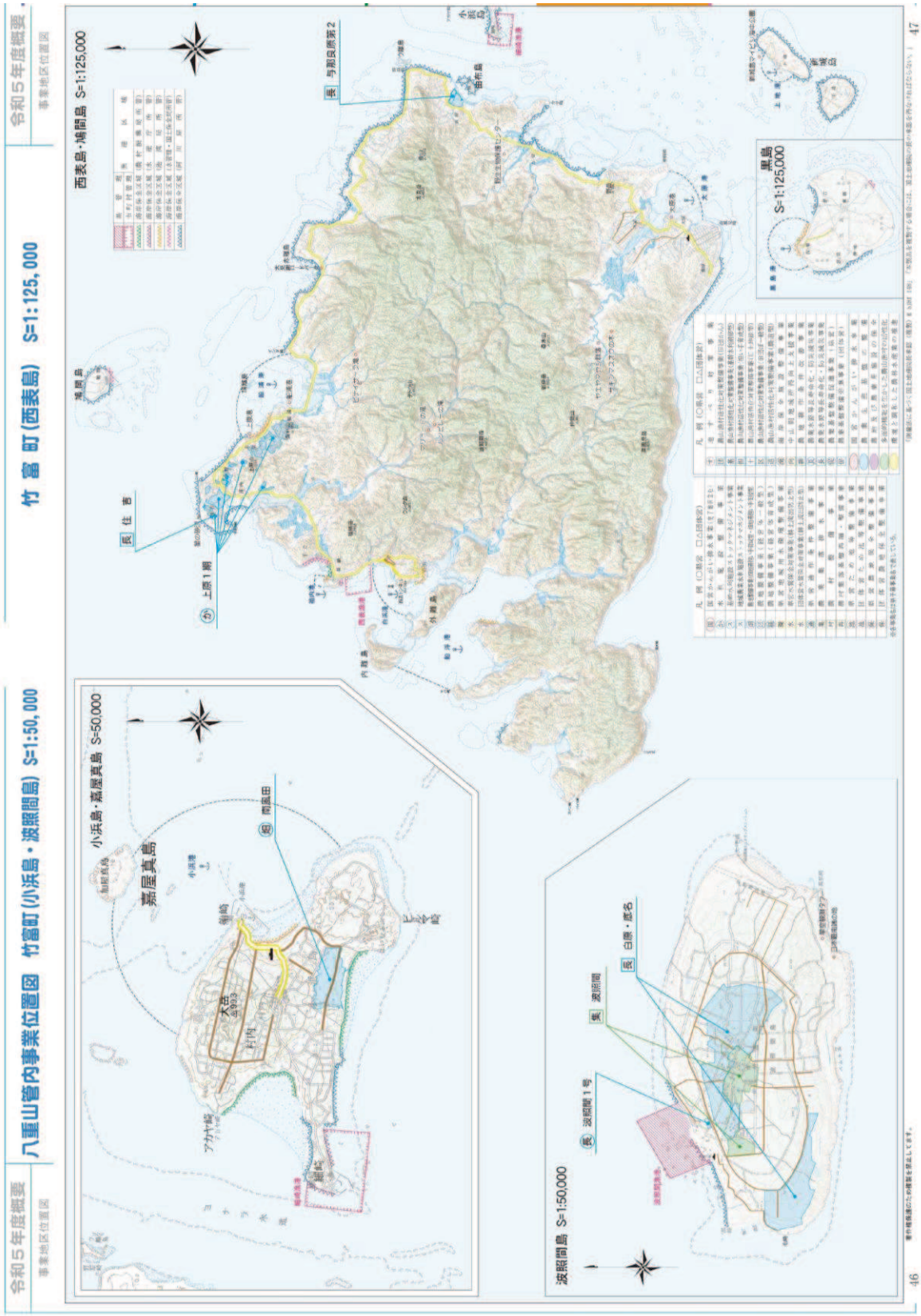
□本町のほ場整備の状況は、近年整備率が高い状況(63.5％～73.4％)が続いているが、水源整備(整備率：14.5％～17.4％)とかんがい施設整備(整備率：12.8％～16.8％)は整備率が徐々に上がっているが、低い状況が続いている。

竹富町の農業農村整備状況の推移

年度	ほ場整備		水源整備		かんがい施設整備	
	整備済み	整備率	整備済み	整備率	整備済み	整備率
H22年度	581.8	63.5	296.1	14.5	271.0	13.2
H27年度	592.0	73.4	340.1	17.0	329.1	16.5
R５年度	603.4	59.4	340.1	17.4	329.1	16.8

出典：平成 24(2012)年度版「八重山要覧」、平成 28(2016)年度版「八重山要覧」
令和５(2023)年度版「八重山の農林水産業」
注　：整備済み面積が変わらず、整備率変化しているものは、要整備容量が変化したためである。

令和５(2023)年度までの竹富町における管内事業位置図



資料：沖縄県　管内図(事業地区位置図)

6.7 製糖工場の実績推移

□JA小浜製糖工場の製糖日数は、平成24/25年期は61日であったが、現在(R5/6年期)では71日と約1.2倍の稼働日数(平成24/25年期～令和5/6年期の平均78日)となっている。

□西表糖業の製糖日数は、平成24/25年期は100日であったが、現在(R5/6年期)では128日と約1.3倍の稼働日数(平成24/25年期～令和5/6年期の平均123日)となっている。

□波照間製糖の製糖日数は、平成24/25年期は96日であったが、現在(R5/6年期)では102日と約1.1倍の稼働日数(平成24/25年期～令和5/6年期の平均110日)となっている。

□八重山地域の他の製糖工場の製糖日数は、石垣島製糖が103日～173日(平成24/25年期～令和5/6年期の平均136日)、JA与那国支店製糖工場の製糖日数は、50日～164日(平成24/25年期～令和5/6年期の平均97日)となっている。

JA小浜製糖工場（含蜜糖）

含蜜糖	製糖開始	製糖終了	製糖日数	実圧搾時間	実圧搾日数	1日当たり圧搾量	承認能力	含蜜糖			バガス		原料搬入量
								原料処理量	歩留	産糖量	歩留	生産量	
	月日	月日	日	hr	日	t	t	t	%	t	%	t	t
H24/25年期	1/15	3/16	61	1,118	59	43	50	2,551	14.34	366	29.77	759	2,573
H25/26年期	1/17	3/19	62	1,062	44	56	50	2,446	14.16	346	29.97	733	2,468
H26/27年期	1/24	3/31	66	1,283	63	51	50	3,217	13.76	443	25.00	804	3,246
H27/28年期	1/8	4/7	91	1,357	57	38	50	3,244	11.07	359	24.99	811	3,272
H28/29年期	1/13	3/30	77	1,407	59	55	50	3,207	12.75	409	25.00	802	3,390
H29/30年期	1/10	4/11	90	1,745	73	55	50	4,011	11.30	453	29.39	1,179	4,227
H30/31年期	1/11	4/22	102	1,291	54	62	50	3,319	11.13	369	30.00	996	3,672
R元/2年期	1/21	3/16	57	1,175	49	50	50	2,452	13.33	327	29.43	722	2,645
R2/3年期	1/18	4/2	74	1,721	72	84	50	3,852	12.35	476	29.51	1,137	4,051
R3/4年期	1/12	4/25	105	2,256	94	188	50	4,856	7.50	364	30.00	1,457	5,239
R4/5年期	1/10	3/27	76	1,700	71	43	50	3,024	9.74	295	29.67	897	3,313
R5/6年期	1/9	3/19	71	1,441	60	46	50	2,782	11.91	331	30.19	840	3,019

西表糖業KK（含蜜糖）

含蜜糖	製糖開始	製糖終了	製糖日数	実圧搾時間	実圧搾日数	1日当たり圧搾量	承認能力	含蜜糖			バガス		原料搬入量
								原料処理量	歩留	産糖量	歩留	生産量	
	月日	月日	日	hr	日	t	t	t	%	t	%	t	t
H24/25年期	12/5	3/20	100	2,254	98	88	80	8,577	14.84	1,273	26.00	2,230	8,656
H25/26年期	12/6	3/25	104	2,291	101	73	80	7,353	14.52	1,068	26.00	1,912	7,421
H26/27年期	3/19	7/11	115	2,382	110	88	100	9,635	12.14	1,170	26.01	2,506	10,048
H27/28年期	12/8	4/1	109	2,312	96	81	100	8,718	12.76	1,113	25.99	2,266	8,799
H28/29年期	1/6	4/21	106	2,271	105	91	100	9,531	14.32	1,365	26.00	2,478	9,618
H29/30年期	12/7	4/22	131	2,868	129	91	100	11,773	13.92	1,639	26.00	3,061	11,931
H30/31年期	12/5	4/22	133	2,841	131	91	100	11,898	13.93	1,658	26.00	3,094	12,543
R元/2年期	12/5	4/15	127	2,842	125	84	100	10,465	14.51	1,519	28.30	2,962	11,336
R2/3年期	12/5	4/24	135	3,043	133	86	100	11,459	13.07	1,498	26.00	2,980	12,355
R3/4年期	12/2	5/30	173	3,811	171	85	100	14,567	9.56	1,392	26.00	3,788	16,208
R4/5年期	12/3	4/6	118	2,356	98	92	100	8,994	12.46	1,121	26.00	2,338	9,938
R5/6年期	12/12	4/23	128	2,702	126	76	100	9,513	13.03	1,240	26.00	2,473	10,503

波照間製糖KK（含蜜糖）

含蜜糖	製糖開始	製糖終了	製糖日数	実圧搾時間	実圧搾日数	1日当たり圧搾量	承認能力	含蜜糖			バガス		原料搬入量
								原料処理量	歩留	産糖量	歩留	生産量	
	月日	月日	日	hr	日	t	t	t	%	t	%	t	t
H24/25年期	12/11	3/22	96	2,141	89	119	100	10,656	15.14	1,613	25.00	2,664	10,856
H25/26年期	1/18	4/29	102	2,152	90	116	130	10,416	15.13	1,575	25.00	2,604	10,652
H26/27年期	12/12	2/26	71	1,488	62	118	130	7,311	13.43	982	25.00	1,828	7,457
H27/28年期	12/9	4/12	116	2,328	97	108	130	10,339	12.90	1,334	25.00	2,585	10,505
H28/29年期	12/5	4/25	133	2,904	121	107	130	12,937	14.44	1,868	25.00	3,234	13,157
H29/30年期	12/7	4/14	121	2,633	110	110	130	12,146	14.55	1,767	25.00	3,037	12,395
H30/31年期	12/7	4/18	125	2,772	115	106	130	12,243	14.92	1,827	25.00	3,061	12,499
R元/2年期	12/5	3/31	110	2,453	102	112	130	11,381	14.66	1,668	25.00	2,845	11,656
R2/3年期	1/10	5/14	125	2,823	118	107	130	12,645	15.44	1,952	25.00	3,161	12,914
R3/4年期	12/4	4/26	137	2,711	113	116	130	13,132	10.94	1,437	25.00	3,283	13,597
R4/5年期	12/6	3/11	87	1,791	75	109	130	8,144	14.10	1,149	25.00	2,036	8,413
R5/6年期	12/8	3/25	102	2,280	95	110	130	10,417	15.15	1,578	25.00	2,604	10,754

出典：さとうきび及び甘しゃ糖生産実績（H24/25年期～R5/6年期）

石垣島製糖KK（分蜜糖）

分蜜糖	製糖開始	製糖終了	製糖日数	実圧搾時間	実圧搾日数	1日当たり圧搾量	承認能力	分蜜糖			糖蜜		バガス		原料搬入量
								原料処理量	歩留	産糖量	歩留	生産量	歩留	生産量	
	月日	月日	日	hr	日	t	t	t	%	t	%	t	%	t	t
H24/25年期	12/19	3/31	103	1,820	76	963	1,000	67,863	12.43	8,434	3.13	2,123	30.71	20,838	77,925
H25/26年期	1/8	4/15	98	1,935	81	955	1,000	71,482	12.21	8,725	2.99	2,134	31.04	22,188	81,822
H26/27年期	12/17	4/22	127	2,287	98	898	1,000	80,163	11.71	9,390	3.37	2,702	30.41	24,374	91,878
H27/28年期	12/19	5/23	157	2,077	87	930	1,000	76,623	9.24	7,083	3.09	2,370	28.02	21,471	86,782
H28/29年期	1/6	4/26	111	2,170	90	851	1,000	77,012	11.37	8,754	3.12	2,404	28.84	22,213	87,826
H29/30年期	12/4	5/3	151	2,618	109	984	1,000	102,041	10.81	11,028	3.02	3,077	28.26	28,834	115,621
H30/31年期	12/6	5/27	173	2,607	109	914	1,000	90,100	11.13	10,027	2.86	2,577	30.63	27,597	107,301
R元/2年期	12/11	4/18	130	2,290	95	703	1,000	67,102	12.15	8,153	2.98	1,999	34.25	22,985	80,412
R2/3年期	12/9	4/22	135	2,290	98	980	1,000	85,658	12.26	10,498	3.58	3,065	33.05	28,312	102,814
R3/4年期	12/2	6/24	204	2,862	119	995	1,000	99,530	11.04	10,991	3.56	3,547	32.87	32,718	118,650
R4/5年期	12/6	4/14	130	1,889	79	1,063	1,000	64,546	10.28	6,634	3.17	2,043	32.17	20,764	76,989
R5/6年期	1/4	4/26	114	2,030	85	1,032	1,000	68,165	11.21	7,639	3.41	2,322	34.33	23,398	81,435

JA与那国支店製糖工場（含蜜糖）

含蜜糖	製糖開始	製糖終了	製糖日数	実圧搾時間	実圧搾日数	1日当たり圧搾量	承認能力	含蜜糖			バガス		原料搬入量
								原料処理量	歩留	産糖量	歩留	生産量	
	月日	月日	日	hr	日	t	t	t	%	t	%	t	t
H24/25年期	1/31	3/21	50	980	40	91	100	3,633	12.39	450	25.00	908	3,975
H25/26年期	1/29	3/31	63	935	39	95	100	3,697	12.58	465	27.40	1,013	4,051
H26/27年期	12/17	2/19	61	1,248	52	76	100	3,960	10.75	426	25.71	1,018	4,326
H27/28年期	1/26	6/4	130	2,175	91	39	50	6,135	10.71	657	29.19	1,791	6,727
H28/29年期	1/16	4/19	94	1,740	87	51	50	3,931	10.70	421	30.51	1,199	4,444
H29/30年期	12/15	4/17	106	2,167	90	52	50	4,704	11.52	542	29.23	1,375	5,211
H30/31年期	12/7	5/30	164	2,714	113	54	50	5,639	11.06	624	30.21	1,703	6,120
R元/2年期	12/9	3/24	105	1,746	73	59	50	4,327	10.91	472	28.20	1,220	4,860
R2/3年期	12/10	3/25	105	1,969	82	54	50	4,460	10.93	488	28.05	1,251	4,868
R3/4年期	12/10	4/13	123	2,382	97	61	50	6,063	9.28	563	28.19	1,709	6,637
R4/5年期	12/8	3/8	84	1,468	61	58	50	3,523	8.88	313	29.27	1,031	3,750
R5/6年期	1/11	4/2	83	1,677	70	55	50	3,869	11.86	459	28.86	1,117	4,450

八重山計（分含合計）

分含合計	製糖開始	製糖終了	製糖日数	実圧搾時間	実圧搾日数	1日当たり圧搾量	承認能力	含蜜糖			バガス		原料搬入量
								原料処理量	歩留	産糖量	歩留	生産量	
	月日	月日	日	hr	日	t	t	t	%	t	%	t	t
H24/25年期	12/5	3/31	410	8,313	72	1,304	1,330	93,280	13.01	12,136	29.37	27,399	103,985
H25/26年期	12/6	4/29	429	8,375	71	1,295	1,360	95,394	12.77	12,179	29.82	28,450	106,414
H26/27年期	12/12	7/11	440	8,688	77	1,231	1,380	104,286	11.90	12,411	29.28	30,530	116,955
H27/28年期	12/8	6/4	603	10,249	86	1,196	1,330	105,059	10.04	10,546	27.53	28,924	116,085
H28/29年期	12/5	4/26	521	10,492	92	1,155	1,330	106,618	12.02	12,817	28.07	29,926	118,435
H29/30年期	12/4	5/3	599	12,031	102	1,292	1,330	134,675	11.46	15,429	27.83	37,486	149,385
H30/31年期	12/5	5/30	697	12,225	104	1,227	1,330	123,199	11.77	14,505	29.59	36,451	142,135
R元/2年期	12/5	4/18	529	10,506	89	1,008	1,330	95,727	12.68	12,139	32.11	30,734	110,909
R2/3年期	12/5	5/14	574	11,846	101	1,311	1,330	118,074	12.63	14,912	31.20	36,841	137,002
R3/4年期	12/2	6/24	742	14,022	119	1,445	1,330	138,148	10.67	14,747	31.09	42,955	160,331
R4/5年期	12/3	4/14	495	9,204	77	1,365	1,330	88,231	10.78	9,512	30.68	27,066	102,403
R5/6年期	12/8	4/26	498	10,130	87	1,319	1,330	94,746	11.87	11,247	32.12	30,432	110,161

沖縄計（分含合計）

分含合計	製糖開始	製糖終了	製糖日数	実圧搾時間	実圧搾日数	1日当たり圧搾量	承認能力	含蜜糖			バガス		原料搬入量
								原料処理量	歩留	産糖量	歩留	生産量	
	月日	月日	日	hr	日	t	t	t	%	t	%	t	t
H24/25年期	12/5	4/14	1,327	27,205	63	10,901	12,410	675,346	12.33	83,269	27.67	186,880	743,269
H25/26年期	12/6	4/29	1,387	27,358	63	10,994	12,440	682,794	11.96	81,679	28.12	192,001	754,722
H26/27年期	11/4	7/11	1,426	29,022	67	10,451	12,460	688,504	12.08	83,163	26.51	182,523	764,468
H27/28年期	12/8	6/4	1,801	32,561	75	9,924	10,310	754,671	10.99	82,924	29.24	220,640	849,344
H28/29年期	12/1	5/26	1,857	37,776	87	9,534	10,310	937,523	12.20	114,353	29.01	272,012	1,046,968
H29/30年期	12/1	5/3	1,791	34,853	81	9,767	10,310	768,675	11.34	87,149	28.89	222,107	871,935
H30/31年期	12/5	5/30	1,955	35,223	82	9,851	10,310	741,777	11.32	83,999	29.56	219,296	849,396
R元/2年期	12/3	4/24	1,650	31,786	74	9,558	10,310	675,827	11.93	80,647	30.09	203,383	772,824
R2/3年期	12/1	6/6	1,863	35,852	92	15,098	10,310	813,853	11.79	95,928	29.25	238,074	926,634
R3/4年期	12/1	7/5	2,203	39,287	98	9,643	10,310	815,426	11.66	95,072	30.32	247,260	938,519
R4/5年期	12/1	5/19	1,771	33,505	82	9,598	10,310	737,439	11.35	83,683	28.92	213,285	839,479
R5/6年期	12/8	6/9	1,719	31,951	79	9,584	10,310	664,284	11.85	78,749	30.79	204,553	756,058

出典：さとうきび及び甘しゃ糖生産実績（H24/25年期～R5/6年期）

6.8 農作物

（1）さとうきび

□八重山地域における令和5/6年期のさとうきびは、生育初期から生育旺盛期である令和５(2023)年１月から７月の降水量は、３月を除き平年値を下回る降水量となった。特に梅雨明けの７月の降水量は平年降水量の３割に留まり、葉のロールや葉先の枯れが生じるなど、平年と比べ各作型の茎径及び一茎重が減少した。８月の台風６号による被害は軽微であったものの、10月から11月にかけての少雨傾向により、生育停滞がみられた。

①生産実績

□八重山地域における令和5/6年期のさとうきび生産量は94,746ｔで、前期に対して6,514ｔの増加(7％増)となった。県全体に占める生産量の割合は14.3％であり、前年より2.3％増加した。収穫面積は1,733haと前期より205ha減少し、10a当たりの収量は5,467kgと前期より915kg増加した。

□JA小浜製糖工場における令和5/6年期のさとうきび生産量は2,782ｔで、前期に対して242ｔの減少(8％減)となった。八重山圏域全体に占めるJA小浜製糖工場における生産量の割合は2.9％であり、前年より0.5％減少した。収穫面積は59haと前期より19ha減少し、10a当たりの収量は3,900kgと前期より831kg減少した。

□西表糖業KKにおける令和5/6年期のさとうきび生産量は9,513tで、前期に対しての519tの増加(6％増)となった。八重山圏全体に占める西表糖業KKにおける生産量の割合は10.0％であり、前年より0.2％減少した。収穫面積は164haと前期より12ha減少し、10a当たりの収量も5,119kgと前期より667kg増加した。

□波照間製糖KKにおける令和5/6年期のさとうきび生産量は10,417tで、前期に対しての2,273tの増加(28％増)となった。八重山圏域全体に占める波照間製糖KKにおける生産量の割合は11.0％であり、前年より1.8％増加した。収穫面積は191haと前期より2ha増加し、10a当たりの収量は5,441kgと前期より1,129kg増加した。

□作型別では、八重山地域全体における令和5/6年期の生産量に占める夏植の割合は37.7％(前期43.2％)、春植13.0％(前期6.5％)、株出49.3％(前期50.3％)であり、土壌害害虫に対して効果的な防除農薬の普及により安定した株出し栽培が可能になり、割合は増加傾向にある。

□JA小浜製糖工場における令和5/6年期の生産量に占める夏植の割合は19.4％(前期48.3％)、春植16.4％(前期2.4％)、株出64.2％(前期49.3％)であり、株出しが増加し夏植えの割合が減少傾向にある。

□西表糖業KKにおける令和5/6年期の生産量に占める夏植えの割合は38.0%(前期44.4%)、春植え8.0%(前期2.0%)、株出し54.0%(前期53.7%)であり、株出しが増加し夏植えの割合が減少傾向にある。

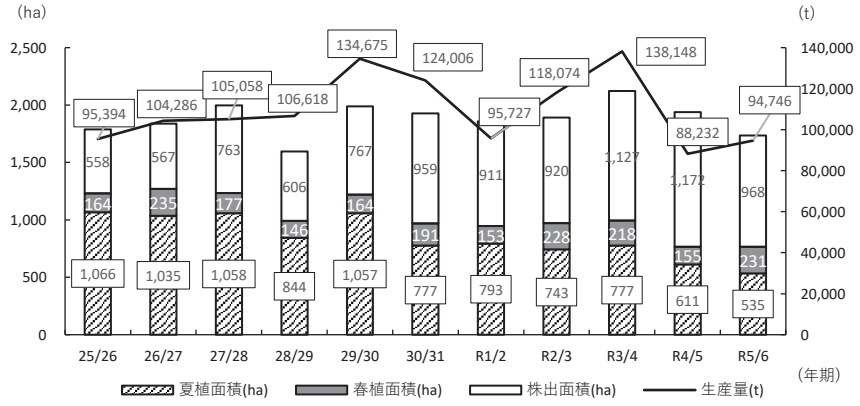
□波照間製糖KKにおける令和5/6年期の生産量に占める夏植えの割合は63.9%(前期68.8%)、春植え1.4%(前期0.0%)、株出し34.6%(前期31.2%)であり、株出しが増加し夏植えの割合が減少傾向にある。

令和5/6年期　さとうきび作型別生産実績

	夏植			春植			株出			合計			前期(R4/5)合計		
工場名	収穫面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	収穫面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	収穫面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	収穫面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	収穫面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)
県計	2,774	6,493	180,129	1,289	4,648	59,900	9,101	4,662	424,255	13,164	5,046	664,284	13,679	5,391	737,439
	(21.1)		*(27.1)*	*(9.8)*		*(9.0)*	*(69.1)*		*(63.9)*	*(100.0)*		*(100.0)*	*(100.0)*		*(100.0)*
沖縄本島	157	5,779	9,080	302	4,007	12,105	1,860	4,126	76,723	2,319	4,222	97,907	2,411	4,887	117,854
	(6.8)		*(9.3)*	*(13.0)*		*(12.4)*	*(80.2)*		*(78.4)*	*(17.6)*		*(14.7)*	*(17.6)*		*(16.0)*
石垣島製糖	346	6,794	23,491	198	5,434	10,783	691	4,908	33,891	1,235	5,520	68,165	1,394	4,631	64,546
	(28.0)		*(34.5)*	*(16.0)*		*(15.8)*	*(56.0)*		*(49.7)*	*(9.4)*		*(10.3)*	*(10.2)*		*(8.8)*
JA小浜製糖工場	9	6,122	541	10	4,736	456	40	4,425	1,785	59	4,731	2,782	78	3,900	3,024
	(15.3)		*(19.4)*	*(16.9)*		*(16.4)*	*(67.8)*		*(64.2)*	*(0.4)*		*(0.4)*	*(0.6)*		*(0.5)*
西表糖業KK	49	7,366	3,611	15	5,029	763	100	5,128	5,139	164	5,786	9,513	176	5,119	8,994
	(29.9)		*(38.0)*	*(9.1)*		*(8.0)*	*(61.0)*		*(54.0)*	*(1.2)*		*(1.4)*	*(1.3)*		*(1.4)*
波照間製糖KK	105	6,324	6,658	3	5,060	151	83	4,338	3,609	191	5,441	10,417	189	4,312	8,144
	(55.0)		*(63.9)*	*(1.6)*		*(1.4)*	*(43.5)*		*(34.6)*	*(1.5)*		*(1.6)*	*(1.4)*		*(1.2)*
JA与那国支店製糖工場	26	5,454	1,399	5	4,406	205	53	4,253	2,265	84	4,630	3,869	102	3,442	3,523
	(31.0)		*(36.2)*	*(6.0)*		*(5.3)*	*(63.1)*		*(58.5)*	*(0.6)*		*(0.6)*	*(0.7)*		*(0.5)*
八重山計	535	6,678	35,700	231	5,353	12,358	968	4,825	46,689	1,733	5,467	94,746	1,938	4,552	88,232
	(30.9)		*(37.7)*	*(13.2)*		*(13.0)*	*(55.9)*		*(49.3)*	*(13.2)*		*(14.3)*	*(14.2)*		*(13.3)*

出典：「さとうきび及び甘しゃ糖生産実績」　沖縄県農林水産部（令和６(2024)年８月）
注　：(斜体）は、合計は県計に対するもので、作型別は各地域内の比率である。四捨五入による端数調整のため合計と内訳が合わない場合がある。
注　：「-」は該当がなかったことを示す。

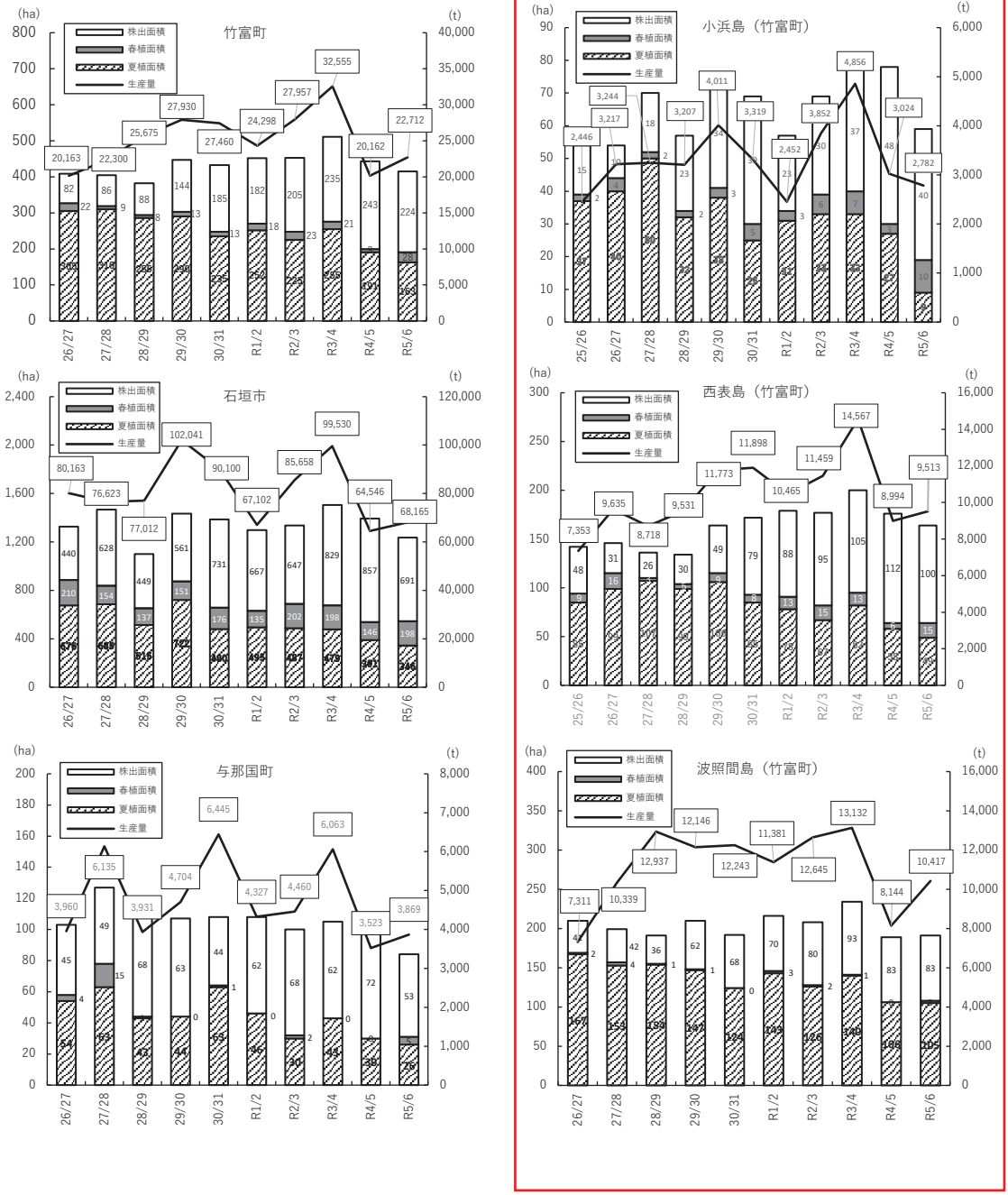
さとうきびの作型別収穫面積、生産量の推移（八重山圏域）



地域別の推移

□八重山圏域の生産量は石垣市では平成29/30年期、小浜島・西表島・波照間島では令和3/4年期、与那国町では平成30/31年期が多い年となっており、地域によって年度別の生産量に大きな差がある。

□本町のさとうきび生産量は平成29/30年期までは増加傾向にあったが、以後減産となった。令和元/2年期を境に再び増加に転じており、令和3/4年期は近年10年で最大の生産量となっている。



出典：さとうきび及び甘しゃ糖生産実績（H26/27年期～R5/R6年期）

②製糖実績

□さとうきび原料の工場買い入れ価格は、平成６(1994)年度から甘蔗糖度を基準とした品質取引へと移行された。八重山地域における令和5/6年期の平均甘蔗糖度は、分みつ糖が13.9度、含みつ糖16.4度で、平均が14.3度となり、前年の13.3度より高くなった。八重山地域の平均農家手取額はトン当たり25,128円となり、前期の22,364円より増額となった。

□本町における令和5/6年期の平均甘蔗糖度は、含みつ糖14.6度で、前年の14.4度より高くなった。本町の農家手取額はトン当たり26,055円となり、前期の21,236円より増額となった。本町の平均甘蔗糖度及び農家手取額は八重山圏域の中では高い水準となっている。

令和5/6年期　製糖工場別製糖実績

工場名	製糖期間			製糖実績			前期(R4/5)実績		
	製糖開始	製糖終了	製糖日数	原料処理量	歩留(%)	産糖量	原料処理量	歩留(%)	産糖量
県計	－	－	－	664,284	11.85	78,749	737,439	11.35	83,683
石垣島製糖	R6.1.4	R6.4.26	114	68,165	11.21	7,639	64,546	10.28	6,634
JA小浜製糖工場	R6.1.9	R6.3.19	71	2,782	11.91	331	3,024	9.74	295
西表糖業	R5.12.12	R6.4.23	128	9,513	13.03	1,240	8,994	12.46	1,121
波照間製糖	R5.12.8	R6.3.25	102	10,417	15.15	1,578	8,144	14.10	1,149
JA与那国製糖工場	R6.1.11	R6.4.2	83	3,869	11.86	459	3,523	8.88	313
八重山計	R5.12.8	R6.4.26	498	94,746	12.63	11,247	88,231	11.09	9,512

資料：「さとうきび及び甘しゃ糖生産実績」沖縄県農林水産部（令和6(2024)年8月）

令和5/6年期　さとうきび品質取引実績

工場名	甘蔗糖度(度)			甘蔗糖度区分ごとの重量、比率(ｔ、%)							
				13.0度以下		13.1～13.6		13.7～14.3		14.4度以上	
	平均	最低	最高	重量	比率	重量	比率	重量	比率	重量	比率
県計	14.6	8.6	19.2	47,984	7.2	68,635	10.3	152,858	23.0	394,807	59.4
石垣島製糖	13.9	8.6	17.8	16,604	24.4	11,037	16.2	15,473	22.7	25,050	36.7
JA小浜製糖工場	14.5	9.3	17.7	253	9.1	341	12.3	647	23.2	1,541	55.4
西表糖業	15.5	11.9	18.3	128	1.3	269	2.8	920	9.7	8,196	86.2
波照間製糖	16.4	13.1	18.9	0	0.0	51	0.5	179	1.7	10,188	97.8
JA与那国製糖工場	14.0	9.6	17.0	705	18.2	682	17.6	1,105	28.6	1,378	35.6
八重山計	14.3	8.6	18.9	17,690	18.7	12,381	13.1	18,323	19.3	46,353	48.9

資料：「さとうきび及び甘しゃ糖生産実績」沖縄県農林水産部（令和6(2024)年8月）

さとうきび平均農家手取額の推移(円／トン)

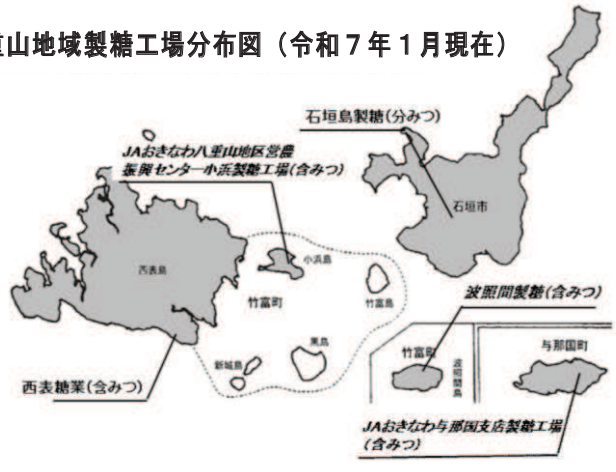
年期	分みつ糖(石垣市)		含みつ糖	含みつ糖
	計	甘味資源作物交付金※	(竹富町)	(与那国町)
26/27	22,477	16,420	21,797	19,636
27/28	20,378	16,420	20,851	18,260
28/29	22,638	16,420	22,123	19,346
29/30	21,953	16,420	20,337	20,738
30/31	22,097	16,630	22,164	20,993
R1/2	22,617	16,730	25,048	20,817
R2/3	22,771	16,860	22,412	21,131
R3/4	23,115	16,860	24,329	21,628
R4/5	22,760	16,860	21,236	21,145
R5/6	24,720	16,860	26,055	24,085

※基準糖度帯（13.1～14.3度）の単価

資料：「さとうきび及び甘しゃ糖生産実績」沖縄県農林水産部（令和6(2024)年8月）

注　：「R3/4」、「R4/5」、「R5/6」の竹富町は「小浜」、「西表」、「波照間」の平均農家手取額の平均とした

八重山地域製糖工場分布図（令和７年１月現在）

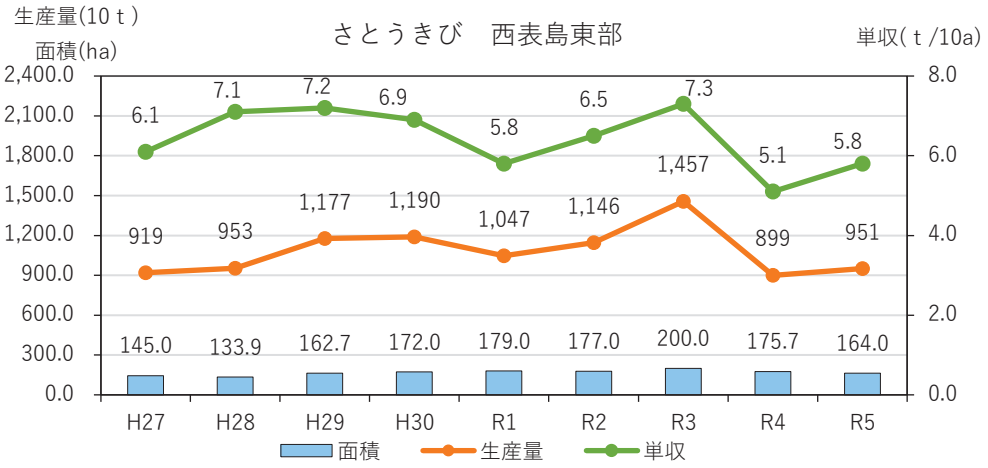


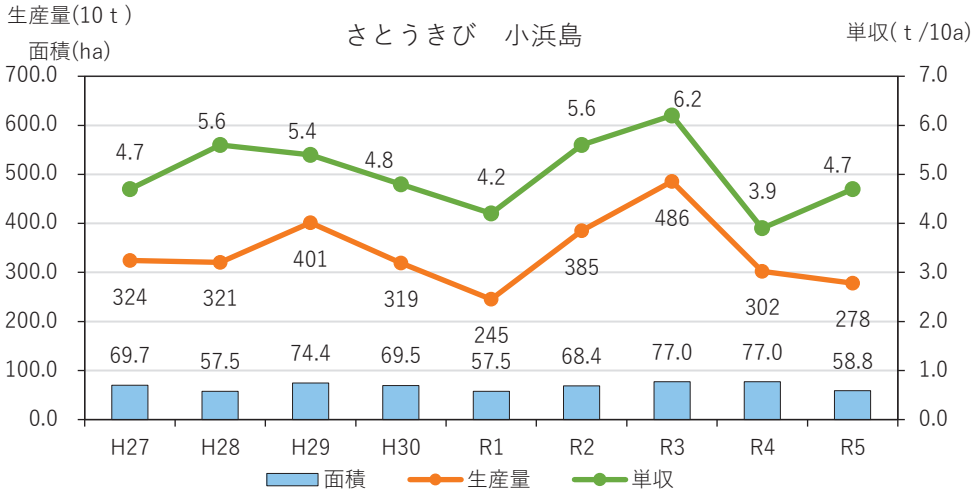
【各島の状況】

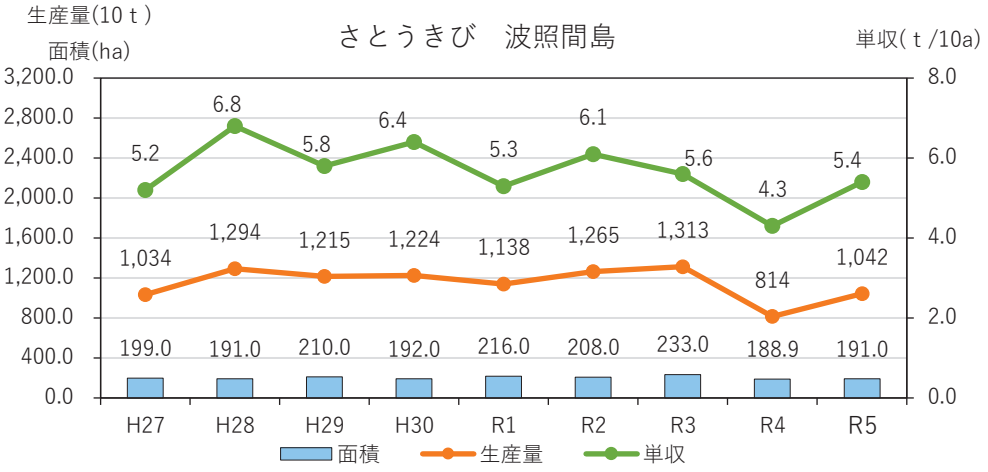
□さとうきびは主に西表島東部、小浜島、波照間島で多く作付されている。

□令和４(2022)年は台風や日照不足の影響を受け減少したが、令和５(2023)年はすべての島で増加しており元の水準に戻りつつある。

島別のさとうきび







出典：竹富町役場

【もちきび】

□波照間島では農地の有効利用と農家所得向上を図るためにもちきびが栽培されている。もちきびは２月前後の播種から100日間前後で収穫が可能であり、夏植のさとうきびとの輪作で地力向上にも繋がりさとうきびの単収増も期待されている。もちきび選別機の導入による作業の迅速化や「最南端のもちきび」ブランド化で地域活性を図っている。

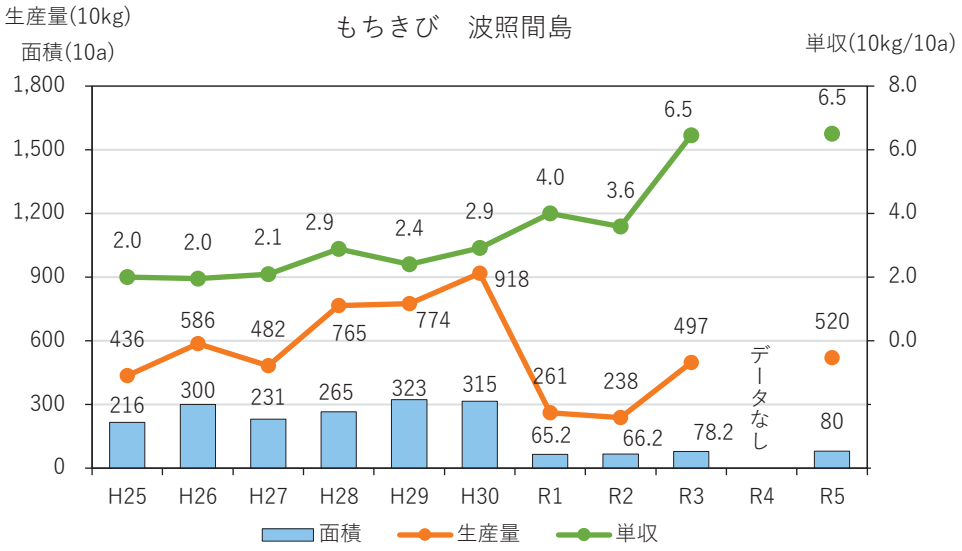
□生産量は平成30(2018)年から令和元年に大きく減少したが、令和２(2020)年以降は増加傾向となっている。10kg当たりの収量は概ね一定に推移していたが、平成30(2018)年以降は増加傾向にある。



もちきび



商品化



出典：竹富町役場

（2）水稲

□八重山地域は、県内稲作の主要産地である。令和５(2023)年の水稲作付面積は一期、二期合わせて376haと県全体の65.3％を占め、収穫量は1,196tと県全体の64.6％を占めている。

□八重山地域の一期作の10a当たり収量は317kgで、県平均の350kgよりやや低い。二期作は９月上旬までの植え付けのため台風被害を受ける可能性が高く、収量・歩留まりが低い等の理由により、近年では一期作の５割程度の作付となっている。

□本町の令和５(2023)年の作付面積は85haであり、八重山地域全体の23％の作付面積となっている。石垣市の作付面積は289haで、八重山地域全体の約77％を占めている。

□八重山地域は温暖な気候を活かし、一期作は６月に新米を出荷できる「超早場米」として、他の産地より有利販売が可能である。主要品種は、食味に優れた「ひとめぼれ」が生産されており、西表地区では、平成26(2014)年二期作より、低アミロース品種である「ミルキーサマー」の栽培に取り組んでおり、ブランド化が期待される。消費者の食の安全性への関心の高まりもあり、エコファーマー認定、特別栽培農産物の認証を受けるなど、多様な消費者ニーズに対応した米作りが行われている。



田植前の風景



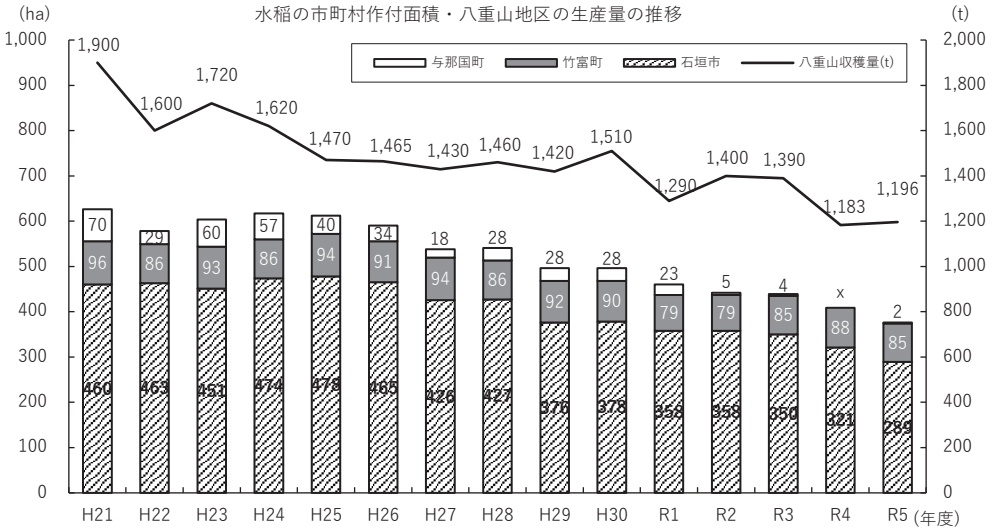
主要品種：ひとめぼれ

令和５(2023)年産水稲の生産実績

	作付面積(ha)			10a当たり収量(kg)			収穫量(t)		
	計	１期作	２期作	平均	１期作	２期作	計	１期作	２期作
県計	576	441	135	321	350	227	1,850	1,540	306
石垣市	289	238	51	329	370	135	950	881	69
竹富町	85	63	22	282	307	210	240	195	46
与那国町	2	2	-	273	273	-	6	6	-
八重山計	376 *(65.3%)*	303 *(68.7%)*	73 *(54.1%)*	295	317	173	1,196 *(64.6%)*	1,082 *(70.3%)*	115 *(37.6%)*

資料：第52次沖縄農林水産統計年報
注１：八重山計の10aあたり収量(kg)は、石垣市、竹富町、与那国町の平均値
注２：斜体は県計に占める割合

水稲の作付面積と生産量の推移



出典：沖縄農林水産統計年報（第38次～第52次）
注：「ｘ」は秘匿を表す

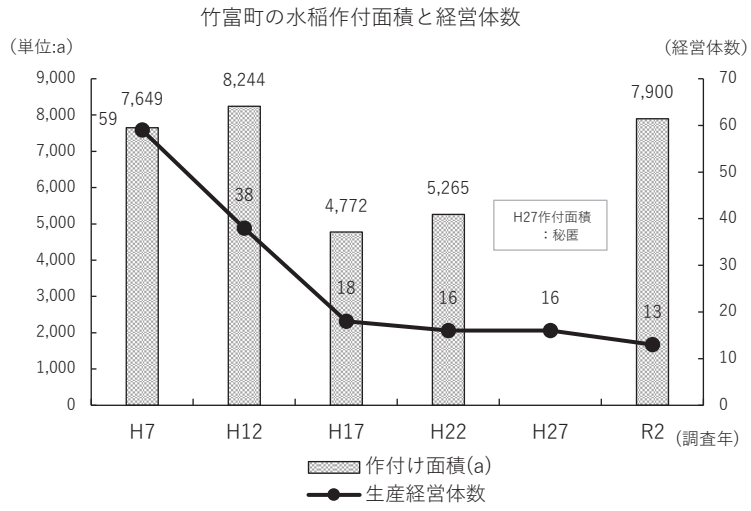
■竹富町の水稲

□かつて、本町は稲作が盛んな地域であったが、近年はその規模が縮小している。

□作付面積はピークである平成12(2000)年の82.4haから平成22(2010)年には52.7haと10年間で29.7ha減少(36％減)したが、令和２(2020)年には79haと増加に転じた。

□生産経営体数はピークである平成７(1995)年の59戸から減少を続け、令和２(2020)年には13戸と25年間で46戸減少(78％減)しており、１戸当たりの作付面積は増加している。

竹富町の水稲作付面積と生産経営体数



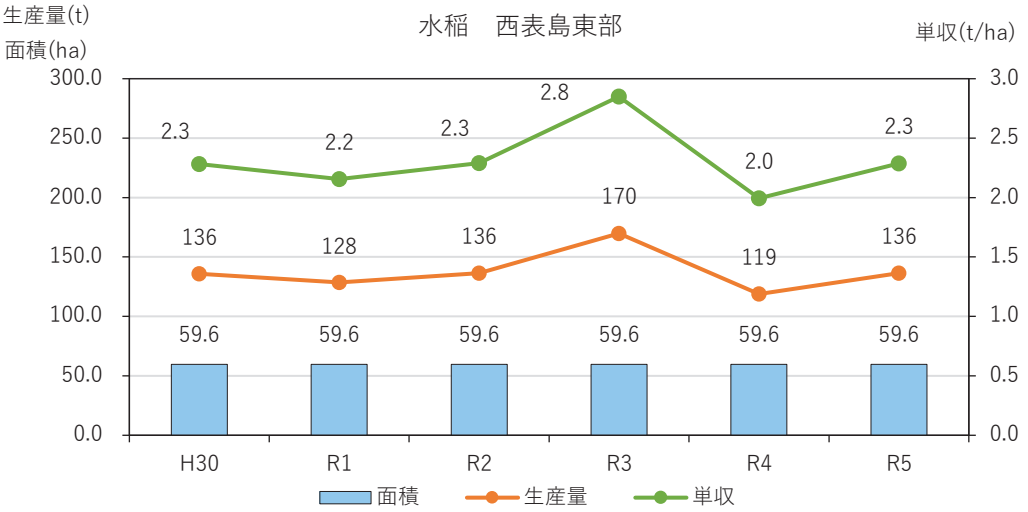
出典：離島関係資料（H8.2、H14.1、H19.1、H24.1、H30.1)、
第49次沖縄農林水産統計年報（R2のみ)、
2020年農林業センサス

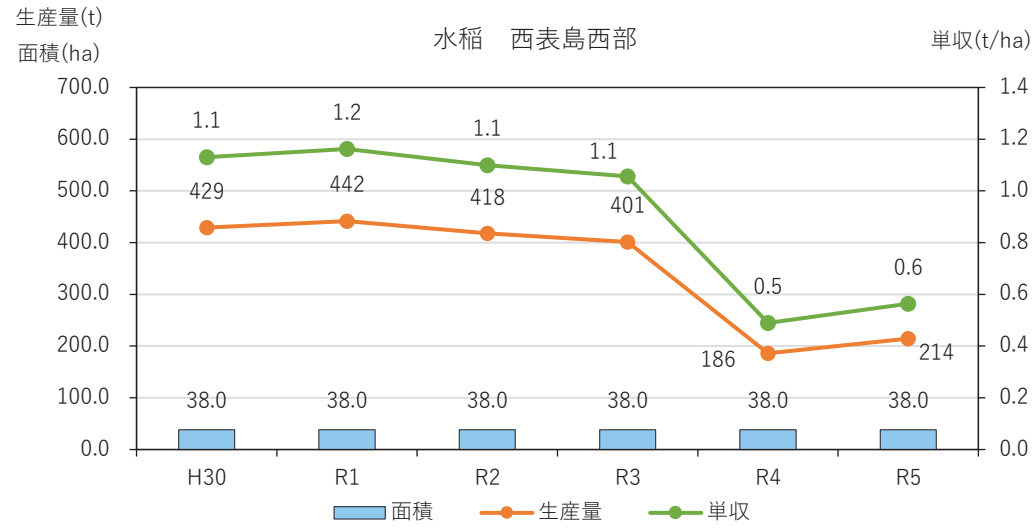
【各島の状況】

□現在、水稲は主に西表島で作付されている。

□近年、作付面積は横ばいであり、東部も西部も令和４(2022)年に大きく減少したが、令和５(2023)年はやや回復した。

西表島の水稲





水稲		平成30年			令和１年			令和２年			令和３年			令和４年			令和５年		
		生産量 (kg)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/ha)	生産量 (kg)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/ha)	生産量 (kg)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/ha)	生産量 (kg)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/ha)	生産量 (kg)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/ha)	生産量 (kg)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/ha)
西表島東部		135,932	59.6	2,281	128,490	59.6	2,156	136,460	59.6	2,290	169,819	59.6	2,849	118,831	59.6	1,994	136,309	59.6	2,287
	大原	42,705			41,713			36,857			50,353			36,473			44,210		
	大富	13,570			6,370			12,767			12,353			7,226			5,293		
	古見	38,414			34,696			36,615			41,398			22,242			23,189		
	美原	41,243			45,711			50,221			65,715			52,890			63,617		
西表島西部		42,933	38.0	1,130	44,161	38.0	1,162	41,782	38.0	1,100	40,127	38.0	1,056	18,600	38.0	489	21,434	38.0	564
	干立	9,392			11,123			13,579			13,622			6,992			8,287		
	祖納	33,541			33,038			28,203			26,505			11,608			13,147		
小浜島																			
竹富島																			
波照間島																			
黒島																			
計		178,865	97.6	1,833	172,651	97.6	1,769	178,242	97.6	1,826	209,946	97.6	2,151	137,431	97.6	1,408	157,743	97.6	1,616

出典：竹富町役場

(3) 野菜

□八重山地域の野菜生産は、平成５(1993)年のウリミバエ根絶を契機に、温暖な気候特性を活かした冬春期の県外出荷を中心に進展してきた。近年はオクラ、カボチャ、ゴーヤー、サヤインゲンの４品目を中心に県外出荷が行われており、令和５(2023)年度のJAおきなわ八重山地区営農振興センター管内の上記４品目の出荷は約272t、188,146千円となっている。平成18(2006)年に石垣市のオクラが、平成26(2014)年に本町のカボチャが拠点産地に認定され、平成25(2013)年に設立・再編された石垣市及び本町の園芸作物等産地協議会を中心に、生産性の向上と八重山ブランドの確立に向けた取り組みを行っている。

□一方で平成23(2011)年にはJAファーマーズマーケット「ゆらてぃく市場」が開設され、島内でもより新鮮で多様な野菜の生産と供給が可能になった。令和５(2023)年度の野菜類の委託販売額は197,354千円で、地産地消の推進と地域経済の活性化に大きく寄与している。

□本町の野菜生産では、カボチャが県の拠点産地に認定されており、一大産地となっている。


オクラ


カボチャ


ゴーヤー


サヤインゲン

令和５(2023)年産主要県外出荷品目の栽培面積と出荷量

品　目	オクラ	カボチャ		ゴーヤー	サヤインゲン
産　地	石垣市	石垣市	竹富町	石垣市	石垣市
栽培面積(ha)	9.6	8.5	10.0	2.4	0.3
出荷量(t)	61.4	57.6	119.8	29.5	3.4

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

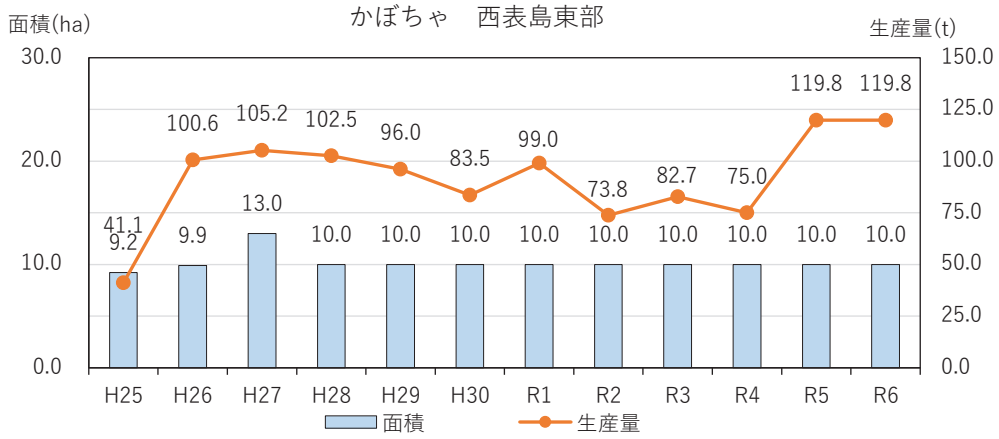
※JAおきなわ八重山地区営農振興センター取扱量(R5.4～R6.3)で、カボチャはR6.1～R6.6

【各島の状況】

□西表島東部ではかぼちゃが栽培されている。

□かぼちゃの作付面積は、近年一定に推移しており、生産量は多少の増減はあるものの、概ね一定に推移している。

西表島東部のかぼちゃ



年　度	かぼちゃ		
	生産量 (t)	面積 (ha)	単収 (t/10a)
平成25年	41.1	9.2	0.9
平成26年	100.6	9.9	1.0
平成27年	105.2	13.0	1.0
平成28年	102.5	10.0	1.0
平成29年	96.0	10.0	1.0
平成30年	83.5	10.0	0.8
令和元年	99.0	10.0	0.9
令和２年	73.8	10.0	0.7
令和３年	82.7	10.0	0.8
令和４年	75.0	10.0	0.7
令和５年	119.8	10.0	1.1
令和６年	119.8	10.0	1.1

出典：竹富町役場

（4）果樹

□八重山地域では、主要品目のマンゴーはリース事業の導入等で栽培面積が増加傾向にあり、令和４(2022)年は結果樹面積28ha、収穫量208ｔとなっている。その多くが個撰個販で、樹上完熟させた高品質の果実を宅配便等を使用し、消費者に直接届けている。平成20(2008)年に発足した八重山マンゴー研究会では、技術向上のための勉強会が定期的に実施され、収量や品質が向上してきている。平成25(2013)年にはJAマンゴー部会も設立され、全員がエコファーマー認定を受けるなど独自の取組を進めている。他にもバナナやパパイヤをはじめ多様な熱帯果樹が栽培されているが、生産量は多くない。



マンゴー栽培状況

八重山圏域主要果樹（パインアップルを除く）の生産の推移

単位：ha、ｔ

	バナナ			パパイヤ			マンゴー		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成30年	6	38	38	1	5	5	26	153	153
令和元年	6	41	41	1	6	6	31	180	179
令和２年	6	41	41	1	6	6	28	196	196
令和３年	1	51	51	1	22	22	32	257	257
令和４年	2	50	50	1	17	17	27	208	208

	ドラゴンフルーツ			パッションフルーツ		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成30年	2	28	28	3	11	11
令和元年	2	29	29	3	11	11
令和２年	2	29	29	3	11	11
令和３年	0	5	5	0	9	9
令和４年	1	4	4	1	8	8

※「沖縄県の園芸・流通」沖縄県農林水産部　令和6年3月

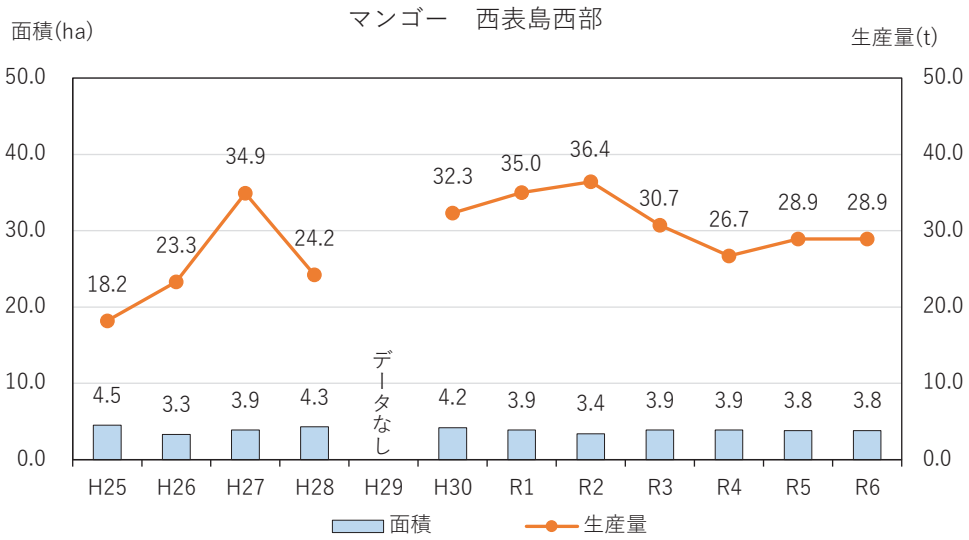
出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

【各島の状況】

□主に、西表島では西部のみでマンゴーが栽培されている。

□作付面積は概ね一定に推移しており、生産量は減少傾向にある。

西表島西部のマンゴー



年　度	マンゴー		
	生産量 (t)	面積 (ha)	単収 (t/10a)
平成25年	18.2	4.5	0.7
平成26年	23.3	3.3	0.7
平成27年	34.9	3.9	0.7
平成28年	24.2	4.3	0.7
平成29年	データなし		
平成30年	32.3	4.2	0.7
令和元年	35.0	3.9	0.7
令和２年	36.4	3.4	0.7
令和３年	30.7	3.9	0.7
令和４年	26.7	3.9	0.7
令和５年	28.9	3.8	0.7
令和６年	28.9	3.8	0.7

出典：竹富町役場

(5) パインアップル

□八重山産(主に石垣島、西表島)パインアップルは加工場閉鎖により一時衰退傾向にあったが、近年は生食用パインアップルの需要の高まりから栽培面積、出荷量ともに増加しており、平成26(2014)年以降は３千ｔを上回っている。

□県内生産に占める八重山産の割合は、収穫面積で41.2%、出荷量で46.2%であり、その大半が生食向けである。その割合は沖縄本島では71.6%であるのに対し、八重山では94.6%となっている。

□栽培品種はボゴール、ソフトタッチ、ハワイ種(N67-10等)が主であるが、新品種のジュリオスターやゴールドバレル、沖農P17(商標名サンドルチェ)、沖農P19(商標名ホワイトココ)の種苗も徐々に供給が進み、品種構成が多様化している。

□本町はパインアップル(生食用)が拠点産地に認定されている。

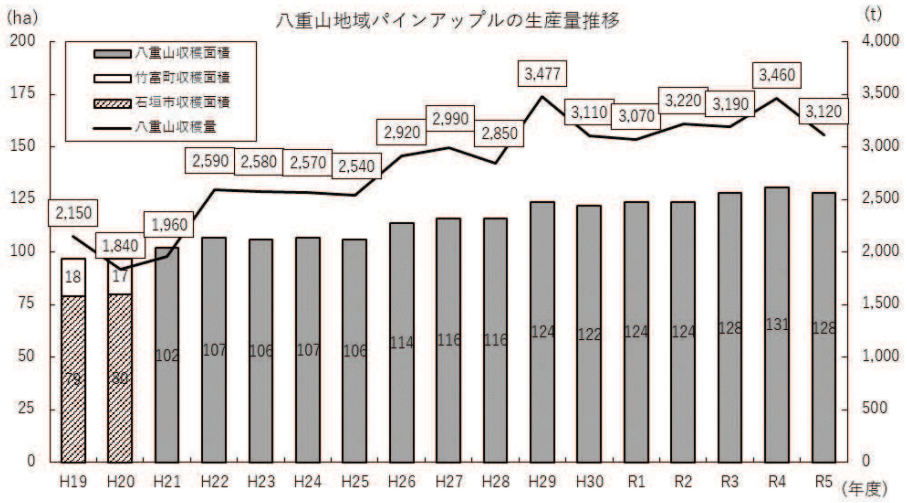
令和５(2023)年産パインアップル生産状況

	収穫面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	出荷量(t) 計	生食向け	加工向け
県計	311	2,170	6,750	6,550	4,690	1,860
沖縄本島	181	1,980	3,580	3,530	1,830	1,700
八重山	128	2,440	3,120	2,990	2,830	157
	(41.2)		*(46.2)*	*(45.6)*	*(60.3)*	*(8.4)*

出典：作物統計調査（令和６年８月）

注：(斜体)は県計に占める割合

八重山地域パインアップルの生産量推移



出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」
作物統計調査（R5.8）

注：平成21(2009)年産以降、市町村別は公表されていない

パインアップル主要品種の特徴



資料提供：農業研究センター石垣支所

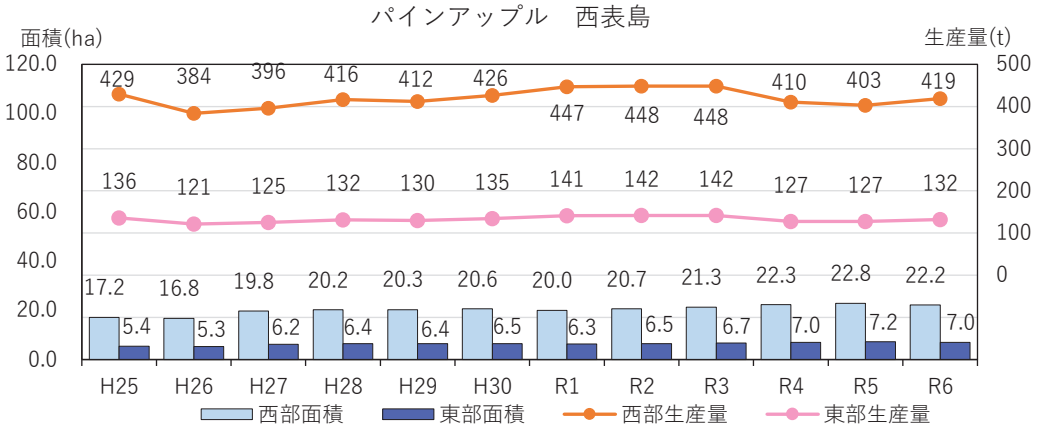
出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

【各島の状況】

□パインアップルは、主に西表島で栽培されており、約８割(76%)が西部で、残り(24%)が東部で生産されている。

□近年、作付面積は増加傾向、生産量は概ね一定に推移している。

西表島のパインアップル



パインアップル

年　度	(西表島)西部		
	生産量(t)	面積(ha)	単収(t/10a)
平成25年	429	17.2	2.5
平成26年	384	16.8	2.5
平成27年	396	19.8	2.5
平成28年	416	20.2	2.5
平成29年	412	20.3	2.0
平成30年	426	20.6	2.1
令和元年	447	20.0	2.2
令和２年	448	20.7	2.1
令和３年	448	21.3	2.2
令和４年	410	22.3	2.2
令和５年	403	22.8	1.7
令和６年	419	22.2	1.8

年　度	(西表島)東部		
	生産量(t)	面積(ha)	単収(t/10a)
平成25年	136	5.4	2.5
平成26年	121	5.3	2.5
平成27年	125	6.2	2.5
平成28年	132	6.4	2.5
平成29年	130	6.4	2.0
平成30年	135	6.5	2.1
令和元年	141	6.3	2.2
令和２年	142	6.5	2.1
令和３年	142	6.7	2.2
令和４年	127	7.0	2.2
令和５年	127	7.2	1.7
令和６年	132	7.0	1.8

出典：竹富町役場

（6）花き

□八重山地域の花き生産は、温暖な気候を活かし、レッドジンジャー、ヘリコニア、洋ラン、切葉類等の夏季県外出荷品目を中心に取り組まれている。令和２(2020)年の花き栽培面積は10.9haで、切り花類の出荷数量が60.1万本であり、出荷数量は前年よりも減少した。

□石垣市はヘリコニア、レッドジンジャーの県内有数の産地であり、平成19年に拠点産地に認定された。品質の高さは市場からも高い評価を得ている。洋ランは、デンファレを中心とした施設栽培が行われ、島内需要も高い。

□平成25(2013)年3月の新石垣空港の開港に伴い、「南国の花でいっぱいの石垣島」を観光客へＰＲしている。

□本町では、花卉(ドラセナ類)の生産が行われており、令和４(2022)年の作付面積は96a、出荷数量は1万8千本、出荷額は180万円である(１経営体)。

八重山地域花き類生産実績の推移

単位：a、千本、千円

種類名	平成30年産			令和元年産			令和２年産			令和３年産			令和４年産		
	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額
デンファレ	95	46	2,162	125	17	1,700	125	16	1,550	50	20	1,100	56	14	3,714
その他洋ラン	0	0	0	0	0	0	10	2	20	0	0	0	0	0	0
洋ラン類小計	**95**	**46**	**2,162**	**125**	**17**	**1,700**	**135**	**18**	**1,570**	**50**	**20**	**1,100**	**56**	**14**	**3,714**
ストレリチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘリコニア	447	852	25,756	194	297	9,263	206	252	7,099	207	64	1,918	150	12	2,012
レッドジンジャー類	387	311	21,535	465	160	15,853	440	124	13,553	285	220	14,944	290	73	5,704
ウイキョウ	26	30	1,567	47	27	1,731	47	24	1,500	15	1	400	0	0	0
一年草・多年草小計	**860**	**1,193**	**48,858**	**706**	**484**	**26,847**	**693**	**400**	**22,152**	**507**	**285**	**17,262**	**440**	**85**	**7,716**
アレカヤシ	40	22	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドラセナ類	132	176	7,511	111	129	5,894	182	123	5,884	206	216	16,980	116	79	5,047
タニワタリ	12	9	154	7	9	405	7	8	351	0	0	0	0	0	0
セローム・クッカバラ	0	0	0	10	1	25	10	1	25	0	0	0	0	0	0
オクラレルカ	1	1	20	0	1	12	0	1	12	0	0	0	0	0	0
糸芭蕉	26	5	164	5	2	167	5	2	167	0	0	0	0	0	0
その他葉もの	62	53	961	105	66	3,657	80	51	2,568	0	0	0	1	3	1,299
葉もの小計	**273**	**266**	**8,885**	**238**	**208**	**10,160**	**284**	**186**	**9,007**	**206**	**216**	**16,980**	**117**	**82**	**6,346**
クルクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アマゾンリリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
球根切花類小計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
その他切花類小計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
①切花類　計	**1,228**	**1,505**	**59,905**	**1,069**	**709**	**38,707**	**1,112**	**604**	**32,729**	**763**	**521**	**35,342**	**613**	**181**	**17,776**
②鉢物類計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
計（①+②）	**1,228**	**1,505**	**59,905**	**1,069**	**709**	**38,707**	**1,112**	**604**	**32,729**	**763**	**521**	**35,342**	**613**	**181**	**17,776**

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」
「沖縄県の園芸・流通」　沖縄県農林水産部　令和7(2025)年3月
注：石垣市と竹富町の合計値



ヘリコニア栽培状況





レッドジンジャー栽培状況

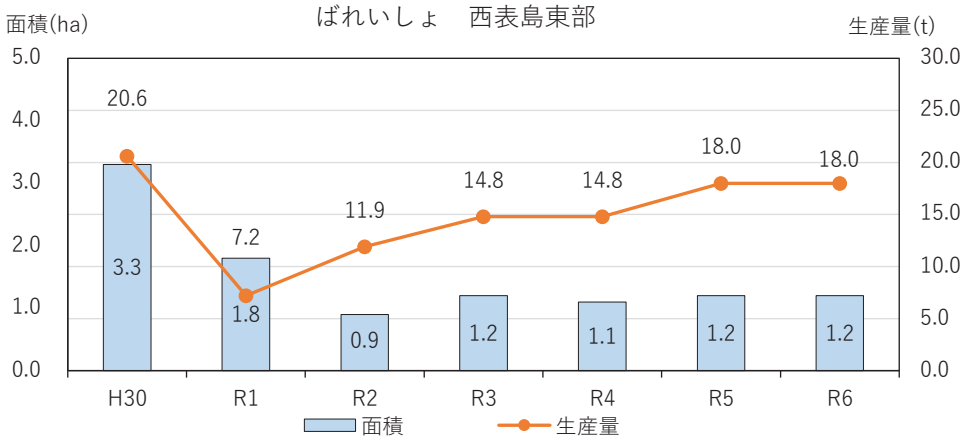
（7）ばれいしょ・かんしょ

①ばれいしょ

□ばれいしょは、西表島東部で栽培されている。

□西表島東部のばれいしょの作付面積は令和２(2020)年までは減少していたが、令和３(2021)年以降増加に転じている。生産量は令和２(2020)年以降、概ね一定に推移している。

西表島東部のばれいしょ



年　度	ばれいしょ		
	生産量 (t)	面積 (ha)	単収 (t/10a)
平成30年	20.6	3.3	0.6
令和元年	7.2	1.8	0.3
令和２年	11.9	0.9	0.9
令和３年	14.8	1.2	1.2
令和４年	14.8	1.1	1.3
令和５年	18.0	1.2	1.5
令和６年	18.0	1.2	1.5

出典：竹富町役場

②かんしょ

□石垣市では、平成19(2007)年に石垣市かんしょ産地協議会が発足し、石垣島かんしょ生産組合を中心に生産者の組織強化や品種の選定などが取り組まれた。

□平成29(2017)年３月に生産組合が石垣市かんしょ生産組合として再結成され、同年５月に石垣市は県奨励品種の紅イモ「沖夢紫」等のかんしょを対象品目とした拠点産地に認定された。平成29(2017)年８月に民間企業の新加工施設が整備され現在まで生産が拡大していた。しかしながら、新型コロナウイルスの影響による観光客の減少に伴い、加工品販売が激減した。

□作付面積が調整され、令和５(2023)年度は栽培面積7.6ha(対前年比78%)、収穫量135t(対前年比250%)と増加し、単収は1.8ｔ/10ａとなった。今後は改めて生産拡大が見込まれる。

□本町においては、かんしょの生産を行っていないが、農家が今後栽培してみたい作物としてあげられた。



かんしょ「沖夢紫」の栽培状況と収穫イモの様子

石垣市かんしょ生産実績の推移

項　目	平成29年	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
栽培面積(ha)	12.0	17.5	27.9	32.3	8.0	9.7	7.6
生産量(t)	121	199	306	402	64	53.6	135
単収(t/10a)	1.01	1.14	1.10	1.20	0.80	0.55	1.77

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

(8) 畜産

□八重山地域の畜産は、恵まれた亜熱帯気候と広大な草地面積の確保により、農業算出額の約60％を占める基幹産業として順調に発展している。

特に肉用牛は国内外からの旺盛な食肉需要を反映して産出額が好調に推移している。石垣牛は観光客への人気も高く、令和５(2023)年度のJA石垣牛販売実績は800頭、約12億円であった。令和３(2021)年３月に(株)八重山食肉センターは、牛と畜解体、内臓処理、部分肉加工の部門で製品の安全性を確保する管理手法HACCPの認証を受けており、今後も海外輸出向けHACCP等の認定・認証取得を目指している。令和５(2023)年３月にタイ王国に約100kgの「石垣牛」が出荷されたが、牛肉の海外輸出は県内肉食処理業者としては初めてのことである。

□令和５(2023)年の沖縄県の農業産出額は879億円となっており、うち畜産部門は393億円で約45％を占めている。畜産部門は前年に比べ19億円増加しており、特に肉用牛における子牛価格の低迷が影響している。畜産部門の構成比は、肉用牛41％(160億円)、豚31％(120億円)、その他畜産28％(113億円)となっている。

□肉用牛の流通面においては、指定市場の八重山家畜市場(石垣市)と黒島家畜市場(竹富町黒島)の２市場で生体取引が行われ、取引される子牛は九州地方を中心に県外へと移出されている。

令和５(2023)年度の取引実績は八重山家畜市場が8,988頭、黒島家畜市場が1,074頭であった。八重山地域で生産される牛は、粗飼料の利用性や発育性に優れ、今日の和牛に求められている高い産肉能力と良好な肉質を兼ね備えた肥育素牛として高く評価されている。

□当地域には多くの未利用地・低利用地があったことから、昭和51(1976)年から大型畜産基地建設事業が実施され大規模な草地基盤の整備が図られてきた。平成５(1993)年度から21(2009)年度まで畜産基盤再編総合整備事業(旧公社営畜産基地建設事業)を実施した。

また、平成25(2013)年度から28(2016)年度まで畜産担い手育成総合整備事業の「やいま地区(石垣市)」において新たに100頭規模の肥育牛舎等を整備した。さらに本町において、平成29(2017)年度から「サミン地区」、平成30(2018)年度から「美ら島地区」が事業開始し、令和４(2022)年度に事業完了している。現在、令和４(2022)年度から「石垣北部地区(石垣市)」が開始され、４年計画で整備する。

□家畜防疫衛生については、管内では法定伝染病である牛バベシア病を媒介するオウシマダニが過去、広域に生息しており、肉用牛振興の大きな生産阻害要因となっていた。そのため昭和46(1971)年以降、国庫補助による沖縄牧

野ダニ撲滅対策事業等の長期かつ大規模な防除対策が展開され、平成8(1996)年には悲願であったオウシマダニの完全撲滅が達成された。その成果として、肉用牛の飼養頭数は右肩上がりに増頭に転じ、県内一の肥育素牛供給産地となった。

また、令和２(2020)年１月、本島中部にて県内33年ぶりとなる豚熱が発生し、令和４(2022)年12月には、本島北部にて県内で初めてとなる高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。豚熱については、続発により７例の発生と関連施設10農場で防疫措置が実施され、12,381頭が殺処分される事態となった。特定家畜伝染病である口蹄疫や豚熱・アフリカ豚熱は、近隣諸国で散発的な発生が確認されており、これらの発生国からのクルーズ船や定期便、チャーター便は、現在、世界的な新型コロナ感染症の拡大を受け寄港が停止しているものの、その再開にあたっては家畜伝染病の侵入リスクが高まることから、引き続き初動対応も含めた危機管理体制を強化する

□豚熱ワクチン未接種地域の離島においては、本島からの豚導入が不可能となり、県外からの導入コストが課題となっていたが、令和５(2023)年８月の佐賀県での豚熱発生を受け、令和６(2024)年２月より本県離島地域においても豚熱ワクチン接種が開始されており、豚熱予防と種豚流通対策の強化が期待される。

□沖縄県畜産振興対策事業(乳業施設高度化整備事業)によって整備された石垣市生乳処理加工施設(愛称：石垣市みるくセンター)が令和４(2022)年８月より本格稼働した。当施設は、八重山地域に安心・安全な牛乳・乳製品及び学校給食用牛乳の安定供給を図ることを目的に整備され、生乳生産業者及び乳製品製造業者の４社で構成される石垣島乳業協業組合が協同利用している。

□八重山地区での令和５(2023)年度の県種雄牛人工授精用凍結精液の払い下げ本数は、11,405本で多くの八重山地域の子牛の種牛として使用されている。今後も県種雄牛の凍結精液を使った優良な子牛、枝肉の生産が期待される。

今後期待される県種雄牛（畜産研究センター）



名号「美百合」（父：百合白清２）
推定育種価の脂肪交雑でH評価かつ枝肉重量、ロース芯、バラ厚、歩留でA評価を記録。
気高系統



名号「百合安清」（父：百合白清２）
質量兼備で脂肪交雑、枝肉重量、ロース芯、脂肪の質が優秀
気高系統



名号「白鶴波」（父：福福波）
「福福波」の後継牛でゲノム育種価が優れており、次世代の本県を代表する種雄牛として期待される。
糸桜系統



名号「幸紀照重」（竹富島産・父：幸紀雄）
推定育種価の脂肪交雑でH評価、資質に優れた種雄牛
気高系統



名号「令鵬」（父：百合白清2）
令和６年度新規選抜種雄牛で、現場検定にて歴代成績最高のBMS平均「10.16」を記録。
気高系統



名号「白鶴桜」（父：美国桜）
令和６年度新規選抜種雄牛で、体型審査で「85.5」と高い評価を獲得。
糸桜系統

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

令和５(2023)年末 主要家畜の飼養状況

単位：戸、頭、羽、群

地域別＼項目	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山羊		みつばち	
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数
県計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2,140	72,231	59	6,813	201	193,756	293	1,306,368	21	464,459	119	537	1,104	9,493	968	23,919
八重山計	31.4%	42.3%	11.9%	3.1%	7.0%	0.6%	17.7%	2.8%	4.8%	0.2%	58.8%	57.0%	18.8%	20.9%	5.3%	3.6%
	672	30,554	7	211	14	1,157	52	37,124	1	800	70	306	208	1,984	51	871
石垣市	511	23,943	6	210	11	1,127	21	36,590	1	800	24	103	105	1,265	42	788
竹富町	126	5,787	1	1	2	22	26	259	0	0	14	22	83	613	8	68
与那国町	35	824	0	0	1	8	5	275	0	0	32	181	20	106	1	15
宮古	28.6%	16.8%	1.7%	0.1%	6.5%	0.4%	2.7%	2.4%	0.0%	0.0%	5.9%	10.1%	16.2%	17.3%	6.8%	3.7%
	611	12,113	1	4	13	752	8	31,388	0	0	7	54	179	1,643	66	891
本島 中南部	25.9%	22.6%	76.3%	42.8%	53.2%	43.8%	45.1%	57.0%	19.0%	0.5%	14.3%	16.9%	33.8%	35.2%	39.8%	36.5%
	554	16,297	45	2,919	107	84,826	132	744,350	4	2,160	17	91	373	3,346	385	8,742
本島 北部	14.2%	18.4%	10.2%	54.0%	33.3%	55.2%	34.5%	37.8%	76.2%	99.4%	21.0%	16.0%	31.2%	26.5%	48.1%	56.1%
	303	13,267	6	3,679	67	107,021	101	493,506	16	461,499	25	86	344	2,520	466	13,415

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

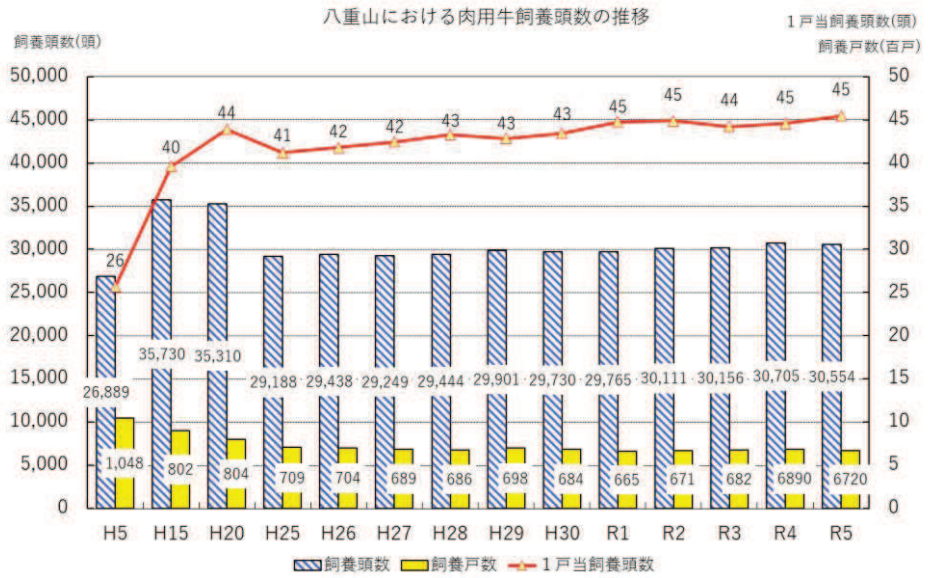
八重山における主要家畜の飼養頭羽数の推移

単位：戸、頭、羽

年度＼項目	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山羊		みつばち	
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数
平成10年度	961	36,140	4	376	18	6,395	45	59,128	-	-	74	391	162	1,177	-	-
平成20年度	804	35,310	7	218	12	3,532	48	55,089	1	800	54	353	118	822	4	35
平成30年度	684	29,730	7	230	16	5,197	43	41,645	3	2,215	52	287	220	1,920	32	371
令和3年度	682	30,156	5	185	16	1,064	61	30,236	2	900	52	349	206	1,966	57	835
令和4年度	689	30,705	7	195	15	1,195	44	30,249	1	800	50	307	213	2,017	48	660
令和5年度	672	30,554	7	211	14	1,157	52	37,124	1	800	70	306	208	1,984	51	871

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

八重山における肉用牛飼養頭数の推移



出典：八重山家畜保健衛生所、令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

肉用牛飼養規模別農家数（令和５（2023）年末）

区分 / 市町名	１頭		２～９頭		１０～１９頭		２０～２９頭		３０～３９頭	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	2	2	95	550	118	1,761	91	2,203	50	1,752
竹富町	0	0	10	53	21	304	27	667	20	680
与那国町	2	2	15	80	6	86	5	130	3	94
合計	4	4	120	683	145	2,151	123	3,000	73	2,526

区分 / 市町名	４０～４９頭		５０～９９頭		１００頭以上		計	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	26	1,154	82	5,632	47	10,848	511	23,902
竹富町	10	449	27	1,896	11	1,738	126	5,787
与那国町	2	90	1	84	1	258	35	824
合計	38	1,693	110	7,612	59	12,844	672	30,513

出典：令和６年(2024)度版「八重山の農林水産業」（肥育用乳用種以外）

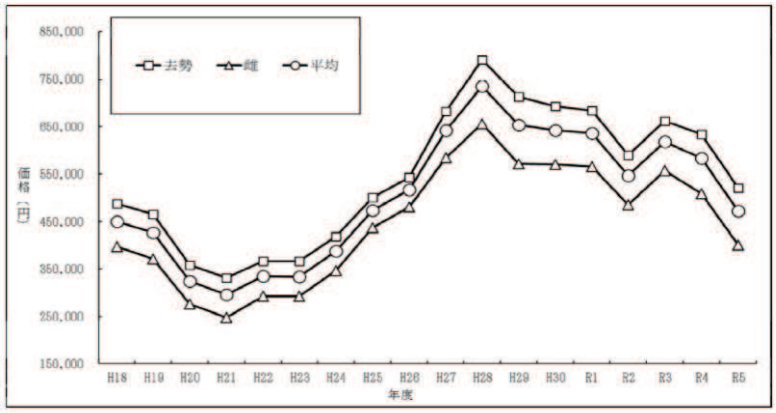
子牛のセリ市場実績（八重山、黒島合計）

項目 / 年度	開場回数	上場頭数	成立頭数		売上金額（千円）	１頭当平均体重（kg）	１頭当平均価格（千円）	生体1kg当単価（円）
			去勢	雌				
平成15年	18	10,560	5,792	4,768	4,085,999	263	387	1,457
平成20年	18	9,604	5,612	3,992	3,081,391	260	321	1,207
平成25年	18	8,979	5,157	3,822	4,251,778	254	474	1,864
平成26年	18	8,750	5,082	3,668	4,525,622	255	517	2,028
平成27年	18	8,862	5,100	3,762	5,410,058	260	610	2,452
平成28年	18	8,848	5,208	3,640	6,509,982	264	736	2,794
平成29年	18	8,990	5,261	3,729	5,866,229	267	653	2,444
平成30年	18	8,848	5,167	3,681	5,677,524	269	642	2,381
令和元年	18	9,089	5,262	3,748	5,718,732	269	629	2,355
令和2年	18	9,216	5,285	3,801	4,954,378	274	545	1,985
令和3年	18	9,430	5,384	3,687	5,607,232	278	618	2,227
令和4年	18	9,249	5,444	3,705	5,294,526	277	579	2,089
令和5年	18	9,291	5,433	3,741	4,329,934	279	472	1,690

※平成10～23までは年次、24以降は年度集計

出典：八重山家畜保健衛生所、令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

八重山家畜市場の子牛価格推移



資料：八重山家畜保健衛生所

※ 平成21年度までは子牛生産拡大奨励事業
平成23年以前は年次、24年以降は年度値
平成30年12月事業終了

出典：令和６(2024)年度版「八重山の農林水産業」

□八重山圏域は畜産が盛んな地域であり、本町では肉用牛が最も多く飼育されている。本町の肉用牛の飼育は、近年は増減を繰り返しており、令和４(2022)年の肉用牛頭数は5,883頭であった。

□本町以外の八重山圏域市町村も肉用牛が最も多く飼育されており、石垣市では他に豚と採卵鶏と山羊が、与那国町では他に採卵鶏と山羊が多く飼育されている。

□沖縄県全体の畜産の中では肉用牛を飼育する農家が最も多く、続いて山羊・採卵鶏・豚・乳用牛の順となっている。八重山圏域での肉用牛の飼養頭数は約３万頭で、県内の約40％を占めており、八重山圏域は沖縄県における肉用牛の主要な産地となっている。

□畜産の中で最も多く飼育されている肉用牛の飼養戸数は、沖縄県・八重山圏域共に増減を繰り返しながら一定数を維持している。肉用牛はおきなわブランドの戦略品目にもなっており、八重山圏域では石垣牛を中心とした肉用牛の生産拡大とブランド化に向けた取組が進められている。

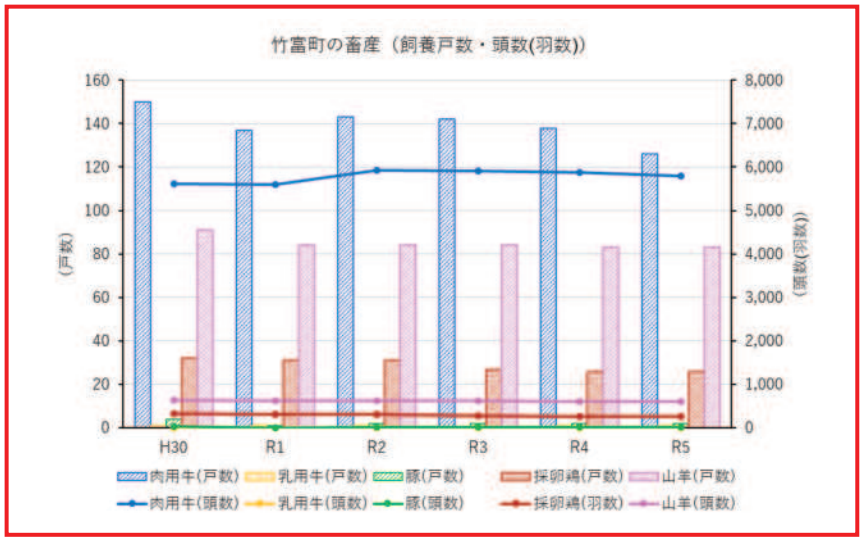
□本町は亜熱帯の自然を活かした周辺放牧や年間をとおして粗飼料の確保が可能であり、肉用牛繁殖経営に適した自然的条件にあることから、県内においても有数な肉用牛の仔牛生産基地として位置付けられている。近年は、和牛改良や飼育技術の向上に著しいものがあり、生産及び販路の確立のための努力が続けられている。

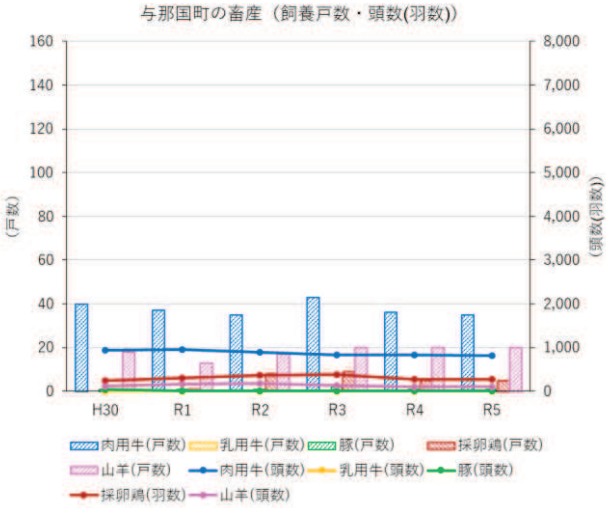
家畜・家きんの飼養戸数及び頭羽数

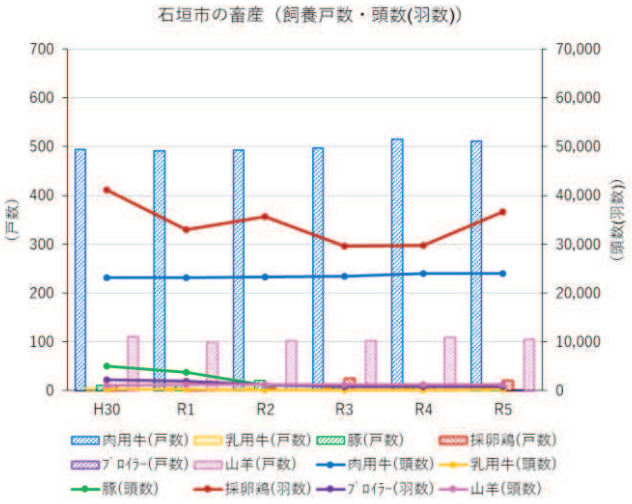
単位：戸、頭、羽

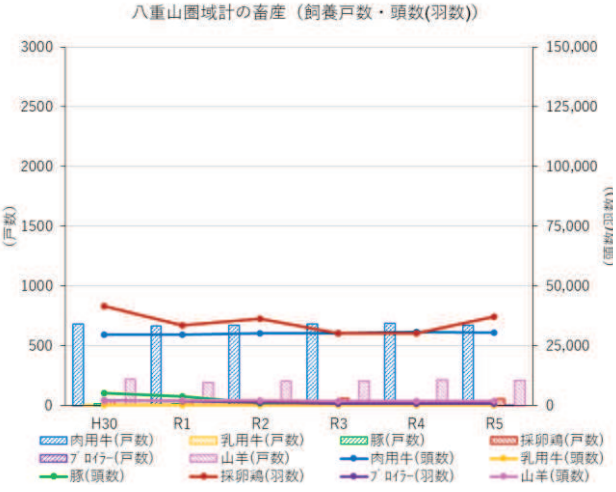
項　目		肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		山羊	
		戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	頭数
竹富町	H30	150	5,613	1	1	4	34	32	320	-	-	91	644
	R1	137	5,593	1	1	1	4	31	315	-	-	84	620
	R2	143	5,932	1	1	2	21	31	315	-	-	84	614
	R3	142	5,917	0	0	2	18	27	283	-	-	84	614
	R4	138	5,883	1	1	2	22	26	259	-	-	83	613
	R5	126	5,787	1	1	2	22	26	259	-	-	83	613
与那国町	H30	40	945	0	0	1	47	1	250	-	-	18	124
	R1	37	962	0	0	1	19	1	300	-	-	13	172
	R2	35	893	0	0	1	9	8	368	-	-	17	181
	R3	43	839	0	0	2	6	9	388	-	-	20	134
	R4	36	838	0	0	1	8	5	275	-	-	20	108
	R5	35	824	0	0	1	8	5	275	-	-	20	106
石垣市	H30	494	23,172	6	229	11	5,116	10	41,075	3	2,215	111	1,152
	R1	491	23,210	5	220	12	3,748	4	33,035	2	2,000	99	1,245
	R2	493	23,286	5	200	21	1,163	6	35,697	2	1,300	103	1,317
	R3	497	23,400	5	185	12	1,040	25	29,565	2	900	102	1,218
	R4	515	23,984	6	194	12	1,165	13	29,715	1	800	110	1,296
	R5	511	23,943	6	210	11	1,127	21	36,590	1	800	105	1,265
八重山圏域計	H30	684	29,730	7	230	16	5,197	43	41,645	3	2,215	220	1,920
	R1	665	29,765	6	221	14	3,771	36	33,650	2	2,000	196	2,037
	R2	671	30,111	6	201	24	1,193	45	36,380	2	1,300	204	2,112
	R3	682	30,156	5	185	16	1,064	61	30,236	2	900	206	1,966
	R4	689	30,705	7	195	15	1,195	44	30,249	1	800	213	2,017
	R5	672	30,554	7	211	14	1,157	52	37,124	1	800	208	1,984
沖縄県	H30	2,384	73,836	66	4,241	273	206,828	297	1,369,045	23	574,261	1,484	12,035
	R1	2,307	73,783	64	4,252	276	218,081	301	1,386,547	21	601,522	1,401	11,703
	R2	2,274	74,257	63	4,231	266	212,359	291	1,375,027	20	459,770	1,368	11,984
	R3	2,263	73,126	61	4,074	231	200,830	286	1,377,869	20	391,873	1,273	10,776
	R4	2,225	73,298	59	3,773	226	193,433	285	1,257,615	20	649,534	1,129	9,964
	R5	2,140	72,231	59	6,813	201	193,756	293	1,306,368	21	464,459	1,104	9,493

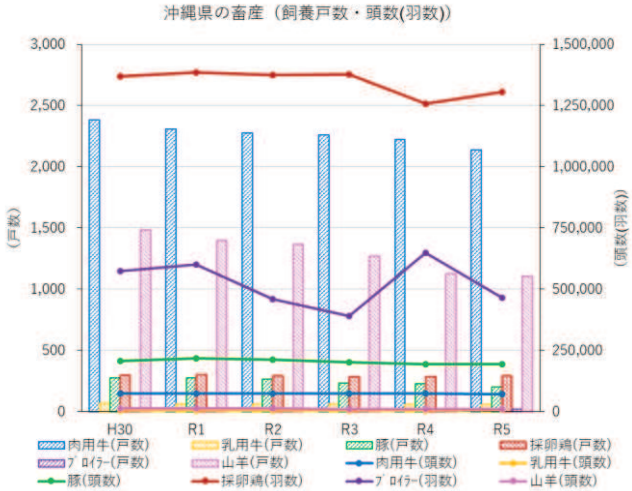
出典：県農林水産部「12月末家畜・家きん等の飼養状況調査」


竹富町の畜産（飼養戸数・頭数(羽数)）
(戸数)
(頭数(羽数))
H30
R1
R2
R3
R4
R5
肉用牛(戸数)
乳用牛(戸数)
豚(戸数)
採卵鶏(戸数)
山羊(戸数)
肉用牛(頭数)
乳用牛(頭数)
豚(頭数)
採卵鶏(羽数)
山羊(頭数)


与那国町の畜産（飼養戸数・頭数(羽数)）
(戸数)
(頭数(羽数))
H30
R1
R2
R3
R4
R5
肉用牛(戸数)
乳用牛(戸数)
豚(戸数)
採卵鶏(戸数)
山羊(戸数)
肉用牛(頭数)
乳用牛(頭数)
豚(頭数)
採卵鶏(羽数)
山羊(頭数)


石垣市の畜産（飼養戸数・頭数(羽数)）
(戸数)
(頭数(羽数))
H30
R1
R2
R3
R4
R5
肉用牛(戸数)
乳用牛(戸数)
豚(戸数)
採卵鶏(戸数)
ﾌﾞﾛｲﾗｰ(戸数)
山羊(戸数)
肉用牛(頭数)
乳用牛(頭数)
豚(頭数)
採卵鶏(羽数)
ﾌﾞﾛｲﾗｰ(羽数)
山羊(頭数)


八重山圏域計の畜産（飼養戸数・頭数(羽数)）
(戸数)
(頭数(羽数))
H30
R1
R2
R3
R4
R5
肉用牛(戸数)
乳用牛(戸数)
豚(戸数)
採卵鶏(戸数)
ﾌﾞﾛｲﾗｰ(戸数)
山羊(戸数)
肉用牛(頭数)
乳用牛(頭数)
豚(頭数)
採卵鶏(羽数)
ﾌﾞﾛｲﾗｰ(羽数)
山羊(頭数)


沖縄県の畜産（飼養戸数・頭数(羽数)）
(戸数)
(頭数(羽数))
H30
R1
R2
R3
R4
R5
肉用牛(戸数)
乳用牛(戸数)
豚(戸数)
採卵鶏(戸数)
ﾌﾞﾛｲﾗｰ(戸数)
山羊(戸数)
肉用牛(頭数)
乳用牛(頭数)
豚(頭数)
採卵鶏(羽数)
ﾌﾞﾛｲﾗｰ(羽数)
山羊(頭数)

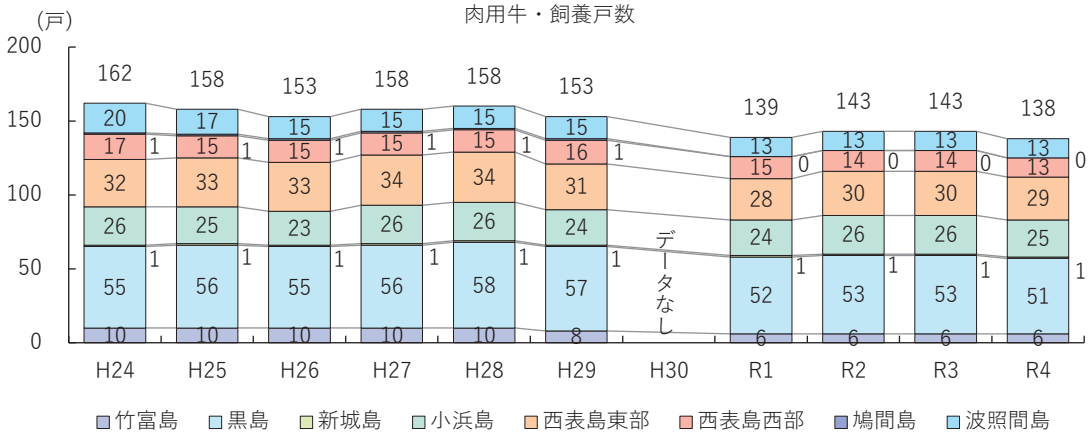
【各島の状況】

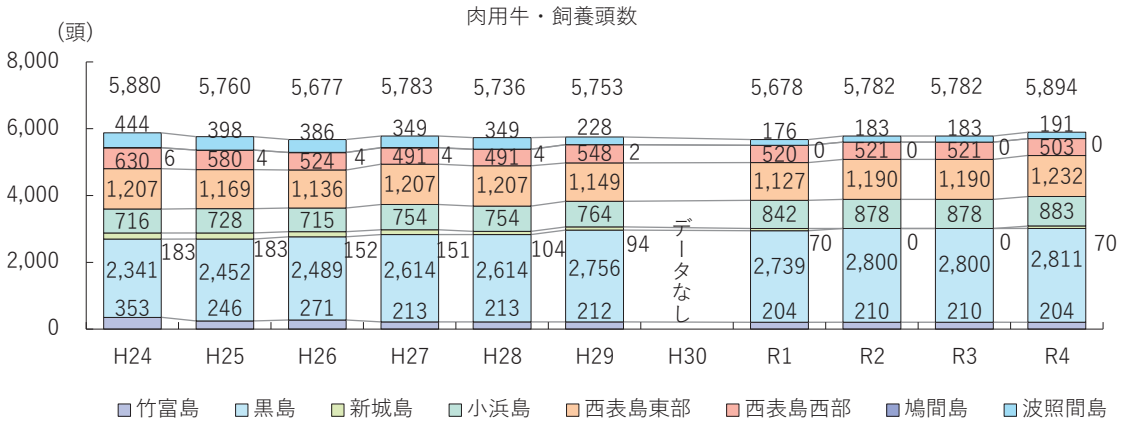
□肉用牛の飼養頭数は黒島が約半数を占めている。

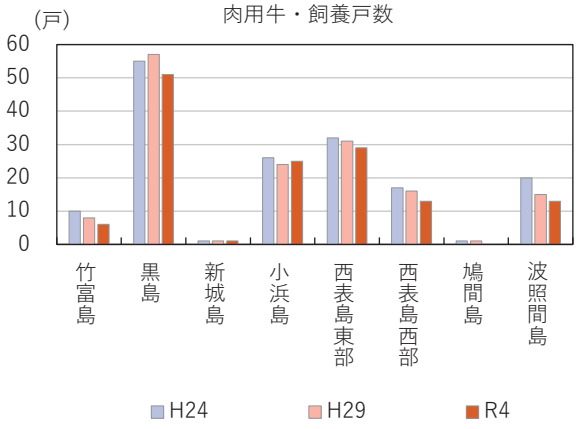
□採卵鶏の飼養は西表島が主である。

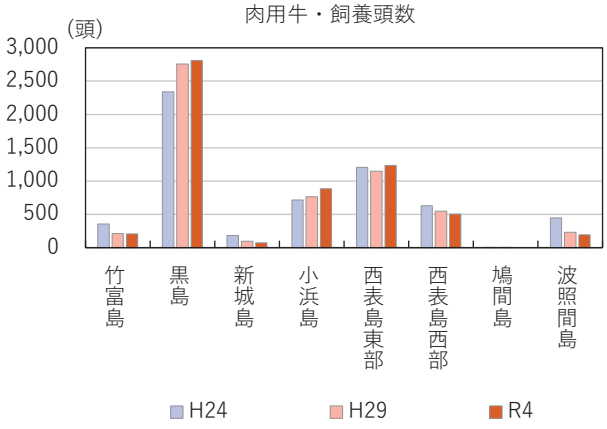
□山羊の飼養戸数、飼養頭数について、近年の変化はなく、波照間島での飼養頭数が多い。

島別の家畜（肉用牛）



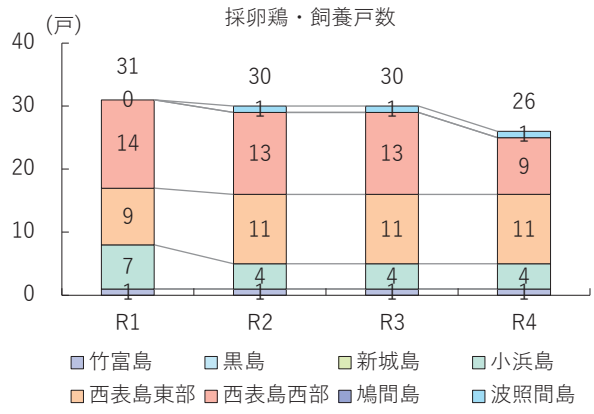


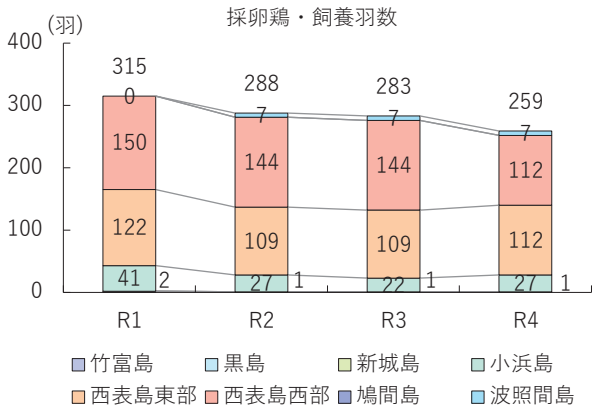


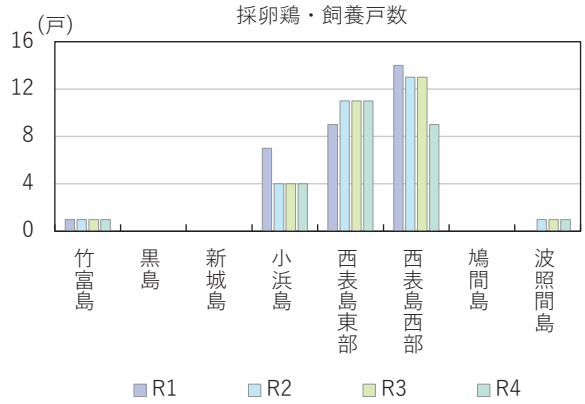


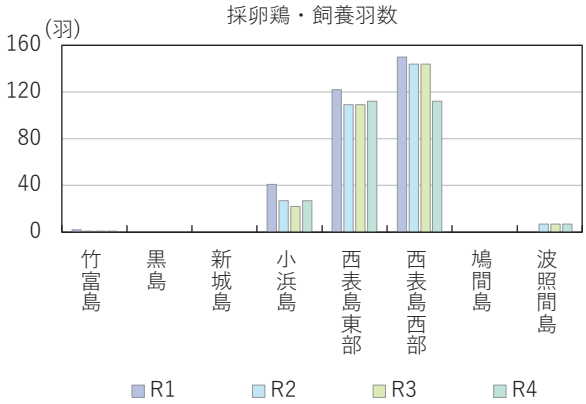
出典：竹富町役場

島別の家畜（採卵鶏）



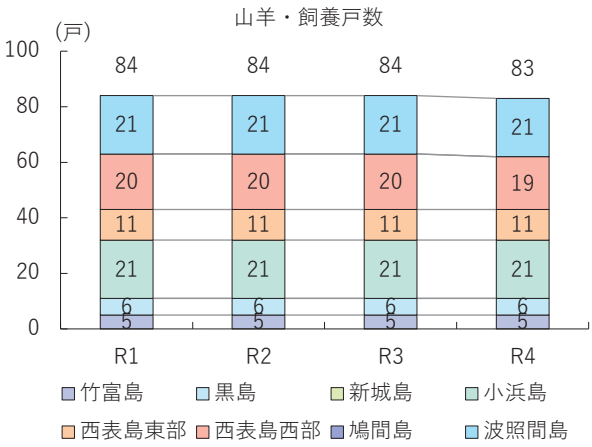


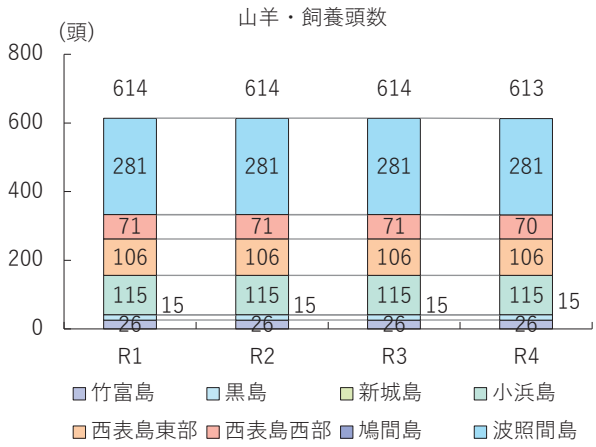


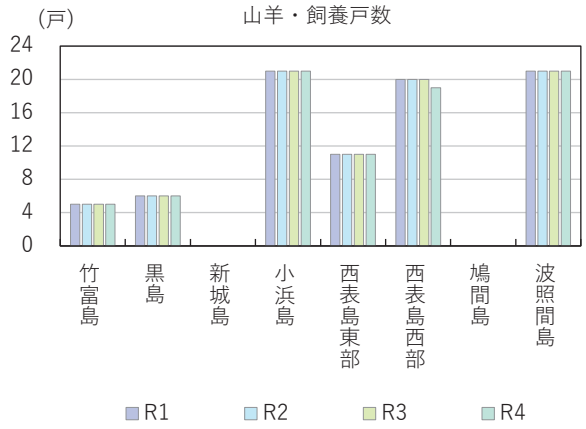


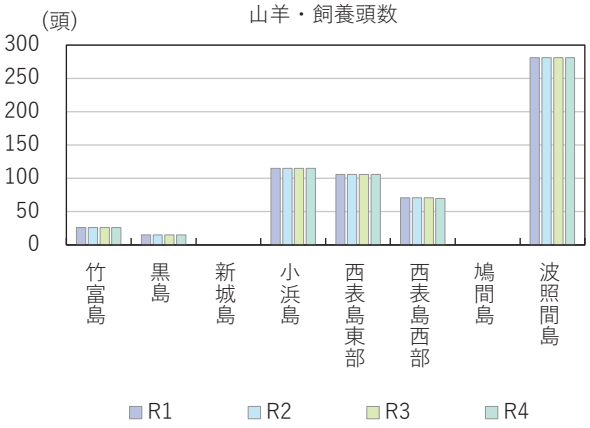
出典：竹富町役場

島別の家畜（山羊）









出典：竹富町役場

第４章　将来ビジョンと基本方針の設定

１．検討体制

□長期営農計画の策定は、本町の農業が抱える課題の整理と将来ビジョンや基本方針に基づく解決策について、農家やJA等の意向も踏まえ、関係者間が意見交換する作業部会を構成し、委員会で審議するボトムアップ形式で行った。

□農家の意見については、地域計画との連携を図り、地域座談会で収集した。

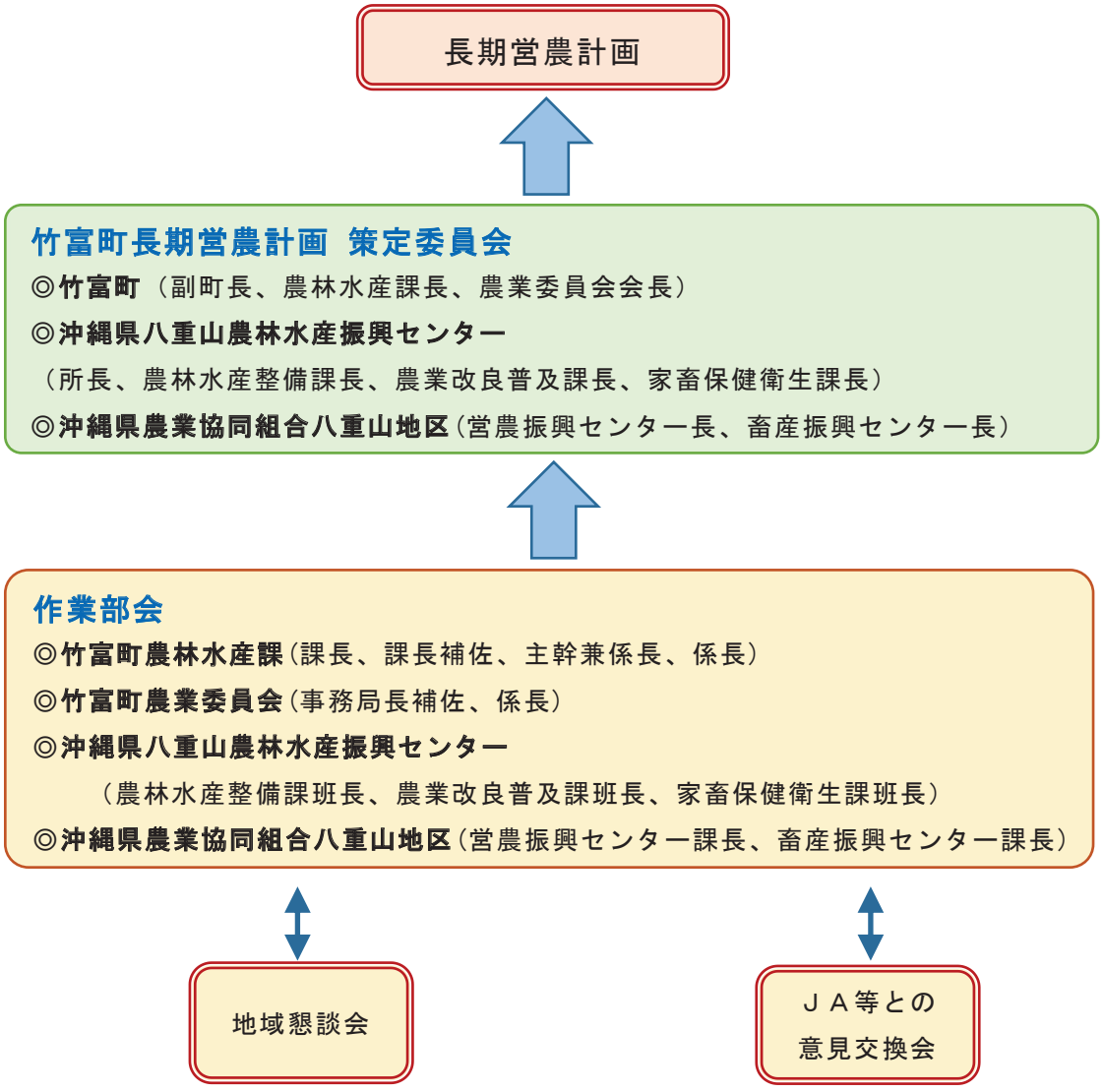


図　検討体制

表　長期営農計画の検討状況

日　程	委員会等	概　要
令和５年12月～ 令和６年２月	第１回地域座談会	□農家の意見収集(営農の現状・課題・将来のやりたいこと):小浜島、波照間島、西表島西部・東部、黒島、竹富島
令和６年10月１日(火)	第１回策定委員会 第１回作業部会	□顔合わせ、長期営農計画策定スケジュール等
令和７年１月15日(水)	第２回作業部会	□各地区の課題と農業振興の方向性 □「農業経営に関する今後の意向」、「地域計画」策定に向けたアンケート結果について
令和７年２月５日(水)	第２回策定委員会	□各地区の課題と農業振興の方向性 □戦略品目(案)について
令和７年３月７日(金)	第３回作業部会	□戦略品目の精査 □具体的な施策に対する修正案の報告 □経営計画案の報告
令和７年１月～３月	第２回地域座談会	□農家の意見収集(戦略品目、将来像について):小浜島、波照間島、西表島西部・東部、黒島、竹富島
令和７年３月26日(水)	第３回策定委員会	□戦略品目について □具体的な施策に対する修正案の報告
令和７年６月４日(水)	第４回作業部会	□土壌と戦略品目の精査 □経営計画案について □具体的な施策に対する目標値の決定に向けた意見交換
令和７年６月27日(金)	第４回策定委員会	□土壌と戦略品目の精査 □経営計画案について □長期営農計画(案)について

２．本町の営農の課題

□本町の特徴は、県下一の広大な面積を有する島嶼の町である。各島で異なった自然特性を有し、固有の地域社会が形成されており、人口の増減傾向や農業及び観光等の産業構造も異なる。そのため、営農の課題を検討するにあたり、各島の特徴を整理した。

□以下に、各島の特徴と課題について整理した結果を示す。

2.1 小浜島

①伝統文化が受け継がれているとともに、リゾートとの融合を図った活気ある農業の確立が可能な島

■小浜島は、八重山諸島唯一のゴルフ場があり、大型リゾートホテルも有する観光業も盛んな島である。

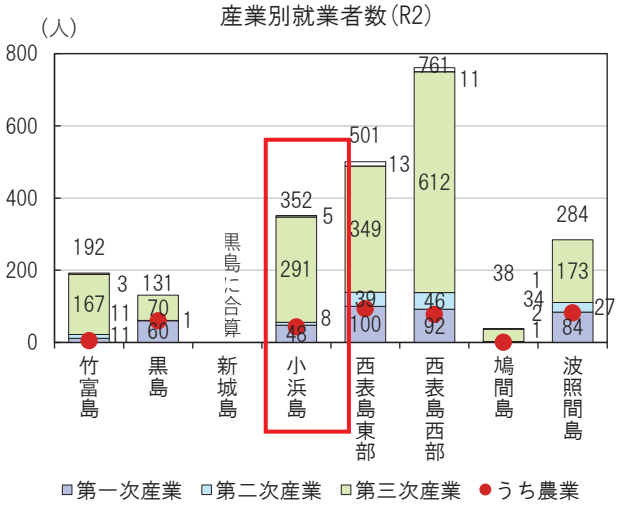


図　令和２(2020)年における産業別就業人口

資料：国勢調査



図　小浜島全体図

資料：竹富島町役場ホームページ

■島内の人口は増加傾向であり、今後の予測は、他の島で大幅な減少傾向を示すなか、小浜島は微増傾向である。西表島に次いで人口が多い。

■平成17(2005)年から令和２(2020)年の農家数は半減しているが、主業農家の減少率は低く、やる気のある地元の若い担い手がいる。

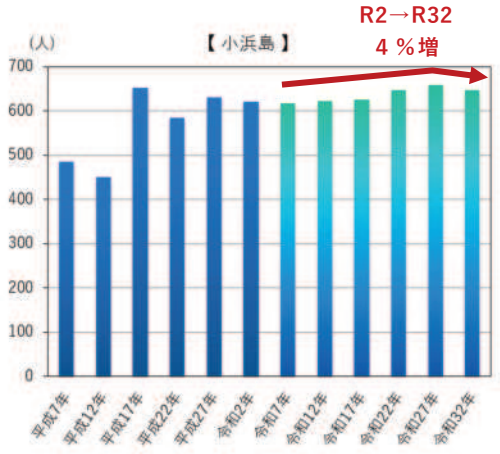


図　島ごとの人口推計

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所
都市研究部

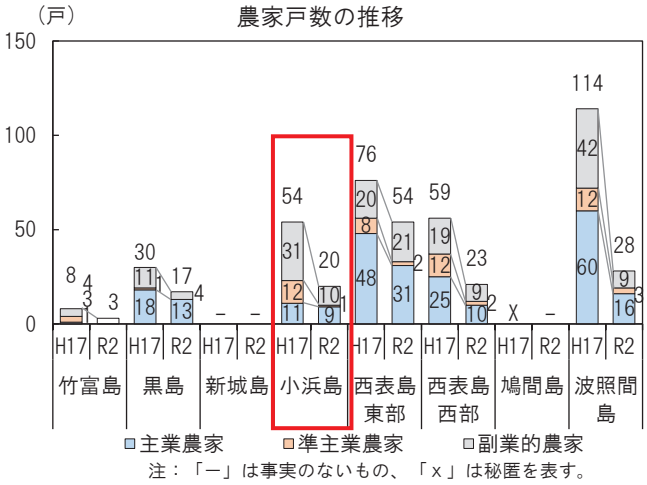


図　平成 17(2005)年と令和２(2020)年における農家戸数(販売農家)の推移

資料：農林業センサス







写真　30 歳という若さで農業生産法人小浜島ファームの代表を務める大久勇真さんの記事

資料：竹富町役場　自然観光課

❶小浜島の人口は増加傾向であり、島を守っていきたいと思う若手がおり、農業も活発に行われている。一方で、リゾートホテルやゴルフ場もあり、観光業にも力を入れている。農業×観光業[観光と農業の掛け合わせ]を図り、活気ある農業の確立が可能である島である。

➡そのため、地域の担い手への将来を見据えた農業経営支援ややる気のある担い手を中心に新たな新規営農者の確保・育成を行っていくことが必要である。

②製糖工場などの施設、基盤整備が実施されており、安定的な農業生産が行われている

■小浜島の土壌は、国頭マージが大部分を占め、主にさとうきび、肉用牛の生産が行われている。畑面積236ha、田面積53ha、採草放牧地72haである。

■令和４(2022)年の肉用牛の飼養頭数は883頭で、平成24(2012)年以降増加傾向である。

■含密糖生産地域で、島内に含密糖工場(JA小浜製糖工場)が処理能力50t/日で操業している。

■団体営土地改良総合整備事業(テンナ(昭和51[1976]～55[1980]年):42.8ha)、農村基盤総合整備事業(小浜(昭和53[1978]～62[1987]年):34.4ha)、県営畑地帯総合土地改良事業(大岳(昭和56[1981]～平成元[1989]年):96.2ha、テンナ(平成６[1994]～12[2000]年):36ha)、基盤整備促進事業(ニシンダ(平成14[2002]～17[2005]年):6.0ha)などの基盤整備が実施されている。また、畜産では、畜産基盤再編総合整備事業等により草地造成及び施設整備が実施された。現在、野菜の作付ゾーンを設けた南風田地区の整備が行われている。

■さとうきびの刈取りはハーベスターが４割、手刈りが６割くらいで、機械が足りておらず、植付作業も手作業が基本である(聞き取り)。

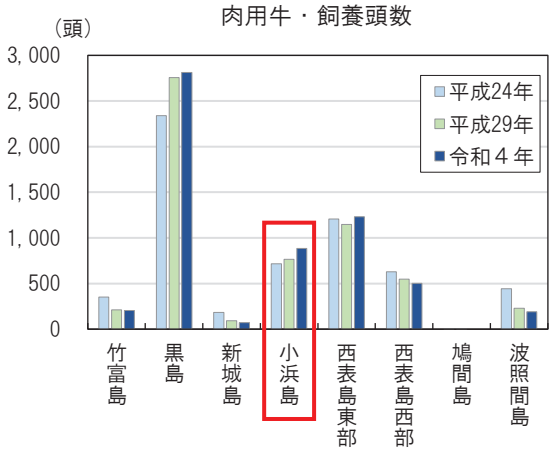


図 肉用牛の飼養頭数の推移

資料：竹富町役場

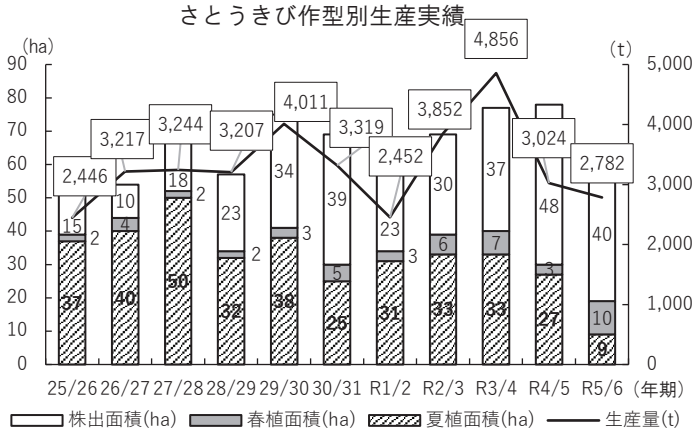


図 小浜島におけるさとうきび作型別生産実績

資料：さとうきび及び甘しゃ糖生産実績

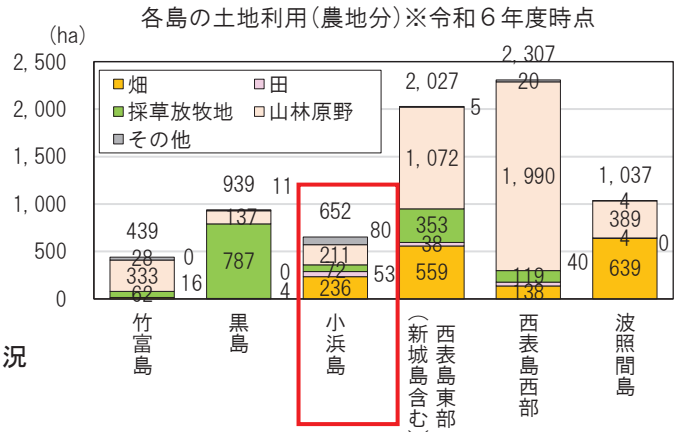


図 各島の土地利用状況

資料：竹富町役場



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

❷小浜島では、さとうきびや畜産を始め、水稲なども生産されている。含密糖工場を有し、島全体で基盤整備が行われ、安定的に作物が生産できる環境を有している。一方で、さとうきびの刈取りは手刈りが半数以上で、機械が足りていない状況であり、効率的な農業ができないでいる。

➡安定的に生産できる環境と様々な水稲や野菜類も生産できる環境を活かし、さとうきびや畜産を基軸とした複合経営を図り、安定的な農業経営をしていく必要がある。

➡スマート農業技術の革新が図られている機会を活かし、スマート農業などを導入した小浜式農業生産を確立し、これまでに整備してきた優良農地の維持・保全を図る必要がある。

➡聞き取りによると、請け負う農地が点在しているため、作業効率が落ちる、鳥獣害被害の深刻化、除礫が必要な農地があるなど、限られた島内の農地を有効活用し、新たな食料生産の場を確保するため、条件不利地の解消が必要である。

③拠点となる石垣島からの移動は、高速船または貨客船のみであり、農畜産物輸送のJAおきなわの貨物船が令和７(2025)年で撤退する。

■小浜島へは海上交通のみで、石垣島の離島ターミナルから出ている定期運航便(高速船、貨客船等)を利用する。高速船は１日10往復、所要時間25～30分であり、貨客船等は曜日指定等により運航している。

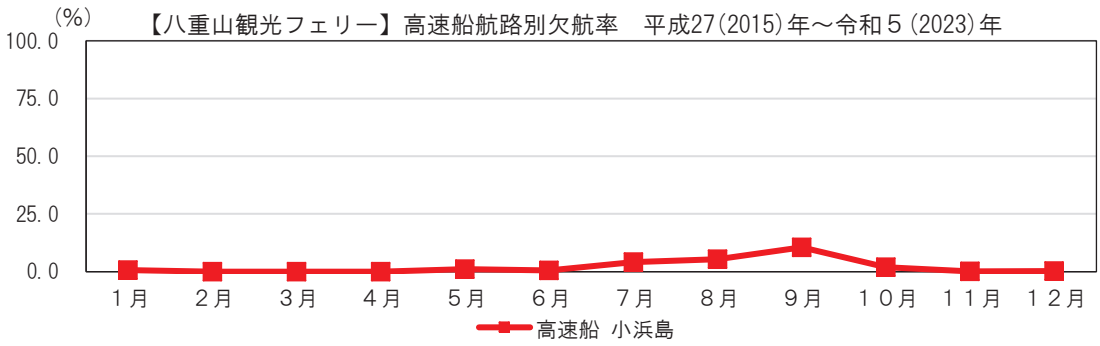
■小浜島は、高速船、貨客船共に通年をとおして欠航率は15％以下であり、台風や強風の時以外は流通が断絶することはないが、貨客船は曜日指定のため、移動が制限される。



図　離島航路図

資料：八重山観光フェリー(株)HP を一部加工

■農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和７(2025)年で撤退する。



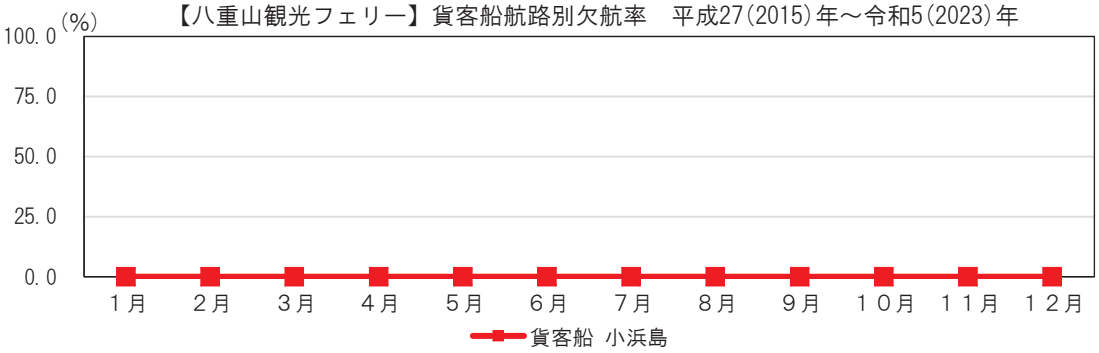
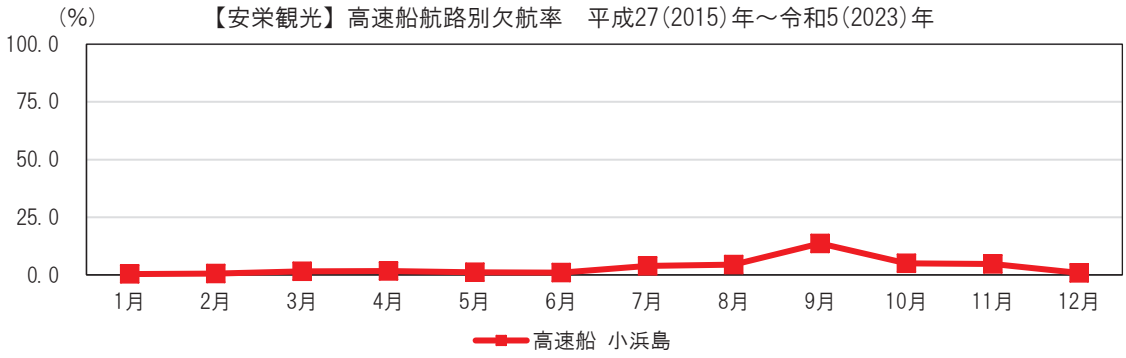


図　八重山観光フェリーにおける欠航率　平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：八重山観光フェリー(株)提供資料



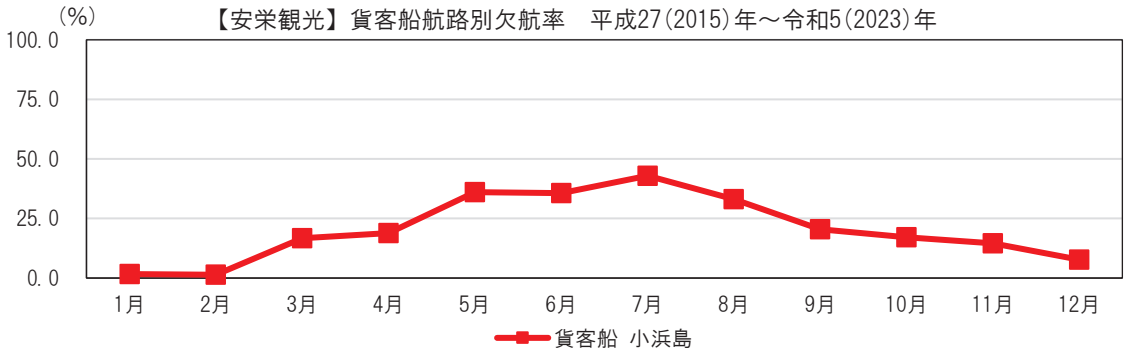


図 安栄観光における欠航率 平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：(有)安栄観光提供資料

■小浜島の入域観光客数は竹富島、西表島に次いで多く、旅館・ホテルにおける収容能力は、西表島に次いで２番目に多い。

▼小浜島の入域観光客数・宿泊能力

R4入域観光客数	126,520人
旅館・ホテル数	９施設
旅館・ホテル収容能力	1,138人

出典：離島関係資料(R6.3)

❸拠点である石垣島からの移動は航路のみであるが、欠航率は年間を通して15%以下であり、断絶されることは少ないが、移動は制限される。台風時などは、海上の影響を受けるため、天候に左右され、輸送が一時的に止まると同時に、再開までの予測が難しい。また、農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和７(2025)年で撤退する。

また、小浜島は西表島に次いで旅館・ホテルの収容能力が多い。

➡輸送の制限があるため、もう一つの基幹産業となっている観光業と連携を図り、ホテルやゴルフ場への農作物の提供や販売などを行うなど、新たな販路の開拓と島内消費を推進していく必要がある。

【参考資料】

小浜島の現状について、島全般、人、農地、作物、生産等の項目ごとに「強み」と「弱み」を整理した結果を下表に示す。

▼小浜島における項目ごとの強みと弱み

項目	強み	弱み
島全般 （地勢、交通、観光等）	●石垣島の西方14km ●島の中央に海抜99mの大岳がある ●土壌：国頭マージ ●H19に「小浜島の盆、結願祭、種子取祭の芸能」が国重要無形民俗文化財に指定 ●大型リゾートホテル、八重山諸島唯一のゴルフ場がある ●NHK連続テレビ小説「ちゅらさん」の舞台となった ●H25に農林水産祭むらづくり部門で小浜集落は農林水産大臣賞を受賞（果報ぬ島の伝統文化とさとうきびでシマおこし）	●石垣島からフェリーでの移動（１日10往復、所要時間25～30分） ●欠航率は低いが、台風の時期は欠航となる ■未整備道路がある
人（住民・農家等）	◆人口、世帯ともに増加（H17→R2） ◆認定農業者数の増加（H29:18人→R3:21人） □今後も自ら耕作するという意欲ある農家がおり、担い手も十分いる □農業生産法人小浜島ファーム（代表:大久さん（30代））など、若い担い手農家がいる	◆令和７年以降の推計人口は、増加傾向（R2：621人→R32：648人）。 ◆農家数は約半減（H17→R2、主業農家は微減） ◆1.5ha以下の小規模農家の減少率が高い □高齢化等による人手不足、後継者不足 □牛の観察、採草の人手も不足
農地 （土地）	●畑の面積236ha、採草放牧地72ha、田53ha ◆基盤整備が進んでおり、農地保全のための耕土流出事業やさとうきびの団地化、畜産に関しても草地造成が実施されている ◆戸当たり面積は約２倍に増加（H17→R2）	◆経営耕地面積の減少（H17→R2） ●新たな農地の確保が必要 □除礫が必要な農地がある
営農・作物	■さとうきび（R5:59ha）、肉用牛（R4:883頭）の生産 □さとうきび単作が主体 □バナナを生産している人がいる	□カラス、ネズミ、クジャクなどの鳥獣害被害 ▲畜産肥料や飼料の高騰 ■沈砂池、排水路などの老朽化
生産	□ハーベスターを導入している（JAレンタルもある） □自動運転のトラクター、ドローンなどを導入している □畜産では、AIカメラを導入している □南風田地区（県営農地整備事業）では、一部野菜の作付ゾーンを設けている ▲平成24/25年期～令和5/6年期の平均製糖日数：75日（処理能力50t/日）	□さとうきびの刈取量（ハーベスターで８～９割刈取り必要）と製糖工場の処理能力（50t/日、脱葉調整能力が低い）のマッチングができていない（現状40t/日、残業あり） □ハーベスター４割、手刈り６割で、機械が足りていない □植付は手作業が基本 □毎年、干ばつがどこかで起きている □水は、水道水を使っている人も多い □牛舎や採草地が点在している
販売（流通）	●製糖工場がある □さときうきび→製糖工場 □野菜、畜産関係→JA出荷	●輸送ルートは航路のみであり、JAおきなわが所有する貨物船が中心であり、R7の撤退を決定している

出典：農林業センサス（◆）、各種計画（●）、町聞き取り（■）、地域住民聞き取り（□）、その他（▲）

小浜島における地域懇談会での将来に向けた意見と振興計画等で記載されている振興方向を下表に整理した。

▼小浜島における将来に向けて

項目	将来に関する意見
懇談会での意見	❖農地を守り、面積を拡大し、トラクターなどの機械を導入する ❖離農する営農者の農地を受け入れて、規模拡大したい ❖５年後に息子に経営権を譲る ❖このまま現状維持で農業を続けていく ❖製糖工場があるため、安定稼働のために機械化を推進したい ❖畜産についても規模を拡大したい ❖観光業も基幹産業であるため、島内消費に向けて野菜の生産を増やしたい ❖単収を上げていきたい ❖米作りをしてみたい
振興計画類の記載内容	✧沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧心豊かで、安全・安心に暮らせる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧希望と活力にあふれる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧世界に開かれた交流と共生の島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧多様な能力を発揮し、未来を拓く島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧さとうきび、肉用牛等の振興〔新・沖縄21世紀農林水産振興計画、沖縄県農業振興地域整備基本方針〕 ✧畑作経営と畜産経営の有機的結合を図り、複合経営を基軸として集約的な土地利用を進める〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧取水場へのため池設置、土づくりのための緑肥作物の普及推奨〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧観光産業関連と併せた農業振興、サンゴ礁を守るための沈砂池の整備〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕

強み、弱み、将来に関する意見を踏まえ、戦略的な課題を出すためのSWOT分析を行なった結果を次ページに示す。

▼小浜島のＳＷＯＴ分析

内部要因 ＼ 外部要因		強み（S）	弱み（W）
		❶大型リゾートホテル、ゴルフ場等、レジャー施設の充実 ❷ドラマ等のロケ地として使用(NHK連続てれび小説「ちゅらさん」)されており、知名度がある ❸島内の人口や世帯数の増加、やる気のある若い担い手の増加 ❹生産基盤整備の推進、南風田地区では野菜の導入に向けたほ場整備が進行している ❺経営耕地面積は減少しているが、戸当たり面積が約２倍に増加しており、担い手農家への集積が進んでいる ❻さとうきび、肉用牛の生産などが盛んである ❼ハーベスター、自動運転トラクター、ドローンの導入の推進 ❽製糖工場がある	①拠点となる石垣島からの移動は航路のみであり、台風時期なども含め移動が制限される（１日10往復、所要時間25～30分） ②農家数が半減し、高齢化、後継者不足が深刻化している ③経営耕地面積が減少しており、農地の点在による移動時間の増、除礫が必要な農地もある ④鳥獣害被害が深刻化している ⑤単作が多く、複合経営が進んでいない ⑥沈砂池や排水路など施設の老朽化が進んでいる ⑦農作業は、機械の融通問題や島内の数、利用日の集中などにより手作業が多い ⑧近年は、毎年のように干ばつが起こっている ⑨輸送に使用しているJAおきなわの貨物船がR7で撤退する
機会（O）	❶全国的な高齢化、生産人口の減少 ❷世界的な自然志向、健康ブーム、農業・農村への関心の高まり ❸食の安全保障 ❹安全・安心な食に対する国民のニーズ ❺スマート農業などの技術革新 ❻沖縄来訪者の８割がリピーター(地産地消の消費者としての期待) ❼旅行形態や目的・ニーズの多様化(ガストロノミーツーリズム) ❽空路・航路による輸送増の可能性		
脅威（T）	①資材・物価・輸送費高騰等による農業経営の圧迫 ②原油高等による物流工素と増加 ③農畜産部物の産地間競争の激化・輸入増加 ④農畜産物の国内需要の低迷 ⑤アフターコロナの動向 ⑥地球温暖化による異常気象の増加 ⑦代替わりによる相続の問題		

人：地域の担い手への将来を見据えた農業経営支援と新規営農者の確保・育成

生産：さとうきびと畜産を基軸にした複合経営を図り、スマート農業などを導入した小浜島式農業生産の確立

農地：これまでに整備してきた優良農地の維持・保全と新たな食料生産の場を確保するための条件不利地の解消

販売流通：もう一つの基幹産業である観光業との連携による新たな販路の開拓と島内消費の推進

2.2 波照間島

①さとうきび畑が広がる日本最南端の有人島

■波照間島は、昔ながらの家並みとさとうきび畑が広がる島で、比較的平坦な地形であり、主な産業は農業と観光業である。他の島と異なり、農業の割合が比較的高い。

■聞き取りでは、未整備の道路や住む場所がないとの情報がある。町営住宅は４戸程度であるが、竹富町の空き家調査では、26戸の空き屋があることがわかっている。

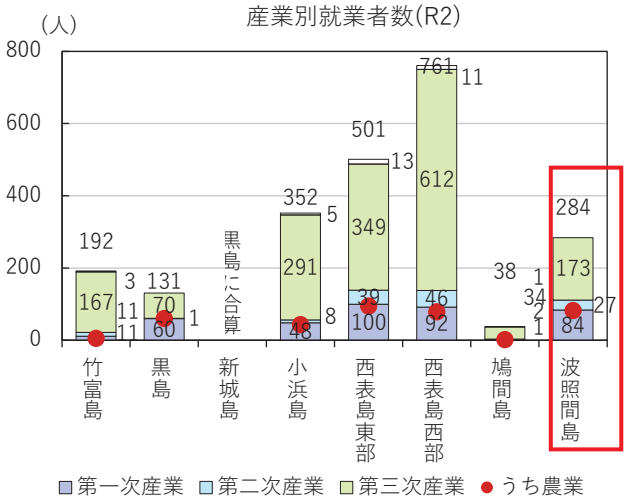


図 令和２(2020)年における産業別就業人口

資料：国勢調査



図 波照間島全体図

資料：竹富島町役場ホームページ

■島内の人口は増加傾向であり、今後の予測は、減少傾向であり、竹富町の島の中で一番減少率が高く、人口が半減する予測となっている。

■波照間島は主業農家の割合が高いが、平成17(2005)年から令和２(2020)年の農家数は５分の１と大幅に減少している。Ｕターンした若者がいても他の産業に就職することが多い。

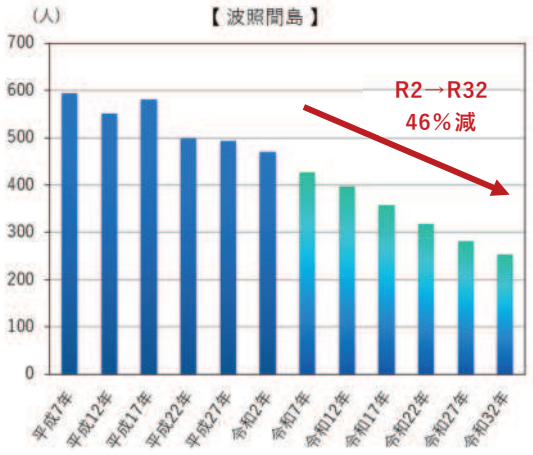
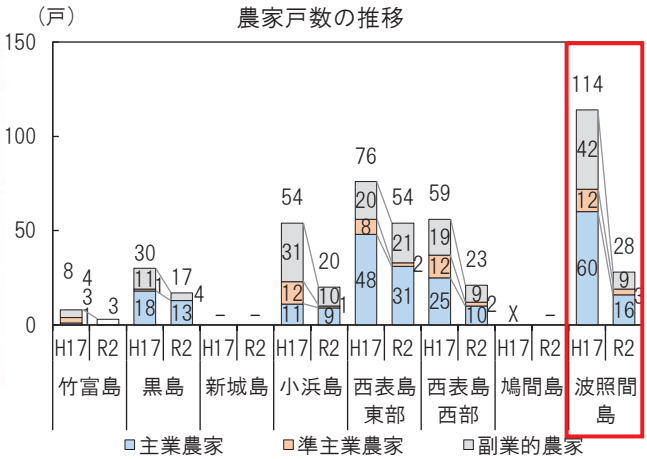


図 島ごとの人口推計

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所
都市研究部



注：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。

図 平成 17 年と令和２年における農家戸数(販売農家)の推移

資料：農林業センサス

❶波照間島は、日本最南端の有人島で、拠点である石垣島からも遠い。また、将来の人口予測において半減するという結果が出ており、今後、島の存続が懸念される。
さとうきび畑が広がり農業と観光業が主体であるが、農家戸数も平成17(2005)年と比較すると大幅に減少している。Uターン者はいても、他産業に就職することが多い。
➡島を維持するために、U・Iターンを中心に多様な担い手の確保・育成が喫緊の課題である。
➡また、他産業と連携し、新たな雇用を創出するとともに、楽しむ農業を確立し、新規就農者の確保・育成が必要である。
➡島内に住む場所がないため、新規に人を呼び込むために、住居の確保を行う必要がある。

②製糖工場などの施設、基盤整備が実施されており、農業を行う上で立地条件がよい。

■波照間島の土壌は、島尻マージが大部分を占め、主にさとうきび(191ha)を中心に、肉用牛、もちきび(8.0ha ※組合分)の生産が行われている。
■含密糖生産地域で、島内に含密糖工場(波照間製糖KK)が処理能力120t/日で操業している。
■総面積約440haで基盤整備が実施されており、さとうきびは団地化され、生活環境の総合的な環境整備、安定水源確保のためのかんがい排水事業やため池等整備事業も実施されている。しかし、一部には給水栓が付いていない。
■耕土が浅く、保水性にも乏しく、干ばつの影響を受けやすい。
■まとまった農地があるため、ドローンによる農薬散布なども行われている。
■まとまった農地があるが、土地の条件や地主が異なるなど、集積・集約が難しい。また、耕作者や土地の所有不明な土地が多数ある。
■さとうきびの刈取りは手刈りの方が不純物も少なく、切り口も狭く、鮮度も良く、美味しいと言われているため、手刈りが多い。
■土壌条件が悪い訳ではないので、島らっきょうやかぼちゃ、じゃがいもなどの野菜類を作付している人がいる。

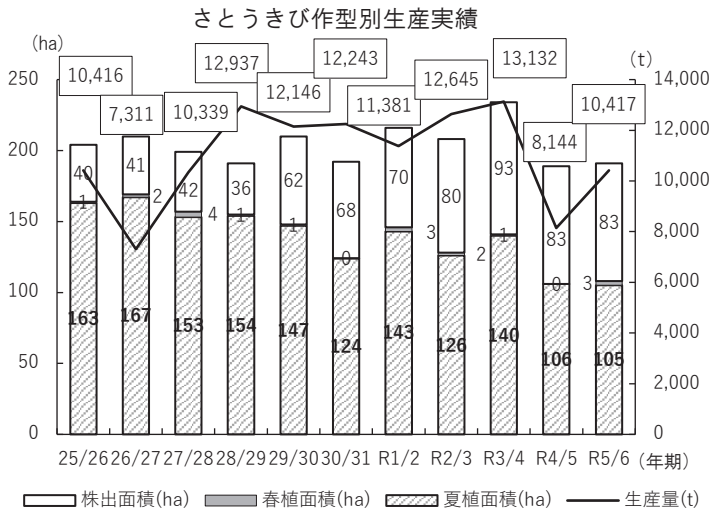


図　波照間島におけるさとうきび作型別生産実績

資料：さとうきび及び甘しゃ糖生産実績

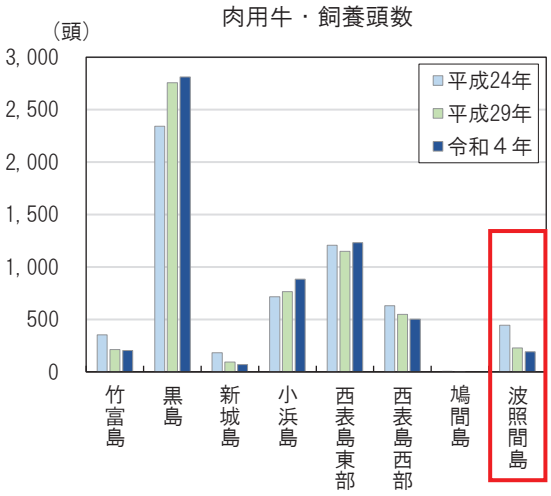


図　肉用牛の飼養頭数の推移

資料：竹富町役場

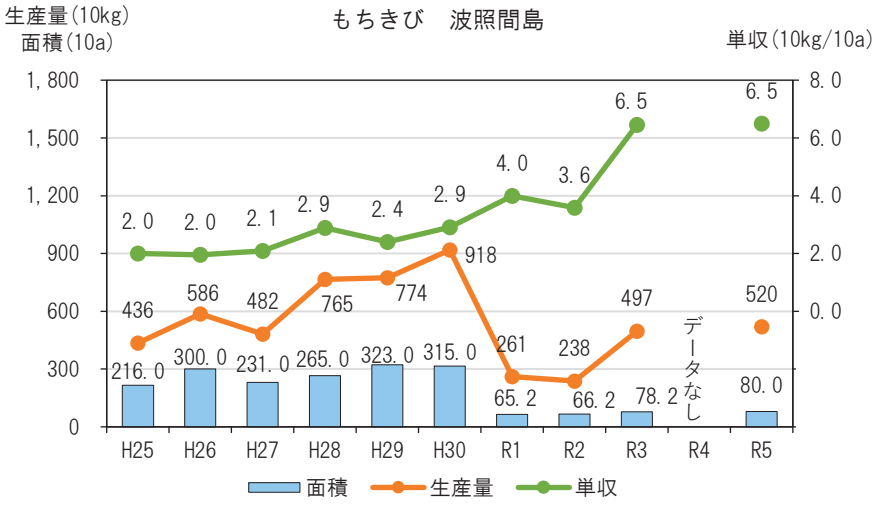


図　もちきびの作付状況（組合分のみ）

資料：竹富町役場

令和5/6年期　さとうきび品質取引実績

工場名	甘蔗糖度(度)			甘蔗糖度区分ごとの重量、比率(ｔ、％)							
				13.0度以下		13.1～13.6		13.7～14.3		14.4度以上	
	平均	最低	最高	重量	比率	重量	比率	重量	比率	重量	比率
県計	14.6	8.6	19.2	47,984	7.2	68,635	10.3	152,858	23.0	394,807	59.4
石垣島製糖	13.9	8.6	17.8	16,604	24.4	11,037	16.2	15,473	22.7	25,050	36.7
JA小浜製糖工場	14.5	9.3	17.7	253	9.1	341	12.3	647	23.2	1,541	55.4
西表糖業	15.5	11.9	18.3	128	1.3	269	2.8	920	9.7	8,196	86.2
波照間製糖	16.4	13.1	18.9	0	0.0	51	0.5	179	1.7	10,188	97.8
JA与那国製糖工場	14.0	9.6	17.0	705	18.2	682	17.6	1,105	28.6	1,378	35.6
八重山計	14.3	8.6	18.9	17,690	18.7	12,381	13.1	18,323	19.3	46,353	48.9

資料：「さとうきび及び甘しゃ糖生産実績」沖縄県農林水産部（令和6(2024)年8月）

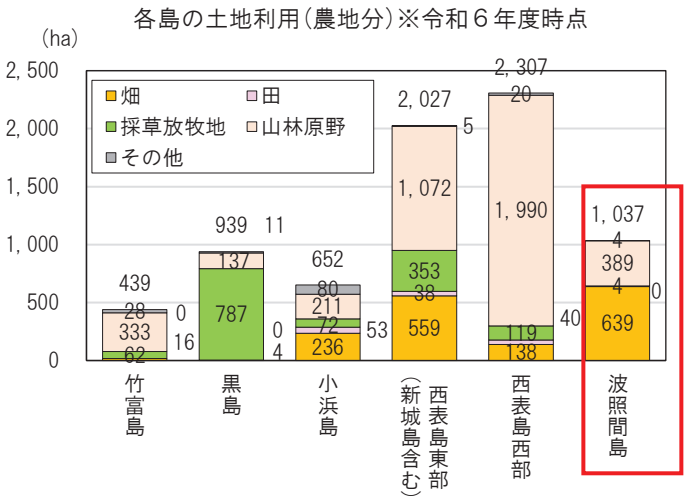


図　各島の土地利用状況

資料：竹富町役場



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

❷波照間島では、さとうきびを中心に、もちきびや肉用牛の生産が行われている。含密糖工場を有し、島全体で基盤整備が行われ、安定的に作物が生産できる環境を有している。まとまった農地があるが、農家数が少なく、今後の農業の維持が懸念される。

また、耕作者や土地所有者の不明な土地も多くあり、集積・集約が難しい状況にある。

波照間島のさとうきびは、手刈りのため甘いと評判である(糖度14.4度以上の割合が70%を超える)。

➡安定的に生産できる環境があるが、農家数が激減しており、将来の島内人口も減少することが想定されるため、さとうきびと畜産を主体に、少人数で効率的に生産できる体制の確立や基盤整備を推進する必要がある。また、スマート農業技術の革新が図られている機会を活かし、スマート農業などの導入を検討する。

➡品質も守りつつ、美味しさと効率化を両立するための営農体系を構築する必要がある。

➡島全体の地域振興を行う上で、行政や農地中間管理機構を活用し、土地や農地の整理を行う必要がある(人がいなくなってからでは困難になる)。

➡まとまった農地があるため、一定量の作物を生産することが可能である。製糖工場の安定操業を前提条件に、町内の各島で不足する作物(牧草など)の生産について検討する必要がある。

③日本最南端の有人島のため、拠点となる石垣島から遠く、移動は竹富町内唯一の航路か、高速船・貨客船であり、移動が制限される。

■波照間島へは海上交通または、航空路がある。海上交通(高速船、貨客船)は、石垣島の離島ターミナルから出ており、定期運航便(高速船)は、１日３往復、所要時間は60～90分である。貨客船は曜日指定等により運航している。

■町内唯一の空港があり、一時利用を中断していたが、令和６(2024)年より週３日(月曜、水曜、土曜)、１往復/日の運航を開始しており、石垣空港と多良間空港が利用できる。

■高速船は、３便のうち、昼頃の２便が欠航になりやすく、通年平均で約25％の欠航率である。特に12月の欠航率が高く、50％である。台風や強風の時以外に流通が断絶することはないが、欠航率が高く、貨客船は曜日指定のため、移動が制限される。なお、拠点である石垣島からも遠いため、物資等を運ぶ貨客船の欠航率は５％以下と低い。

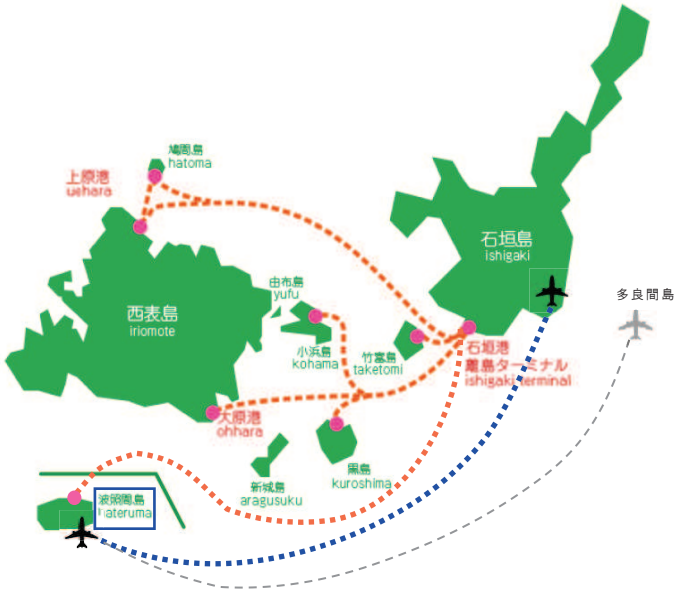
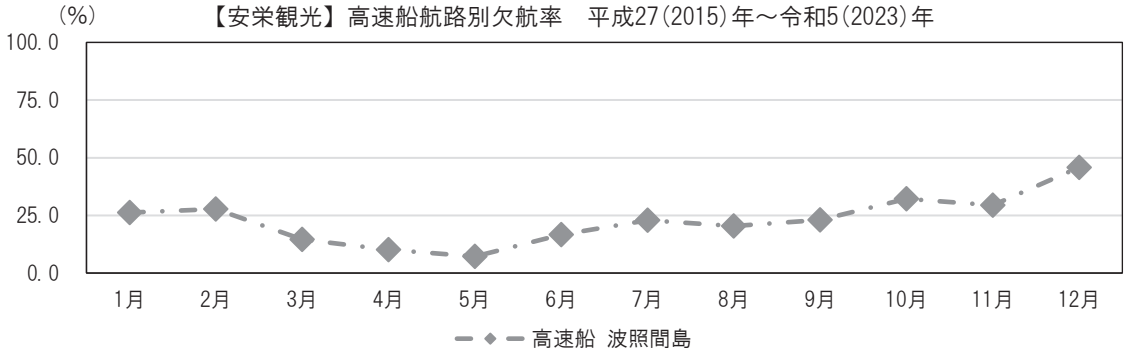


図 離島航路図

資料：八重山観光フェリー(株)HP を一部加工



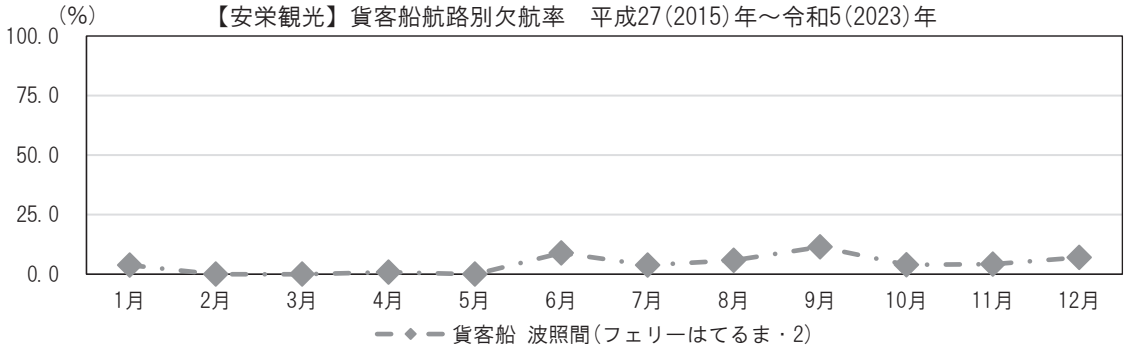


図 安栄観光における欠航率 平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：(有)安栄観光提供資料

❸日本最南端の有人島のため、拠点となる石垣島からは高速船で60～90分を要し、高速船は３便中１便が欠航しやすい状況である。町内で唯一の空港があるが、週３日、１便のみの運航のため、移動や物資の運送が困難な状況にある。

➡他の島と異なり、移動に時間を要するうえに、船の欠航や運航本数が少ないため、移動や輸送のリスクが高く、島外・圏外への出荷・輸送体制を確立する必要がある。

➡台風などで輸送がストップした場合、島内への物資の輸送が滞り、生活に必要な物資等が手に入らない事態も想定され、島民の安全や島の維持の観点から、地産地消を推進する必要がある。

➡まとまった農地があり、将来的に島内の農産物を町内の他の島へ輸送することも想定されるため、島間の輸送ルートの確保が必要である。

【参考資料】

波照間島の現状について、島全般、人、農地、作物、生産等の項目ごとに「強み」と「弱み」を整理した結果を下表に示す。

▼波照間島における項目ごとの強みと弱み

項目	強み	弱み
島全般（地勢、交通、観光等）	●石垣島の南西約42km、有人島としては日本最南端に位置する平坦な島 ●土壌：隆起した珊瑚礁からなる島尻マージ ●国指定史跡下田原城跡、コート盛（先島諸島火番盛の一つ）がある ●伝統的な集落景観、北浜（ニシハマ）などの地域資源がある ●町内唯一の空港がある（R6より再就航、石垣空港と多良間空港、曜日指定１往復）	●石垣島からフェリーでの移動（１日３往復、所要時間60～90分） ●欠航率は、年間を通して10～50%あり、台風の時期を問わず、欠航する場合が多い □住む場所がない ■未整備道路がある
人（住民・農家等）	◆経営体の規模は2.0ha以上 ◆第一次産業の就業人口割合（30%）が黒島に次いで高い ●担い手はいるが、十分ではない □今後は現状維持が多いが、畜産は増頭の意向が多かった	◆人口、世帯ともに減少（H17→R2） ◆令和７年以降の推計人口は、減少傾向（R2：470人→R32：254人）。 ◆農家数が約８割減（H17→R2） ◆認定農業者数の減少（H29:10人→R3:７人） ●新たな農地の受け手の確保が必要 □後継者がいない □Ｕターンしても農業ではなく、他産業に就く
農地（土地）	●畑の面積639ha、採草放牧地４ha ●耕土が浅く、保水性に乏しく、干ばつの影響を受ける ●総面積約440haで基盤整備が実施されている ◆基盤整備の実施により、さとうきびは団地化され、生活環境の総合的な環境整備、安定水源確保のためのかんがい排水事業やため池等整備事業も実施されている ◆戸当たり面積は微増に増加（H17→R2） ■かんがい施設整備が予定されている □リスク分散のため、農地が分散している方がよい □土壌条件は悪くない	◆経営耕地面積の減少（H17→R2） □所有者不明な農地が多い（土地改良済みの土地はわかる） □地主が貸さないという土地も多い（地主が島内外に点在） □土地の条件が異なるため、集積が困難である □畑地かんがい施設がないと借りる人がいない □農地中間管理機構を知らないため、相対での貸し借りが多い □定期借地権が10年は短い □塩害対策が必要 □遊休農地が増加
営農・作物	●さとうきびを主体に肉用牛、もちきびの生産 ●含糖蜜生産地域 □さとうきび（R4:188.9ha）、もちきび（R3:7.8ha）、肉用牛（R4:191頭）の生産 □山羊の飼育頭数が他の島より多い □もちきびの単収が増加しているが、R元年に収穫量、面積ともに激減した □さとうきびの手刈りは不純物も少なく、切り口も狭く鮮度があり、美味しい（保管も可能） □かぼちゃ、じゃがいも、島らっきょう、もちきびが栽培されている □ドローンによる農薬散布実績がある □さとうきび単作、畜産が主体	◆トラクターの所有台数が大幅に減少（H17→R2） □植付時期が重なる □機械が更新できず、拡大が難しい □ハーベスターで刈ると水分が１日で抜けてしまう □カラス、ヤギなどの鳥獣害被害 □塩害や台風被害が深刻である □労力の分散が難しい □化学肥料が高騰している □スイカ、メロン、バナナは、輸送コストが嵩んでやめてしまった ■畜産肥料や飼料の高騰 ■沈砂池、排水路などの老朽化 ■貯水池、揚水機場等のかんがい施設の改修が必要

項目	強み	弱み
生産	□用水はため池等から確保している □乗用トラクターは個人所有である □ハーベスターを令和８(2026)年までに６台導入予定(共同利用) ▲平成24/25年期～令和5/6年期の平均製糖日数：109日(処理能力120t/日)	■労力がかかるため、点滴かんがいをほとんどしていない □畑地かんがい施設から水が出ない(壊れているところもある)、使用する曜日が決まっている □天水に頼るところが大きい □所有している乗用トラクターは、導入時期が不明なものが多い □製糖工場の処理能力が限界である、処理能力を上げるためには電力の必要となり、企業努力では難しいところがある
販売 (流通)	●製糖工場がある(処理能力120t/日) □さときうきび→製糖工場 □畜産関係→JA出荷(セリ)	●輸送ルートは航路のみである □拠点となる石垣島からも離れており、移動・輸送が制限されている □離島のため、流通コストがかかる □野菜などの輸送において鮮度が保てない

出典：農林業センサス(◆)、各種計画(●)、町聞き取り(■)、地域住民聞き取り(□)、その他(▲)

波照間島における地域懇談会での将来に向けた意見と振興計画等で記載されている振興方向を下表に整理した。

▼波照間島における将来に向けて

項目	将来に関する意見
懇談会での意見	❖土地に関しては、地主が島内外にいるため、農地中間管理機構を活用する ❖水を安定供給できるため池などが必要 ❖塩害も多いので防風林が必要 ❖農業機械は、共同購入かつ、維持管理を行う ❖機械化、製糖工場の規模拡大を図ると経営規模拡大の意欲が出ると思われる ❖もちきびの乾燥施設がほしい ❖事業により緑肥の導入、堆肥(バガス)の利用促進を図り、有機農業に取り組む ❖主にバガス(牛ふん含む)を活用して、堆肥を作る施設があるとよい ❖若い人の受け入れ、法人の立ち上げなどが必要 ❖新たな作物(ドラゴンフルーツ、グァバ、バナナ、パパイヤ、アボガドなど)を導入する
振興計画類の記載内容	✧沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧心豊かで、安全・安心に暮らせる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧希望と活力にあふれる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧世界に開かれた交流と共生の島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧多様な能力を発揮し、未来を拓く島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧さとうきび、肉用牛、もちきび等の振興〔新・沖縄21世紀農林水産振興計画、沖縄県農業振興地域整備基本方針〕 ✧安定水源確保のため、水利一般、農業水路等長寿命化・防災減災事業などの推進し、表面水の利用と節水かんがい方式の導入を検討する〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧さとうきびを主体に整備されたほ場の機械化を促進し、併せて畜産の担い手の確保や草地造成等による飼料の安定確保を図り、さとうきびと肉用牛の複合経営を進め、農業経営の安定化を図る〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧もちきびを活用した雇用創出事業を導入し、農産物処理施設、もちきび精選設備(もちきび選別機)を整える〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧大型船導入による生活基盤の向上、観光関連産業の振興、イメージ・ブランド構築〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕 ✧畑地かんがい施設整備、海水淡水化施設の二次利用〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕

強み、弱み、将来に関する意見を踏まえ、戦略的な課題を出すためのSWOT分析を行なった結果を次ページに示す。

▼波照間島のＳＷＯＴ分析

外部要因＼内部要因	強み（S）	弱み（W）
	❶伝統的な集落景観、竹富町唯一の空港がある ❷経営体の面積規模は2.0ha以上である ❸主な産業は第一次産業(農業)である ❹島全体で基盤整備や安定水源確保の整備が実施されており、さとうきびは団地化されている ❺さとうきびを主体に肉用牛、もちきびが生産されている ❻さとうきびは手刈りされており、美味しい ❼ドローンによる農薬散布の実績がある ❽製糖工場がある	①拠点となる石垣島からの移動は航路のみであり、移動が制限される(１日３往復、所要時間60～90分) ②欠航率は、年間を通して10～50％あり、台風時期を問わず、欠航する場合が多い ③令和32年の推計人口は令和2年の約半数であり、後継者もいない状況、新たな人が来ても住む場所がない ④所有者不明な土地や地主が貸さないなど、農地の問題も深刻である、土壌条件も異なるため、集積が難しい ⑤ギンネムによる遊休農地化や鳥獣害被害が深刻化している ⑥塩害や台風被害が深刻である ⑦農業水利施設の老朽化 ⑧畑地かんがい施設から水が出ない、使用する曜日が決まっているなど安定的な用水供給ができない ⑨製糖工場がフル稼働しており、これ以上の面積の拡大が難しい ⑩輸送に使用しているJAおきなわの貨物船がR7で撤退する、竹富町の中でも拠点となる石垣島から遠く、流通コストや輸送リスクが高い
機会（O） ❶全国的な高齢化、生産人口の減少 ❷世界的な自然志向、健康ブーム、農業・農村への関心の高まり ❸食の安全保障 ❹安全・安心な食に対する国民のニーズ ❺スマート農業などの技術革新 ❻沖縄来訪者の８割がリピーター(地産地消の消費者としての期待) ❼旅行形態や目的・ニーズの多様化(ガストロノミーツーリズム) ❽空路・航路による輸送増の可能性		
脅威（T） ①資材・物価・輸送費高騰等による農業経営の圧迫 ②原油高等による物流工素と増加 ③農畜産部物の産地間競争の激化・輸入増加 ④農畜産物の国内需要の低迷 ⑤アフターコロナの動向 ⑥地球温暖化による異常気象の増加 ⑦代替わりによる相続の問題		

生産：波照間島の黒糖ブランド守り、美味しさと効率化を図った持続的生産体制の確立、少数精鋭でスマートに生産

農地：これまでに整備された農地の維持と波照間島のさとうきびと畜産を主体とした農業生産に合わせた基盤整備の推進

人：多様な担い手の確保･育成と他産業との連携による新規就農者の確保･育成と雇用創出と楽しむ農業の確立(楽しい所に人は寄ってくる･帰ってくる)

販売流通：島内の地産地消の推進及び島外・八重山圏域の出荷・輸送体制の確立

2.3 西表島西部

①大自然の魅力にあふれ、観光業が盛んかつ、担い手農家のいる地域

■西表島西部は、沖縄県最大の落差を誇るピナイサーラの滝や沖縄県最長の浦内川があり、島は西表石垣国立公園に指定されている。特別天然記念物のイリオモテヤマネコが生息し、令和３(2021)年に世界自然遺産に登録され、大自然を活かしたエコ・ツーリズム島の観光業が盛んである。

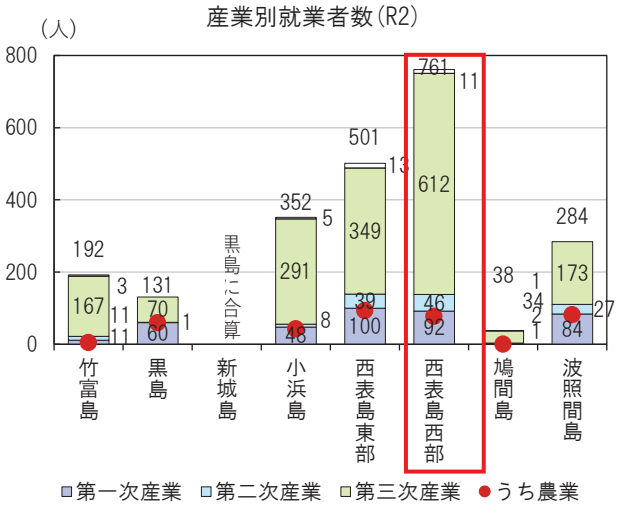


図　令和２(2020)年における産業別就業人口

資料：国勢調査



図　西表島全体図

資料：竹富島町役場ホームページ

■西部は、竹富町の中でも最も人口が多い。人口は減少傾向であり、今後も減少していくと予測されている。

■平成17(2005)年から令和２(2020)年の農家数は減少傾向であり、担い手はいるが、十分ではない。

■繁忙期の短期アルバイトが来ない、来ても滞在する場所がない(聞き取り)。

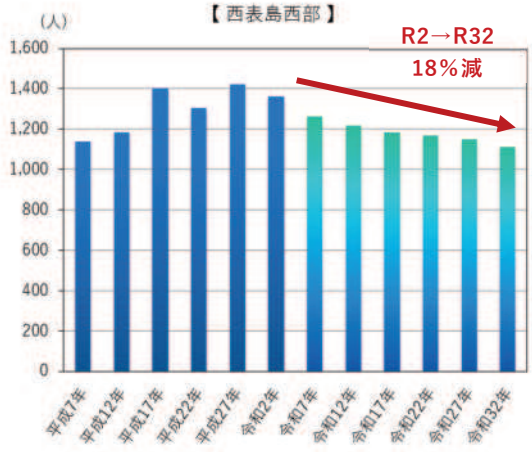
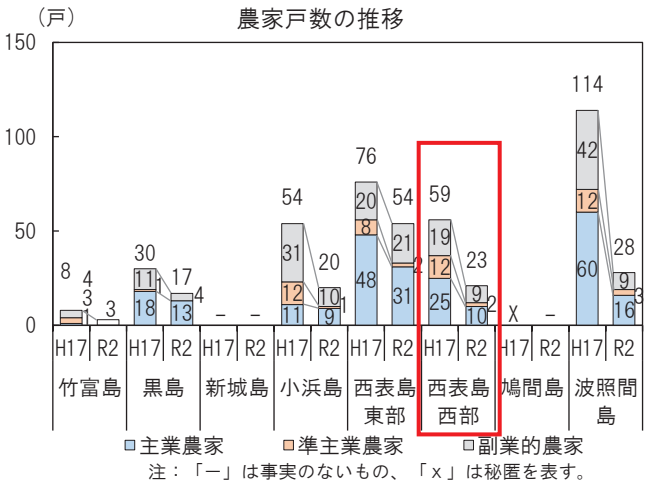


図　島ごとの人口推計

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所
都市研究部



注：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。

図　平成17(2005)年と令和２(2020)年における農家戸数(販売農家)の推移

資料：農林業センサス

❶西表島西部は、大自然に囲まれており、多くの地域資源を有する魅力的な島である。人口・農家数ともに減少しているものの、十分ではないが、担い手もいる。しかし、高齢化や後継者不足は深刻化しており、収穫期などの繁忙期のアルバイトも集まらない状況が続いている。

➡大自然など西表島生物の魅力を活かしたＵ・Ｉターンや移住者を含めた新規就農者の確保・育成が必要である。また、現在の担い手への農業支援を行うことも重要である。

②基盤整備が実施されており、多種多様な作物が生産されている

■西表島西部の土壌は、国頭マージや沖積土壌であり、パインアップル(７ha)、マンゴー(約４ha)を中心に、水稲(38ha)、肉用牛などが生産され、パインアップルは本町の主産地となっている。

■肉用牛の他、採鶏卵の飼養羽数が本町の中で最も多い。

■西表島西部は、上原、西表、成屋の３つの地区があり、平坦な土地は少ないが、川の周辺の限りある土地については、ため池や水田整備が実施され、有効的に活用されているとともに、様々な農作物等を生産している。

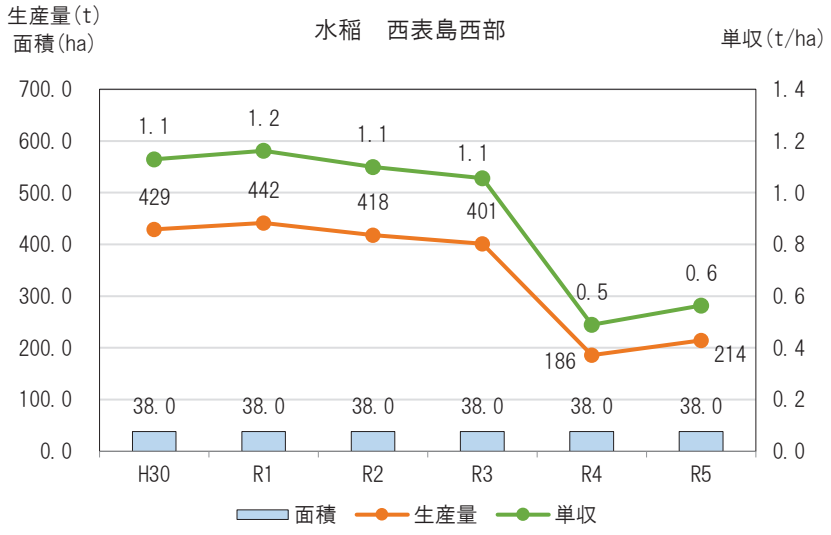


図　西表島西部における水稲の生産状況

資料：竹富町役場

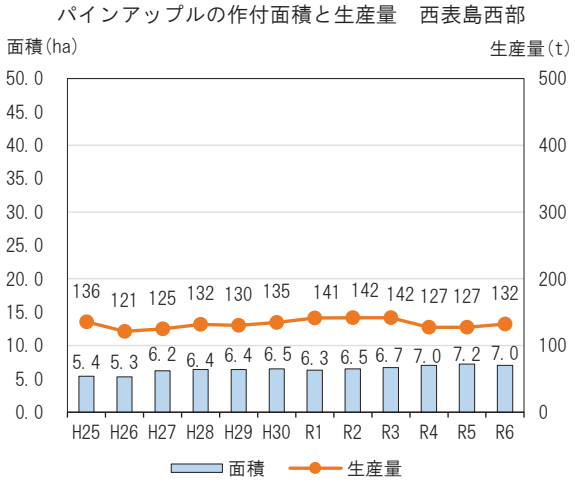


図　西表島西部におけるﾊﾟｲﾝｱｯﾌﾟﾙの生産状況

資料：竹富町役場

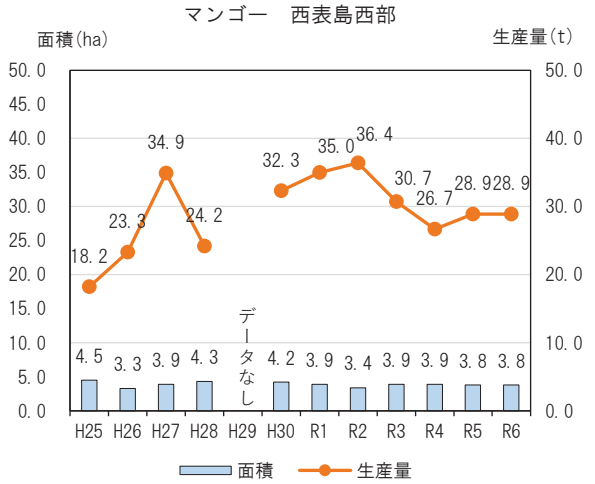


図　西表島西部におけるマンゴーの生産状況

資料：竹富町役場

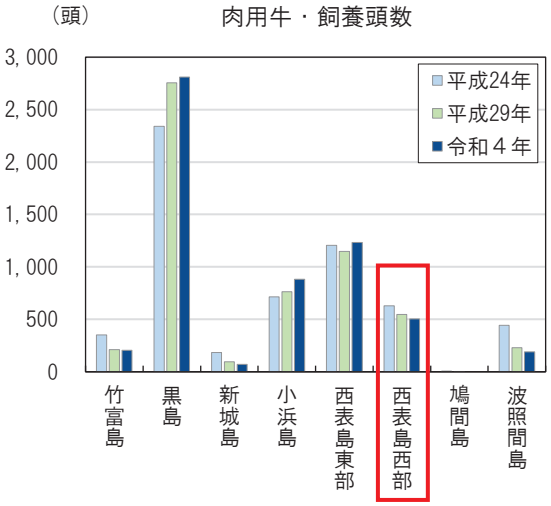


図　肉用牛の飼養頭数の推移

資料：竹富町役場

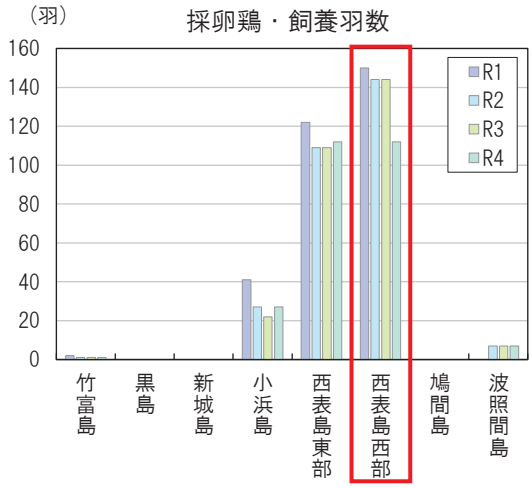


図　採鶏卵の飼養羽数の推移

資料：竹富町役場

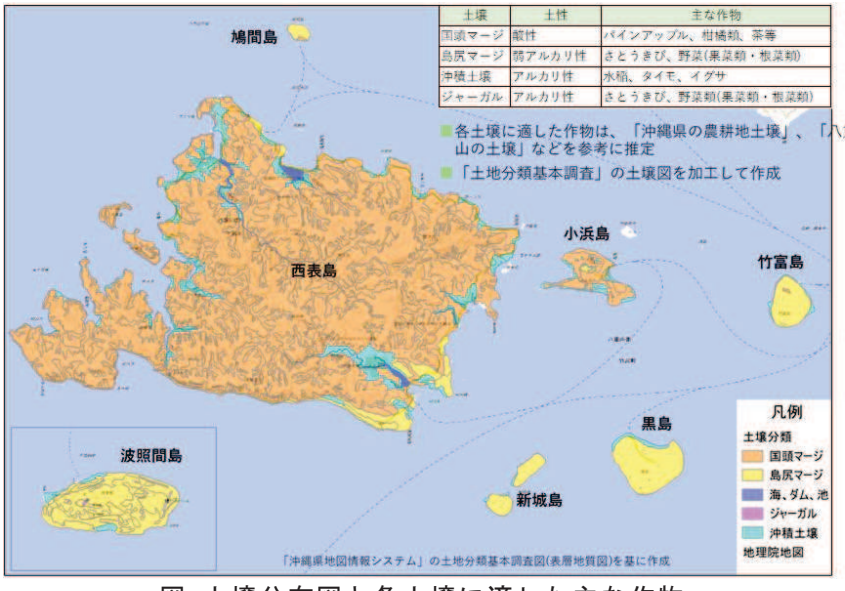
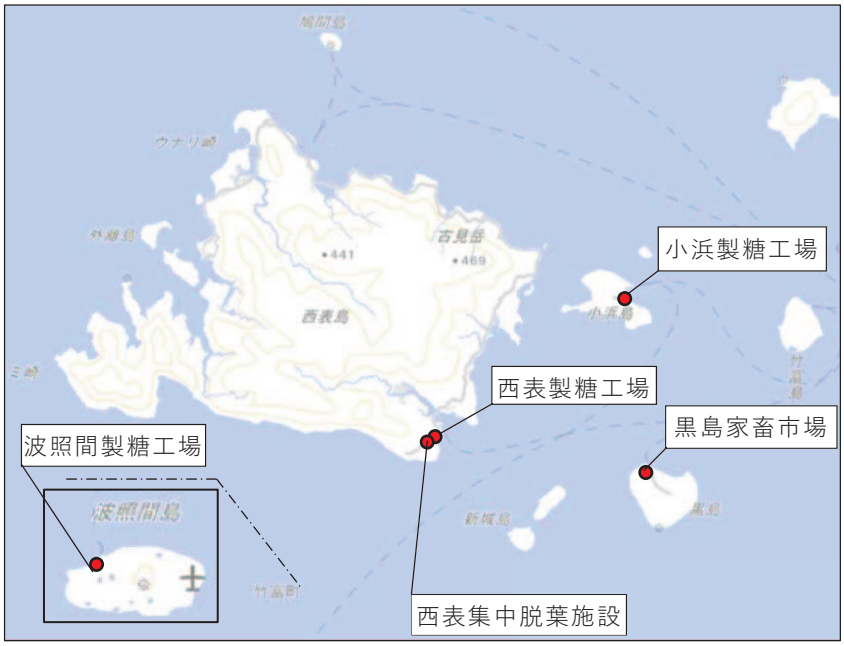


図　土壌分布図と各土壌に適した主な作物

▼農業関連施設の整備状況

該当なし

▼主な農業関連施設の位置



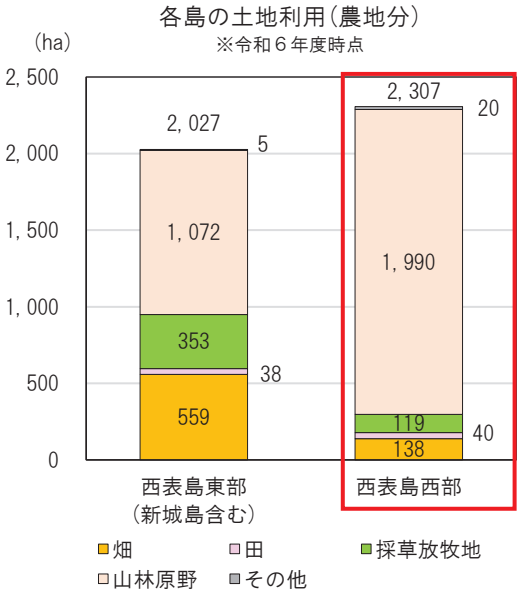


図　西表島の土地利用状況(農地分)

資料：竹富町役場

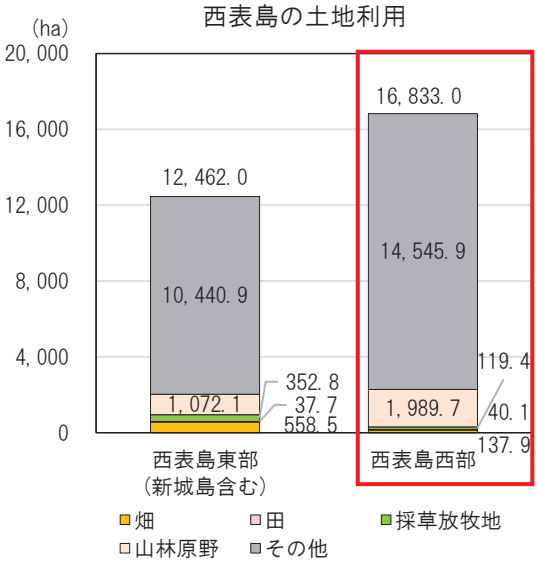
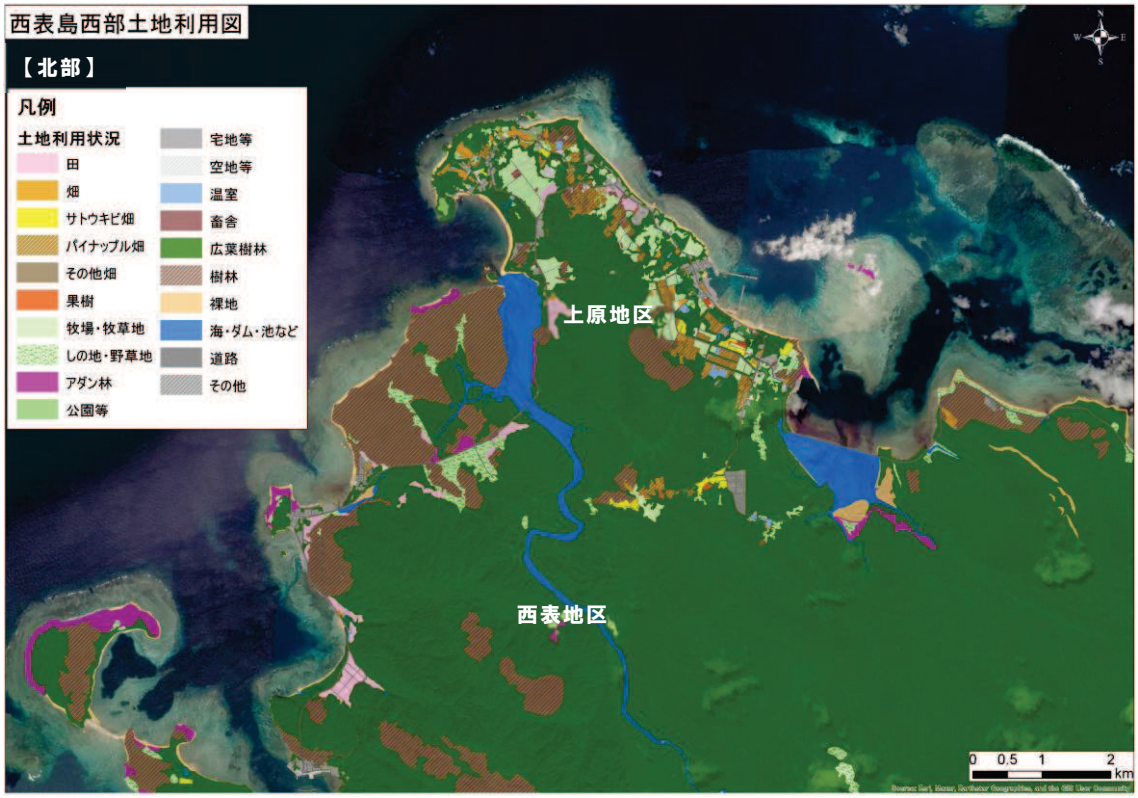
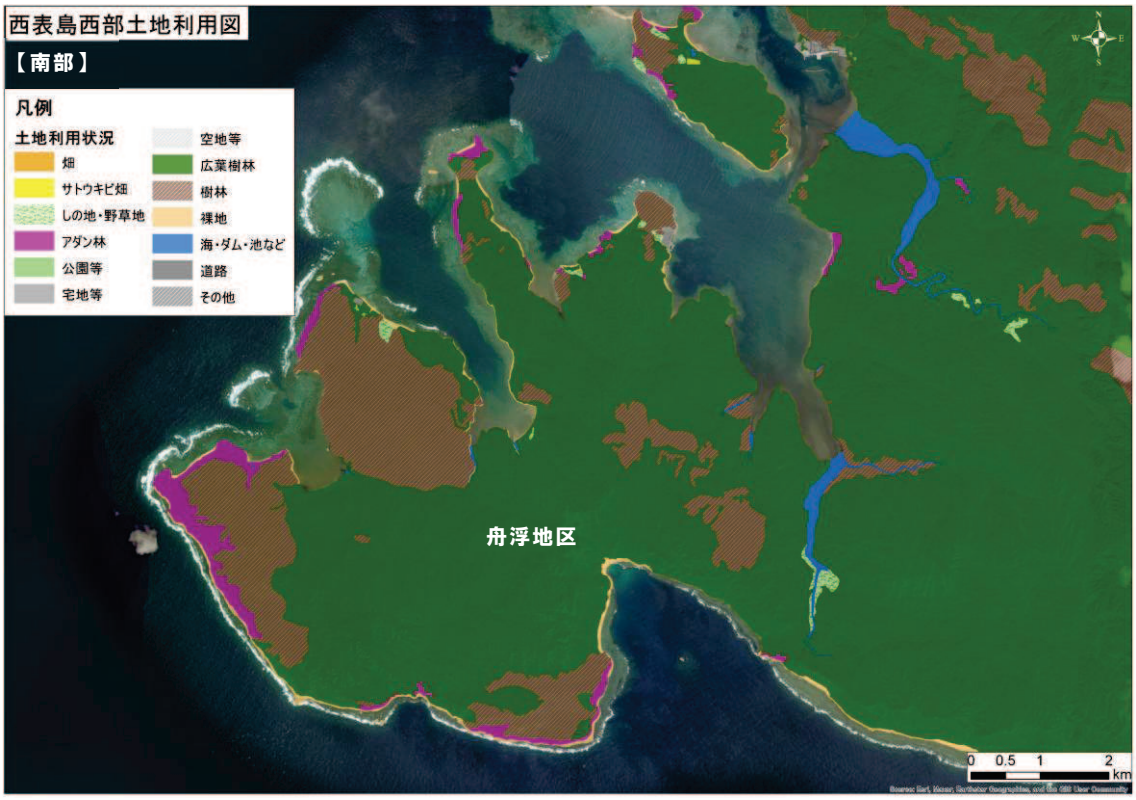


図　西表島の土地利用状況

資料：竹富町役場、国土地理院(面積)





出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

❷西表島西部では、パインアップルやマンゴーを始め、水稲、肉用牛など多種多様な農産物が生産されている。また、西部は平坦な土地は少ないが、基盤整備が行われ、安定的に作物が生産できる環境を有している。

➡持続的かつ、安定生産に向け、基盤整備された農地を活かし、本町の主要産地となっているパインアップルやマンゴーなどの熱帯果樹の生産を推進するための生産団地づくりを行うとともに、豊かな自然と調和した循環型農業を確立していく必要がある。

➡西部では水稲栽培が行われており、そのための基盤整備がされている。町内でも水稲の作付できる貴重な環境を有しているため、水稲栽培のための用水の安定確保と豊かな自然と調和した循環型農業を確立していく必要がある。

現在は、個人で乾燥機等を所有しているため(聞き取り)、団地化等を図り、安定的な生産を行う上で、ライスセンター等の施設整備の検討が必要である。

➡西部は、平坦な土地が少ないため、優良農地の維持・確保のため、農地中間管理機構等の活用により、農地の集積を行っていくことが重要である。

③拠点となる石垣島からの移動は、高速船または貨客船のみであり、西部地区の主要な港である上原港は欠航率が高く、移動が制限される。

■西表島西部へは海上交通のみで、石垣島の離島ターミナルから出ている定期運航便(高速船、貨客船等)を利用する。高速船は１日８往復、所要時間45～55分であり、貨客船等は曜日指定等により運航している。

■西部は上原港が近いが、高速船、貨客船共に５～８月を除き、海上のシケにより、欠航率が約50％と高い。そのため、欠航率の低い東部の大原港を利用せざるを得ず、島内での移動時間を要するとともに、貨客船は曜日指定のため、移動が制限される。



図　離島航路図

資料：八重山観光フェリー(株)HP を一部加工

■農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和７(2025)年で撤退する。

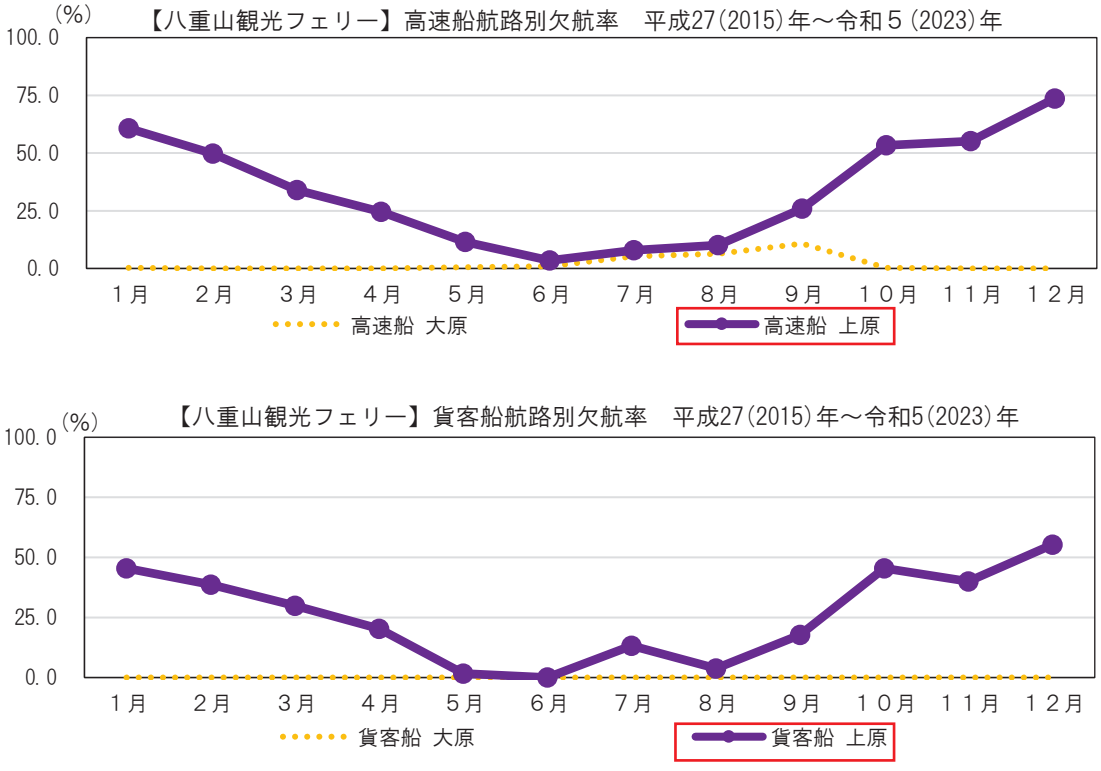


図　八重山観光フェリーにおける欠航率　平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：八重山観光フェリー(株)提供資料

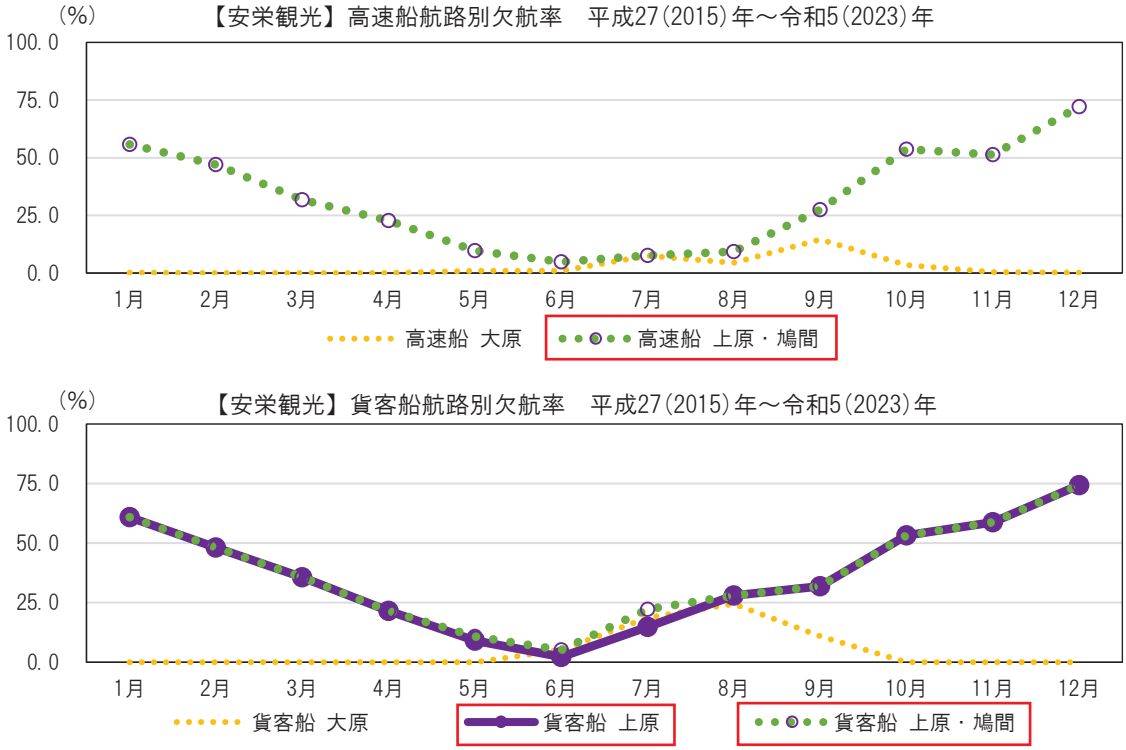


図　安栄観光における欠航率　平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：(有)安栄観光提供資料

❸拠点である石垣島からの移動は航路のみであり、西部の主要な港である上原港は欠航率が高く、大原港の利用により、島内での移動に時間を要する。予冷庫や選果場もないため、主に生産されているパインアップルやマンゴーは輸送に合わせた作業が必要となる。台風時などは、海上の影響を受けるため、天候に左右され、輸送が一時的に止まると同時に、再開までの予測が難しい。また、農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和７(2025)年で撤退する。

聞き取りでは、島内での消費はほぼなく、農産物は個人販売が主流であるため、輸送形態や輸送量も予測が難しい状況にある。

➡島内での移動、島外への輸送に制限があり、パインアップルやマンゴーなど保存期間が短い農産物を生産しているため、大自然を活かした観光業とのタイアップにより、西表島ブランドの確立と地産地消の推進を行う必要がある。

➡また、個人販売が主流の為、戦略的な圏外出荷体制を確立する必要がある。

【参考資料】

西表島西部の現状について、島全般、人、農地、作物、生産等の項目ごとに「強み」と「弱み」を整理した結果を下表に示す。

▼西表島西部における項目ごとの強みと弱み

項目	強み	弱み
島全般 （地勢、交通、観光等）	●石垣島の西北37km ●沖縄本島に次ぐ面積を有する島で、西部には上原地区、西表地区、成屋地区がある ●沖縄県最大の落差を誇るピナイサーラの滝、沖縄県最長の浦内川がある ●島のほとんどが西表石垣国立公園に指定されている森林地域（東洋のガラパゴス）である ●特別天然記念物のイリオモテヤマネコが生息する島で、R3に世界自然遺産に登録 ●大自然を活用したエコ・ツーリズム等の観光業が急速に伸びている	●石垣島からフェリーでの移動（上原港１日８往復、所要時間45～55分） ●上原港の欠航率（主に高速船）は、４月から７月までは低いが、８月以降３月までは20％以上となり、台風の時期は欠航となる ●フェリーは、大原港発着もある（１日９往復） □電波の届かない場所がある ■地域活性化施設の老朽化
人（住民・農家等）	◆人口、世帯ともに増加（H17→R2）、本町の中でも最も人口が多い ◆第一次と第二次産業の割合がわずかに減少し、第三次産業の就業人口が増加（H17→R2） ◆大自然を活かしたアクティビティなどの観光業が盛んである ●担い手はいるが、十分ではない □今後も自ら耕作するという意欲ある農家がほとんどであり、拡大意向もある	◆令和７年以降の推計人口は、減少傾向（R2：1,363人→R32：1,111人）。 ◆主業農家数は約半減（H17→R2） ◆認定農業者数の減少（H29:27人→R3:15人） ◆1.0ha以下の小規模農家の減少率が高い ●新たな農地の受け手の確保が必要 □後継者不足 □短期のバイトが来ても滞在する場所がない □移住者は定着しない
農地 （土地）	●畑の面積138ha、採草放牧地119ha、田40ha ●上原地区 ・上原港を拠点に船浦、上原、中野、住吉、浦内の集落から構成 ・浦内湾内のヤシ川を起点に山岳地帯の裾野にあたる平地部分に農地がある ・傾斜が多く、土壌は国頭マージ ●西表地区 ・干立、祖納、白浜の各集落から構成 ・浦内川を起点に仲良川までの範囲に農地がある ・約19haの水田が整備された ●成屋地区 ・船浮部落、サバ崎半島、内離島、外離島から構成される ・内離島、外離島はかつて採草放牧地であったが、現在は原野化 ●基盤整備が進んでおり、ため池整備や水田整備が実施されている ◆戸当たり面積は約２倍に増加（H17→R2） □農地の規模拡大の意向が他島と比べやや多い	◆経営耕地面積の減少（H17→R2） □空いている土地や貸したいという人もいるが、不在地主も多く、農地の需要と供給がマッチしておらず、足りない状況 □優良な農地が少ない □草刈り等の農地の維持管理ができていない □水が溜まらない農地がある（水稲） □道路がないため、防除に行けないなどの不都合がある ■耕作放棄地の解消

項目	強み	弱み
営農・作物	□パインアップルは拠点産地である ●上原地区 ・生食用パインアップルを主体にマンゴー、肉用牛の生産 ・生食用パインアップルは本町の主産地 ・採草放牧地を利用した肉用牛の生産 ●西表地区 ・河川水を利用した水田が主体 □稲作(R5:38ha)、肉用牛(R4:503頭) □採卵鶏・養鶏の飼養羽数が他の島より多い □島全体:果樹(マンゴーR6:3.8ha、パインアップルR6:7.0ha)の生産 □水稲の生産量は減少傾向 □生産量について、マンゴーは減少傾向、パインアップルは一定 □営農体系は、果樹(パインアップル主体)または水稲専作と畜産	□イノシシ、カラスなどの鳥獣害被害が多発している(猟友会による捕獲やネット、柵などは実施済) □パインの収穫時期(４～８月)は特にカラスを駆除してほしい □機械、肥料、燃料などの物価高騰による収益の圧迫(特に、機械は新しく購入が難しい) ■沈砂池、排水路の老朽化 ■防風林の維持管理
生産	□水稲は、個人で機械を一式所有している □用水は、天水・ため池からの取水 □パインアップルに利用する機械(乗用トラクター、運搬機等)を所有しており、平成25年以降の導入が多い ■建設機械(バックホウ、ダンプ等)は３島(石垣島、西表島、黒島)のみの所有で、台数が合計29台と一番多い	□ダムが小さく水が足りない(水稲)、用水が安定的に確保できない □作業時間に偏りがあり、人手不足が顕著であるが、人が集まらない □果樹は品質確保のため、収穫から箱詰めまでが手作業となる ■ジャンボタニシの水田への被害
販売(流通)	□個人販売が主体	●輸送ルートは航路のみであり、JAおきなわが所有する貨物船が中心であるが、R7の撤退を決定している □輸送は船であるため、輸送時間や船の時間に合わせての営農作業など制約が多い(１日１回しか船が出ない時もある) □輸送代が高騰している □町内ではパインアップルは流通しない

出典：農林業センサス(◆)、各種計画(●)、町聞き取り(■)、地域住民聞き取り(□)、その他(▲)

西表島西部における地域懇談会での将来に向けた意見と振興計画等で記載されている振興方向を下表に整理した。

▼西表島西部における将来に向けて

項目	将来に関する意見
懇談会での意見	❖安定的に用水を確保できるようにしたい ❖遊休農地を減らして、規模を拡大する ❖条件の良い農地を造るための土地改良事業を行う ❖ゾーニング、農地の集約、農道整備が必要 ❖水稲＋他の作物など、新たな営農体系を確立する ❖ドローンや自動草刈り機、アイガモロボットなど、スマート農業の導入 ❖有機栽培を始めたい ❖６次産業化をするために機械等を導入したい ❖輸送に制限があるため、保冷庫、選果場など物流に対応できる施設の建設 ❖農地の継承などができるよう農業振興公社、農地中間管理機構を活用する ❖環境の変化に強い作物(島バナナ、モリンガ、ニームなど)や新たな熱帯系果樹を導入する ❖今後は、新たな作物(メロン、スイカ、野菜)に挑戦したい ❖牛ふんを活用したバイオマスエネルギーの活用、堆肥化等、耕畜連携の推進、循環型農業の推進 ❖短期のバイトが来るような仕組み作り(人材派遣等)、また、滞在できる住居の確保(個人での運用は難しいため)
振興計画類の記載内容	✧沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧心豊かで、安全・安心に暮らせる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧希望と活力にあふれる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧世界に開かれた交流と共生の島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧多様な能力を発揮し、未来を拓く島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧パインアップル、熱帯果樹、水稲等の振興と肉用牛との経営の複合化〔新・沖縄21世紀農林水産振興計画、沖縄県農業振興地域整備基本方針〕 ✧農地造成、土壌改良・区画整理・農道等の整備が完了しているため、パインアップル・野菜生産団地形成を推進：上原地区〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧水利一般、農業水路等の長寿命化・防災減災事業による農業用水の確保を図る：上原地区〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧自然環境との調和に配慮しつつ農業基盤整備等の推進により優良農地の確保を図り、病害虫駆除や鳥獣被害対策を実施：西表・成屋地区〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧パインアップルは地産地消はもとより圏外出荷の体制づくりの確立、水稲は育苗施設の更新を図り生産の向上を図る〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧西表島のイメージ、ブランドの構築と農道整備、畑地かんがい施設整備、新たな水源確保〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕

強み、弱み、将来に関する意見を踏まえ、戦略的な課題を出すためのSWOT分析を行なった結果を次ページに示す。

▼西表島西部のＳＷＯＴ分析

内部要因 / 外部要因		強み（S）	弱み（W）
		❶ピナイサーラの滝やイリオモテヤマネコの生息など大自然に囲まれており、世界自然遺産に登録されている ❷大自然を活かした観光業が盛んである ❸竹富町の中で最も人口が多く、意欲ある農家が多い ❹平坦な農地が少ないが、生産基盤整備が進められ、ため池や水田整備も実施されている ❺経営耕地面積は減少しているが、戸当たり面積が約２倍に増加しており、担い手農家への集積が進んでいる ❻パインアップルの拠点産地であり、水稲や畜産など専作が主体である ❼乗用トラクターや運搬機などの機械を多く所有しており、導入年次が比較的最近である ❽個人販売が主流である	①拠点となる石垣島からの移動は航路のみであり、台風時期は欠航となり、移動が制限される（１日８往復、所要時間45～55分） ②主業農家数が半減し、後継者不足が深刻化している ③短期のバイトが来ない、来たとしても滞在する住居がない ④経営耕地面積が減少しており、不在地主も多く、農地の需要と供給がマッチしていない ⑤鳥獣害被害が深刻化している ⑥ダムが小さく水が足りない、用水の安定供給が確保できない ⑦果樹は品質確保のため、収穫から箱詰めまで手作業が多い ⑧近年は、毎年のように干ばつが起こっている ⑨予冷庫や選果場などがないため、輸送に合わせた作業が必要である ⑩輸送に使用しているJAおきなわの貨物船がR7で撤退する
機会（O）	❶全国的な高齢化、生産人口の減少 ❷世界的な自然志向、健康ブーム、農業・農村への関心の高まり ❸食の安全保障 ❹安全・安心な食に対する国民のニーズ ❺スマート農業などの技術革新 ❻沖縄来訪者の８割がリピーター(地産地消の消費者としての期待) ❼旅行形態や目的・ニーズの多様化(ガストロノミーツーリズム) ❽空路・航路による輸送増の可能性	人：大自然など西表島西部の魅力を活かしたU・Ｉターンや移住者を含めた新規営農者の確保・育成と地域の担い手への農業経営支援 農地：安定生産に向けた農業用水の安定確保と基盤整備ほ場の維持とともに、農地中間管理機構等の活用による農地の集約・集積 生産：基盤整備された農地を活かした竹富町の中心となるパインアップル等の熱帯果樹や水稲の生産団地づくりと自然と調和した循環型農業の確立	
脅威（T）	①資材・物価・輸送費高騰等による農業経営の圧迫 ②原油高等による物流工素と増加 ③農畜産部物の産地間競争の激化・輸入増加 ④農畜産物の国内需要の低迷 ⑤アフターコロナの動向 ⑥地球温暖化による異常気象の増加 ⑦代替わりによる相続の問題	販売流通：大自然を活かした観光業とのタイアップによる西表島ブランドの確立と地産地消の推進及び輸送体制の確立	

2.4 西表島東部

①大自然の魅力にあふれ、観光業が盛んかつ、担い手農家のいる地域

■西表島東部は、仲間川や水牛車で渡る由布島がある。西部同様に、島は西表石垣国立公園に指定されている。特別天然記念物のイリオモテヤマネコが生息し、令和３(2021)年に世界自然遺産に登録され、大自然を活かしたエコ・ツーリズム島の観光業が盛んである。

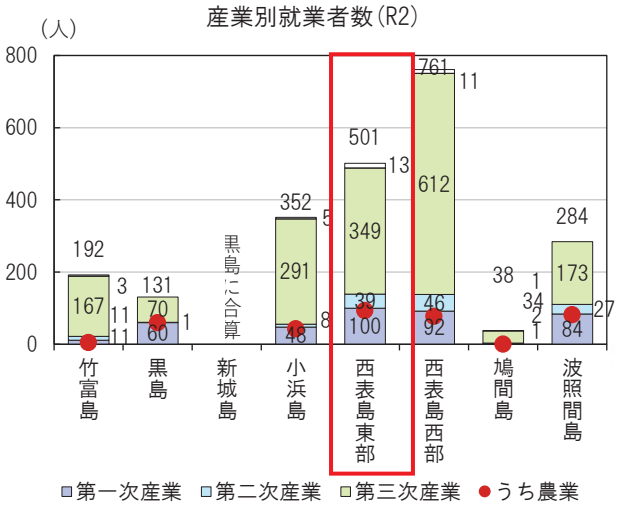


図　令和２(2020)年における産業別就業人口

資料：国勢調査



図　西表島全体図

資料：竹富島町役場ホームページ

■東部は、西部に次ぎ、人口が多い地域である。他の島では人口の減少が予測されており、東部の将来人口も若干減少すると予測されている。

■平成17(2005)年から令和２(2020)年の農家数は減少傾向であるが、主業農家の減少率が低く、後継者もおり、意欲ある担い手がいる。なお、十分ではない。

■繁忙期の短期アルバイトが来なくなっている(聞き取り)。

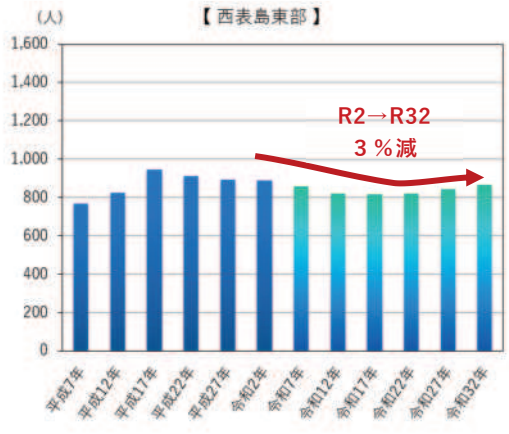
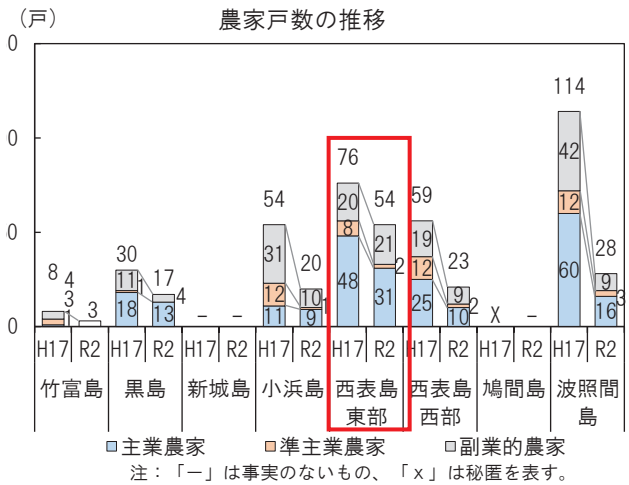


図　島ごとの人口推計

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所
都市研究部



注：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。

図　平成17(2005)年と令和２(2020)年における農家戸数(販売農家)の推移

資料：農林業センサス

❶西表島東部は、西部同様に大自然に囲まれており、多くの地域資源を有する魅力的な地域である。人口は減少しているものの、農業従事者の減少率が他の島と比べると低く、主業農家の割合が高い。また、十分ではないが、担い手や後継者がいる農家もある。しかし、人手不足は深刻化しており、収穫期などの繁忙期のアルバイトも集まらない状況が続いている。

➡そのため、最初に地域内にいる意欲ある将来の中心的な担い手へ支援の充実を図る必要がある。

➡また、観光業とのタイアップなどにより新規就農者や短期アルバイトの確保・育成が必要である。

②製糖工場があり、整備された条件のよい農地があり、さとうきびを中心にパインアップルやかぼちゃなどの野菜類が生産されている

■西表島東部の土壌は、国頭マージや島尻マージ、沖積土壌が存在し、さとうきび(約164ha)を中心に、パインアップル(22.2ha)やかぼちゃ(10ha)、ばれいしょ(1.2ha)、水稲(約60ha)、肉用牛などが生産されている。パインアップルやかぼちゃは拠点産地である。

■肉用牛の他、採鶏卵の飼養羽数が本町の中で西部の次に多い。

■含密糖生産地域で、島内の東部には含密糖工場(西表糖業KK)が処理能力100t/日でフル稼働している。また、西表集中脱葉施設もある。

■西表島東部は、豊原・大原、大富、古見、由布の４つの地区に分かれており、豊原・大原や由布には約300～400haのまとまった農地が存在し、大富は集団化した農地が存在している。また、古見は他の地区と比べると島尻マージがあり、土壌条件に恵まれている。

■耕作放棄地はなく、竹富町内で唯一経営耕地面積が増加し、１戸当たりの面積が約２倍となっている。

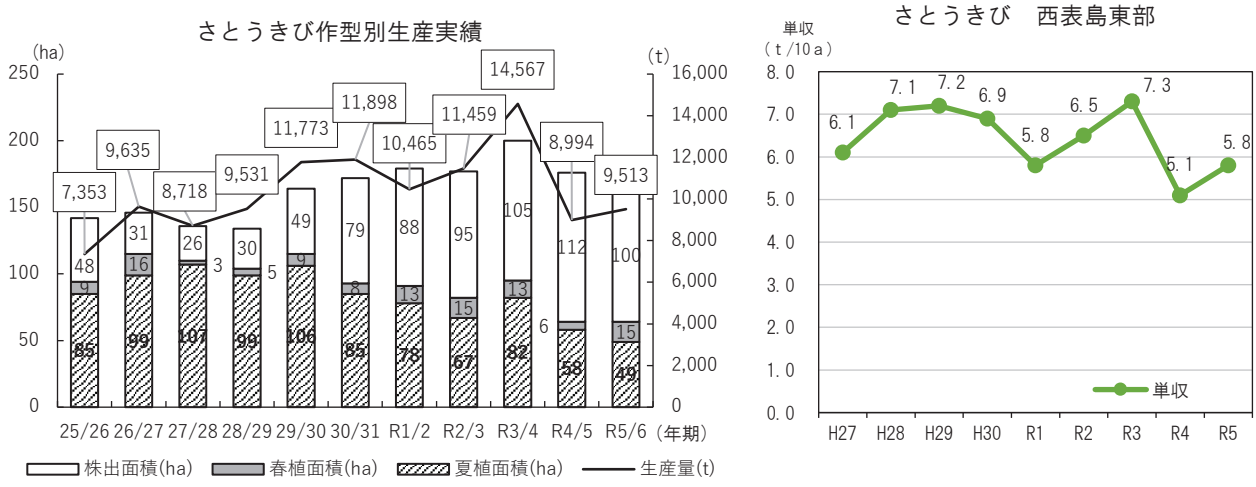


図 西表島におけるさとうきび作型別生産実績

資料：さとうきび及び甘しゃ糖生産実績、竹富町役場

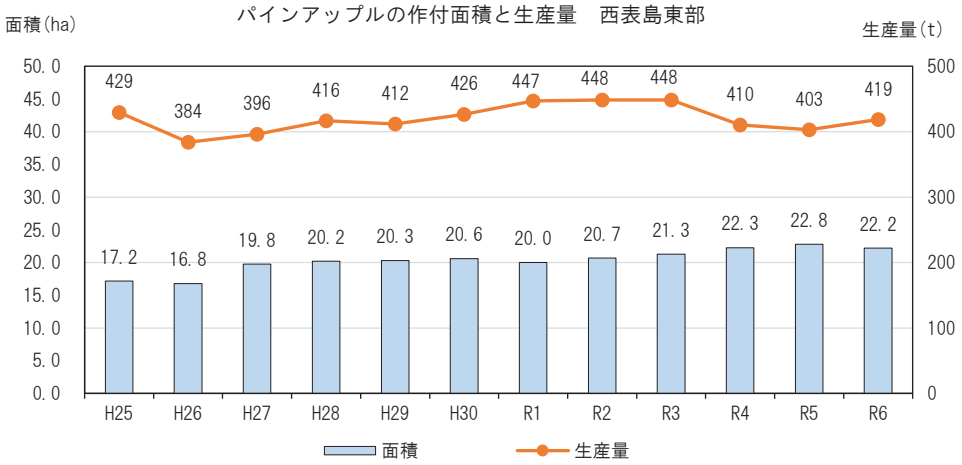


図　西表島東部におけるパインアップルの生産状況

資料：竹富町役場

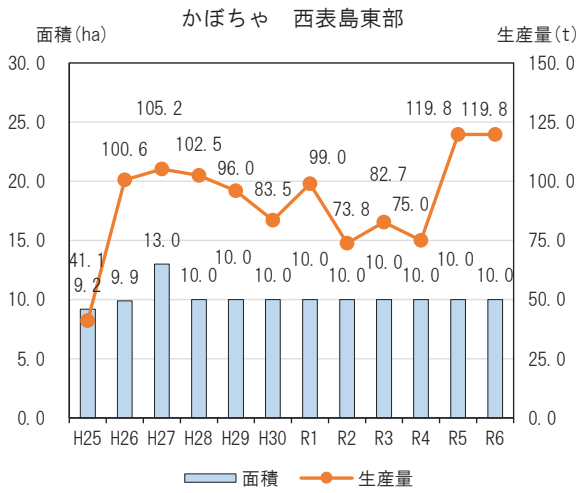


図　西表島東部におけるかぼちゃの生産状況

資料：竹富町役場

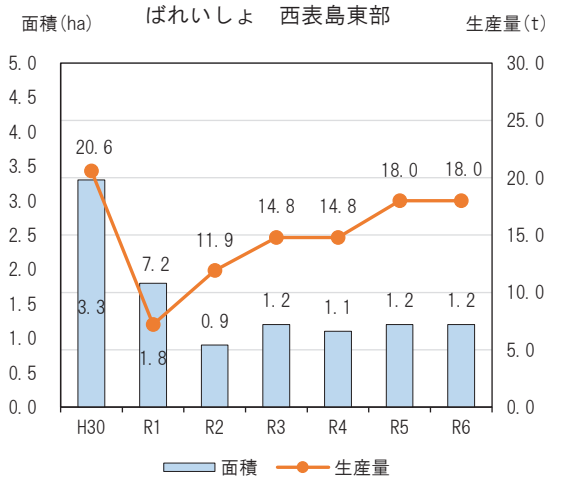


図　西表島東部におけるばれいしょの生産状況

資料：竹富町役場

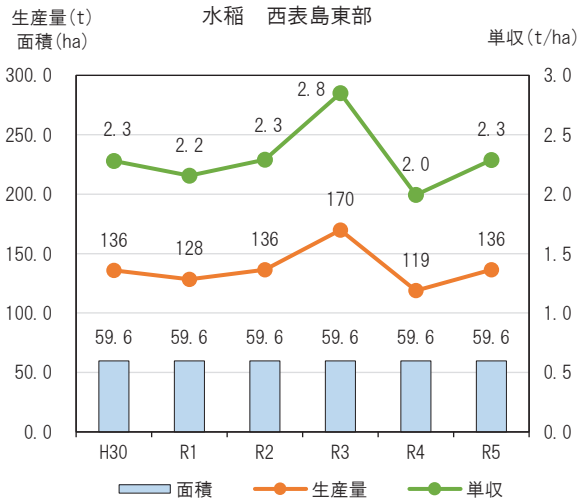


図　西表島東部における水稲の生産状況

資料：竹富町役場

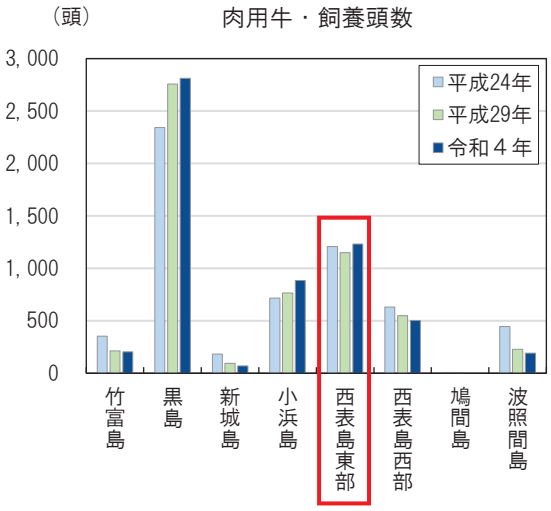


図　肉用牛の飼養頭数の推移

資料：竹富町役場

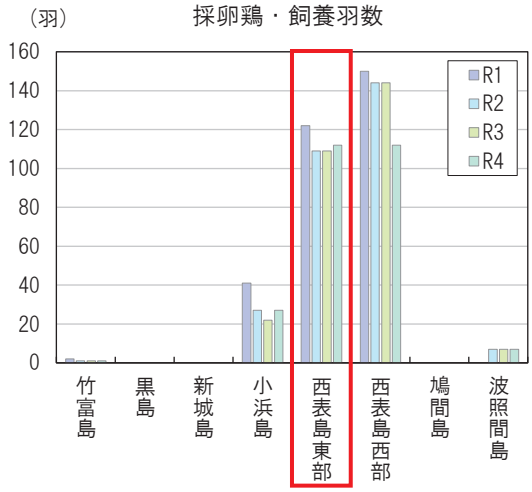
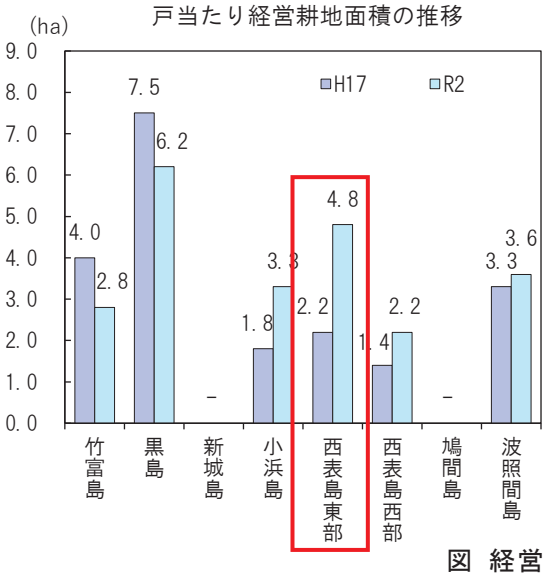


図　採鶏卵の飼養羽数の推移

資料：竹富町役場



図　土壌分布図と各土壌に適した主な作物



島名	H17			R2		
	総農家数（戸）	経営耕地面積（ha）	戸当たり面積（ha/戸）	総農家数（戸）	経営耕地面積（ha）	戸当たり面積（ha/戸）
竹富島	12	48	4.0	5	14	2.8
黒島	30	224	7.5	17	105	6.2
新城島	-	-	-	-	-	-
小浜島	64	118	1.8	23	75	3.3
西表島東部	79	176	2.2	56	271	4.8
西表島西部	71	97	1.4	31	67	2.2
鳩間島	1	x	-	-	-	-
波照間島	128	418	3.3	32	115	3.6
計	385	1,400	3.6	164	655	4.0

出典：農林業センサス
注　：「西表島東部」は、字南風見、字南風見仲、字古見、字高那の合計値、「西表島西部」は、字上原、字西表、字崎山の合計値である。
注　：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。
注　：秘匿があるため各項目の合計と計が一致しないことがある。

図　経営耕地面積の推移

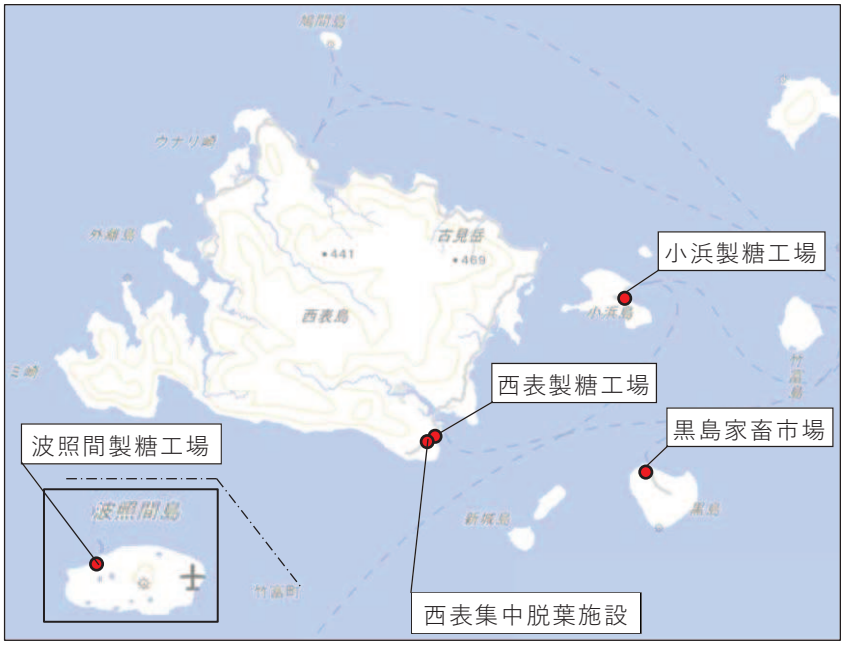
資料：農林業センサス

▼農業関連施設の整備状況

施設名称	所在地	建設年度	延床面積(m²)
西表製糖工場	竹富町字 南風見333番地41	H26	4,455.86
西表集中脱葉施設	竹富町字 南風見333番地80	H30	645.90

出典：竹富町農林水産課調べ

▼主な農業関連施設の位置



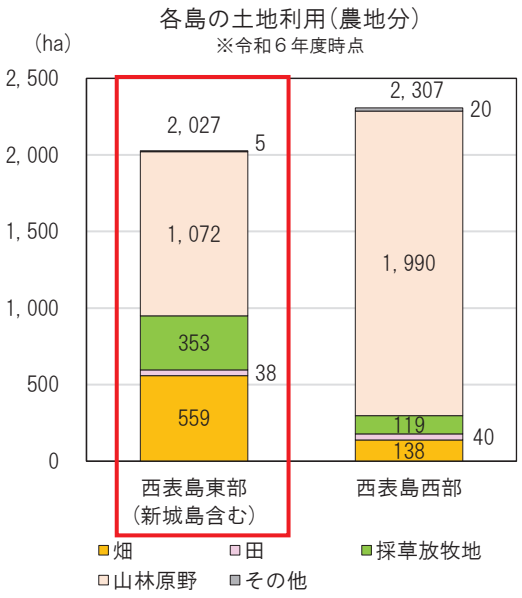


図 西表島の土地利用状況(農地分)

資料：竹富町役場

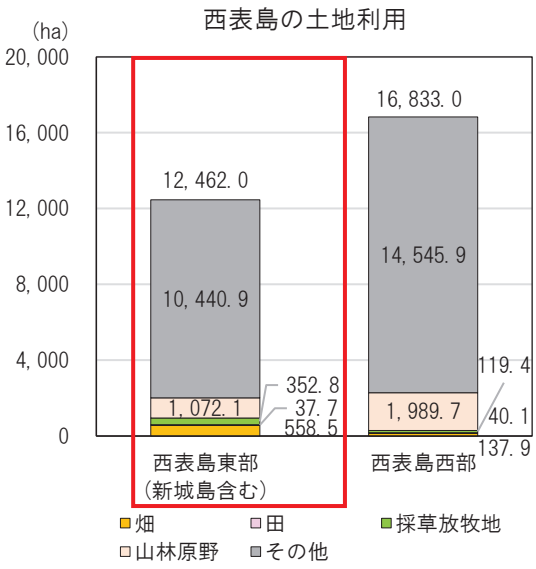
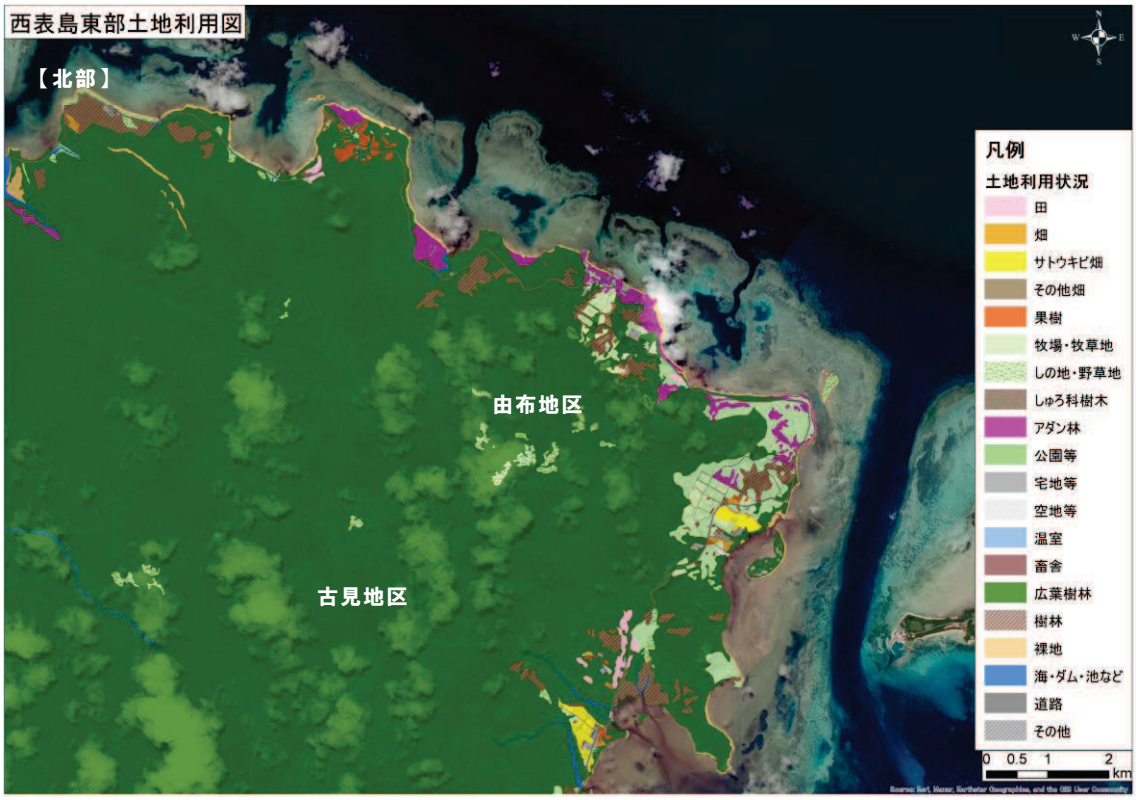
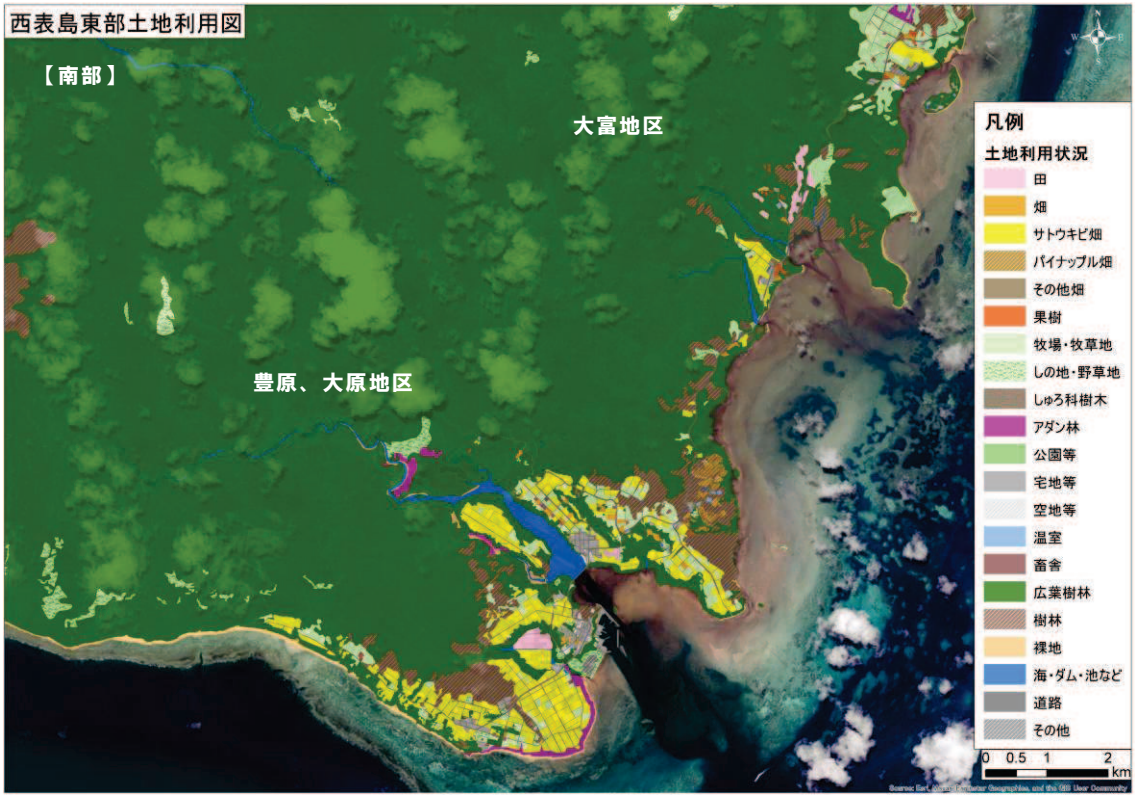


図 西表島の土地利用状況

資料：竹富町役場、国土地理院(面積)





出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

❷西表島東部では、土壌の条件がよいため、パインアップルやかぼちゃの拠点産地となっている。その他、さとうきび、水稲、肉用牛などの農産物が生産されている。また、基盤整備の実施により、いくつかの地区で農地を集団化しており、安定的に作物が生産できる環境を有しており、含密糖工場もあるため、効率的なさとうきびの生産が可能な地域である。

ただし、用水の安定供給がないため、農業生産が天候に左右されやすい状況である。

➡土壌条件がよく、まとまった農地のある東部では、今後、持続的かつ、効率的な農業生産が可能となるよう、合理的な土地利用の推進と施設整備を推進する必要がある。製糖工場の稼働状況も踏まえた土地利用の検討が必要である。

➡かぼちゃなどの野菜類やパインアップルなど多様な農産物の生産が行える技術があるため、これらの農業生産技術の継承と今後の気候変動にも柔軟に対応できるような生産体制の確立が必要である。

③拠点となる石垣島からの移動は、高速船または貨客船のみであり、東部には欠航率が低い大原港がある。ただし、台風時期には移動が制限され、農畜産物輸送のJAおきなわの貨物船がR7で撤退する。

■西表島東部へは海上交通のみで、石垣島の離島ターミナルから出ている定期運航便(高速船、貨客船等)を利用する。高速船は１日９往復、所要時間40～45分であり、貨客船等は曜日指定等により運航している。

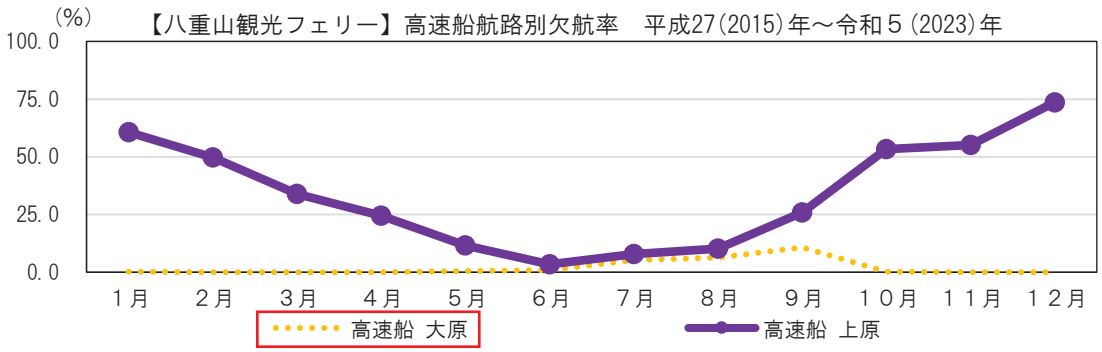
■高速船、貨客船共に通年をとおして欠航率は25％以下であり、台風や強風の時以外は流通が断絶することはないが、貨客船は曜日指定のため、移動が制限される。

■農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和７(2025)年で撤退する。



図　離島航路図

資料：八重山観光フェリー(株)HP を一部加工



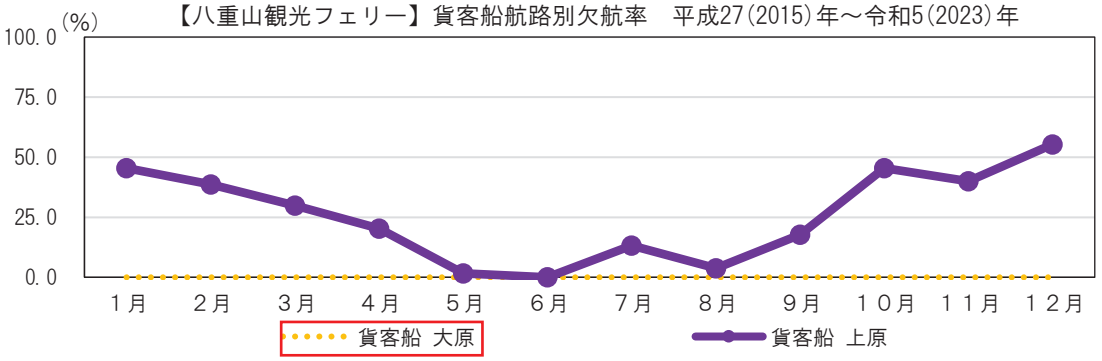
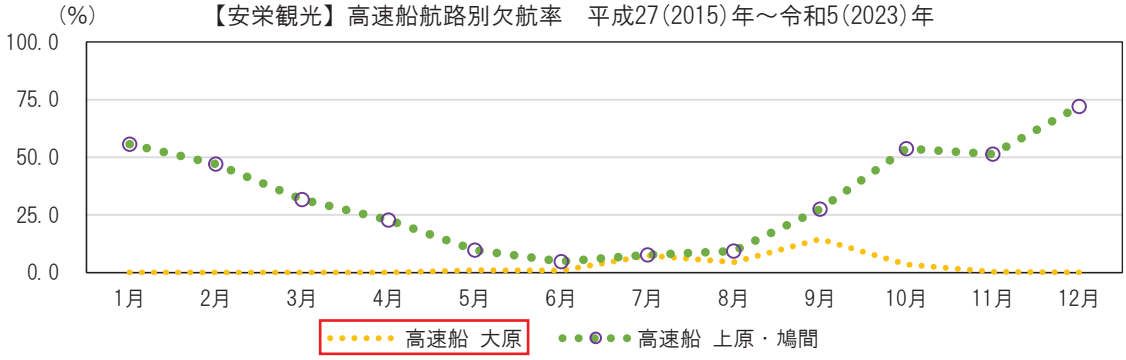


図　八重山観光フェリーにおける欠航率　平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：八重山観光フェリー(株)提供資料



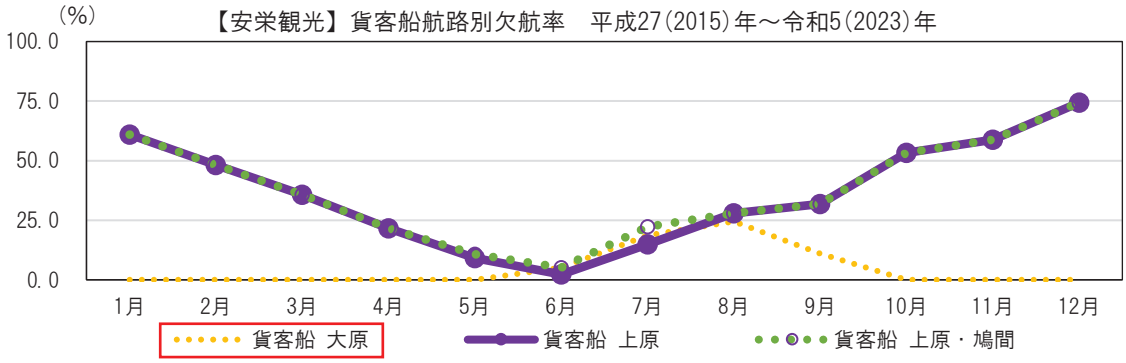


図　安栄観光における欠航率　平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：(有)安栄観光提供資料

■西表島の入域観光客数は竹富島に次いで多く、旅館・ホテルにおける収容能力は、町内トップである。

▼西表島(全体)の入域観光客数・宿泊能力

R4入域観光客数	253,278人
旅館・ホテル数	45施設
旅館・ホテル収容能力	1,783人

出典：離島関係資料(R6.3)

❸拠点である石垣島からの移動は航路のみであるが、欠航率は年間を通して25%以下であり、断絶されることは少ないが、移動は制限される。予冷庫や選果場がないため、主に生産されているパインアップルは輸送に合わせた作業が必要となる。台風時などは、海上の影響を受けるため、天候に左右され、輸送が一時的に止まると同時に、再開までの予測が難しい。また、農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和7(2025)年で撤退する。

大原港は、西表島の玄関口として利用されており、大自然を活かした観光業なども盛んである。

聞き取りでは、島内での消費はほぼなく、かぼちゃはJAへ出荷し、パインアップルは個人出荷のため、輸送形態や輸送量が作物によって異なる。

➡島内での移動、島外への輸送に制限があり、パインアップルなど保存期間が短い農産物を生産しているため、観光業(宿泊施設との包括協定など)とのタイアップにより、西表島ブランドの確立と地産地消の推進を行う必要がある。

➡JAおきなわの貨客船も令和7(2025)年で撤退することが決まっているため、かぼちゃやパインアップルなどを含め、八重山圏域一体の流通・販売戦略をたてる必要がある。

【参考資料】

西表島東部の現状について、島全般、人、農地、作物、生産等の項目ごとに「強み」と「弱み」を整理した結果を下表に示す。

▼西表島東部における項目ごとの強みと弱み

項目	強み	弱み
島全般 （地勢、交通、観光等）	●石垣島の西北37km ●沖縄本島に次ぐ面積を有する島で、東部には豊原・大原地区、大富地区、古見地区、由布地区（由布島）がある ●島の東部には、仲間川、サキシマスオウノキの群落、水牛車で渡る由布島がある ●島のほとんどが西表石垣国立公園に指定されている森林地域（東洋のガラパゴス）である ●特別天然記念物のイリオモテヤマネコが生息する島で、R3に世界自然遺産に登録 ●自然環境を活用したエコ・ツーリズム等の観光業が急速に伸びている	●石垣島からフェリーでの移動（大原港１日９往復、所要時間40～45分） ●大原港の欠航率はほぼ０％であるが、台風の時期は欠航となる ●フェリーは、上原港発着もある（１日８往復） ■未舗装道路がある
人（住民・農家等）	◆人口、世帯ともに増加（H17→R2） ◆令和７年から令和17年までは減少し、それ以降の推計人口は、微減傾向（R2：890人→R32：867人）。 ◆第一次と第二次産業の割合がわずかに減少し、第三次産業の就業人口が増加（H17→R2） ◆農家数の減少率が町内で一番低い（H17→R2） ◆2.0ha以上の農家割合が増加（H17:73％→R2:85％） ●担い手はいるが、十分ではない □大原は、後継者がいる（土地もある） □今後も自ら耕作するという意欲ある農家が多い	◆認定農業者数の減少（H29:35人→R3:27人） ●新たな農地の受け手の確保が必要 □収穫期は人手不足であり、県外から来る人も少なくなった
農地 （土地）	●畑の面積559ha、採草放牧地353ha、田38ha ●豊原・大原地区 ・大原港を中心に、集落の周辺には基盤整備された農地が400haある ・土壌：国頭マージ ●大富地区 ・仲間川を起点に仲間川北岸から前良川に至る地域で、農地は海岸より山手の方に平坦地が広がり、集団化した農地がある ●古見地区 ・古見集落を中心に古見岳の裾野に広がる農地が150haある ・土壌：国頭マージと部分的に島尻マージ ・他の地区と比較すると土壌条件に恵まれている ●美原地区 ・美原集落を中心に約172haの整備済みの地区がある ◆基盤整備が進んでおり、集落排水強化、農地保全のための農地浸食防止が実施されている ◆竹富町内で唯一経営耕地面積が増加（H17→R2） ◆戸当たり面積は約２倍に増加（H17→R2） □耕作放棄地はほとんどない □農地が点在していることで、病害などのリスク減少に繋がっている	◆経営耕地面積の減少（H17→R2） □土地（採草地含む）が足りていないため、植え替え等ができない □由布島の近くに昔農地だった場所があるが、道がないため、アクセスできない □農地は点在している □国有林が広がっており、開発はできない、しない □作付出来ない農地は、礫が多い農地である

項目	強み	弱み
営農・作物	●パインアップルとかぼちゃの拠点産地である □稲作(R5:59.6ha)、肉用牛(R4:1,232頭) □さとうきび(R5/R6:164ha)、かぼちゃ(R6:10.0ha、100t程度の生産)、ばれいしょ(R6:1.2ha)の生産 □採卵鶏・養鶏の飼養羽数が他の島より多い □島全体:果樹(パインアップルR6:22.2ha)の生産 □生産量について、かぼちゃ、ばれいしょは一定 ※西表島のかぼちゃは、県の拠点産地に認定されている □生産量について、パインアップルは一定 ●豊原・大原地区 ・さとうきびを中心に、水稲、パインアップル、野菜(かぼちゃ、ばれいしょ)、肉用牛の生産 ・含糖蜜生産地域 ●大富地区 ・さとうきび、パインアップルの他、畜産も盛んである ●古見地区 ・さとうきびを中心に、水稲の生産 ●由布地区 ・畜産を中心に水稲、さとうきび、生食用パインアップルの生産 □さとうきび、パインアップルの専作、畜産 一部で、さとうきび＋パインアップルの複合経営を行っている	□イノシシやカラス、コウモリの鳥獣害被害が多発している □鳥獣害防止柵で対策しているが、老朽化している □肥料、燃料などが高騰している ■畜産肥料や飼料の高騰 ■沈砂池、排水路等の老朽化 ■防風林の維持管理
生産	□農業用水は、雨水のみである □かぼちゃは、２～３haが生活できる程度の経営面積である ■建設機械(バックホウ、ダンプ等)は３島(石垣島、西表島、黒島)のみの所有で、台数が合計29台と一番多い □乗用トラクターや運搬機を保有しているが、導入時期が不明なものが多い ▲平成24/25年期～令和5/6年期の平均製糖日数：120日(処理能力100t/日)	□牛が食べる牧草が足りない □用水がないため、野菜や花きなどが作れない □スプリンクラーや散水施設がない □ハーベスターを利用しているため、収穫量と人件費のバランスが悪く収益が悪い □製糖工場の処理能力と生産量のバランスが悪く、工場フル稼働のため、赤字になることがある
販売(流通)	●製糖工場、集中脱葉施設がある □さときうきび→製糖工場 □かぼちゃ→JA出荷 □パインアップル→個別出荷	●輸送ルートは航路のみであり、JAおきなわが所有する貨物船が中心であり、R7の撤退を決定している

出典：農林業センサス(◆)、各種計画(●)、町聞き取り(■)、地域住民聞き取り(□)、その他(▲)

西表島東部における地域懇談会での将来に向けた意見と振興計画等で記載されている振興方向を下表に整理した。

▼西表島東部における将来に向けて

項目	将来に関する意見
懇談会での意見	❖面積や飼養頭数を拡大したい ❖循環型農業やロスを無くすような新たな生産体系を確立したい ❖土地の貸借の仕組み作りを整備したい ❖作業委託などを行い、地域全体の収益を上げていきたい ❖町有地を基盤整備して農地を増やせないか ❖農作業が楽しく、楽になるような休憩所を設置 ❖ため池の活用、ファームポンドの設置により、各受益への安定的な用水供給(自然流下) ❖ハーベスターの活用等、機械化を図る ❖機械は高いため、組合で所有するなど共同利用を図る ❖新たな品種や作物(ハウスいちご、にんじん、とうがん、パパイヤ、じゃがいもなど)を導入したい ❖輸送に制限があるため、一次加工施設や予冷庫などの施設の設置 ❖販路の開拓
振興計画類の記載内容	✧沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧心豊かで、安全・安心に暮らせる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧希望と活力にあふれる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧世界に開かれた交流と共生の島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧多様な能力を発揮し、未来を拓く島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧パインアップル、熱帯果樹、かぼちゃ、水稲等の振興と肉用牛との経営の複合化〔新・沖縄21世紀農林水産振興計画、沖縄県農業振興地域整備基本方針〕 ✧含密糖生産地域にあり、さとうきびを主体に水稲、畜産との複合経営の推進と機械化一貫作業体系の推進：豊原、大原地区〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧さとうきびを主体にパインアップル、熱帯果樹の栽培促進と河川水を利用しながら、かんがい施設整備に努め、農業の近代化と安定した農業生産を図る、さとうきびを主体とした肉用牛とパインアップルも含めた複合経営の推進、自然環境との調和に配慮しつつ農業基盤整備等の推進と優良農地の確保：大富地区〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧未整備農用地を含め、さとうきびを主体に熱帯果樹や牧場として利用、豊富な水源を利用し、さとうきびの団地化の推進、熱帯果樹や畜産の推進に努め、農業経営の複合化を図る、水稲整備も事業導入の可能性調査を検討：古見地区〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧一戸当たりの経営耕地面積が他地区と比較し大きいため、肉用牛などの畜産振興、さとうきび、水稲の品質向上と安定生産体制の確立、合理的な土地利用の推進と必要な農業近代化施設の一体的な整備の推進：由布地区〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧土地基盤整備も着々と進められているため、植付から工場搬入までの機械の推進、圏外出荷用野菜を栽培するための生産農家の組織化の推進、畜産との複合経営と対比の畑地還元の推進、農畜産物集出荷貯蔵施設(計画書に位置付けられている：ばれいしょ、かぼちゃ、パインアップルが対象)の整備：全域〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧大原を拠点とする海上交通網の整備〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕 ✧新たな水源確保の検討と海底送水管の敷設替え〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕

強み、弱み、将来に関する意見を踏まえ、戦略的な課題を出すためのSWOT分析を行なった結果を次ページに示す。

▼西表島東部のＳＷＯＴ分析

内部要因 ＼ 外部要因	強み（S）	弱み（W）
	❶仲間川や由布島があり、世界自然遺産に登録されている ❷大自然を活かした観光業が盛んである ❸西部に次いで人口が多く、今後の人口減少率が低い ❹農家数の減少率が町内で一番低く、後継者がいる農家、意欲的な農家が多い ❺条件の良い農地も多く、生産基盤整備が進んでおり、集団化した農地もある ❻経営耕地面積が微増しており、耕作放棄地はなく、戸当たり面積が約２倍に増加している ❼パインアップルやかぼちゃの拠点産地であり、さとうきびを主体に、水稲、熱帯果樹、野菜、畜産などの生産が盛んである ❽さとうきびは製糖工場、かぼちゃはJA、パインアップルは個別出荷である ❾大原港、製糖工場、集中脱葉施設施設などの拠点施設がある	①拠点となる石垣島からの移動は航路のみであり、台風時期は欠航となり、移動が制限される（１日９往復、所要時間40～45分） ②収穫時期の人手不足が深刻である ③農地が点在している、礫の出る農地は放棄されている ④経営耕地面積が減少し、耕作地、採草地を含め、農地が足りない ⑤鳥獣害被害が深刻化している ⑥用水の安定供給がないため、野菜や花きなどが作れない ⑦機械化が進んでいるが、収穫量と人件費のバランスが悪く収益が確保できない ⑧製糖工場がフル稼働しており、赤字になることがある ⑨近年は、毎年のように干ばつが起こっている ⑩輸送に使用しているJAおきなわの貨物船がR7で撤退する
機会（O） ❶全国的な高齢化、生産人口の減少 ❷世界的な自然志向、健康ブーム、農業・農村への関心の高まり ❸食の安全保障 ❹安全・安心な食に対する国民のニーズ ❺スマート農業などの技術革新 ❻沖縄来訪者の８割がリピーター(地産地消の消費者としての期待) ❼旅行形態や目的・ニーズの多様化(ガストロノミーツーリズム) ❽空路・航路による輸送増の可能性	人：意欲ある将来の中心的な担い手への支援と多様な農業者や新規営農者の確保・育成 農地：効率的かつ安定的な農業生産が可能となる合理的な土地利用の推進と施設整備 生産：多様な作物の生産を行っている本地区の農業生産技術の継承と気候変動にも柔軟に対応できる生産体制の確立 販売流通：西表島の玄関口としての観光業とのタイアップによる西表島ブランドの確立と地産地消推進及び圏外出荷体制の確立、八重山圏域一体の流通･販売戦略	
脅威（T） ①資材・物価・輸送費高騰等による農業経営の圧迫 ②原油高等による物流工素と増加 ③農畜産部物の産地間競争の激化・輸入増加 ④農畜産物の国内需要の低迷 ⑤アフターコロナの動向 ⑥地球温暖化による異常気象の増加 ⑦代替わりによる相続の問題		

2.5 黒島

①人口より牛が多い、畜産の島

■黒島は、島全体が隆起珊瑚礁からなる平坦な島であり、黒島の海は八重山圏でもトップクラスの美しさで知られている。

■島のほとんどが採草放牧地であり、畜産の島として知られており、主な産業は、農業である。

■人口約200人に対し、牛の数は約3,000頭と牛の島として有名である。毎年開催される「黒島牛まつり」には多くの来訪者が訪れる。

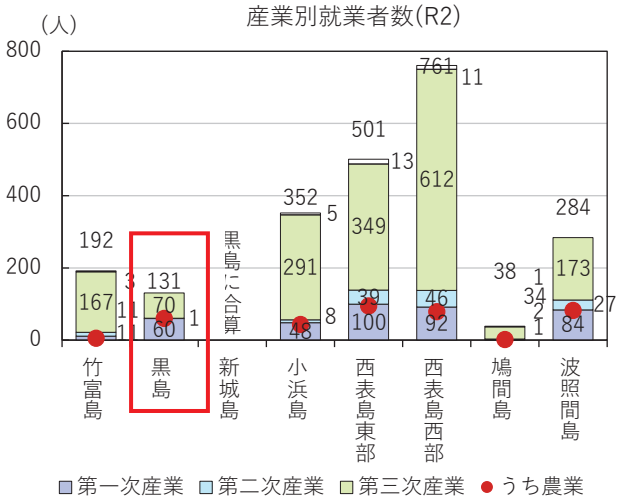


図 令和２(2020)年における産業別就業人口

資料：国勢調査



図 黒島全体図

資料：竹富島町役場ホームページ

■島内の人口は微減傾向であり、今後の予測も減少傾向である。

■平成17(2005)年から令和２(2020)年の農家数は半減しているが、主業農家はほとんど減っておらず、やる気のある地元の若い担い手やUターンして畜産を継ぐ若い担い手が増加している。

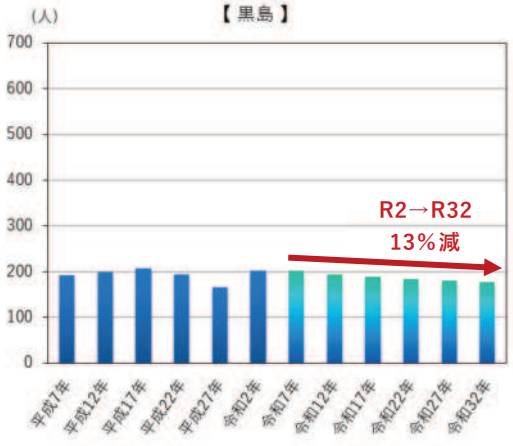
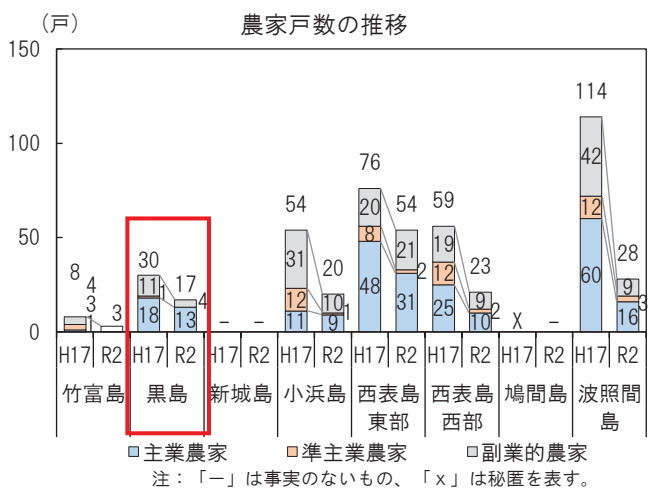


図 島ごとの人口推計

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所
都市研究部



注：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。

図 平成 17(2005)年と令和２(2020)年における農家戸数(販売農家)の推移

資料：農林業センサス

❶黒島の人口減少は微減であり、畜産の島としての地位を確立している。主業農家数もほとんど減っておらず、若い担い手やU・Ｉターンによる新規就農者もいる。
毎年開催される「黒島牛まつり」には多くの人が集まる。
➡地域の将来の担い手への安定的な農業経営のための支援の充実を図る必要がある。
➡また、U・Ｉターンによる新規就農も増加傾向であるため、他産業とも連携した新規就農者の確保・育成を図る。

②畜産のための基盤整備の実施、畜産セリ場の整備による安定的な畜産が営まれ、上質な子牛が育つ。

■黒島は平坦な島であり、島の大部分が牧場・放牧地であり、採草放牧地が787ha(畜産利用採草地は約640ha、竹富町役場資料より)ある。
■肉用牛子牛生産に特化した畜産業で、令和４(2022)年の肉用牛の飼養頭数は2,811頭で、農家数は減少しているが、平成24(2012)年以降の飼養頭数は増加傾向である。
■昭和59(1984)年頃からスタビライザー工法による草地造成(約500ha)を実施しており、生活環境の総合的な整備も実施されている。
■土壌は島尻マージであり、牧草は年５～６回採草しているが、牧草は足りていない。
■センサーやカメラ等の機械化を図ったことで、飼養頭数が増えている。
■肥料や飼料が高騰し、子牛の値段も年々下がっており(聞き取り)、経営が厳しくなっている。
■牛舎と採草地が点在しており、作業効率が悪いが、相続未登記等により所有者不明の農地が多く、集約できない。
■八重山地域で生産される牛は、粗飼料の利用性や発育性に優れ、今日の和牛に求められている高い産肉能力と良好な肉質を兼ね備えた肥育素牛として高く評価されている。
■黒島で取引された子牛は、九州地方を中心に圏外へと移出される。

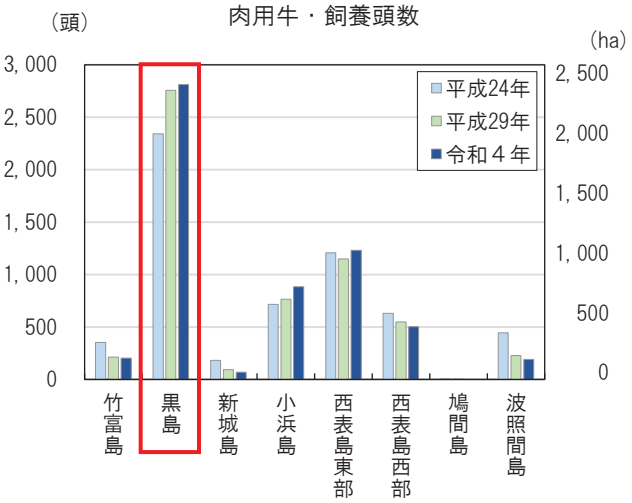


図　肉用牛の飼養頭数の推移

資料：竹富町役場

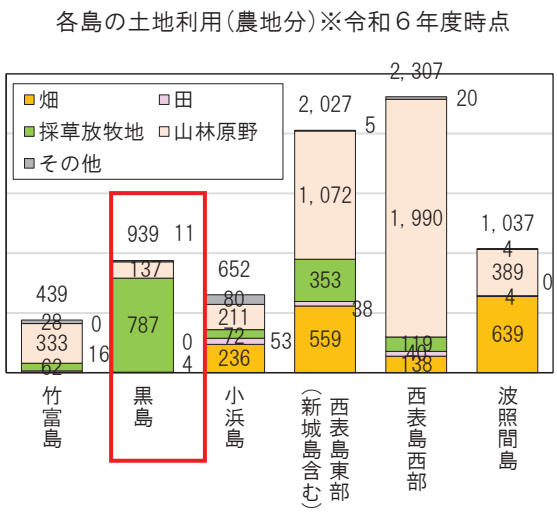
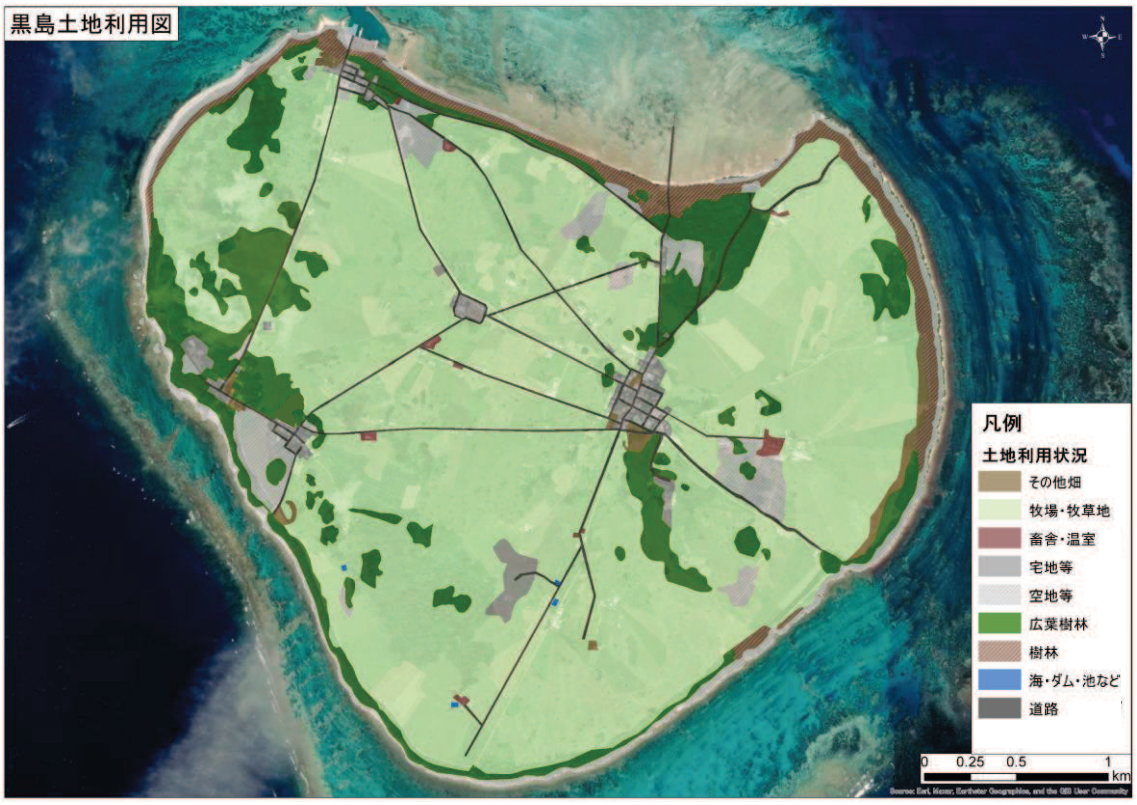


図　各島の土地利用状況

資料：竹富町役場



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム(土地利用)

❷黒島は、人口より牛の数が多く、肉用牛子牛生産に特化した畜産業が主体である。畜産用に基盤整備がされているが、現在は、牛舎と採草地が離れており、効率的な作業が難しい。農地は、未相続や所有者不明な土地が多く、集約できない状況である。

また、機械化により、農家数は減少しているが頭数は平成29(2017)年から増加しており、採草を年５～６回やっても牧草が足りていない。

八重山圏域の子牛は、良質な肉のため、高く売られ、主に九州地方に移出される。

➡農家は減少するが飼養頭数が増えているため、効率的な営農を行うために農地中間管理機構等を活用した農地の確保と集約を行う必要がある。また、牧草が足りていないため、遊休農地や耕作放棄地を解消し、農地をフル活用する必要がる。

➡牧草が足りない状況について、島内で全てをまかなうことが難しいため、他島からの移入を検討する必要がある。

➡黒島の牛は良質な肉で高い金額で取引されるが、最近は子牛の価格が低下している。そのため、美しい海を守りつつ、黒島牛の付加価値向上のためのサスティナブルな営農体系の確立が必要である。

➡将来的にも畜産の島として維持していくための農業経営の支援、家畜セリ場の維持が重要である。

③拠点となる石垣島からの移動は、高速船または貨客船のみである。

■黒島へは海上交通のみで、石垣島の離島ターミナルから出ている定期運航便(高速船、貨客船等)を利用する。高速船は１日６往復、所要時間25～30分であり、貨客船等は曜日指定等により運航している。

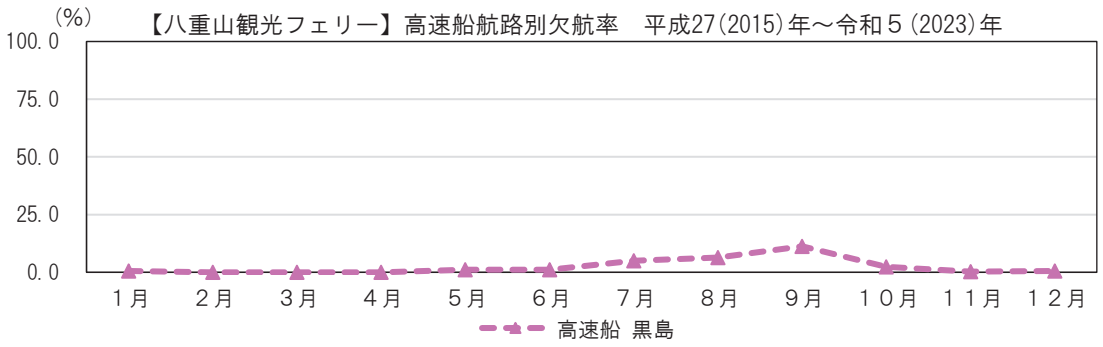


図 離島航路図

資料：八重山観光フェリー(株)HP を一部加工

■高速船は、通年をとおして欠航率が低く年平均欠航率は３％であり、台風や強風の時以外は流通が断絶することはない。貨客船は、年平均欠航率は14％であり、高速船と比較すると欠航率が高い。また、曜日指定のため、移動が制限される。

■子牛の輸送は年６回行われる。



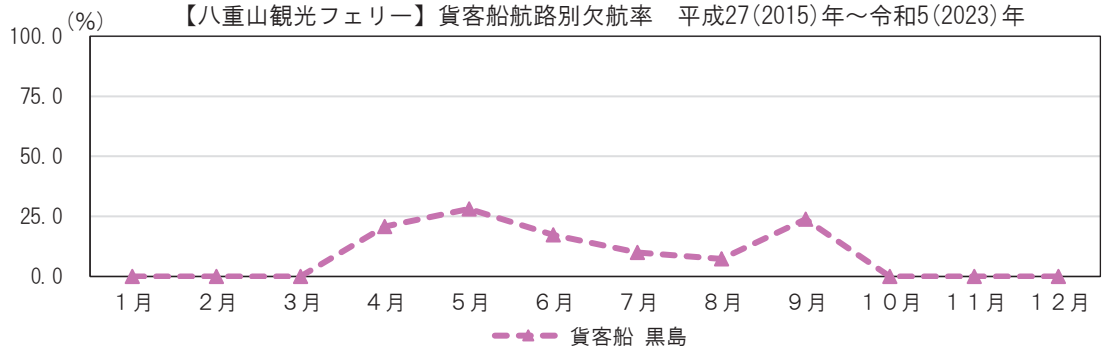


図 八重山観光フェリーにおける欠航率 平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：八重山観光フェリー(株)提供資料

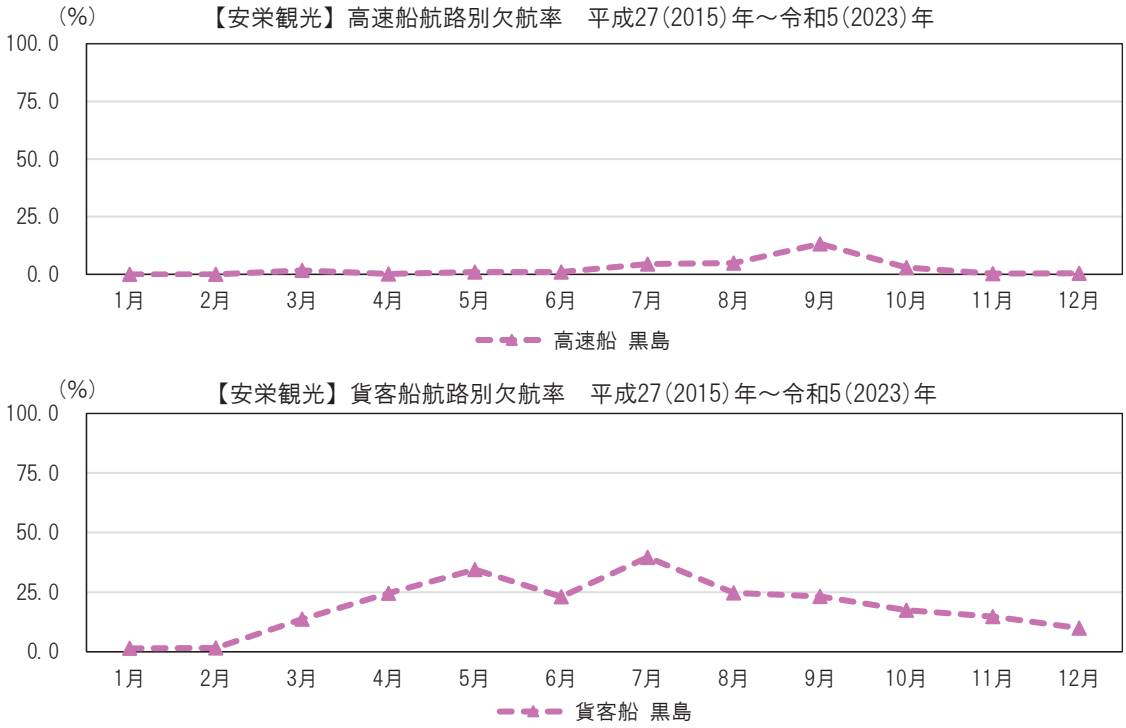


図 安栄観光における欠航率 平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：(有)安栄観光提供資料

❸拠点である石垣島からの移動は航路のみであり、高速船の年平均欠航率は３％で、断絶されることは少ないが、貨客船の欠航率は年平均14％であり、農産物や物品等の輸送が制限される。また、農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和７(2025)年で撤退する。

➡また、牧草が不足しているため、今後、他島からの移入を視野に八重山圏域、または島間の輸送ルートの確保が必要である。

➡「黒島牛まつり」には多くの人が訪れるため、「牛の島」として観光業とのタイアップによる知名度の向上が必要である。

【参考資料】

黒島の現状について、島全般、人、農地、作物、生産等の項目ごとに「強み」と「弱み」を整理した結果を下表に示す。

▼黒島における項目ごとの強みと弱み

項目	強み	弱み
島全般 （地勢、交通、観光等）	●石垣島の南西15km ●土壌：島尻マージ（海岸沿いにのみ、一部国頭マージある） ●島全体が隆起珊瑚礁で平坦な島 ●「黒島牛まつり」が毎年開催される	●石垣島からフェリーでの移動（１日６往復、所要時間25～30分） ●欠航率は比較的低いが、台風の時期は欠航となる □農地にアクセスする道路がない、未整備（未舗装）の道路が多い
人（住民・農家等）	◆人口、世帯ともに増加（H17→R2） ◆第一次産業の就業人口割合（46%）が竹富町の中で一番高い ◆主業農家の割合が高く、減少率（H17→R2）が小さい ◆経営体の規模は2.0ha以上 ●U・Ｉターンによる農業後継者や担い手が増加しつつある	◆農家数は約半減（H17→R2、主業農家は微減） ◆令和７年以降の推計人口は、減少傾向（R2：203人→R32：177人）。 ◆認定農業者数の微減（H29:21人→R3:20人） □高齢化等による人手不足、支援が必要
農地 （土地）	●畑の面積４ha、採草放牧地787ha ●島の大部分が牧場・放牧地 ●S59頃からスタビライザー工法による草地造成を実施した（約500ha） ◆草地造成整備が実施され、生活環境の総合的な整備も実施されている	◆経営耕地面積の減少（H17→R2） ◆戸当たり面積は微減（H17→R2） ●相続未登記が多く、耕作放棄地が増加してきている □水が溜まらない土地である □土地は先祖からのものという考えで、集約が難しい、遊休農地化して放置されているところも多い □所有者不明の農地が多い □整備済みと未整備の土地の値段が異なる □就農経験がないと農地が借りられないことがある □現在、農地の貸し借りが上手くいっていない ■採草地が足りない
営農・作物	□肉用牛（R4:2,811頭）の生産 □畜産が主体	□カラス、クジャクなどの鳥獣害被害 □狩猟免許等持っている人が島内にほとんどいない ■畜産肥料や飼料の高騰 ■牧草が足りない
生産	□牧草は、年５～６回採草 □機械化（センサーやカメラの導入）＋整備で飼養頭数が増加 □機械を所有している人がグループを組んで共働している ■建設機械（バックホウ、ダンプ等）は３島（石垣島、西表島、黒島）のみの所有で、台数が合計４台と一番少ない	□井戸の水量は少ない □子牛の値段が年々下がっている □牛舎や採草地が点在している
販売（流通）	●黒島家畜セリ場が整備されている □畜産関係→セリ	●輸送ルートは航路のみであり、JAおきなわが所有する貨物船が中心であり、R7の撤退を決定している

出典：農林業センサス（◆）、各種計画（●）、町聞き取り（■）、地域住民聞き取り（□）、その他（▲）

黒島における地域懇談会での将来に向けた意見と振興計画等で記載されている振興方向を下表に整理した。

▼黒島における将来に向けて

項目	将来に関する意見
懇談会での意見	❖成牛まで育ててブランド化 ❖採草地と放牧地の集約化と規模拡大 ❖採草組合などを作り、効率化を図る ❖品種を選んで育てて、品質を上げ、収益を上げる ❖ふん尿を堆肥化する施設を建設し、循環型農業を導入する ❖断水のリスクを低減するためのため池がほしい ❖水が溜まらない土地のため、用水を供給するスプリンクラーなどの施設が必要 ❖表土が浅いため、ストーンクラッシャーで表土づくりをしたい、その後、サツマイモなどの新たな作物を導入できるかもしれない ❖畜産業だけではリスクが高いので、新たな産業を導入し、リスク分散する ❖作業の効率化(移動時間減)を図るために採草地や放牧地を集約する ❖土地の貸借は農地中間管理機構を利用し、トラブルを回避する ❖農地の売りたい、買いたいのマッチング組織が必要 ❖遊休農地を管理する組合が必要 ❖牛をテーマにした複合施設「牛の駅」などを建設、観光業とのタイアップ
振興計画類の記載内容	✧沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧心豊かで、安全・安心に暮らせる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧希望と活力にあふれる島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧世界に開かれた交流と共生の島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧多様な能力を発揮し、未来を拓く島〔新・沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧肉用牛の振興〔新・沖縄21世紀農林水産振興計画、沖縄県農業振興地域整備基本方針〕 ✧畜産担い手育成総合整備事業の導入により、採草放牧地の拡大、施設整備による肉用牛の生産拡大を促進〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧未整備地区の重点的な整備促進、安定的な畜産経営の振興〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧畜産業と観光業との連携、「牛の島」としての更なる情報発信、リゾート宿泊施設の誘致〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕 ✧畜産バイオマスエネルギーを活用した循環型畜産農業の展開〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕

強み、弱み、将来に関する意見を踏まえ、戦略的な課題を出すためのSWOT分析を行なった結果を次ページに示す。

▼黒島のＳＷＯＴ分析

内部要因 / 外部要因	強み（S）	弱み（W）
	❶「黒島牛まつり」が毎年開催される ❷竹富町の中で第一次産業(農業)の就業人口割合(46％)が一番高い ❸主業農家の割合が高く、Ｕ・Ｉターンによる農業後継者や担い手が増加している ❹島の大部分が牧場・放牧地である ❺昭和59年頃からスタビライザー工法により草地造成を実施 ❻生活環境の総合的な整備も実施されている ❼機械化や草地造成整備により、飼養頭数が増加した ❽肉用牛の生産が主体であり、島内に畜産セリ場が整備されている	①拠点となる石垣島からの移動は航路のみであり、欠航率は比較的低いが、台風時期は欠航となり、移動が制限される(１日６往復、所要時間25～30分) ②高齢化による人手不足、支援が必要となっている ③相続未登録や所有者不明の農地が多く、遊休農地や耕作放棄地が増加している ④採草地が足りない(牧草が足りない) ⑤就農経験がないと農地が借りられない、農地の貸し借りが上手くいっていない ⑥鳥獣害被害が深刻化している ⑦子牛の値段が年々下がっている ⑧輸送に使用しているJAおきなわの貨物船がR7で撤退する
機会（O） ❶全国的な高齢化、生産人口の減少 ❷世界的な自然志向、健康ブーム、農業・農村への関心の高まり ❸食の安全保障 ❹安全・安心な食に対する国民のニーズ ❺スマート農業などの技術革新 ❻沖縄来訪者の８割がリピーター(地産地消の消費者としての期待) ❼旅行形態や目的・ニーズの多様化(ガストロノミーツーリズム) ❽空路・航路による輸送増の可能性	人：将来の担い手への農業支援の充実、多様な担い手の確保・育成 農地：農地中間管理機構等を活用した農地の確保と遊休農地・耕作放棄地の解消による草地のフル活用 販売流通：牛の持続的かつ安定飼育のための牧草の安定供給 生産：黒島子牛の付加価値向上と飼料作物増産のためのサスティナブル農業の推進	
脅威（T） ①資材・物価・輸送費高騰等による農業経営の圧迫 ②原油高等による物流工素と増加 ③農畜産部物の産地間競争の激化・輸入増加 ④農畜産物の国内需要の低迷 ⑤アフターコロナの動向 ⑥地球温暖化による異常気象の増加 ⑦代替わりによる相続の問題		

2.6 竹富島

①昔ながらの美しい沖縄の原風景を有し、竹富町の「広告塔」としての役割を担える島

■竹富島は、「伝統的建造物群保存地区」であり、赤瓦屋根の家々やサンゴの石垣、屋根の上のシーサーなど美しい沖縄の原風景を有する島である。

■拠点となる石垣島から船で10～15分と最も近く、主な産業が観光業であり、環境省のビジターセンターやリゾートホテルがある。

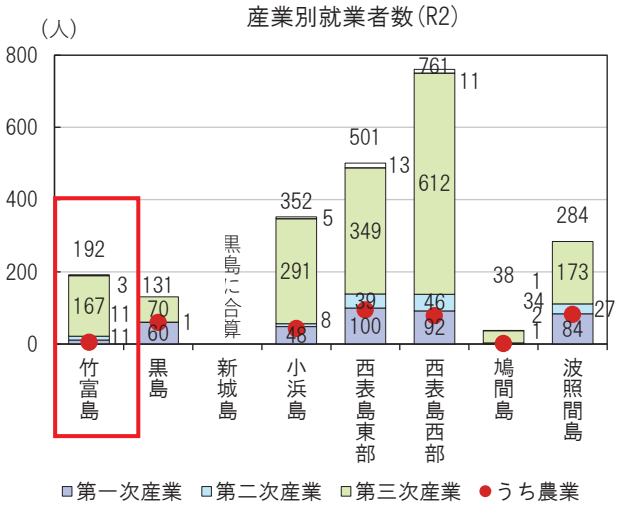


図 令和２(2020)年における産業別就業人口

資料：国勢調査



図 竹富島全体図

資料：竹富島町役場ホームページ

■島内の人口は増加傾向であるが、今後の予測は、波照間島(46％減)に次ぐ、減少率を示している。

■平成17(2005)年の農家数が約８戸で、令和２(2020)年は３戸になっており、島内には農家がほとんどいない。

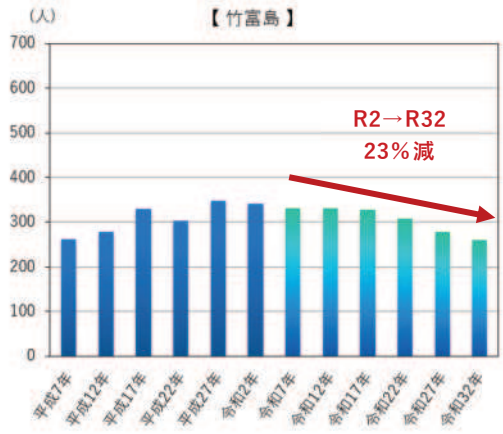
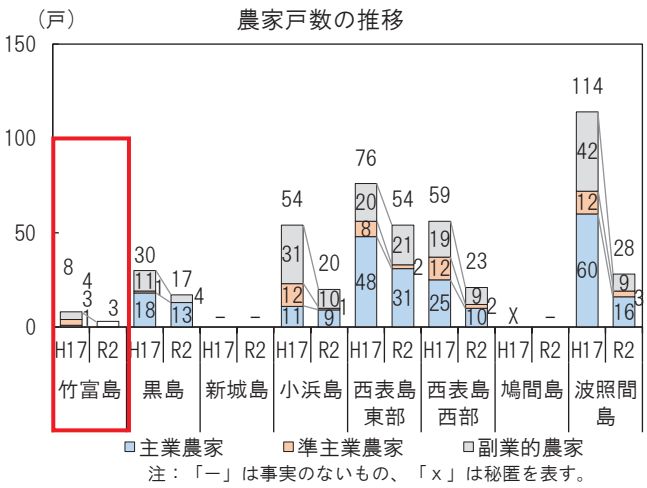


図 島ごとの人口推計

資料：国土交通省国土技術政策総合研究所
都市研究部



注：「－」は事実のないもの、「ｘ」は秘匿を表す。

図 平成 17 年(2005)と令和２年(2020)における農家戸数(販売農家)の推移

資料：農林業センサス

■竹富島の入域観光客数は竹富町で最も多いが、旅館・ホテルにおける収容能力は334人と少なく、日帰りで訪れる観光客が多い。

▼竹富島（全体）の入域観光客数・宿泊能力

R4入域観光客数	364, 382人
旅館・ホテル数	9施設
旅館・ホテル収容能力	334人

※簡易宿泊所は23施設、収容能力は374人
※石垣島におけるR4入域観光客数は990,771人
出典：離島関係資料(R6.3)



写真 竹富島島内の様子
資料：竹富町役場

❶竹富島は、昔ながらの美しい沖縄の原風景を有し、多くの観光客が訪れる観光主体の島である。農家数は３戸と少ない。今後は、人口は減少していくことが想定されている。

➡竹富町の「広告塔」とも言える竹富島では、観光業が主体であるため、観光を基軸とし、農業や工業など他産業と合わせた多様な担い手、新規就農者の確保・育成(竹富ワークスタイル)が必要である。

➡宿泊施設の収容能力は低いが、石垣島の入域観光客数の約1/3が竹富島を訪れていると想定されるため、多くの人の目に触れることができる機会を活かし、竹富町の農産物のPRなどの販売・流通の推進を図る必要がある。

②昔ながらの畜産業を軸に、観光業の農業への参入など多様な農業形態が発展

■肉用牛の生産が主体であり、主に採草放牧地(62ha)が広がっている。一部ではエビの養殖を行っている。畑はほとんどない。

■珊瑚石灰石から成る土地は、作土層が浅く、除礫の必要性もあり、他の島と比較すると土壌条件が悪い。

■ランタナやギンネムなどの外来種が繁茂し、遊休農地が増加している。

■星野リゾート「星のや竹富島」では、島特有の作物を育てる「畑プロジェクト」を実施し、ホテル内ダイニングでの提供や島の子供たちとの触れ合いの場を提供している。

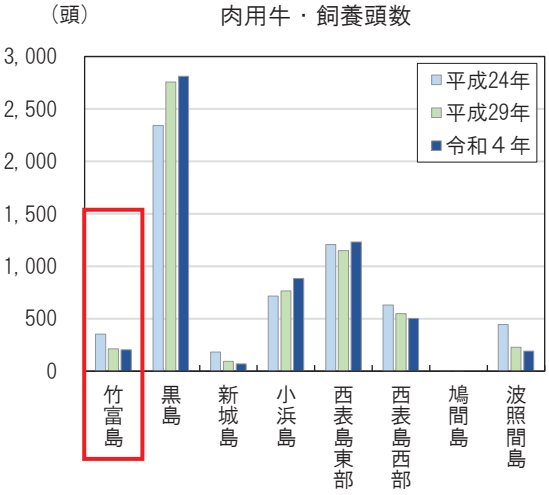


図 肉用牛の飼養頭数の推移

資料：竹富町役場

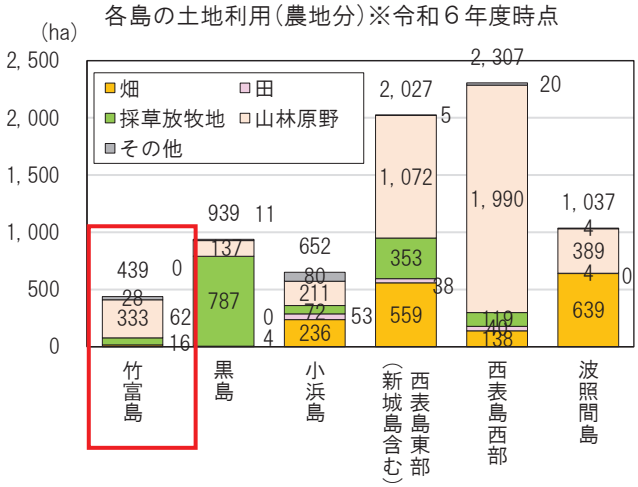


図 各島の土地利用状況

資料：竹富町役場



出典：国土地理院、沖縄県地図情報システム（土地利用）

❷竹富島は、少ないながらも肉用牛の生産が主体であり、島の農地はほとんどが採草放牧地である。土壌条件が悪く、野菜などの作物が育ちにくく、遊休農地が増加し、外来種が繁茂している状況である。
一方で、リゾートホテルで独自に農業技術の継承活動を行うなど、純粋な農業活動ではなく、新たな農業のあり方の取り組みが始まっている。

➡他の島と異なり、観光業が主体であり、土壌条件も厳しいため、農業の専業を行うことは難しい状況である。しかし、観光業とタイアップし、竹富島の原風景を活かした土地利用を推進するとともに、来訪者に見せるような農業など新たな農業のあり方を作る必要がある。

➡新たな農業のあり方を作る上で、竹富島の風土にあった農作物や観光客に見せることを意識した花などを導入し、昔ながらの畜産業を合わせた竹富島独自の農業を確立する必要がある。

③拠点となる石垣島からは、高速船または貨客船のみで10～15分と近く、好立地であり、観光客も多く訪れ、竹富町の魅力を発信する上で重要な島

■竹富島へは海上交通のみで、石垣島の離島ターミナルから出ている定期運航便(高速船、貨客船等)を利用する。高速船は１日18往復、所要時間10～15分であり、離島の中では気軽に訪れることのできる島である。貨客船等は曜日指定等により運航している。

■竹富島は、高速船、貨客船共に通年をとおして欠航率は30％以下であり、台風や強風の時以外は流通が断絶することはないが、貨客船は曜日指定のため、移動が制限される。



図　離島航路図

資料：八重山観光フェリー(株)HP を一部加工

■農産物等の輸送に使用しているJAおきなわの貨客船が令和７(2025)年で撤退する。

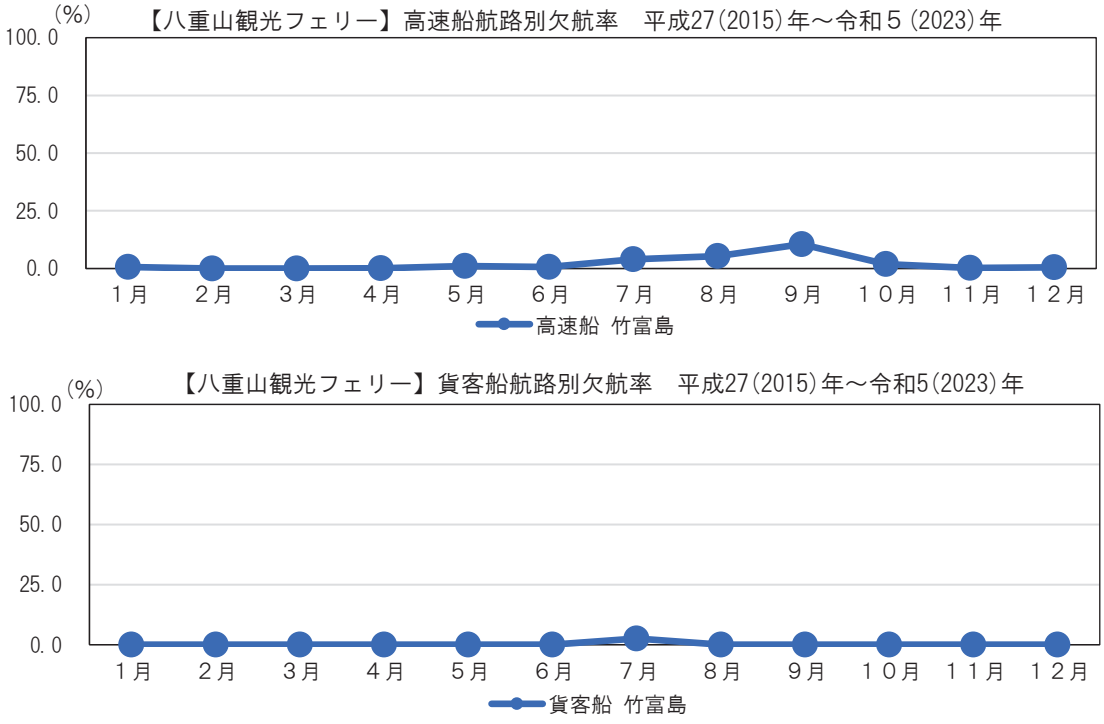


図　八重山観光フェリーにおける欠航率　平成 27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：八重山観光フェリー(株)提供資料

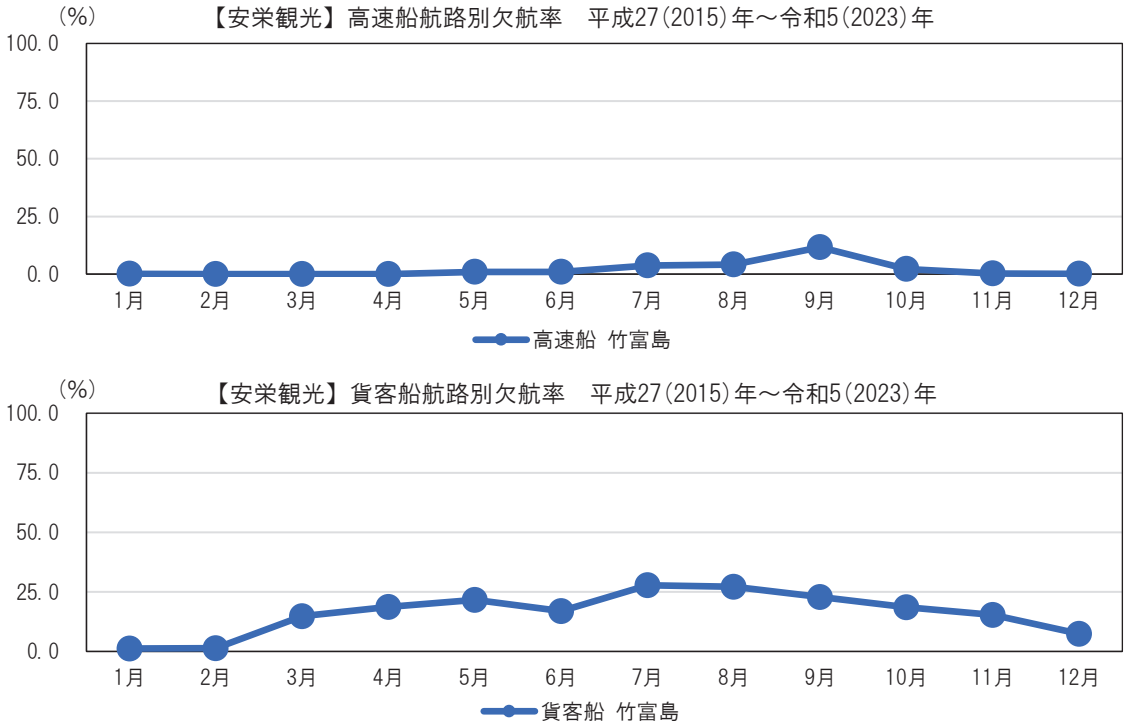


図 安栄観光における欠航率 平成27(2015)年度～令和５(2023)年度

資料：(有)安栄観光提供資料

❸拠点である石垣島からの移動は航路のみであるが、高速船では10～15分であり、多くの観光客が訪れる。また、船の欠航率は、年間を通して30%以下であり、他の島と比べると気軽に行ける島である。

➡竹富島は、観光業が主体の島であり、拠点である石垣島から気軽に来訪できる好立地条件にある。このような立地条件を活かし、竹富町の農産物のPR、観光施設とタイアップした体験農園など、竹富農業の発信の場として活用していくことが重要である。

➡また、竹富島では農業を復活させたいという島民の想いがあり、他の島と比べると移動の立地も良いため、新たな竹富島の農業の在り方を作っていくことが必要である。

【参考資料】

竹富島の現状について、島全般、人、農地、作物、生産等の項目ごとに「強み」と「弱み」を整理した結果を下表に示す。

▼竹富島における項目ごとの強みと弱み

項目	強み	弱み
島全般 （地勢、交通、観光等）	●石垣島の西方６km ●石垣島からフェリーでの移動（１日約18往復、所要時間10～15分） ●土壌：島尻マージ、島の中心付近に一部国頭マージがある ●昔から伝統的な集落景観を保全し、S62に「伝統的建造物群保存地区」の選定を受けた ●主な産業は観光業 ●環境省のビジターセンター、リゾートホテルがある	●欠航率は低いが、台風の時期は欠航となる □居住スペースとなる家がない
人（住民・農家等）	◆人口、世帯ともに増加（H17→R2） ◆認定農業者数の増加（H29：１人→R3：３人） ◆第三次産業の就業人口割合が８割を占める（サービス業中心） ●農業より観光業に就く若者が多い	◆R7以降の推計人口は、減少傾向（R2：341人→R32：261人）。 □島外からの通いが150人いる ◆経営耕地面積の減少（H17→R2） ◆農家数は減少（H17：８戸→R2：３戸） ●担い手がいない □若者が入ってこない、高齢化かつ、後継者もいない □農業以外の働き手はいるが、専業はいない、兼業でないとやっていけない
農地 （土地）	●畑の面積16ha、採草放牧地62ha ●33haの採草地の整備を実施、放牧が行われている	◆戸当たり面積は減少（H17→R2） □珊瑚石灰石からなり作土層が浅い □ランタナやギンネムなどの外来種が繁茂し、遊休農地が増加 □遊休農地を再生する資金がない □狭小農地が多い □礫が多いため、除礫が必要
営農・作物	□肉用牛（R4:204頭）の生産	□特産品がない ■畜産肥料や飼料の高騰
生産	□人口が減少しているが、現状維持できるよう努力している □肥育は行っていない	□他の島と比べ土壌の条件がよくないため、野菜が育ちにくい □島で作付できる作物の検討が必要
販売（流通）		●輸送ルートは航路のみであり、JAおきなわが所有する貨物船が中心であり、R7の撤退を決定している

出典：農林業センサス（◆）、各種計画（●）、町聞き取り（■）、地域住民聞き取り（□）、その他（▲）

竹富島における地域懇談会での将来に向けた意見と振興計画等で記載されている振興方向を下表に整理した。

▼竹富島における将来に向けて

項目	将来に関する意見
懇談会での意見	❖島の若者が返ってきて、農業も絡めて働けるような島にしたい ❖島の風土を感じられるような商品(みそ、しょうゆ)などの６次産業化が行えるような生産ができる魅力的な島にしたい ❖地元の住民(小中学生)や観光業とのパートナー協定、グリーンツーリズムなど、竹富島独自の農業を確立できると良い ❖耕作放棄地を観光農園にしたい ❖薬草や野菜、ハウス野菜(葉物)などを作付したい ❖オリーブやコーヒーなど新しい作物や作って楽しい作物の導入が必要か（その他、五穀、青野菜、バナナ、柑橘類、シークワーサーなど）
振興計画類の記載内容	✧沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島〔新･沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧心豊かで、安全・安心に暮らせる島〔新･沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧希望と活力にあふれる島〔新･沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧世界に開かれた交流と共生の島〔新･沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧多様な能力を発揮し、未来を拓く島〔新･沖縄21世紀ビジョン基本計画〕 ✧未整備地区は、事業による採草地の拡大と施設整備による肉用牛の生産拡大を推進〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧過疎化・高齢化により遊休化した農用地の再利用と観光業の資源としての活用を図る〔竹富農業振興地域整備計画〕 ✧準景観地区の設定による宅地の無秩序な売買防止、伝統的建造物群の保全・修理、観光関連産業以外の就業創出〔竹富町総合計画、竹富町総合戦略〕

強み、弱み、将来に関する意見を踏まえ、戦略的な課題を出すためのSWOT分析を行なった結果を次ページに示す。

▼竹富島のＳＷＯＴ分析

内部要因／外部要因		強み（S）	弱み（W）
		❶昔から伝統的な集落景観を保全し、「伝統的建造物群保存地区」の選定を受けている ❷主な産業は観光業であり、環境省のビジターセンターやリゾートホテルがある ❸観光業に就く若者が多い ❹肉用牛の生産が主体で、採草地が多く、放牧が行われている ❺石垣島から近く、フェリーの本数も他の島と比べて多い	①居住スペースがない ②島外からの通いが人口の約半数を占め、R7年以降の人口は減少傾向である ③若者が入ってこず、高齢化が進み、後継者もいない ④兼業でないと生活が成り立たない ⑤経営耕地面積、戸当たり面積が減少 ⑥耕土が浅く、狭小かつ礫が多い農地である ⑦外来種の繁茂により遊休農地が増加 ⑧製特産品がない ⑨輸送に使用しているJAおきなわの貨物船がR7で撤退する
機会（O）	❶全国的な高齢化、生産人口の減少 ❷世界的な自然志向、健康ブーム、農業・農村への関心の高まり ❸食の安全保障 ❹安全・安心な食に対する国民のニーズ ❺スマート農業などの技術革新 ❻沖縄来訪者の８割がリピーター(地産地消の消費者としての期待) ❼旅行形態や目的・ニーズの多様化(ガストロノミーツーリズム) ❽空路・航路による輸送増の可能性	人：観光業やその他産業と合わせた多様な担い手、新規就農者の確保・育成(竹富ワークスタイルの確立) 販売流通：拠点からの好立地条件を活かした竹富町農産物の町産町消 農地：沖縄の原風景を活かした土地利用(ゾーニング)の推進と農地の確保、来訪者に見せる農地への転換	
脅威（T）	①資材・物価・輸送費高騰等による農業経営の圧迫 ②原油高等による物流工素と増加 ③農畜産部物の産地間競争の激化・輸入増加 ④農畜産物の国内需要の低迷 ⑤アフターコロナの動向 ⑥地球温暖化による異常気象の増加 ⑦代替わりによる相続の問題	生産：竹富島の風土にあった農作物の導入と昔ながらの畜産業を合わせた竹富島独自の農業の確立、花きなど観光業も意識	

３．将来ビジョンと基本施策

「２．本町の営農の課題」において、各島における営農の課題を整理した。各島共通の課題もあるが、竹富町総合計画第 10 次基本構想では、町の将来像を以下のように設定しており、各島が独立して持続的に発展していくことが重要である。

町の将来像；「島々の誇りと個性がきらめき大自然と文化と暮らしが響き合う町」

本計画では、島々の持続的な振興を図るため、島ごとに課題と農業振興の方向性を整理するとともに、本町全体の「農業振興戦略マップ」を作成することで、本町の農業振興の方向性を共有する。

【本町全体の将来ビジョン】

①本町の特徴

本町は日本最南端に位置し、東西約 42 ㎞、南北約 40 ㎞の広範囲に点在する 9 つの有人島と無人島を含め 16 の島々からなる島嶼の町である。町全体が島から成る自治体は全国でも少ない。

気候条件は亜熱帯であり、海洋に囲まれた島々は、多種多様な動植物が生息、豊かな自然環境を有しているとともに、住民は農林水産業や観光業を営み、魅力のある伝統・文化を育みながらこれらを継承・発展させてきた。

②本町の社会経済情勢と農業を取り巻く環境

近年、高齢化や少子化、若年層の流出などにより島の人口が減少しており、島の主産業である農林水産業や観光業の維持が懸念される。さらに、将来予測においても減少傾向を示す島がほとんどであり、島の存続自体が懸念される。移動についても、船舶や空路に限定されており、移動が制限される。そのため、島ごとに定住人口を増やすことが急務とされ、定住するための住む場所の他、仕事(生業)の確保、物流の確保(圏域内消費含む)が必須となる。

③本町の持続的な発展(将来ビジョン)

そこで、本町の主産業である農林水産業のうち、農業について本町の特徴と課題を明らかにし、今後の方向性と対応策を示した長期営農計画を策定し、本町の島々の持続的な発展を目指す。本町の島々には独自の生活や文化が根付いている。島嶼地域であることを踏まえ、「島とともに育む竹富町の農業」を基本理念とし、各島々で将来像を設定し、その将来像を目指して島々が発展することで、町全体の持続的な発展を目指す。

小浜島は農業とリゾートが共存しているため、将来像を「農業×リゾートを島民皆で持続する島」とし、一方で、西表島は大自然に囲まれながらも農業や観光業が盛んであるため、西部は「大自然と調和した循環型農業を実現するエコ島」、東部は西表島の玄関口を担うため「町産町消の拠点；輸送強化で農産物を島々へ供給」とした。

竹富島は拠点となる石垣島から最も近く、多くの観光客が訪れ、八重山の伝統と文化を守っている島として、「島の農業を継承するうつぐみの島」とし、黒島は牛の島として本町の畜産を担っていることから「黒島牛が悠々と育つ島時間」を将来像とした。最後に、日本最南端の有人島である波照間島は島の存続が重要であるため、「最南端島(さいはてのしま)で稔る特別な恵みを島民で紡ぐ」を将来像とした。このように島の特徴を活かし、島ごとが連携しつつ発展することで町全体の発展に繋がる。

④本町の課題とその解決に向けて

将来像の実現を目指し、島全体の共通の課題である多様な営農支援・人材育成、多様な担い手の確保・育成、農地の集約・集積、基盤整備、農地の確保、生産体制や輸送体制の確立、他産業との連携に重点的に取り組むとともに、各島の重点的な取り組みも定め、着実に将来像を目指して発展していく。

次ページに、本町の特徴と課題、将来像とそれを実現するための課題を視覚的に表現した「農業振興戦略マップ」を示すとともに、それ以降に各島の現状、問題点、課題、将来像、具体的な施策を整理した内容を添付する。

竹富町の農業振興戦略マップ（全体版）

《島とともに育む竹富町の農業》

◎ 人 ：営農支援・人材育成、多様な担い手の確保・育成
◎ 農地 ：農地の集約・集積、基盤整備、農地の確保
◎ 生産 ：島に合わせた生産体制の確立
◎ 流通 ：輸送体制の確立、他産業との連携

西表島西部

《大自然と調和した循環型農業を実現するエコ島》

◎ 人 ：多様な担い手の確保・育成、短期の援農人材確保
◎ 農地 ：集約・集積、基盤整備
◎ 生産 ：機械導入支援、安定生産のための土壌診断
◎ 流通 ：**観光業やホテルとのタイアップによる地産地消、島全体の輸送体系の確立**

人	農家戸数 年齢構成(基幹的)	H17：59戸⇒R2：23戸[61%減](主業：25戸⇒10戸) 29歳以下:ー%、30-64歳:43%、65歳以上:53%	
輸送	輸送	船(高速・貨客) 高速：８往復(上原港)	[欠航率]高い 高速船：34%、ﾌｪﾘｰ：31%
作物・農地	代表作付作物 農地面積[294.8ha]	パインアップル、マンゴー、水稲、和牛繁殖他 田：39.8ha、畑：135.7ha、採草放牧地：119.3ha	
宿泊	観光客数(島全体) 旅館・ホテル数	253,278人 70施設(収容能力1,595人)	[観光資源] 国立公園、ピナイサーラの滝



小浜島

《農業（さとうきび）×リゾートを島民皆で持続する島》

◎ 人 ：多様な担い手の確保・育成、住宅確保、専門のオペレーター育成
◎ 農地 ：集約・集積、基盤整備、遊休農地対策
◎ 生産 ：**製糖工場の安定操業**、作業受託組織の設立、ハウス導入、機械化・スマート農業の推進、土づくり・土壌診断
◎ 流通 ：**ホテルとの包括協定**、町全体の輸送体系の確立

人	農家戸数 年齢構成(基幹的)	H17：54戸⇒R2：20戸[63%減](主業：11戸⇒９戸) 29歳以下:10%、30-64歳:40%、65歳以上:50%	
輸送	輸送	船(高速・貨客) 高速：10往復	[欠航率]低い 高速船：3%、ﾌｪﾘｰ：10%
作物・農地	代表作付作物 農地面積[360.2ha]	さとうきび、和牛繁殖他 田：52.8ha、畑：235.5ha、採草放牧地：71.9ha	
宿泊	観光客数 旅館・ホテル数	126,520人 ９施設(収容人員998人)	[観光資源] ゴルフ場、島の芸能

竹富島

《竹富町の入口：島の農業を継承するうつぐみ島》

◎ 人 ：営農者支援、多様な担い手の確保・育成
◎ 農地 ：**安定生産可能な農地の確保**
◎ 生産 ：**消費ニーズに合わせた作物の検討**、加工品・お土産
◎ 流通 ：町産町消(消費拠点)

人	農家戸数 年齢構成(基幹的)	H17：8戸⇒R2：3戸[63%減](主業：1戸⇒公表なし) 29歳以下:ー%、30-64歳:ー%、65歳以上:ー%	
輸送	輸送	船(高速・貨客) 高速：18往復	[欠航率]低い 高速船：2%、ﾌｪﾘｰ：8%
作物・農地	代表作付作物 農地面積[74.09ha]	和牛繁殖 田：0ha、畑：11.69ha、採草放牧地：62.4ha	
宿泊	観光客数 旅館・ホテル数	364,382人 21施設(収容能力456人)	[観光資源] 伝統的建造物

西表島東部

《町産町消の拠点：輸送強化で農産物を島々へ供給》

◎ 人 ：多様な担い手の確保・育成、短期の援農人材確保
◎ 農地 ：集約・集積、さとうきび中心の基盤整備・用水確保
◎ 生産 ：製糖工場安定操業機械化、気候変動に対応した野菜づくり
◎ 流通 ：**流通関連施設の設置、八重山圏域一体の輸送ルートの確立**

人	農家戸数 年齢構成(基幹的)	H17：76戸⇒R2：54戸[29%減](主業：48戸⇒31戸) 29歳以下:ー%、30-64歳:58%、65歳以上:42%	
輸送	輸送	船(高速・貨客) 高速：９往復(大原港)	[欠航率]低い 高速船：2%、ﾌｪﾘｰ：3%
作物・農地	代表作付作物 農地面積[949.0ha]	さとうきび、かぼちゃ、水稲、和牛繁殖他 田：37.7ha、畑：558.4ha、採草放牧地：352.9ha	
宿泊	観光客数(島全体) 旅館・ホテル数	253,278人 16施設(収容能力399人)	[観光資源] 国立公園、由布島



〔竹富町有輸送船による輸送(令和7年就航予定)〕
◎野菜・果物・米
◎セリ用の子牛
◎黒糖製品
◎農業資材
（肥料・飼料・ロール草・農薬等）

波照間島

《最南端島（さいはてのしま）で稔る特別な恵みを島民で紡ぐ》

◎ 人 ：**多様な担い手の確保・育成**、住宅確保、専門のオペレーター育成
◎ 農地 ：集約・集積、基盤整備、高収益作物の農地確保
◎ 生産 ：波照間黒糖ブランド、さとうきびの単収増、**機械化の推進**、高収益作物の導入
◎ 流通 ：観光業と連携した島内消費、八重山圏域の共同輸送

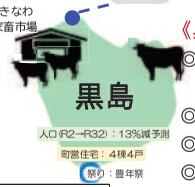


人	農家戸数 年齢構成(基幹的)	H17：114戸⇒R2：28戸[75%減](主業：60戸⇒16戸) 29歳以下:ー%、30-64歳:46%、65歳以上:54%	
輸送	輸送	船(高速・貨客)、飛行機 船：３往復	[欠航率]高い 高速船：23%、ﾌｪﾘｰ：4%
作物・農地	代表作付作物 農地面積[642.9ha]	さとうきび、もちきび、和牛繁殖他 田：0.0ha、畑：639.2ha、採草放牧地：3.7ha	
宿泊	観光客数 旅館・ホテル数	31,619人 21施設(収容能力249人)	[観光資源] 伝統的な集落景観

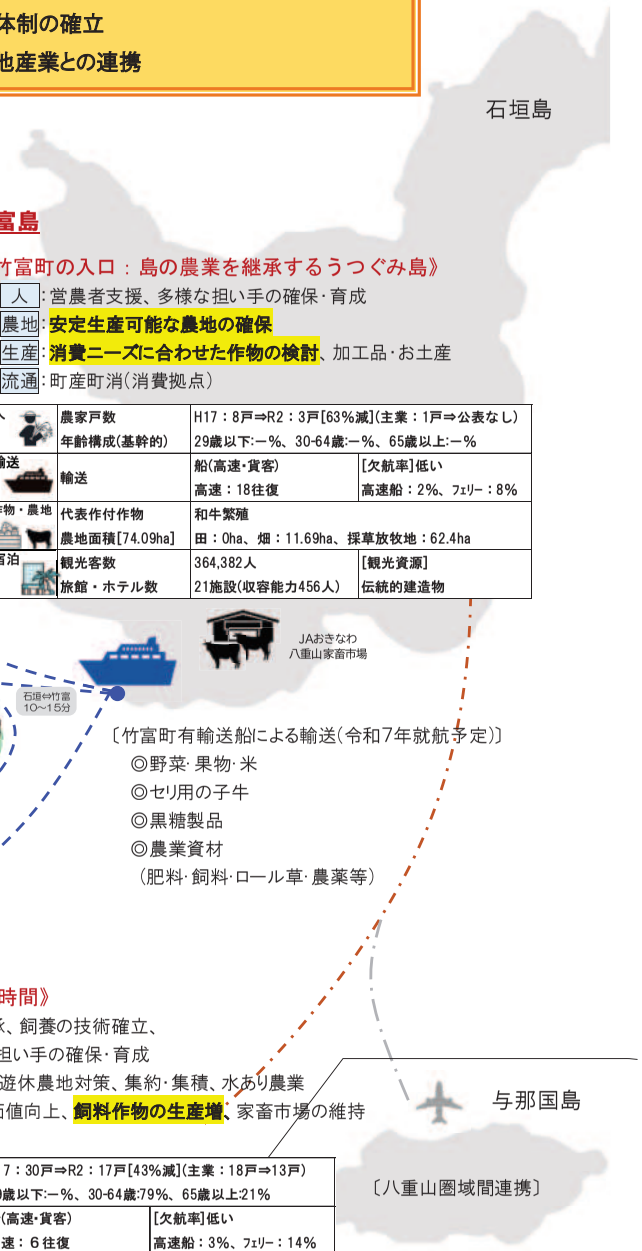
黒島

《黒島牛が悠々と育つ島時間》

◎ 人 ：営農支援・技術継承、飼養の技術確立、**住宅確保**、多様な担い手の確保・育成
◎ 農地 ：草地の確保・維持、遊休農地対策、集約・集積、水あり農業
◎ 生産 ：子牛の維持・付加価値向上、**飼料作物の生産増**、家畜市場の維持
◎ 流通 ：**安定的な牧草供給**



人	農家戸数 年齢構成(基幹的)	H17：30戸⇒R2：17戸[43%減](主業：18戸⇒13戸) 29歳以下:ー%、30-64歳:79%、65歳以上:21%	
輸送	輸送	船(高速・貨客) 高速：６往復	[欠航率]低い 高速船：3%、ﾌｪﾘｰ：14%
作物・農地	代表作付作物 農地面積[789.77ha]	和牛繁殖 田：0.0ha、畑：2.77ha、採草放牧地：787.0ha	
宿泊	観光客数 旅館・ホテル数	21,985人 ９施設(収容能力164人)	[観光資源] 美しい海、黒島牛まつり



❶小浜島　将来像：農業×リゾートを島民皆で持続する島

現状(強み・弱み)、問題点		課題(問題を解決するために必要なこと)	具体的な施策	何につながるか
人口減少(将来予測：微増)	人がいなくなる	新規就農者他、多様な担い手を確保・育成する必要がある	人に関すること 多様な担い手の確保・育成 住宅確保 専門のオペレーター育成	人の確保と地域振興につながる
H17→R2 の農家数は半減				
やる気ある若い担い手が多い	地域を守る人がいる、守りたいと思う若者がいる	地域の担い手のやる気を活かし、将来を見据えた農業経営の支援が必要		
移住しても住む家がない				
八重山諸島唯一のゴルフ場 大型リゾートホテル	人が集まる環境がある			
島の芸能が国重要無形民俗文化財				
主な作付作物：さとうきび(地域により単収差有)、繁殖和牛、野菜類、	主力作物のさとうきびの生産を増やしたい意向の農家がいるが、人手と農地が不足	さとうきびだけでなく、子牛や野菜類、水稲など安定的に作物を生産できる環境を活かし、複合経営への転換や耕畜連携等、安定的な農業経営をする必要がある	農地(基盤)に関すること 集約・集積 基盤整備 遊休農地対策	農業経営の安定、生産性の向上につながる
土壌：国頭マージ				
製糖工場(稼働 75 日、処理 50t/日)			生産に関すること 製糖工場の安定操業 作業受託組織の設立 ハウス導入 機械化・スマート農業の推進 土づくり・土壌診断	品質の確保につながる
さとうきびは、ﾊｰﾍﾞｽﾀｰ 4 割、手刈り 6 割、援農隊は減少	安定的に生産できる環境がある	機械化による作業効率化を推進、さらに、スマート農業技術が普及している機会を活かし、スマート農業を導入、優良農地の確保・維持・保全を図る必要がある		生産性の向上につながる
基盤整備の実施(新規：南風田地区)	条件のよい農地がなくなっていく			
農地面積の減少				
請け負う農地増、しかし点在				
スマート農業技術の革新	世の中の技術革新が進んでいる			
移動は航路のみ(欠航率 15%以下)	島からの移動や輸送は航路のみで制限される	輸送の制限があるため、もう一つの基幹産業となる観光業と連携を図った新たな販路の開拓や島内消費の推進が必要	流通・販売に関すること ホテルとの包括協定 町全体の輸送体系の確立	地域振興や地域(八重山圏)の循環につながる
資財・物価・輸送費の高騰				
JA の貨物船が R7 で廃止となる				

将来像：農業×リゾートを島民皆で持続する島

赤字：重点項目(案)

❷波照間島　将来像：最南端島（さいはてのしま）で稔る特別な恵みを島民で紡ぐ

現状(強み・弱み)、問題点

- 人口減少(将来予測は人口半減)
- H17→R2 の農家数は 1/5 まで減
- 高齢化の進行、U ターン者は他の業種に着く
- 援農隊を受け入れる場所がない
- 昔ながらの風景が広がる平坦な島
- 主な作付作物：さとうきび、和牛繁殖、もちきび等
- 土壌：島尻マージ
- 製糖工場(稼働 120 日、処理 120t/日)
- さとうきびは、手刈りが多い(鮮度等がよく、甘く美味しい)
- 基盤整備実施済みでまとまった農地があるが、一部給水栓がない
- 所有者不明の農地が多い
- 島からの移動は航路のみで最南端にあり、航路で 60～90 分で、船の欠航率は通年約 25%だが、冬は欠航率が約 50%
- 町内唯一の空港がある(運航日限定)
- JA の貨物船が R7 で廃止となる

- 他の島に比べ、減少率が高く、人がいなくなる(高齢化)
- U ターン者があっても他産業に就き、農家は激減
- 収穫の際、援農隊の支援が必要だが、受け入れる所がない
- 農家が少なく、所有者不明な農地は多く、農業の継続が懸念される
- さとうきびは手刈りで収穫しており、波照間の黒糖は評価が高い
- 安定的に生産できる環境がある
- 日本最南端の島であり、拠点となる島から遠く、他の島に比べ移動が制限される
- 町で唯一の空港があり、近年運航を再開し、移動手段は航路と空路がある

将来像：最南端島で稔る特別な恵みを島民で紡ぐ

課題(問題を解決するために必要なこと)

- 人口等の減少が著しく、島の存続が懸念されるため、U･I ターンを中心に多様な担い手を確保・育成する必要がある
- 高齢化等による担い手不足のため、援農隊の受け入れ容量を増やすとともに、作業を委託できる専門のオペレーターを育成する必要がある
- 島全体の地域振興を行う上で、行政等も一緒に土地や農地の整理を行う必要がある(人がいなくなってからではできない)
- 安定的に生産できる環境があるが、農家不足、高齢化等のため、少人数で効率的に生産できる体制・基盤整備を推進する
- さとうきびの評価が高いため、品質を守りつつ、安定的な経営ができるような生産体制の確立が必要である
- 製糖工場のフル稼働を前提に、牧草など町内で不足する作物や島内消費のための高収益作物の導入推進を図る
- 移動に時間を要し、欠航など移動のリスクが高いため、圏域内外の出荷・輸送体制の確立が必要である
- 島の維持・安定のための地産地消の推進

具体的な施策

人に関すること
- 多様な担い手の確保・育成
- 住宅確保
- 専門のオペレーター育成

農地(基盤)に関すること
- 集約・集積
- 基盤整備
- 高収益作物の農地確保

生産に関すること
- 波照間黒糖ブランド
- さとうきびの単収増
- 機械化の推進
- 高収益作物の導入

流通・販売に関すること
- 観光業と連携した島内消費
- 八重山圏域の共同輸送

赤字：重点項目(案)

何につながるか

- 人の確保と地域振興につながる
- 農業経営の安定、生産性の向上につながる
- 生産性の向上につながる
- 地域振興や地域(八重山圏)の循環につながる

❸西表島西部　将来像：大自然と調和した循環型農業を実現するエコ島

現状(強み・弱み)、問題点		課題(問題を解決するために必要なこと)	具体的な施策	何につながるか
竹富町の中で最も人口が多いが、減少傾向(将来予測：減少)	人がいなくなる	多くの地域資源を有しているため、その魅力を活かした新規就農者の確保が必要	人に関すること 多様な担い手の確保・育成 短期の援農人材確保	人の確保と地域振興につながる
H17→R2 の農家数は半減 十分ではないが担い手はいる 短期ｱﾙﾊﾞｲﾄが集まらず、来ても滞在場所がない	担い手は規模拡大、新規就農者は農地を希望しているが、渡す農地がない状態	拡大意向の農家もいることから、農地の手配などを踏まえた担い手への営農支援が必要		
島の大自然は世界遺産に登録 ｴｺ・ﾂｰﾘｽﾞﾑ等の観光業が盛んである 主な作付作物：パインアップルの主産地、マンゴー、水稲、和牛繁殖、採卵鶏 土壌：国頭マージ、沖積土壌	大自然を目当てに観光客が多く訪れる 果実的野菜は本町の主産地となっており、水稲や野菜類など多種多様な作物の栽培が可能	本地区では、水稲栽培のための基盤整備が実施されているため、町内でも水稲の作付出来る環境を維持するとともに、基盤整備を進める必要がある	農地(基盤)に関すること 集約・集積 基盤整備	農業経営の安定、生産性の向上につながる
水稲の育苗施設がある 遊休農地や休耕田がある 平坦な土地は少ないが、川周辺は基盤が整備され、水源も確保されている	安定的に生産できる環境がある一方で、遊休農地や休耕田がある	持続的かつ、安定生産に向け、基盤整備された農地をいかし、熱帯果樹の生産団地づくり、豊かな自然と調和した循環型農業の確立が必要である	生産に関すること 機械導入支援 安定生産のための土壌診断	生産性の向上につながる
新規就農者や担い手の農地が足りていない 西部の拠点の上原港は欠航が多く、東部の大原港の利用となり、島からの移動が制限される 熱帯果樹は、ほぼ全量島外へ出荷される(個人販売) JA の貨物船が R7 で廃止となる	島からの移動や輸送は航路のみで地区の隣接の上原港は欠航が多く、東部まで陸送が必要になるなど制限される。島外に出荷している熱帯果樹は日持ちなどの制限がある	島内の移動(陸送)、島外への輸送に制限があるとともに、出荷期限が短い熱帯果樹を主に生産しているため、観光とのタイアップや地産地消を行っていく必要がある 安定的な出荷体制確立のため、戦略的な県域外への出荷体制を確立する必要がある	流通・販売に関すること 観光業やホテルとのタイアップによる地産地消 島全体の輸送体系の確立 赤字：重点項目(案)	地域振興や地域(八重山圏)の循環につながる

将来像：大自然と調和した循環型農業を実現するエコ島

❹西表島東部　将来像：町産町消の拠点：輸送強化で農産物を島々へ供給

現状(強み・弱み)、問題点		課題(問題を解決するために必要なこと)	具体的な施策	何につながるか
竹富町の中で２番目に人口が多いが、減少傾向(将来予測：微減)	人口はある程度維持可能（農家は減少予想）	意欲ある将来の担い手への支援の充実を図る必要がある	人に関すること 多様な担い手の確保・育成 短期の援農人材確保	人の確保と地域振興につながる
H17→R2 の農家数は減少傾向				
意欲ある担い手はいるが、不十分	やる気のある担い手は規模拡大を希望しているが、渡す農地がない			
短期ｱﾙﾊﾞｲﾄが集まらず、来ても滞在場所がない		多くの地域資源を有しているため、その魅力を活かした短期アルバイトの確保が必要である		
島の大自然は世界遺産に登録	大自然を目当てに観光客が多く訪れる		農地(基盤)に関すること 集約・集積 さとうきび中心の基盤整備・用水確保	農業経営の安定、生産性の向上につながる
ｴｺ・ﾂｰﾘｽﾞﾑ等の観光業が盛んである				
主な作付作物：さとうきびを中心に、パインアップル、かぼちゃ、ばれいしょ、水稲、和牛繁殖	さとうきびを中心に意欲的な農家が営農をしているが、繁忙期のｱﾙﾊﾞｲﾄが集まらず、人手不足	土壌条件もよく、まとまった農地があるため、今後も持続的かつ効率的な農業生産が可能となるよう、製糖工場の稼働率もふまえた合理的な土地利用を推進する必要がある		
土壌：国頭ﾏｰｼﾞ、島尻ﾏｰｼﾞ、沖積土壌				
製糖工場(稼働100日、処理100t/日)	野菜類の生産なども盛んである	パインアップルやかぼちゃなど多様な作物を作付出来る土台、生産できる技術などポテンシャルが高いため、これらの技術を生かし、今後の気候変動に対応した柔軟な生産体制を確立する必要がある	生産に関すること 製糖工場安定操業機械化 気候変動に対応した野菜づくり	生産性の向上につながる
耕作放棄地などはない				
まとまった農地が存在し、土壌条件に比較的恵まれている	基盤整備による農地の集団化が進み、安定的に生産できる環境がある			
国有林に囲まれており、新たな開墾が出来ず、規模拡大が困難		島外への輸送に制限があるとともに、出荷期限が短い熱帯果樹を生産しているため、一時保管施設や加工施設の設置が必要である	流通・販売に関すること 流通関連施設の設置 八重山圏域一体の輸送ルートの確立	地域振興や地域(八重山圏)の循環につながる
島からの移動は航路のみで制限	島からの移動や輸送は航路のみで制限される			
拠点となる大原港があり、欠航率が約３%以下である(西表島の玄関口)				
熱帯果樹の他、生産物はほぼ全量島外へ出荷される	島外に出荷している熱帯果樹は日持ちなどの制限があり、船が欠航した際は、廃棄等のリスクがある	多種多様な作物を生産しており、県域外への出荷が多いため、輸送に制限があるため、八重山圏域一体の輸送ルートの確立が必要である		
JA の貨物船が R7 で廃止となる				

将来像：町産町消の拠点：輸送強化で農産物を島々へ供給

赤字：重点項目(案)

❺黒島　将来像：黒島牛が悠々と育つ島時間

現状(強み・弱み)、問題点		課題(問題を解決するために必要なこと)	具体的な施策	何につながるか
人口減少(将来予測：減少)	人がいなくなる(高齢化)	他産業とも連携し、U･Iターンによる新規就農者を確保し、育成する必要がある	人に関すること 営農支援・技術継承 飼養の技術確立 住宅確保 多様な担い手の確保・育成	人の確保と地域振興につながる
H17→R2 の農家数は半減				
主業農家の減少率が低い、一方で高齢化	畜産の島としての地位を確立し、主産業として成り立っている	地域の担い手のやる気を活かし、将来を見据えた農業経営の支援が必要		
やる気のある担い手、U･Iターンの若手農家が増加、一方で移住先の住宅なし				
人より牛が多い、海が八重山圏でも綺麗	綺麗な海がある	高齢化の進行により、１戸当たりの飼養頭数が増え、子牛の事故率が高くなっており、持続的な営農のための人手の確保が必要	農地(基盤)に関すること 草地の確保・維持 遊休農地対策 集積・集約 水あり農業	農業経営の安定、生産性の向上につながる
農家数は減少、１戸当たり飼養頭数の増加と事故率の増加				
センサー等の機械化による作業の効率化	農家数が減る中、飼養頭数は増加し、機械化による作業効率を図るも、作業場が離れているなど基盤条件の改善を求める声がある	効率的な営農を行うため、農地中間管理機構等を活用した農地の確保・集約を行う必要がある		
肥育素牛として高く評価				
子牛の価格が年々下落		島内で全ての牧草をまかなうことが困難なため、他島からの移入が必要である	生産に関すること 子牛の維持・付加価値向上 飼料作物の生産増 家畜市場の維持	品質の確保につながる
島の大部分が採草放牧地	飼養頭数が増加し、牧草を年５-６回採草しても不足している			
草地造成などの基盤整備が完了				
年５-６回採草しても牧草が不足		将来的に畜産の島として維持していくため、農業経営の支援や家畜セリ市場の維持が重要である		生産性の向上につながる
土壌：島尻マージ				
黒島家畜市場(JA)がある	島内に市場があるが、開催日が限定されており、石垣への移動が必要であるが、移動や輸送は航路のみで制限される		流通・販売に関すること 安定的な牧草供給	地域振興や地域(八重山圏)の循環につながる
島からの移動は航路のみで制限				
船の欠航率は年平均 14％以下		不足している牧草移入のための八重山圏域の輸送ルートを確保する必要がある		

将来像：黒島牛が悠々と育つ島時間

赤字：重点項目(案)

❻竹富島　将来像：島の農業を継承するうつぐみの島

現状(強み・弱み)、問題点		課題(問題を解決するために必要なこと)	具体的な施策	何につながるか
人口減少(将来予測：減少)	人(農家)がいなくなる	土壌条件が悪く、生産が制限されることが多いため、竹富島独自の皆で助け合いできる農業支援体制を作る必要がある	人に関すること 営農者支援 多様な担い手の確保・育成	人の確保と地域振興につながる
H17→R2 の農家数減少	若者は他産業に就職	竹富町の広告塔とも言える竹富島では、観光業が主体となっており、専業農家が少ない。島の農業を継承する上で多様な担い手を確保・育成する必要がある		
第三次産業(ｻｰﾋﾞｽ業)の人口約 9 割				
観光客が多く訪れる島	人が集まる環境がある			
高齢化、後継者不足 若手は、主に観光業に就職	土地利用に制限がある		農地(基盤)に関すること 安定生産可能な農地の確保	新たな営農スタイルの確立につながる
「伝統的建造物群保存地区」に指定 沖縄の原風景を有する島	和牛繁殖が主で、ほとんどが放牧地だが、外来種の繁茂に悩まされている	竹富島の風土に合った安定生産可能な農地を確保する必要がある		
主な作付作物：和牛繁殖				
採草放牧地が主で、畑はわずか				
土壌：島尻マージ 珊瑚石灰石から成り、作土層が浅く、除礫が必要	土壌条件も悪く、農業を専業で行うことが難しいが、逆手にとった島らしい農業がしたい	消費ニーズに合わせ、子牛生産だけでなく、竹富島で栽培可能な作物を検討するとともに、新たな農業の確立を目指す必要がある	生産に関すること 消費ニーズに合わせた作物の検討 加工品・お土産	楽しむ農業につながる
ギンネムなどの外来種が繁茂、遊休農地が増加				
大手リゾートホテルでは、「畑プロジェクト」を実施	島からの移動や輸送は航路のみに制限される			
島からの移動は航路のみで制限	石垣島から 10～15 分、船の欠航もなく、人が訪れやすい	人(観光客)が集まる機会を活かし、町産町消ができるような加工品やお土産物の開発・販売を推進することが重要である	流通・販売に関すること 町産町消(消費拠点)	地域振興や地域(八重山圏)の循環につながる
船の欠航率は年平均 10%以下で、石垣島から 10～15 分と近い				

将来像：島の農業を継承するうつぐみの島

赤字：重点項目(案)

第５章　行動計画

第４章では、各島の将来ビジョンの達成に向け、具体的な施策を示した。将来像を確実に実現していくためには、数値的な目標を設置し、着実に達成することが必要である。そのため、長期営農計画策定後は、具体的な施策に対する目標数値を定めた「行動計画」を作成し、進捗管理を行うこととする。本章では、「行動計画」の推進するための体制や進捗管理、今後のスケジュールを示す。

１．行動計画の策定と行動計画を推進するための体制

「行動計画」とは、長期営農計画において将来を実現するために設定した具体的な施策に対する目標数値を定めたものである。

行動計画の策定や進捗管理は、新たに立ち上げる「長期営農計画推進部会(仮称)」(以下、「推進部会」という。)と「長期営農計画推進委員会(仮称)」(以下、「推進委員会」という。)により行う。推進部会と推進委員会は、長期営農計画策定作業部会と長期営農計画策定委員会が引き継ぎ、体制を構築し、取り組み状況の把握や評価を行う。

新たに設置される「推進部会」は、委員会の議題を事前に報告するだけの組織ではなく、本町の営農の課題に対して自ら解決に向けて動く組織となるよう運営する。

２．行動計画の進捗管理

行動計画は、毎年、推進部会と推進委員会により進捗管理を行う。進捗管理方法として、目標値の達成状況と評価を推進部会と推進委員会によって行い、毎年開催される地域懇談会等で可能な限り営農者へ公表し、意見やニーズを踏まえて、計画へフィードバックする。計画の見直しでは、関係している庁内の課がある場合は、見直し内容について各課に確認する。下図に推進体制と進捗管理を示す。

毎年の進捗管理とともに、社会経済情勢や農業情勢により、５年に１回程度、長期営農計画の具体的な施策や行動計画などの見直しを行う。

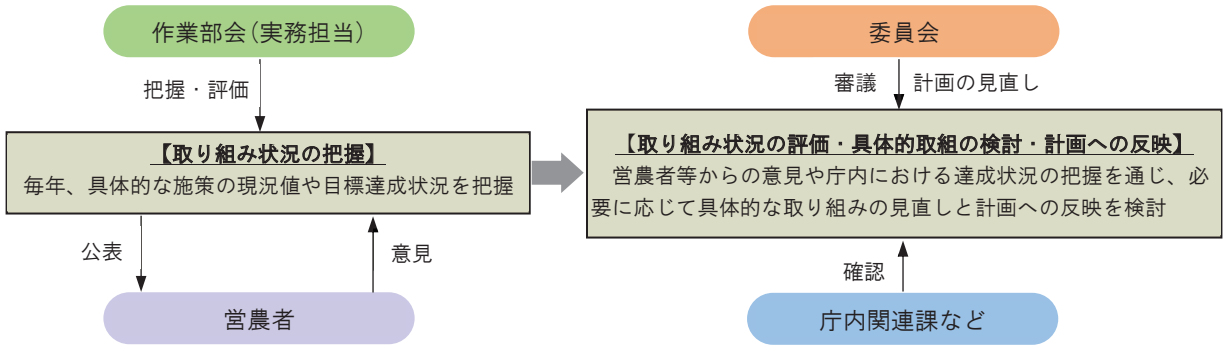


図　推進体制と進捗管理

３．今後の予定

長期営農計画策定後の進捗管理と評価の予定を以下に示す。長期営農計画は、今後 20 年間(令和 7 (2025)年～令和 26(2044)年))を想定し、策定している。そのため、毎年、行動計画の進捗管理を行うとともに、節目となる 5 年目(令和 11(2029)年度)、10 年目(令和 16(2034)年度)、15 年目(令和 21(2039)年度)に見直しを行う。さらに、20 年目(令和 26(2044)年度)は最終評価を実施し、新たな長期営農計画の策定に向けた検討を行う。

表　今後の予定

項目	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度	令和 7 年度 ～ 令和 8 年度	令和8年度 ～ 令和10年度	令和11年度 (5 年目の評価)	令和12年度 ～ 令和15年度	令和16年度 (10年目の評価)
長期営農計画の策定	←→					
目標値の検討・行動計画策定		←→				
進捗管理（10年間）		←10 年間の行動計画の進捗管理→				
長期営農計画の見直し				←評価を基に見直し→		
長期営農計画の総括						←評価を基に見直し→
長期営農計画推進部会・委員会(仮称)		←年 1～2 回の部会・委員会の開催→				

※令和 17(2036)年度以降も 15 年目(令和 21(2039)年度)の見直しを実施、20 年目(令和 26(2044)年度)は最終評価の実施と新たな長期営農計画の策定に向けた検討を行う。

※長期営農計画は、今後 20 年間(令和 7 (2025)年度～令和 26(2044)年度)を想定し、策定している。

参考資料１　戦略品目一覧

参考 1-1 戦略品目とは

□戦略品目は、竹富町の農業生産力の向上と経営の安定を図るため、今後 10 年程度を見据え、竹富町・八重山圏域・沖縄県が一体となり、生産・販売等の積極的な支援(不利性解消事業など)を行い振興していく作物である。

□竹富町は町全体が島しょ地域であり、輸送コストや島内外での消費の状況を踏まえ、戦略的に設定する必要がある。

参考 1-2 戦略品目の見直し等について

□戦略品目は、効果的に施策を展開していくため、ＪＡや沖縄県等からの助言、および長期営農検討委員会での協議を踏まえて選定する必要がある。

□また、実際に栽培する地域の農家の方の意見も重要となるため、地域協議の場を設け、経年的に意見を伺い、新たに戦略品目として選定すべき作物が出てきた場合は委員会等を通じ、品目の追加等行えるよう柔軟に対応する。

参考 1-3 戦略品目の選定について

□竹富町における戦略品目の選定は、以下のような手順で実施した。

①拠点産地(竹富町、石垣市)、新・沖縄 21 世紀農林水産振興計画(八重山圏域)の重点品目を基に、数ある作物の中から本町の特徴を示す農作物を選定

②本町での生産実績がある品目を選定

③今後、農家の方々がチャレンジしていきたい作物を新規チャレンジ品目として選定(島内消費量があり、本町で導入が可能と思われる作物)

〔その他選定の視点〕

・島内消費が一定量(１ｔ以上)ある
　(島らっきょうは１つの重さが軽いため対象外)

・島内で足りないもの(主に飼料作物)

・将来的に共同輸送が可能な量を生産できるもの

竹富町長期営農計画　戦略品目一覧

区分			工芸作物		水稲	畜産	飼料作物	果菜類					果実的野菜		果実類			葉茎菜類	根菜類					花き
項目	小項目	土壌タイプ	さとうきび	もちきび	水稲	和牛繁殖	飼料作物（草地等）	かぼちゃ	オクラ	ゴーヤー	トマト	パパイヤ	島バナナ	パインアップル（生食用）	ドラゴンフルーツ	マンゴー	シークヮーサー	島らっきょう	ばれいしょ（ジャガイモ）	とうがん	甘しょ（サツマイモ）	ニンジン	レットジンジャー
竹富町　戦略品目（14品目）			●	●	●	●	●	●				●	●	●		●	●	●	●				●
拠点産地（5品目）						竹富町		竹富町	石垣市					石垣市、竹富町							石垣市		
重点振興品目（10品目） 新・沖縄21世紀農林水産振興計画(八重山圏域)			●		●	●		●	●	●				●		●					●		●
生産の実績がある品目（14品目）			●	●	●	●	●	●				●	●	●		●	●	●	●				●
新規チャレンジ品目（7品目）									●	●	●				●					●	●	●	
現在生産中の作物 （土壌タイプは、面積が多い順に列挙）	小浜島	国頭、沖積、島尻	●			●	●						●										
	波照間島	島尻、沖積、ジャーガル	●	●		●	●	●										●	●				
	西表島西部	国頭、沖積、島尻			●	●	●					●	●	●		●	●						
	西表島東部	国頭、沖積、島尻	●		●	●	●	●				●	●	●					●				●
	黒島	島尻、沖積				●	●																
	竹富島	島尻、沖積、国頭				●	●																
栽培環境	施設栽培							トンネル	トンネル	●	●	●	●			●				トンネル			
	露地栽培		●	●	●		●	●	●			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
島内生産量［kg］ （パインのみ西表島西部76%、西表島東部24%で按分その他の作物は西表島全体）	6島合計		22,712,000	5,200	157,743	2,766頭	–	119,800	–	–	–	–	–	504,493	–	28,900	–	–	18,000	–	–	–	–
	小浜島		2,782,000	–	–	503頭	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	波照間島		10,417,000	5,200	–	94頭	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	西表島西部		–	–	21,434	765頭	–	–	–	–	–	–	–	383,416	–	28,900	–	–	–	–	–	–	–
	西表島東部		9,513,000	–	136,309		–	119,800	–	–	–	–	–	121,077	–	–	–	–	18,000	–	–	–	–
	黒島		–	–	–	1,308頭	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	竹富島		–	–	–	96頭	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
島内消費量［kg］ （宿泊施設、小規模宿泊施設、飲食店、学校給食）	合計		–	–	–	–	–	1,047.6	366.9	6,712.6	10,950.7	2,049.0	1,655.0	21,735.7	1,999.9	2,199.8	1,552.2	157.9	3,044.6	2,071.6	989.5	7,697.0	–
単価［円/kg・頭・本］	平均		23.5	2,180	279	457,000	52	178	884	343	240	793	647	346	1,021	2,000	439	1,102	142	124	185	256	20
主要販路の方向性	圏域内			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	圏域外		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
不利性解消事業出荷量［kg］ （西表島の実績のみ）	本島向け							15				2	68	西部：48,081 東部：15,183		1,312	6						
	県外向け(東京、大阪、福岡)							119,785[注2]				121	189	西部：309,698 東部：97,798		62,633[注3]	181						2,505

注１）表中の凡例　黄色：戦略品目・新規チャレンジ品目を示す　グレー：該当・実績なし　－：調査がないものを示す
注２）かぼちゃの県外向け不利性解消事業出荷量は、島内生産量から本島向け不利性解消事業出荷量を差し引いたもの
注３）マンゴーの県外向け不利性解消事業出荷量は、パインとの複合輸送を含む

参考資料２　経営計画

参考 2-1 経営計画とは

□経営計画とは、掲げている将来像の実現のために、何をしていけばよいかの具体的な指標となるものである。

参考 2-2 経営計画

□竹富町における経営計画は、地域の営農者の皆様が、持続的に、または新規に営農を始めるにあたり、目標となる指標である。

【農業経営者】
経営目標：年間農業所得(主たる農業従事者 1 人あたり)　350 万円程度
　　年間労働時間(主たる農業従事者 1 人あたり)　2,000 時間程度

【新たに農業経営を営もうとする青年】
経営目標：年間農業所得(主たる農業従事者 1 人あたり)　175 万円程度
　　年間労働時間(主たる農業従事者 1 人あたり)　1,200 時間程度

□経営目標を踏まえた営農類型ごとの効率的かつ安定的な経営指標について、竹富町では島ごとに作付されている作物が異なること、少量多品目の作付の場合もあるため、竹富町の「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」に記載されている次ページの類型について設定した。
□今後、戦略品目の更新等があった場合は、必要に応じて経営計画を見直す。

◎農業経営者とは：竹富町で農業経営を営む者を対象とする。

◎新たに農業経営を営もうとする青年とは：基本的には、18 歳以上 45 歳未満の新たに農業経営を営もうとする者を対象とする。なお、地域に担い手がいない等やむを得ない事情がある場合は、50 歳未満、または一定の条件を満たす 65 歳未満を対象とする。

※一定の条件(農業経営基盤強化促進法の基本要綱を参照)
- 商工業その他の事業の経営管理に 3 年以上従事した者
- 商工業その他の事業の経営管理に関する研究又は指導、教育その他の役務の提供の事業に 3 年以上従事した者
- 農業又は農業に関する事業に 3 年以上従事した者
- 農業に関する研究又は指導、教育その他の役務の提供の事業に 3 年以上従事した者
- 上記に揚げる者と同等以上の知識及び技能を有する者

【農業経営者】

営農類型	経営規模
さとうきび単作	9 ha
さとうきび＋水稲	きび 4.8ha＋水稲 6.0ha　（経営面積 8.8ha）
さとうきび＋野菜	きび 6.8ha＋かぼちゃ 0.8ha　（経営面積 7.2ha）
さとうきび＋もちきび	きび 7.0ha＋もちきび 0.8ha　（経営面積 7.0ha）
さとうきび＋果樹	きび 5.0ha＋パイン 1.0ha　（経営面積 6.0ha）
さとうきび＋肉用牛	きび 3.2ha＋採草地 2.7ha＋頭数 20 頭
パイン専作	パイン 1.5ha
さとうきび （主たる従事者 3 人）	きび 15.4ha＋作業委託 25.0ha （経営面積 21.65ha）
肉用牛	採草地 9.2ha＋成雌牛 49 頭

【新たに農業経営を営もうとする青年】

営農類型	経営規模
さとうきび単作	4.6ha
さとうきび＋水稲	きび 3.8ha＋水稲 1.4ha　（経営面積 4.8ha）
さとうきび＋野菜	きび 3.4ha＋かぼちゃ 0.5ha　（経営面積 3.9ha）
さとうきび＋もちきび	きび 4.0ha＋もちきび 0.5ha　（経営面積 4.3ha）
さとうきび＋果樹	きび 4.0ha＋パイン 0.3ha　（経営面積 4.3ha）
さとうきび＋肉用牛	きび 1.0ha＋採草地 1.35ha＋頭数 10 頭
パイン専作	パイン 1.08ha
肉用牛	採草地 3.48ha＋成雌牛 21 頭

竹富町長期営農計画

令和７年９月

編集：竹富町農林水産課
〒907-8503　沖縄県石垣市美崎町 11 番地 1
TEL：0980-82-3116